

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|---------|------|--------------------------------|
| 科目名 (英) | 自然科学 | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 川上 智史 高橋 未倫 |
| | (Natural Science) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 木曜3限 曜日・時限 土曜3, 4限 |
| 学科・コース | 理学療法科 I 部 Aクラス | | | | | | |
| 教員の略歴 | 川上: 博士(医学)を2006年に取得し、生理学を中心に公衆衛生学、医学概論等を各種専門学校で教授。現在、大学にて公衆衛生学研究室に所属し、がん細胞の生理学的特徴の研究に従事 高橋: 理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学), Golf physio trainer(2017取得) | | | | | | |
| 授業の学習内容 | (物理分野) 物理学の基礎事項, 力と運動の関係(力学), それに伴う数学的知識を学び, 物体や人体の運動について物理学的視点で考える力を養い, 以降に学ぶ運動学へと繋げる。 (生物分野) 細胞から組織までを理解し、生命現象の原理や仕組みを理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | (物理) 物体や人体の運動について物理学的視点から考えることができるよう, 力学を中心に物理基礎を習得する。 (生物) | | | | | | |
| 評価方法と基準 | (物理分野) 筆記試験(70%), 授業内評価(30%) (生物分野) 筆記試験(70%), 授業内評価(30%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------------|-------|------|----------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5月21日 | 講義 | 物理量とその表し方について説明できる。 | |
| 2 | 5月28日 | 講義 | 物理学で使うグラフと関数について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 3 | 6月4日 | 講義 | いろいろな運動について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 4 | 6月11日 | 講義 | さまざまな力について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 5 | 6月18日 | 講義 | 力のつり合いと運動法則について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 6 | 6月25日 | 講義 | 物体の重鎮と回転運動について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 7 | 7月2日 | 講義 | 運動量, 仕事とエネルギーについて説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 8 | 7月9日 | 講義 | これまでの講義の復習を行い理解を深めることができる。 | 授業内容の復習 |
| 9 | 5月22日 | 講義 | オリエンテーション、生物学とは | |
| 10 | 5月22日 | 講義 | 人体とは何かを理解できる | 授業内容の復習 |
| 11 | 5月29日 | 講義 | 人体を構成する細胞を理解できる | 授業内容の復習 |
| 12 | 6月5日 | 講義 | 細胞の働きを理解できる | 授業内容の復習 |
| 13 | 6月12日 | 講義 | 細胞のタンパク質合成を理解できる | 授業内容の復習 |
| 14 | 6月19日 | 講義 | DNAと遺伝子、遺伝子発現について理解できる | 授業内容の復習 |
| 15 | 6月26日 | 講義 | ミトコンドリアによるエネルギー産生について理解できる | 授業内容の復習 |
| 16 | 7月8日 | 試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 授業終了後の復習をしっかりと実施すること | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| (物理分野) 講義内で適宜配布。(生物分野) | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|---------------|----------|----------|-------------|---------|---------------|------|
| 科目名 (英) | 保健科学 (Health Science) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 吉田晴彦 |
| | 学科・コース | 理学療法科 1部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 実習 | 総時間 (単位) | 60 2 | 開講区分 曜日・時限 | 前期 |
| 教員の略歴 | 平成15年3月 中学・高等学校教諭一種免許(保健体育)取得 平成22年1月 JATI認定トレーニング指導者資格取得 平成25年3月 柔道整復師免許取得 平成26年4月 スポーツ&コンディショニング「SteadyFive」みやぎのほら接骨院開業 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 体力向上のための実技として球技などを通し身体機能・構造を習得する。 また、健康な体づくりのための授業として栄養などをテーマとし保健分野の知識を習得する。 人間の運動にかかわる身体の機能と構造についてを知る | | | | | | | |
| 到達目標 | 健康な体づくり、体力向上のための体育分野と保健分野の専門知識と技術を身につける。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト(筆記50% 授業内評価50%) | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|-------|------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5月15日 | 講義 | 機能解剖(上肢の骨・筋)を理解する | |
| 2 | 5月15日 | 講義 | 機能解剖(下肢の骨・筋)を理解する | |
| 3 | 5月22日 | 講義 | 機能解剖(体幹部の骨・筋)を理解する | |
| 4 | 5月22日 | 講義 | トレーニング理論(プログラム変数)を理解する | |
| 5 | 5月29日 | 講義 | トレーニング理論(筋力向上)を理解する | |
| 6 | 5月29日 | 講義 | トレーニング理論(栄養及び減量)を理解する | |
| 7 | 6月5日 | 講義 | 血圧・血糖・コレステロールを把握する | |
| 8 | 6月5日 | 講義 | 血圧・血糖・コレステロールを把握する | |
| 9 | 6月12日 | 実技 | ハレーホールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 10 | 6月12日 | 実技 | ハレーホールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 11 | 6月19日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 12 | 6月19日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 13 | 6月26日 | 実技 | ハレーホールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 14 | 6月26日 | 実技 | ハレーホールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 15 | 7月3日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 16 | 7月3日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 17 | 7月10日 | 実技 | ハレーホールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 18 | 7月10日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 19 | 7月17日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 20 | 7月17日 | 実技 | ハレーホールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 21 | 7月31日 | 実技 | ハレーホールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 22 | 7月31日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 23 | 8月28日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 24 | 8月28日 | 実技 | フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 25 | 9月4日 | 実技 | フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 26 | 9月4日 | 実技 | フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 27 | 9月11日 | 実技 | フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 28 | 9月11日 | 実技 | フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 29 | 9月18日 | 実技 | フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 30 | 9月18日 | 実技 | フライングディスクを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 31 | 9月25日 | | 筆記試験 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ トレーニング指導者テキスト実践編・理論編(大修館書店) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 教育学 (Education) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 高橋未倫 |
| 学科・コース | 理学療法科 I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 後期 火曜3・4 限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士として8年間の実務経験. 修士(理学), Golf physio trainer(2017取得) | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 「教育」「理学療法」「コミュニケーション」の3つを主軸にグループワークなどを通じて協調性を図り、自身の意思(考え)を言葉や文章でしっかりと伝えることができるように参加型の授業となります。 | | | | | | |
| 到達目標 | 教育学の基本的な考え方を学び、「学ぶ」「教える」といった情緒領域に必要な知識について学習する。 本教科は一般教養となります。「教育学」のテーマに沿う形で教育とは何か、なぜ教育が必要なのかを理解し、さらには社会的な側面や理学療法士となっていく過程の中で人間形成へと話を発展させ、学生の皆様がこれから過ごす4年間の重要性について理解を深めることを目標としていきます。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業内評価 30% レポート 70% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|--------|---------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9月15日 | 講義 | オリエンテーション/リハビリテーション概要 | |
| 2 | 9月15日 | 講義 | リハ概論:戦略的思考~理学療法士として考えるべきこと~ | |
| 3 | 9月29日 | 講義 | リハ概論:理学療法と社会情勢~皆が歩む社会人45年間の変化を見据えて~ | |
| 4 | 10月6日 | 講義 | 教育:概論① | |
| 5 | 10月13日 | 講義 | 教育:概論② | |
| 6 | 10月20日 | 講義 | 教育:発達を学ぶ~感情の獲得プロセスから観察する社会性の発達 | |
| 7 | 10月27日 | 講義 | 教育:発達を学ぶ~道徳理論的行動の発達から観察する社会性の発達 | |
| 8 | 11月10日 | 講義 | 臨床概論~臨床実習と現在の学生の傾向(CCSへの取り組み) | |
| 9 | 11月10日 | グループワーク | 各班発表 | 前週にグループを分け、各班の課題を提示します。当日までに分担しパワーポイントでの発表資料を作成してください。 |
| 10 | 11月17日 | グループワーク | 各班発表 | |
| 11 | 11月17日 | 講義 | 教育:社会人類学的視点からみた人間のコミュニケーション | |
| 12 | 11月24日 | 講義 | 教育:人間のコミュニケーション行動 | |
| 13 | 11月24日 | 講義 | コーチングスキル | |
| 14 | 12月1日 | 講義 | ティーチングスキル | |
| 15 | 12月1日 | 試験 | レポート試験90分 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 理学療法士としてだけでなく社会人としての教養という意味でも重要な科目になります。そのため、知識を一方向的に伝えるのではなく、節度ある態度で受けることや社会的なモラル、学習態度なども求めていきたいと思えます。本科目は、理学療法士として専門性を身に付ける科目とは異なり、どちらかというと社会性を学ぶための一般教養に位置付けられます。国家試験にも含まれません。それでもなぜカリキュラムに含まれるのか。その点をしっかりと理解した上で授業に臨みましょう。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 当日資料を配布します。 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 心理学 (Psychology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 江崎浩明 |
| 学科・コース | 理学療法科・Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 火曜日 5時限 |
| 教員の略歴 | 大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約15年間、教育、相談業務に従事。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 心理学の成り立ちや基礎的な心理学用語・概念を学ぶことで、多くの人が持つ誤解や偏見から脱し、人が持つ考え方や捉え方の特徴について学びます。身体にダメージを受ければ必ず心にも何らかの不調を来します。理学療法士は身体の専門家ですが、心身不可分(心と体は密接に関係している)、分けて考える事はできない)の為、心についても理解を深め、心身両面をサポートできる人材になることが求められます。また、自分自身を支える一つの柱として心理学的な視点を養います。 | | | | | | |
| 到達目標 | 心理学の歴史や他の周辺領域との関連性、用語や概念を学術的基盤に則って学ぶことにより、雑学的な知識ではなく人間を理解する一助としての基礎心理学について理解する。これらの学びを、客観的な自己把握・自己理解のために用いることができるようになる。他者を主観的又は好き嫌いの感情的な枠組のみで捉えるのではなく、特に自分と考えや行動が異なる場合、知的好奇心や興味関心を持ち、客観的な枠組みで捉えることができるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100%(選択式と記述式) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | | |
|--|------|------|---|---|-------------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 5/21 | 講義 | 講義の進め方、教科書の使い方、ノートのとり方、評価方法を理解する。心理学を学ぶ目的を理解する。 | 心理学に対するイメージを考えておく | | | |
| 2 | 5/28 | 講義 | 基礎心理学と応用心理学の違い、心理学的知識の活用に対する功罪について説明できる。 | 心理学が誤用・悪用されている例を考えておく 〇〇心理学の〇〇に入りそうな言葉を考えておく | | | |
| 3 | 6/4 | 講義 | 心理学史 哲学からの独立、その後の自然科学からの影響を説明できる。 | 哲学から独立した流れを説明できるようにしておく 心理学が拡大した経緯を説明できるようにする | | | |
| 4 | 6/11 | 講義 | 感覚・知覚・認知 五感の働き、センサーの特徴、知覚的体制化、運動知覚について説明できる。 | 通学中に五感をフル活用して何を感じたかを考えておく。人生で最も痛かった瞬間を思い出しておく | | | |
| 5 | 6/18 | 講義 | 記憶 I 記憶の過程、時間的変遷、種類と分類について説明できる。 | 自分の得意な記憶と苦手の記憶、考えなくても半自動的に動ける体の記憶について考えておく | | | |
| 6 | 6/25 | 講義 | 記憶 II 記憶の定着と忘却(エビングハウスの忘却曲線、逆行抑制、記憶術)について説明できる。 | これまでの勉強や学習の方法について考えておく | | | |
| 7 | 7/2 | 講義 | 学習 経験による思考や行動の変化、古典的条件づけ、オペラント条件付けについて説明できる。 | 幼少期からの他者とは異なる習慣、どうせやっても自分には無理と思っていることについて考えておく | | | |
| 8 | 7/9 | 講義 | 動機づけ やる気を持続、自己効力感・学習性無力感、内発的・外発的動機づけについて説明できる。 | これまでに挫折したことや、「自分にはどうせ〇〇はできない」と思っている事を考えておく。 | | | |
| 9 | 7/16 | 講義 | 感情 喜怒哀楽や不安の種類や特徴、アンガーマネジメントについて説明できる。 | 最近嬉しかった・怒った・不安に思ったこと・仲間はズレにされるのでは、と思ったことについて考えておく | | | |
| 10 | 7/30 | 講義 | 社会と人間 自己と自我、自己呈示や自己開示、パーソナルスペースについて説明できる。 | 友人にどんな人と思われたいか考えておく 人に流された経験について思い出しておく | | | |
| 11 | 8/6 | 講義 | 知能 知能の定義と構成要素、知能指数の測定、創造性や順応力について説明できる。 | 頭がよいとはどういうことか、学歴や偏差値でわかること・わからないことについて考えておく | | | |
| 12 | 8/25 | 講義 | 性格 性格の構成要素、歴史的な分類、変容に必要な条件について説明できる。 | 性格は変わるのか、変わるなら変えるために必要なものは何かについて考えておく | | | |
| 13 | 9/1 | 講義 | 心理検査 種類と分類、誤用と悪用、測定可能範囲について説明できる。 | 心理テストと心理ゲームの違いや何が測れて何が測れないのかについて予想しておく | | | |
| 14 | 9/8 | 講義 | これまでに学んだ心理用語・概念について説明できる。 | それぞれの単元の理解度をチェックしておく | | | |
| 15 | 9/14 | | 試験 | | | | |
| 16 | 9/15 | 講義 | 解説 | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | 学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | |
| 医療の行動科学 I 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー(北大路書房) | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------|-------------|-----------|------|-----------------|
| 科目名 (英) | コミュニケーション論 (Communication) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 片岡洋樹 |
| 学科・コース | 理学療法科 ・ I部Aクラス | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 火曜 4時限 |
| 教員の略歴 | 教員歴5年、300人以上の学生のコミュニケーションを指導した経験を有する | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 事前学習を行い、当日授業は、「導入」、「事前学習の発表会」、「解説」、「演習(ワーク)」、「グループ学習」、個人の「振り返り」で構成される。 これらの内容を通して、自分の意見を持ち、人の考えを正しく汲み取ることの難しさを知る。 そして、自分の考えを大切にすること、皆で決めたことを守ることを両立する態度を身につけ、自己信頼を育むことが出来るようになる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 受講者(学生)が「聞く、話す、読む、書く」ということばを使ったコミュニケーションを上手に行うための基本的な技法(目の付け所と、方法)を知り、それを(何度も使うことにより)使う「習慣」を身につけることを目指す。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | レポート(指定のワークブック) 70%・ 授業内評価30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|------|------------------------|-----------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/13 | 講義・演習 | 理学療法士に必要なコミュニケーションを説明できる | 資料配布 |
| 2 | 5/20 | 講義・演習 | コミュニケーション技法について述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 3 | 5/27 | 講義・演習 | ブレインストーミング法、KJ法を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 4 | 6/2 | 講義・演習 | 聞き上手の技法を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 5 | 6/9 | 講義・演習 | 話し上手の技法を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 6 | 6/16 | 講義・演習 | 読み上手の技法①を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 7 | 6/23 | 講義・演習 | 読み上手の技法②を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 8 | 6/30 | 講義・演習 | 書き上手の技法を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 9 | 7/7 | 講義・演習 | テーマ探しの技法を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 10 | 7/14 | 講義・演習 | 自分探しの技法①を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 11 | 7/21 | 講義・演習 | 自分探しの技法②を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 12 | 7/28 | 講義・演習 | インタビュー仕事の基本的技術を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 13 | 8/4 | 講義・演習 | コミュニケーション技法における要点の整理①を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 14 | 8/25 | 講義・演習 | コミュニケーション技法における要点の整理②を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 15 | 9/1 | 講義・演習 | コミュニケーション技法の活用方法を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 準備学習 時間外学習 | | グループ学習を毎回実施するにあたり課題を出す | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| コミュニケーション技法(キャリア教育総合研究所)、コミュニケーション技法ワークブック(キャリア教育総合研究所) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|------|----------------|
| 科目名 (英) | 英語 I (English Conversation I) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 高田陽子 |
| 学科・コース | 理学療法士科 I 部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 火曜 3限 |
| 教員の略歴 | 1997年英語学科卒業、高等学校英語教諭資格取得、1997年より滋慶文化学園にて英語教育を担当 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | グローバルな感性を養い、コミュニケーションに必要な英会話を学ぶ。 文法から日常英会話、専門用語まで、幅広い教材を使用し、幅広い英会話場面を設定する。その多面的環境から基本的な英会話のセンスを身に付けていく。 | | | | | | |
| 到達目標 | 医療英語テキストに基づき、医療の現場における様々なシチュエーションでの基本的な文法や語彙を習得する。 医療の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 評価は、100点満点の筆記試験で行う。授業で学習した内容の定着度を確認する。 評価は学則規定に準ずる。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|------|------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/12 | 講義 | Chapter 1 患者の個人情報を聞き出すことが出来る | 教科書の復習 |
| 2 | 5/19 | 講義 | Chapter 2 病院案内が出来る | 教科書の復習 |
| 3 | 5/26 | 講義 | Chapter 3 身体の部位や痛みの程度(強弱)を説明出来る | 教科書の復習 |
| 4 | 6/2 | 講義 | Chapter 4 様々な病気を説明出来る | 教科書の復習 |
| 5 | 6/9 | 講義 | Chapter 5 患者の過去の病歴や家族の病歴について話すことが出来る | 教科書の復習 |
| 6 | 6/16 | 講義 | Chapter 6 アレルギーやライフスタイルについて質問出来る | 教科書の復習 |
| 7 | 6/23 | 講義 | Chapter 7 患者に基本的な指示を出すことが出来る | 教科書の復習 |
| 8 | 6/30 | 講義 | Chapter 8 バイタルサインを説明することが出来る | 教科書の復習 |
| 9 | 7/7 | 講義 | Chapter 10 手術や治療について説明することが出来る | 教科書の復習 |
| 10 | 7/14 | 講義 | Chapter 12 整形外科に関連した語彙を覚える | 教科書の復習 |
| 11 | 7/21 | 講義 | Chapter 13 リハビリについて説明出来る | 教科書の復習 |
| 12 | 7/28 | 講義 | Chapter 14 リハビリや人工器具について説明出来る | 教科書の復習 |
| 13 | 8/4 | 講義 | Chapter 16 処方箋の支払いについて説明出来る | 教科書の復習 |
| 14 | 8/25 | 講義 | Chapter 17 処方箋について説明出来る | 教科書の復習 |
| 15 | 9/1 | 試験 | 定期試験 | |
| 16 | 9/8 | 講義 | 試験の解説、これまでに学習した内容の復習 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 医療英語コミュニケーション | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|------|-----------------------------|
| 科目名 (英) | 解剖学 I (Anatomy I) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 | 担当教員 | 溝口二郎 |
| 学科・コース | 理学療法科 I 部 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 前期 水曜日2・3 限、木曜日2 限 |
| 教員の略歴 | 山形大学医学部解剖学教室を経て東北大学大学院医学系研究科准教授を歴任 医学博士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 解剖学は理解する学問であることを念頭に置き、解剖組織図で理解を深め、標本や生体に触れて、具体的な人体構造と機能を学習させる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 細胞学、組織学、発生学を基礎として、その上に人体の構造・機能を、系統的に理解できるようにする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 確認試験50%、定期試験50%。 2つの試験問題の6割以上を正しく解答できること。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|------|------|--|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/27 | 講義 | 解剖学の歴史、人体の構成、細胞の理解 | プリントとノートによる予習と復習 |
| 2 | 5/27 | 講義 | 骨組織、血液とリンパの理解 | 同上 |
| 3 | 6/3 | 講義 | 皮膚の機能・構造、皮膚の付属器の理解 | 同上 |
| 4 | 6/4 | 講義 | 骨組織、全身の骨格の理解 | 同上 |
| 5 | 6/4 | 講義 | 人体各部位の詳細な解剖学名に慣れること | 同上 |
| 6 | 6/10 | 講義 | 会陰・上肢・下肢の部位、骨形状分類の理解 | 同上 |
| 7 | 6/11 | 講義 | 骨連結、関節と靭帯、脊柱の構成の理解 | 同上 |
| 8 | 6/11 | 講義 | 胸郭・上肢帯の骨格： 胸骨、肋骨、鎖骨、肩甲骨の構造と胸郭運動の理解 | 同上 |
| 9 | 6/17 | 講義 | 自由上肢骨： 上腕骨、前腕骨、手の骨の構造と運動の理解 | 同上 |
| 10 | 6/18 | 講義 | 肩鎖・肩鎖・肩鎖・肘関節、腕骨・尺骨の連結、橈骨手根・手根骨間関節の理解 | 同上 |
| 11 | 6/18 | 講義 | 下肢帯の骨格： 寛骨、骨盤の構造の理解 | 同上 |
| 12 | 6/24 | 講義 | 自由下肢骨： 大腿骨、膝蓋骨、下腿の骨、足の骨の理解 | 同上 |
| 13 | 6/25 | 講義 | 距腿関節、足根間関節の理解 | 同上 |
| 14 | 6/25 | 講義 | 頭蓋骨： 前頭骨、頭頂骨、後頭骨、側頭骨、蝶形骨、篩骨の理解 | 同上 |
| 15 | 7/1 | 講義 | 顔面頭蓋： 鼻骨、淚骨、頬骨、上顎骨、下顎骨、口蓋骨、下鼻甲介、鋤骨、舌骨の理解 | 同上 |
| 16 | 7/2 | 講義 | 肋組織の種類、骨格筋の構造、筋の補助装置、骨格筋の作用と神経支配の理解 | 同上 |
| 17 | 6/29 | 試験 | 確認試験 | |

| | | | | |
|---|------|----|---|------------------|
| 18 | 7/2 | 講義 | 頭部の筋：表情筋、咀嚼筋、 頭頸部の体表・局所解剖の理解 | プリントとノートによる予習と復習 |
| 19 | 7/8 | 講義 | 群、舌骨下筋群、斜角筋、椎前筋、項部 筋の理解 | 同上 |
| 20 | 7/9 | 講義 | 胸筋：浅胸筋、深胸筋、横隔膜の理解 | 同上 |
| 21 | 7/9 | 講義 | 腹筋：前腹筋、側腹筋、後腹筋の理解 | 同上 |
| 22 | 7/15 | 講義 | 会陰筋：肛門挙筋、尾骨筋、外肛門括約 筋、浅・深会陰横筋、坐骨・球海綿体筋の理 解 | 同上 |
| 23 | 7/16 | 講義 | 背筋：浅背筋、深背筋、後頭下筋の理解 | 同上 |
| 24 | 7/16 | 講義 | 屈、側屈、回旋、呼吸運動、鎖骨胸筋三角 の理解 | 同上 |
| 25 | 7/22 | 講義 | 鼠径管、尿生殖三角、肛門三角、固有背筋、 腰背腱膜、腰三角の理解 | 同上 |
| 26 | 7/29 | 講義 | 上肢帯の筋、上腕の屈筋群・伸筋群の理解 | 同上 |
| 27 | 7/30 | 講義 | 前腕の屈筋群・伸筋群、手の筋—母指球 筋、小指球筋、中手筋の理解 | 同上 |
| 28 | 7/30 | 講義 | 上肢帯の筋、大腿の筋—伸筋群、内転筋 群、屈筋群の理解 | 同上 |
| 29 | 8/5 | 講義 | の筋—足背筋、母指球筋、小指球筋、中足 筋の理解 | 同上 |
| 30 | 8/5 | 講義 | 肩関節、肘関節、屈筋支帯と手根管、伸筋 支帯の理解 | 同上 |
| 31 | 7/29 | 講義 | 定期試験 | |
| 32 | 8/6 | 試験 | 股関節、膝関節、筋裂孔と血管裂孔、大腿 三角、内転筋管の理解 | プリントとノートによる予習と復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | プリント、教科書、参考書を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 「解剖学」編集 野村巖 医学書院 「ネッター解剖学アトラス」訳 相磯貞和 南江堂 「入門人体解剖学」藤田恒夫 南江堂 「分担解剖学 1、2、3」森 於菟 他 金原出版 「プロメテウス解剖学アトラス」監訳 板井建雄 医学書院 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|-----------|----------|----|-------------|-------------|------|--------------------------------|
| 科目名 (英) | 解剖学Ⅱ (Anatomy II) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 | 担当教員 | 溝口二郎 |
| | 学科・コース | 理学療法科 I 部 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期・後期 水曜日2・3 限、木曜日2 限 |
| 教員の略歴 | 山形大学医学部解剖学教室を経て東北大学大学院医学系研究科准教授を歴任 医学博士 | | | | | | | |
| 授業の学習 内容 | 解剖学は理解する学問であることを念頭に置き、解剖組織図で理解を深め、標本や生体に触れて、具体的な人体構造と機能を学習させる。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 細胞学、組織学、発生学を基礎として、その上に人体の構造・機能を、系統的に理解できるようにする。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100%。試験問題の6割以上を正しく解答できること。 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|-----------------------------|------|------|---|------------------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 8/26 | 講義 | 循環器系：心臓、心膜、心臓壁、心房と心室、弁膜、刺激伝導系、心臓の血管の理解 | プリントとノートによる予習と復習 | |
| 2 | 8/27 | 講義 | 動脈系—肺循環、体循環、肺動脈、上行大動脈と冠状動脈、大動脈弓の理解 | | 同上 |
| 3 | 8/27 | 講義 | 動脈系—胸大動脈、腹大動脈臓側枝、総腸骨動脈の内・外腸骨動脈の理解 | | 同上 |
| 4 | 9/2 | 講義 | 静脈系—肺循環、体循環、心静脈、冠状静脈洞、上大・腕頭・内頸・鎖骨下静脈の理解 | | 同上 |
| 5 | 9/3 | 講義 | 静脈系—奇・半奇静脈、下大静脈、門脈系、総腸骨静脈、硬膜静脈洞の理解 | | 同上 |
| 6 | 9/3 | 講義 | 胎生期の循環—胎盤、動脈管、卵円孔、臍静脈、アランチウス管、臍動脈の理解 | | 同上 |
| 7 | 9/9 | 講義 | リンパ系—リンパ、リンパ管、リンパ性器官、リンパ本幹、胸管、脾臓、胸腺、扁桃の理解 | | 同上 |
| 8 | 9/10 | 講義 | 消化器系：口腔、硬口蓋、軟口蓋、扁桃、舌乳頭、味蕾、舌筋、歯、唾液腺の理解 | | 同上 |
| 9 | 9/10 | 講義 | 咽頭、食道、胃、咽頭、肝門部、嚥下運動、食道裂孔、噴門、幽門、胃間膜の理解 | | 同上 |
| 10 | 9/16 | 講義 | 小腸、大腸、腸間膜、十二指腸乳頭、腸絨毛、回盲弁、結腸ヒモ、肛門括約筋の理解 | | 同上 |
| 11 | 9/17 | 講義 | 肝臓—肝門、肝小葉、洞様毛細血管、胆嚢—胆汁、胆嚢管、総胆管の理解 | | 同上 |
| 12 | 9/17 | 講義 | 膵臓、腹膜、十二指腸乳頭、ランゲルハンス島、間膜、小網、大網の理解 | | 同上 |
| 13 | 9/23 | 講義 | 呼吸器系：鼻腔、上・中・下鼻甲介、上・中・下鼻道、鼻粘膜、副鼻腔の理解 | | 同上 |
| 14 | 9/24 | 講義 | 咽頭、咽頭筋、喉頭、喉頭筋、喉頭軟骨、声帯、声門の理解 | | 同上 |
| 15 | 9/24 | 講義 | 気管、気管支、気管軟骨、肺、肺葉、肺区域、肺泡、胸膜、縦隔の理解 | | 同上 |
| 16 | 9/30 | 試験 | 定期試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | プリント、教科書、参考書を予習・復習する。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | |
| 「解剖学」編集 野村巖 医学書院 | | | | | |
| 「ネッター解剖学アトラス」訳 相磯貞和 南江堂 | | | | | |
| 「入門人体解剖学」藤田恒夫 南江堂 | | | | | |
| 「分担解剖学 1、2、3」森 於菟 他 金原出版 | | | | | |
| 「プロメテウス解剖学アトラス」監訳 板井建雄 医学書院 | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------|-------------|-----------|-------|-----------------------------|
| 科目名 (英) | 解剖学実習 (Practice in Anatomy) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 | 担当教員 | 溝口二郎 |
| | | 授業 形態 | 講義・ 実習 | 総時間 (単位) | 90 (2) | 開講区分 | 後期 水曜日2・3 限、木曜日2 限 |
| 学科・コース | 理学療法科 I部 | | | | | 曜日・時限 | |
| 教員の略歴 | 山形大学医学部解剖学教室を経て東北大学大学院医学系研究科准教授を歴任 医学博士 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 解剖学の基礎知識を理解した後、実際に標本を触れて、局所解剖学により立体的な人体構造およびその機能を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 細胞学、組織学、発生学を基礎として、その上に人体の構造・機能を、系統的に理解できるようにする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験90%、実習10%。試験問題の6割以上を正しく解答できること。骨標本を観察して、正確なスケッチができること。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---------|-------|------|--|------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/30 | 講義 | 泌尿器系：腎臓一腎門、腎杯、腎小体、尿管、腎臓の血管の理解 | | プリントとノートによる予習と復習 |
| 2 | 10/1 | 講義 | 尿路一尿管、膀胱、膀胱三角、尿道の理解 | | 同上 |
| 3 | 10/1 | 講義 | 生殖器系：男性生殖器一精巣、精路、外生殖器、勃起、精液の理解 | | 同上 |
| 4 | 10/7 | 講義 | 女性生殖器：卵巣、卵管、子宮、子宮広間膜、膣、外生殖器の理解 | | 同上 |
| 5 | 10/8 | 講義 | 内分泌系：下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、性腺の理解 | | 同上 |
| 6 | 10/8 | 講義 | 大発生工：受精と発生工：受精、卵割、着床、胚葉形成、胎盤、絨毛、羊膜、臍帯の理解 | | 同上 |
| 7 | 10/14 | 講義 | 官、循環器系器官、胎児の発生一鰓弓の理解 | | 同上 |
| 8 | 10/15 | 講義 | 聴覚器系：内耳(外耳道、鼓膜、中耳(鼓室、耳管)、内耳(骨迷路と膜迷路)、蝸牛と蝸牛管(前庭器)の理解 | | 同上 |
| 9 | 10/15 | 講義 | 眼、角膜、脈絡膜、毛様体、色素上皮層、網膜、硝子体、水晶体、眼房水、眼の発生の理解 | | 同上 |
| 10 | 10/21 | 講義 | 聴覚器系：外耳(外耳道、鼓膜)、中耳(鼓室、耳管)、内耳(骨迷路と膜迷路)、蝸牛と蝸牛管(前庭器)の理解 | | 同上 |
| 11 | 10/22 | 講義 | 平衡感覚、骨半規管と半規管：回転運動・加速運動の平衡感覚の理解 | | 同上 |
| 12 | 10/28 | 講義 | 嗅覚器系：嗅管、嗅球、嗅細胞、嗅球神経、嗅索神経、舌咽神経、延髄孤束核、内側毛帯、大脳皮質の味覚野の理解 | | 同上 |
| 13 | 10/29 | 講義 | 嗅覚器系：嗅球、嗅球神経、嗅索神経、舌咽神経、延髄孤束核、内側毛帯、大脳皮質の味覚野の理解 | | 同上 |
| 14 | 10/29 | 講義 | 神経系：神経系の発生、神経組織、中枢神経系(脳、脊髄)、抹消神経系(脳神経、脊髄神経、自律神経)の理解 | | 同上 |
| 15 | 11/4 | 講義 | 中枢神経系：脊髄の断面、脊髄の内景、白質、灰白質、前角、後角、側角、前根、後根の理解 | | プリントとノートによる予習と復習 |
| 16 | 11/5 | 講義 | 脳幹：中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の断面、自律神経の中樞の理解 | | 同上 |
| 17 | 11/5 | 講義 | 中脳一八脚脚、後蓋、四丘体(上丘、下丘)、網様体の理解 | | 同上 |

| | | | | |
|------------------|-------|-------|--|------------------|
| 18 | 11/11 | 講義 | 情報中経路)、外側膝状体(視覚情報中経路)の理解 | 同上 |
| 19 | 11/12 | 講義 | 小脳—小脳脚、小脳皮質(プルキンヤ細胞)、小脳核(歯状核など)の理解 | 同上 |
| 20 | 11/12 | 講義 | 大脳—大脳半球の表面と区画、中心溝、外側溝、頭頂後頭溝、前頭葉、頭頂葉、側頭葉、土脳皮質(頂上葉、グローブマン区)、土 | 同上 |
| 21 | 11/18 | 講義 | 野、聴覚野、味覚野、運動性言語中枢、感覚性言語中枢、連合野の理解 | 同上 |
| 22 | 11/19 | 講義 | 外側口・正中口、髄膜—硬膜、クモ膜、軟膜の理解 | 同上 |
| 23 | 11/19 | 講義 | 脳脊髄液、脳の血管、反射路の理解 | 同上 |
| 24 | 11/25 | 試験 | 確認試験 | |
| 25 | 11/25 | 講義 | 上行性伝導路 I—体性感覚の伝導路、後索路、脊髄視床路、脊髄小脳路の理解 | プリントとノートによる予習と復習 |
| 26 | 11/26 | 講義 | 上行性伝導路 II—視覚・聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚の伝導路の理解 | 同上 |
| 27 | 11/26 | 講義 | 下行性伝導路—錐体路系、錐体外路系の理解 | 同上 |
| 28 | 12/2 | 講義 | 末梢神経系: 脳神経 I~IV—嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経の理解 | 同上 |
| 29 | 12/3 | 講義 | 脳神経 V~VIII—三叉神経、外転神経、顔面神経、内耳神経の理解 | 同上 |
| 30 | 12/3 | 講義 | 脳神経 IX—迷走神経、延髄神経、副神経、舌下神経の理解 | 同上 |
| 31 | 12/9 | 講義 | 脊髄神経 I—脊髄と脊髄神経、根および前枝・後枝、分節構造と神経叢、頭頸部の神経、脊神経(G1~G8)、腕神経叢(G1~G4)の理解 | 同上 |
| 32 | 12/10 | 講義 | の理解 | 同上 |
| 33 | 12/10 | 講義 | 上神経、筋皮神経、尺骨神経、橈骨神経、正中神経などの理解 | 同上 |
| 34 | 12/16 | 講義 | 胸節—腰部の神経、胸神経(T1~T11)、肋間神経(T1~T11)、肋下神経(T12)の理解 | 同上 |
| 35 | 12/17 | 講義 | 叢、腰神経叢の枝、腸骨下腹神経、大腿神経、閉鎖神経などの理解 | 同上 |
| 36 | 12/17 | 講義 | 骨神経叢、上・下殿神経、坐骨神経、陰部神経などの理解 | 同上 |
| 37 | 1/6 | 講義 | 自律神経系—交感神経系(胸・腰髄 T1~L2、3)、交感神経幹の理解 | 同上 |
| 38 | 1/7 | 講義 | 神経支配(交感・副交感神経系+腸管壁内神経系)の理解 | 同上 |
| 39 | 1/7 | 講義・実習 | の骨とその連絡、頭蓋・脊柱の関節構成体の理解 | プリントとノートによる予習と復習 |
| 40 | 1/13 | 講義・実習 | 椎骨、胸骨、肋骨のスペース—肩胛と胸郭、胸郭の関節構成体と連結の理解 | 同上 |
| 41 | 1/14 | 講義・実習 | の連結と肩関節、肩甲骨、鎖骨、上腕骨近位側、筋の起始・停止の確認 | 同上 |
| 42 | 1/14 | 講義・実習 | 上腕骨・尺骨・橈骨のスペース—腕関節の運動、肘関節と靭帯、筋の起始・停止の確認 | 同上 |
| 43 | 1/20 | 講義・実習 | 手根骨・指骨と手関節—指関節のスペース—チ—筋の起始・停止の確認 | 同上 |
| 44 | 1/21 | 講義・実習 | 関節・骨盤、下肢帯と連結、運動と靭帯、筋の起始・停止の確認 | 同上 |
| 45 | 1/20 | 試験 | 定期試験 | |
| 46 | 1/21 | 講義・実習 | 膝蓋骨と膝関節、運動と靭帯、筋の起始・停止の確認 | プリントとノートによる予習と復習 |
| 47 | 1/21 | 講義・実習 | 距骨・踵骨・舟状骨—足の指骨のスペース—中足骨・指骨と足の関節の確認 体表解剖 体表輪郭と触知できる骨部分 | 同上 |
| 準備学習 時間外学習 | | | プリント、教科書、参考書を予習・復習する。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

「解剖学」編集 野村巖 医学書院
「ネッター解剖学アトラス」訳 相磯貞和 南江堂
「入門人体解剖学」藤田恒夫 南江堂
「分担解剖学 1、2、3」森 於菟 他 金原出版
「プロメテウス解剖学アトラス」監訳 板井建雄 医学書院

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|------|--------------------------------|
| 科目名 (英) | 生理学 I (Biology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 川上智史 |
| 学科・コース | 理学療法科・Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期土曜 1・2時限 後期木曜 3・4限目 |
| 教員の略歴 | 博士(医学)を2006年に取得し、生理学を中心に公衆衛生学、医学概論等を各種専門学校で教授。現在、大学にて公衆衛生学研究室に所属し、がん細胞の生理学的特徴の研究に従事 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ヒトの体を理解することの導入とし、ヒトの最小単位である細胞から組織まで理解し、生命現象の原理や仕組みを理解することを目標とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 生命の基本的知識を習得し、併せて、解剖学・生理学・運動学学習の基本的知識とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験80%、授業内評価10%、課題レポート10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|------|------|----------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 7/3 | 講義 | オリエンテーション、生物学とは | なし |
| 2 | 7/10 | 講義 | 人体とは何かを理解できる | 授業内容の復習 |
| 3 | 7/17 | 講義 | 人体とは何かを理解できる | 授業内容の復習 |
| 4 | 7/31 | 講義 | 人体を構成する細胞を理解できる | 授業内容の復習 |
| 5 | 8/7 | 講義 | 人体を構成する細胞を理解できる | 授業内容の復習 |
| 6 | 8/27 | 講義 | 細胞の働きを理解できる | 授業内容の復習 |
| 7 | 8/27 | 講義 | 細胞の働きを理解できる | 授業内容の復習 |
| 8 | 9/3 | 講義 | 細胞のタンパク質合成を理解できる | 授業内容の復習 |
| 9 | 9/3 | 講義 | 細胞のタンパク質合成を理解できる | 授業内容の復習 |
| 10 | 9/10 | 講義 | DNAと遺伝子、遺伝子発現について理解できる | 授業内容の復習 |
| 11 | 9/10 | 講義 | DNAと遺伝子、遺伝子発現について理解できる | 授業内容の復習 |
| 12 | 9/17 | 講義 | ミトコンドリアによるエネルギー産生について理解できる | 授業内容の復習 |
| 13 | 9/17 | 講義 | ミトコンドリアによるエネルギー産生について理解できる | 授業内容の復習 |
| 14 | 9/24 | 講義 | 各種細胞小器官の作用について理解できる | 授業内容の復習 |
| 15 | 9/24 | 講義 | 各種細胞小器官の作用について理解できる | 授業内容の復習 |

| | | | | |
|------------|-------|----|--------------------|---------|
| 16 | 10/1 | 講義 | 細胞分裂と細胞周期を理解できる | 授業内容の復習 |
| 17 | 10/1 | 講義 | 細胞分裂と細胞周期を理解できる | 授業内容の復習 |
| 18 | 10/8 | 講義 | 組織とは何かを理解できる | 授業内容の復習 |
| 19 | 10/8 | 講義 | 組織とは何かを理解できる | 授業内容の復習 |
| 20 | 10/15 | 講義 | 組織を構成する細胞を理解できる | 授業内容の復習 |
| 21 | 10/15 | 講義 | 組織を構成する細胞を理解できる | 授業内容の復習 |
| 22 | 10/22 | 講義 | 組織の種類について理解できる | 授業内容の復習 |
| 23 | 10/22 | 講義 | 組織の種類について理解できる | 授業内容の復習 |
| 24 | 10/29 | 講義 | 上皮組織・結合組織の生理を理解できる | 授業内容の復習 |
| 25 | 10/29 | 講義 | 上皮組織・結合組織の生理を理解できる | 授業内容の復習 |
| 26 | 11/5 | 講義 | 筋組織の生理を理解できる | 授業内容の復習 |
| 27 | 11/5 | 講義 | 筋組織の生理を理解できる | 授業内容の復習 |
| 28 | 11/12 | 講義 | 神経組織の生理を理解できる | 授業内容の復習 |
| 29 | 11/12 | 講義 | 神経組織の生理を理解できる | 授業内容の復習 |
| 30 | 11/18 | 講義 | | |
| 31 | 11/19 | 試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 復習 | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学(メディカ出版)

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|------------|-------------|---------|------|--------------------|
| 科目名 (英) | 生理学Ⅱ (Physiology II) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 川上智史 |
| 学科・コース | 理学療法科・Aクラス | 授業 形態 | オンデマ ンド | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 後期 月曜日 1・2時限 |
| 教員の略歴 | 博士(医学)を2006年に取得し、生理学を中心に公衆衛生学、医学概論等を各種専門学校で教授。 現在、大学にて公衆衛生学研究室に所属し、がん細胞の生理学的特徴の研究に従事 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 人間の体は複雑な構造をしている。しかし必要の無い臓器は一切無く、それぞれが生命維持のために役割を果たしている。生理学Ⅱにおいては臓器レベルでそれぞれの機能を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 理学療法士に必要な人体の機能(筋・神経、呼吸・循環、消化・吸収など)について学習する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験80%、授業内評価10%、課題レポート10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|------|---------------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 11/19 | 講義 | 泌尿器系の概要について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 2 | 11/26 | 講義 | 尿の生成・再吸収について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 3 | 11/26 | 講義 | レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 4 | 12/3 | 講義 | 内分泌について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 5 | 12/3 | 講義 | ホルモン・ホルモンレセプターを理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 6 | 12/10 | 講義 | 各種ホルモンを理解できる① | 教科書を読んでおくこと |
| 7 | 12/10 | 講義 | 各種ホルモンを理解できる② | 教科書を読んでおくこと |
| 8 | 12/17 | 講義 | 各種ホルモンを理解できる③ | 教科書を読んでおくこと |
| 9 | 12/17 | 講義 | 神経系の概要について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 10 | 1/7 | 講義 | α - γ 連関など神経伝達について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 11 | 1/7 | 講義 | 活動電位について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 12 | 1/14 | 講義 | 記憶など脳機能について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 13 | 1/14 | 講義 | 特殊感覚について理解できる① | 教科書を読んでおくこと |
| 14 | 1/21 | 講義 | 特殊感覚について理解できる② | 教科書を読んでおくこと |
| | 1/20 | 試験 | | |
| 15 | 1/21 | 講義 | 生殖器系の生理について理解できる | 教科書を読んでおくこと |

準備学習 時間外学習

講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり

【使用教科書・教材・参考書】 □

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学(メディカ出版)

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|---------------|------------------|
| 科目名 (英) | 生理学実習 (Practice in Physiology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 梶原一将 |
| 学科・コース | 理学療法科 I 部Aクラス | 授業 形態 | 実習 | 総時間 (単位) | 45 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 水曜日 1・2 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、急性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリを経て現在に至る。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 実習を通じて体験することで理学療法における評価・治療と生理学の知識をつなげるために、実習を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | 生理学実習を通して、座学で学んだ生理学をより深く掘り下げることで、明確な知識を取得することを目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート: 70% ・授業内評価: 30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|------|--------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/16 | 実習 | 教科ガイダンス | |
| 2 | 9/16 | 実習 | 該当範囲となる領域の生理学的知識を整理し、実習の準備をする。 | |
| 3 | 9/23 | 実習 | ①体性感覚-表在感覚についての実習を実施する。 | |
| 4 | 9/23 | 実習 | ②体性感覚-表在感覚についての実習を実施する。 | |
| 5 | 9/30 | 実習 | ①体性感覚-深部感覚についての実習を実施する。 | |
| 6 | 9/30 | 実習 | ②体性感覚-深部感覚についての実習を実施する。 | |
| 7 | 10/7 | 実習 | ①血圧測定についての実習を実施する。 | |
| 8 | 10/7 | 実習 | ②血圧測定についての実習を実施する。 | |
| 9 | 10/14 | 実習 | ①体力測定についての実習を実施する。 | |
| 10 | 10/14 | 実習 | ②体力測定についての実習を実施する。 | |
| 11 | 10/21 | 実習 | ①運動負荷時の生理的変化について実習を実施する。 | |
| 12 | 10/21 | 実習 | ②運動負荷時の生理的変化について実習を実施する。 | |
| 13 | 10/28 | 実習 | ①筋電図についての実習を実施する。 | |
| 14 | 10/28 | 実習 | ②筋電図についての実習を実施する。 | |
| 15 | 11/4 | 実習 | ①心電図についての実習を実施する。 | |
| 16 | 11/4 | 実習 | ②心電図についての実習を実施する。 | |
| 17 | 11/11 | 実習 | ①肺機能検査についての実習を実施する。 | |

| | | | | |
|----------------------------------|-------|----|--------------------|--|
| 18 | 11/11 | 実習 | ②肺機能検査についての実習を実施する | |
| 19 | 11/18 | 実習 | 実習内容のまとめ | |
| 20 | 11/18 | 実習 | 実習内容のまとめ | |
| 21 | 11/25 | 実習 | 発表準備 | |
| 22 | 11/25 | 実習 | 発表準備 | |
| | 12/2 | 発表 | 発表 | |
| 23 | 12/2 | 講義 | 総括 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 「生理学実習実習書」 仙台医健・スポーツ&こども専門学校テキスト | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|---|----|-------------|-----------|---------------|-------------------|
| 科目名 (英) | 運動学 (Kinesiology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 今野 良紀 |
| | | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 前後期 月曜 1・2限 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 教員の略歴 理学療法士。病院にて回復期リハビリと介護保険領域のリハビリテーションを経験。専門学校教員としての教務とともに、市区町村からの介護予防委託事業や、理学療法士を対象とした講習会運営などに携わっている。 | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①解剖学的知識から生体力学や運動と動作の分析、運動学習等、人間の運動の科学を学習する。 ②身体運動についての運動学的な用語や表現方法を学習する。 ③健康者同士の体験課題をもとに、関節や筋の知識と実際の身体イメージを関連付けて理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①身体運動における面と軸、基本的肢位を理解し説明できる。 ②各関節の構造と機能について特徴を説明できる。 ③筋の起始・停止、作用、神経支配について説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ・筆記試験:70% ・レポート:30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | | |
|---------------------|------|------|---|------|--------------------------------------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 5/15 | 講義 | 生体力学基礎運動学の概念を理解する。運動面と軸の関係を説明できる。 | | | | |
| 2 | 5/15 | 講義 | 身体運動と力学ベクトルとモーメントの概念を説明できる。 | | | | |
| 3 | 5/18 | 講義 | 運動器の構造と機能を学び、可動関節の種類、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 4 | 5/18 | 講義 | 骨格筋の特徴について説明できる。 | | | | |
| 5 | 5/25 | 講義 | ①肩複合体の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 6 | 5/25 | 講義 | ②肩複合体の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 7 | 6/2 | 講義 | ①肘関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 8 | 6/2 | 講義 | ②肘関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 9 | 6/9 | 講義 | ①手関節・手指の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 10 | 6/9 | 講義 | ②手関節・手指の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | 《レポート提出①》単元ごとに実施する単元テストの内容をまとめて提出する。 | | |
| 11 | 6/16 | 講義 | ①股関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 12 | 6/16 | 講義 | ②股関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 13 | 6/23 | 講義 | ①膝関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 14 | 6/23 | 講義 | ②膝関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| | 6/29 | 中間試験 | | | | | |
| 15 | 6/30 | 講義 | ①足関節・足部の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 16 | 6/30 | 講義 | ②足関節・足部の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 17 | 7/7 | 講義 | 脊柱の構造、運動について特徴を理解し、説明できる。(頸椎) | | | | |
| 18 | 7/7 | 講義 | 脊柱の構造、運動について特徴を理解し、説明できる。(胸・腰椎) | | | | |
| 19 | 7/14 | 講義 | 顎関節の構造、運動について特徴を理解し、説明できる。 | | | | |
| 20 | 7/14 | 講義 | 姿勢と姿勢制御について、重心と支持基底面の関係から説明できる。 | | 《レポート提出②》単元ごとに実施する単元テストの内容をまとめて提出する。 | | |
| 21 | 7/21 | 講義 | 外乱動揺時の姿勢制御、姿勢制御における感覚機構の働きについて説明できる。 | | | | |
| 22 | 7/21 | 講義 | 歩行周期について身体重心移動、下肢関節運動の観点から理解を深め、説明できる。 | | | | |
| 23 | 7/28 | 講義 | 歩行時に必要な筋活動を理解し、異常歩行との関連性を説明できる。 | | | | |
| 24 | 7/28 | 講義 | ①運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。 | | | | |
| 25 | 8/4 | 講義 | ②運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。 | | | | |
| 26 | 8/4 | 講義 | ①ヒトの成長過程と運動発達の関係を学び、姿勢反射について要点を説明できる。 | | | | |
| 27 | 8/25 | 講義 | ②ヒトの成長過程と運動発達の関係を学び、姿勢反射について要点を説明できる。 | | | | |
| 28 | 8/25 | 講義 | ①運動学習の特徴を理解し、練習と訓練に必要な知識を説明できる。 | | | | |
| | 8/31 | 試験 | | | | | |
| 29 | 9/1 | 講義 | ②運動学習の特徴を理解し、練習と訓練に必要な知識を説明できる。 | | 《レポート提出③》単元ごとに実施する単元テストの内容をまとめて提出する。 | | |
| 30 | 9/1 | 講義 | まとめ | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | |
| 基礎運動学 第6版 改訂(医歯薬出版) | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|-----------------|----------|----|-------------|-----------|------------------------------------|
| 科目名 (英) | 人間発達学 (Human Development) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 江崎浩明 |
| | 学科・コース | 理学療法科 ・ I 部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 後期 木曜 3・4時限 |
| 教員の略歴 | 大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約15年間、教育、相談業務に従事。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 生まれてから亡くなるまでの生涯を通し、どのように発達していくのかを、乳児期・幼児前期・幼児後期・児童期・青年期・成人前期・成人期・高齢期の各発達段階に分け、またその過程で直面する様々な発達課題について学びます。出生から見られる原始反射や身体的な変化、発達スクリーニング検査等についての知識を得ることで、身体的な”成長”と精神的な”発達”の両側面から人間の変化を捉えることが出来る視点を身につけます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 各発達段階と発達課題を理解し、それぞれに適した養育的・尊重的かわりができるようになる。 乳児期から幼児前期・幼児後期にかけての標準的な成長・発達の過程を説明できるようになる。 自分自身の発達について、長期的スパンで捉えられるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100%(選択式と記述式) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------|------|------|---|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 1/12 | 講義 | 講義の進め方、教科書の使い方、ノートのとり方、評価方法を理解する。 | 成長と発達の違いについて考えておく |
| 2 | 1/12 | 講義 | 成長と発達の違いについて説明できる。 | 数値や目に見える形で変化するものと、話したり行動して初めて違いがわかるものについて考えておく |
| 3 | 1/19 | 講義 | 発達概念の歴史の変遷について説明できる。 | ”こども”と”おとな”の社会的責任や役割の違いについて考えておく |
| 4 | 1/19 | 講義 | エリクソンの漸成的発達段階の概要について説明できる。 | 人間の発達に、年齢によってどのような違いがあるのかを考えておく |
| 5 | 1/26 | 講義 | 胎児期・周産期や原始反射について説明できる。 | 母子手帳等を用いて自分の”生まれ”について考えておく |
| 6 | 1/26 | 講義 | 新生児・乳児期の課題(生理的早産・臨界期・気質論等)について説明できる。 | 乳幼児にとつての安全な環境や危険な環境について・他の動物との生まれの違いについて考えておく |
| 7 | 2/2 | 講義 | 幼児前期の課題(歩行と言語獲得・分離不安等)について説明できる。 | 幼児の行動範囲の広がりや興味関心について考えておく |
| 8 | 2/2 | 講義 | 幼児後期の課題(トイレトレーニング、性別の理解等)について説明できる。 | 自分がいつオムツを使わなくなったか、性別の違いについて認識し始めたのはいつか、考えておく |
| 9 | 2/3 | 講義 | 児童期の課題(劣等感の形成・ギャングエイジ・不登校やいじめ等)について説明できる。 | 小学生の頃に持っていた劣等感や、もの周りにおきたいじめや不登校について考えておく |
| 10 | 2/9 | 講義 | 青年期(アイデンティティとモラトリアム、NEET等)について説明できる。 | 今現在の将来になりたい自分像や、将来への迷いについて考えておく |
| 11 | 2/9 | 講義 | 成人前期(生殖性・過程や仕事に対する停滞感・倦怠感等)について説明できる。 | 5年後・10年後のなりたい自分像について考えておく |
| 12 | 2/10 | 講義 | 成人期の課題(更年期障害・空の巣症候群・熟年離婚等)について説明できる。 | 自分の親世代が直面している課題・問題について考えておく |
| 13 | 2/16 | 講義 | 高齢期の課題(喪失・孤独・老老介護・生きがいの再設定・死の受容過程等)について説明できる。 | 自分の祖父母世代が直面している課題・問題について感えておく |
| 14 | 2/17 | 講義 | これまでに学んだ心理用語・概念について説明できる。 | それぞれの単元の理解度をチェックしておく |
| | | | 試験 | |
| 15 | 2/24 | 講義 | 解説 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 生涯人間発達学 第2版 (医学書院) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|--------------|----------|----|-------------|---------|---------------|
| 科目名 (英) | 医学概論 (Introduction to Medicine) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 鈴木寿則 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 法学修士、医学博士を取得後、教育機関で8年間の教育経験を有する。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | この授業は、理学療法士として必要な医学に関する法律の知識を学習するためのものです。他に関連する科目として、生理学及び病理学と関係します。受講生に対する要望として、授業をつうじて自分なりに学修成果をまとめる能力を養って頂きたいと思います。そのために、授業の展開として、教科書を中心に講義を行い、保健医療福祉関係について、基礎的な知識を学修します。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①医療及び健康の概念について説明できる。 ②生活習慣病に関する靱帯の機能及び構造について説明できる。 ③医療に関する制度及び法律について説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験80%、授業内評価20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------|------|--------------------------------------|-----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 1/8 | 講義 | 細胞について説明できる。 | 教科書による通読 |
| 2 | 1/8 | 講義 | 健康の定義について説明できる。 | 教科書による通読 |
| 3 | 1/15 | 講義 | 予防医学について説明できる。 | 教科書による通読 |
| 4 | 1/15 | 講義 | 健康日本21(第二次)について説明できる。 | 教科書による通読 |
| 5 | 1/22 | 講義 | スクリーニングについて説明できる。 | 教科書による通読 |
| 6 | 1/22 | 講義 | 疫学研究について説明できる。 | 教科書による通読 |
| 7 | 1/29 | 講義 | 疫学研究の種類について説明できる。 | 教科書による通読 |
| 8 | 1/29 | 講義 | 疫学指標について説明できる。 | 教科書による通読 |
| 9 | 2/12 | 講義 | がんについて説明できる。 | 教科書による通読 |
| 10 | 2/12 | 講義 | 心疾患について説明できる。 | 教科書による通読 |
| 11 | 2/19 | 講義 | 高血圧及び糖尿病について説明できる。 | 教科書による通読 |
| 12 | 2/19 | 講義 | 脳血管疾患について説明できる。 | 教科書による通読 |
| 13 | 2/26 | 講義 | 呼吸器疾患について説明できる。 | 教科書による通読 |
| 14 | 2/26 | 講義 | メンタルヘルスについて説明できる。 | 教科書による通読 |
| 15 | 3/5 | 試験 | | |
| 16 | 3/5 | 講義 | 試験の解答および解説 | 教科書による通読 |
| 準備学習 時間外学習 | | あらかじめ教科書を通読し、講義内容の概略を把握しておくことを目的とする。 | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

岡本悦政 編著『Active Aging 健康管理学』(八千代出版)

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|---------------|----------------|
| 科目名 (英) | 病理学 (pathology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 | 担当教員 | 大沼 英子 |
| 学科・コース | 理学療法科 I 部Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 1 | 開講区分 曜日・時限 | 後期 金曜 1限 |
| 教員の略歴 | 東北大学歯学部卒業後、同大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理を学び、歯科医師として臨床現場で活躍しながら1995年より専門学校にて非常勤講師を務める。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 疾患の原因・経過及び症状をトータルな生命現象として理解し、細胞・組織・臓器・物質レベルで学習することで病的状態の分類・概論の基礎を習得する。さらに、疾患を理解するために各臓器に関する病変を病理学的に学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 疾病における臓器、組織、細胞の形態変化を理解し、各臓器に関する病変を病理学的に学ぶことで臨床医学と関連させた疾患の認識と理解を深める。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 70% 授業内評価30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------------------------|-------|------|--|---------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 8/28 | 講義 | 病理概説 病理の業務 疾患の一般 | 病理学の業務と関係用語を説明できる |
| 2 | 9/4 | 講義 | 病因論1 内因 | 疾患の原因(内因)を説明できる |
| 3 | 9/11 | 講義 | 病因論2 外因① | 疾患の原因(栄養障害)を説明できる |
| 4 | 9/18 | 講義 | 病因論3 外因② | 疾患の原因(物理的外因)を説明できる |
| 5 | 9/25 | 講義 | 病因論4 外因③ | 疾患の原因(化学的外因)を説明できる |
| 6 | 10/2 | 講義 | 病因論5 外因④ | 疾患の原因(生物学的外因)を説明できる |
| 7 | 10/9 | 講義 | 細胞障害1(定義・萎縮・変性) | 細胞障害で起こる現象を説明できる |
| 8 | 10/16 | 講義 | 細胞障害2(代謝障害と疾患、壊死) | 代謝障害で起こる現象を説明できる |
| 9 | 10/23 | 講義 | 循環障害 | 循環障害で起こる現象を説明できる |
| 10 | 10/30 | 講義 | 進行性病変 | 細胞の修復過程を説明できる |
| 11 | 11/6 | 講義 | 炎症 | 炎症で起こる現象を説明できる |
| 12 | 11/13 | 講義 | 免疫① | 免疫に関わる細胞とシステムを説明できる |
| 13 | 11/20 | 講義 | 免疫② | 免疫異常によって起こる疾患を説明できる |
| 14 | 11/27 | 講義 | 腫瘍① | 腫瘍とはどのようなものはを説明できる |
| 15 | 12/4 | 試験 | | |
| 16 | 12/11 | 講義 | 腫瘍②・先天性異常 | 先天性異常の原因、疾患を説明できる |
| 準備学習 時間外学習 | | | 解剖学・生理学等関連する内容について、必要に応じて確認しながら理解を深めてほしい | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 病理学 第4版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 医学書院 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|------|-------------------|
| 科目名 (英) | 臨床心理学 (Clinical Psychology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 江崎浩明 |
| | | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 木曜 曜日・時限 2~4時限 |
| 学科・コース | 理学療法科・Aクラス | | | | | | |
| 教員の略歴 | 大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約15年間、教育、相談業務に従事。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 他の心理学との違いや精神医学・社会学等周辺領域との関係性について学ぶことで、心の問題を理解するために必要な臨床心理学的視点の獲得を目指します。その為に、ある人間の今を「人格理論」から、なぜそうなったかを「発達理論」から類推し、面接技法や心理検査も用いて仮説-検証していくモデルを学びます。また、さまざまな精神症状・精神疾患の特徴を学ぶことにより、「なんか変な人・おかしい人」という捉え方から「何らかの特徴によって生き辛さを感じている人」という捉え方にシフトし、差別的な関わりからより援助的な関わりができるように多様な視点の獲得を試みます。これらを学ぶ過程から、自分自身に対する劣等感や不安全感を軽減し、問題を抱えながらもそれと上手に折り合いをつけ、たくましく生きていける精神的タフさ・粘り強さを身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | 一般的又は医学的な問題把握ではなく、医学が捉えきれない心の問題について、臨床心理学的視点で捉えることができるようになる。 正常レベル・神経症レベル・精神病レベルの違いや、病識の有無、病態水準の概念について理解する。 代表的な人格理論と発達理論を学び、さらに各心理臨床家の人を捉える視点や枠組みの違いについて理解する。 他者理解のためにどのような情報が手がかりとなるかについて理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト(前期50%、後期50%) 国家試験出題レベルのマークシート方式 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | |
|------------------------------------|-------|--------------------------------|---|---|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 9/29 | 講義 | 他の心理学との関連性や独自性を説明できる。 | これまで学んだ心理学用語や概念を復習しておく。 | | |
| 2 | 10/6 | 講義 | 従来の医学的視点ではなく、臨床心理学的視点で捉えることの重要性を説明できる。 | 医学で用いられる検査や機器では測定できない問題について考えておく。 | | |
| 3 | 10/13 | 講義 | 予後・過剰適応・過剰防衛や、完治・根治と寛解の違いを説明できる。 | 人に何かを頼まれたら断りにくいタイプか、嫌なら平気で断れるタイプかを考えておく。 | | |
| 4 | 10/20 | 講義 | 表面に現れている発熱や頭痛等の症状と、その原因を同時並行に捉え対処する必要性を説明できる。 | これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出しておく。 | | |
| 5 | 10/27 | 講義 | 「元通りになること」と「より適応的に変化すること」の違いについて説明できる。 | これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出しておく。 | | |
| 6 | 11/10 | 講義 | DSM-5(診断基準)の内容と、正常レベル・神経症レベル・精神病レベルについて説明できる。 | 自分の中での心の問題の重さや軽さの基準について考えておく。 | | |
| 7 | 11/17 | 講義 | 人格理論Ⅰ Freudの精神分析理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | 意識と無意識、自分の欲求とそれを抑える気持ちについて考えておく。 | | |
| 8 | 11/24 | 講義 | 人格理論Ⅱ Jungの分析的心理学理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | 自分の中の理想的な同性像・異性像、社会的な役割の仮面について考えておく。 | | |
| 9 | 12/1 | 講義 | 人格理論Ⅲ Rogersの来談者中心療法の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | 受容や共感に代表される現代のカウンセリングのイメージについて考えておく。 | | |
| 10 | 12/8 | 講義 | 発達理論Ⅰ Mahler, Winnicottの発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | 乳幼児期にいつも肌身離さず持ち歩いてきた物を思い出しておく。 | | |
| 11 | 12/15 | 講義 | 発達理論Ⅱ Eriksonの漸成的発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | 乳児期から高齢期までの8段階の発達段階と発達課題を復習しておく。 | | |
| 12 | 1/12 | 講義 | 他者理解のための基礎的情報(家計図の死力、既往歴・現病歴等)の扱い、捉え方について説明できる。 | "他者を理解するために集める情報"にはどのようなものがあるかについて考えておく。 | | |
| 13 | 1/12 | 講義 | 心理検査Ⅰ 種類と分類、代表的な発達検査と知能検査について説明できる。 | 心理テストと心理ゲームの違いや、古いオーラ等と何が違うかについて考えておく。 | | |
| 14 | 1/19 | 講義 | 復習: これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。 | それぞれの単元の理解度をチェックしておく。 | | |
| 15 | 1/19 | 講義 | 解説 | | | |
| 16 | 1/26 | 講義 | 心理検査Ⅱ 代表的な性格検査(質問紙法・投影法・作業検査法)について説明できる。 | 性格検査で測定可能なことと想定不可能なことは何かを考えておく。 | | |
| 17 | 1/26 | 講義 | アセスメントⅠ 自閉スペクトラムについて説明できる。 | 自閉症と聞いてどのような病態像が頭に浮かぶが考えておく。 | | |
| 18 | 2/2 | 講義 | アセスメントⅡ AD/HD・学習障害を含む発達障害について説明できる。 | 落ち着きがない子、動き回る子や、発達障害の病態像について考えておく。 | | |
| 19 | 2/2 | 講義 | アセスメントⅢ 情緒障害・母性剥奪症候群・虐待・不登校・知的能力障害等について説明できる。 | 自分や自分のまわりに居た不登校やひきこもりについて思い出しておく。 | | |
| 20 | 2/9 | 講義 | アセスメントⅣ 不安障害・パニック障害・摂食障害等について説明できる。 | 自分が抱える不安の種類・強度・持続期間について考えておく。 | | |
| 21 | 2/9 | 講義 | アセスメントⅤ うつ病・双極性障害について、その特徴や治療について説明できる。 | うつ病について、知っていることやイメージをまとめておく。 | | |
| 22 | 2/16 | 講義 | アセスメントⅥ 統合失調症について、その特徴や治療について説明できる。 | 統合失調症の病態像について考えておく。 | | |
| 23 | 2/16 | 講義 | アセスメントⅦ 認知症(アルツハイマー、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型)について説明できる。 | 認知症の種類や症状の違いについて考えておく。 | | |
| 24 | 3/2 | 講義 | 心理療法Ⅰ 非指示的心理療法・クライエント中心療法について説明できる。 | "カウンセリング"と言われて頭にどのようなイメージが湧くかを考えておく。 | | |
| 25 | 3/2 | 講義 | 心理療法Ⅱ 精神分析・分析的心理学について説明できる。 | 気がついたら無意識のうちに何かやっつけてしまったことを思い出しておく。 | | |
| 26 | 3/2 | 講義 | 心理療法Ⅲ 遊戯療法・音楽療法・箱庭療法・コラージュについて説明できる。 | まだ上手く言葉で辛さや不安を表現できない子どもへのサポート方法を考えておく。 | | |
| 27 | 3/9 | 講義 | 心理療法Ⅳ 自律訓練法・家族療法・森田療法について説明できる。 | 自分の家族のそれぞれの人間関係について考えておく。 | | |
| 28 | 3/9 | 講義 | 心理療法Ⅴ 認知行動療法について説明できる。 | 辛いときやストレスでつぶれそうなる時、いつも頭に浮かぶ事やとってしまう行動について考えておく。 | | |
| 29 | 3/9 | 講義 | これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。 | それぞれの単元の理解度をチェックしておく。 | | |
| | 3/16 | | 試験 | | | |
| 30 | 3/16 | 講義 | 聴くスキル 演習 | 自分にとって大事・大切な人が困っている時を想定しておく。 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 学んだ概念を、日々の生活で感じ、思い返して復習してください。 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | |
| 心とかかわる臨床心理 基礎・実践・方法[第3版] (ナカニシヤ出版) | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------------|-------------|-----|------|-------------|
| 科目名 (英) | リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 1 | 担当教員 | 奈良隆寛 |
| | | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | () | 開講区分 | 後期 金曜12限 |
| 学科・コース | | | | | | | |
| 教員の略歴 | 1980年 東京慈恵会医科大学卒業 宮城県立こども病院リハビリテーション科 部長 医師 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①医療の中でリハビリテーションがどのような位置づけにあるか学習する ②2・3年生で学ぶ臨床医学(内科学・小児科学・整形外科学など)のどこにリハビリが関係するのか知るために学習する ③臨床医学への導入として知識を整理しておく ④臨床ですでてくる各疾患について解説し、そこにどのようにリハビリを導入していくかを開設する | | | | | | |
| 到達目標 | ①いろいろな疾患の概念を学ぶ ②脳・神経・筋肉・骨の構造と機能それに関連する疾患の病態を知る ③疾患の治療について理解をえる ④治療とリハビリとの関係について理解する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ①テスト60%・模擬テスト40% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------------------------|-------|-------|----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 1月8日 | 講義 | リハビリテーション医学の流れを説明できる | テキスト1～18頁を予習 |
| 2 | 1月8日 | 講義 | 患者の状態について評価・説明できる | テキスト19～62頁を予習 |
| 3 | 1月15日 | 講義 | リハビリ治療について説明できる | テキスト76～96頁を予習 |
| 4 | 1月15日 | 講義 | リハビリに関係する検査について説明できる | テキスト65～75頁を予習 |
| 5 | 1月22日 | 講義 | 脳性麻痺の症候から治療まで説明できる | テキスト181～203頁を予習 |
| 6 | 1月22日 | 講義 | リウマチ・関節疾患の治療を説明できる | テキスト160～180頁を予習 |
| 7 | 1月29日 | 講義 | 神経筋疾患の症候からリハ治療まで説明 | テキスト204～220頁を予習 |
| 8 | 1月29日 | 講義 | 内部疾患の症候からリハ治療まで説明 | テキスト287～311頁を予習 |
| 9 | 2月5日 | 講義 | 脊椎疾患の症候からリハ治療まで説明 | テキスト267～286頁を予習 |
| 10 | 2月5日 | 講義 | 外傷の症候からリハ治療まで説明 | テキスト248～266頁を予習 |
| 11 | 2月12日 | 講義 | 脳疾患の症候からリハ治療まで説明 | テキスト97～130頁を予習 |
| 12 | 2月12日 | 講義 | 末梢神経疾患の症候からリハ治療まで説明 | テキスト221～286頁を予習 |
| 13 | 2月19日 | 模試 | 今まで習ったことを確認する | 1か月間で総復習 |
| 14 | 2月19日 | 模試 | 今まで習ったことを確認する | 1か月間で総復習 |
| 15 | 2月26日 | 本試験解説 | 今まで習ったことを再確認する | 本試験の解説 |
| 16 | 2月26日 | 期末試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】「リハビリテーション医学」テキスト(南江堂) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------------|------|---------|
| 科目名 (英) | リハビリテーション概論 (Introduction to Rehabilitation) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 丸屋健 |
| 学科・コース | 理学療法科 I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1単位) | 開講区分 | 前期 水:4限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、2012年4月～2017年3月 回復期病院 リハビリテーション部 勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | リハビリテーションの歴史や概念など理解し、また障害や医療保険制度についても学習する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・自身の中でのリハビリテーションの強いイメージを作る ・職業意識を高め、理学療法士養成校で学ぶ学問の意味を知る | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)レポート課題 (100%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|--------|------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5月14日 | 講義 | リハビリテーションに対するイメージを作ることができる。 リハビリテーションの存在意義を知ることができる。 | |
| 2 | 5月21日 | 講義 | リハビリテーションの職域や活躍場面について知ることができる。 | |
| 3 | 5月28日 | 講義 | リハビリテーションの具体的展開について知ることができる。 | |
| 4 | 9月7日 | 講義 | 疾病と傷害の関係について学ぶことができる。 ICIDHとICFについて知ることができる。 | |
| 5 | 9月14日 | 講義 | 各病棟、病気で役割や仕事について学ぶことができる。 | |
| 6 | 9月28日 | 講義 | 廃用症候群と二次合併症について学ぶことができる。 | |
| 7 | 9月28日 | 講義 | 作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士の役割について知ることができる。 | |
| 8 | 10月5日 | 講義 | 医学的リハビリテーションに関わる専門職の役割について知ることができる。 | |
| 9 | 10月5日 | 講義 | 職業、社会、教育におけるリハビリテーションについて知ることができる。 | |
| 10 | 10月12日 | 講義 | 障害のある人の家族の問題を理解することができる。 | |
| 11 | 10月12日 | 講義 | 車椅子の種類や選択、福祉機器、福祉用具の種類や選択について学ぶことができる。 | |
| 12 | 10月19日 | 講義 | 身体障害福祉法や介護保険法について学ぶことができる。 | |
| 13 | 10月19日 | 講義 | 機能障害の評価方法について知ることができる。 | |
| 14 | 10月26日 | 講義 | 身体機能と各障害の関連性について知ることができる。 | |
| 15 | 10月26日 | 講義 | 自身の理学療法士としての将来像をイメージし、発表することができる。 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----------|-------------|-----------|------|-----------------------------|
| 科目名 (英) | 理学療法概論 (Introduction to PT) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 梶原一将 |
| 学科・コース | 理学療法科 I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 演習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 月曜日 曜日・時限 1・2時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリを経て、現在に至る。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の概要、定義を学ぶ。 ・理学療法の評価・治療の大まかな流れを学ぶ。 ・インフォームド・コンセント、コミュニケーション法について理解・実施できる。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の定義を述べられる。 ・理学療法の評価、治療の大まかな意図を理解する。 ・インフォームド・コンセントが実施できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験70%、授業内評価30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|-------|-----------------|-----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/11 | 講義 | 標準予防策を実施できる | 課題 |
| 2 | 5/11 | 講義 | 理学療法の定義を説明できる | 課題 |
| 3 | 5/18 | 講義 | 理学療法の法則を理解する | 課題 |
| 4 | 5/18 | 講義 | コミュニケーション技法を実施できる | 課題 |
| 5 | 5/25 | 講義 | インフォームド・コンセントが実施できる | 課題 |
| 6 | 5/25 | 講義 | 学療法における評価の大まかな流れを理解する | 課題 |
| 7 | 11/2 | 講義 | 学療法における治療の大まかな流れを理解する | 課題 |
| 8 | 11/2 | 講義 | 理学療法の職域を理解する | 課題 |
| 9 | 11/9 | 講義 | 理学療法士の組織と協働職種を理解する | 課題 |
| 10 | 11/9 | 講義 | 療保険と介護保険の大まかな仕組みを理解する | 課題 |
| 11 | 11/16 | 講義 | 学療法士に求められる3つの要素を理解する | 課題 |
| 12 | 11/16 | 講義 | 学療法士の学生に求められるものを理解する | 課題 |
| 13 | 11/30 | 講義 | リスク管理を理解する① | 課題 |
| 14 | 11/30 | 講義 | リスク管理を理解する② | 課題 |
| 15 | 12/7 | 講義 | 整形外科疾患の理学療法概論 | 課題 |
| | 6/24 | 定期試験 | 実技試験 | |
| 準備学習 時間外学習 | | 準備学習は事前にテキストを読む | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論 課題・動画を使ってエッセンスを学びとる 第1版 羊土社 その他備品教材使用 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|---------------------|-------------|-----------|------|------------------------|
| 科目名 (英) | 理学療法評価学 I | 必修 選択 | 必須 | 年次 | 1 | 担当教員 | 梶原一将 |
| | (Evaluation of PT I) | 授業 形態 | オン ライ ン 演習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 月曜日・水曜日 1.2時限 |
| 学科・コース | 理学療法学科 I 部Aクラス | | | | | | |
| 教員の略歴 | 理学療法士、急性期、亜急性期、地域包括ケア、訪問リハビリを経て現在に至る。 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | ①理学療法評価とは何かを学ぶ ②バイタルサインとは何か学ぶ ③形態測定を学ぶ ④関節可動域検査を学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | ①理学療法評価の統合と解釈ができる ②バイタルサインを理解、実施できる ③形態測定、関節可動域検査が実施できる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ①実技試験 70% ②授業内評価 30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------------|------|------------|-----------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/11 | 講義 | 評価の意義と目的を説明できる | 課題 |
| 2 | 5/11 | 講義 | 問診や情報収集ができる | 課題 |
| 3 | 5/18 | 講義 | 理学療法評価における観察・検査・測定のための必要知識を整理し述べる | 課題 |
| 4 | 5/18 | 講義 | バイタルサインについて理解する | 課題 |
| 5 | 5/25 | 講義 | 触診ができる | 課題 |
| 6 | 5/25 | 講義 | 形態測定ができる | 課題 |
| 7 | 6/1 | 演習 | 関節可動域の定義を述べられる | |
| 8 | 6/1 | 演習 | 肩関節の関節可動域を実施できる | |
| 9 | 6/3 | 演習 | 肘関節の関節可動域を実施できる | |
| 10 | 6/3 | 演習 | 手関節の関節可動域を実施できる | |
| 11 | 6/8 | 演習 | 股関節の関節可動域を実施できる | |
| 12 | 6/8 | 演習 | 膝関節の関節可動域を実施できる | |
| 13 | 6/10 | 演習 | 足関節の関節可動域を実施できる | |
| 14 | 6/10 | 演習 | 頸部・体幹の関節可動域を実施できる | |
| 15 | 6/17 | 演習 | 関節可動域を測定できる | |
| | 7/27 | 実技試験 | 実技試験 | |
| 準備学習 時間外学習 | | 検査の自主練習を行う | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 理学療法評価学 改定第5、6版 金原出版株式会社 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-------------|------|-----------------------|
| 科目名 (英) | 理学療法評価学Ⅱ (Evaluation of PTⅡ) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 丸屋健 |
| 学科・コース | 理学療法科 I部 Aクラス | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 60 (2単位) | 開講区分 | 後期 曜日・時限 火:1・2限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、2012年4月～2017年3月 回復期病院 リハビリテーション部 勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ・講義にて理学療法評価における意義や目的、必要知識を学ぶ。また、配布資料を基に復習する。 ・演習を中心に、問診、検査・測定を練習する。健常者同士で実施する中で注意点や対象者への接し方を学ぶ。 ・医療面接による情報と検査・測定の結果の関連性について、演習の中で説明しながら理解を深める。 | | | | | | |
| 到達目標 | (1)理学療法評価の意義と目的を理解し説明することができる。 (2)理学療法評価における必要知識を理解し、演習の中で関連付けすることができる。 (3)検査・測定の意義と目的を理解し、健常者同士で実施することができる。 (4)徒手筋力検査・そのほかの検査における必要知識を暗記することができる。 (5)臨床を想定し、一連の流れで問診・検査・測定を実施することができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)実技試験 80% 2)筆記試験 20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | | |
|--|--------|------|--|-----------|------------------------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 6月22日 | 演習 | 上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。① | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 2 | 6月22日 | 演習 | 上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。② | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 3 | 6月24日 | 演習 | 上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。③ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 4 | 6月24日 | 演習 | 上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。④ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 5 | 7月1日 | 演習 | 上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。⑤ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 6 | 7月1日 | 演習 | 下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。① | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 7 | 7月6日 | 演習 | 下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。② | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 8 | 7月6日 | 演習 | 下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。③ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 9 | 7月8日 | 演習 | 下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。④ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 10 | 7月13日 | 演習 | 下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。⑤ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 11 | 7月13日 | 演習 | 頭頸部・体幹の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。① | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 12 | 7月15日 | 演習 | 頭頸部・体幹の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。② | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 13 | 7月15日 | 演習 | 頭頸部・体幹の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。③ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 14 | 7月20日 | 演習 | 実技試験を想定し、一連の流れで徒手筋力検査を実施することができる。 | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 15 | 7月20日 | 演習 | 実技試験を想定し、一連の流れで徒手筋力検査を実施することができる。 | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 16 | 7月22日 | 演習 | 徒手筋力検査の臨床的捉え方と、筋力低下のメカニズムについて理解することができる。 | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 17 | 7月22日 | 演習 | 徒手筋力検査の臨床的捉え方と、筋力低下のメカニズムについて理解することができる。 | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 18 | 7月29日 | 演習 | 徒手筋力検査の定義と目的を説明することができる。測定における筋力の必要知識を述べることができる。 | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 19 | 8月5日 | 演習 | 徒手筋力検査の定義と目的を説明することができる。測定における筋力の必要知識を述べることができる。 | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 20 | 8月5日 | 演習 | 痛みの評価について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 21 | 8月24日 | 演習 | 痛みの評価について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 22 | 8月24日 | 演習 | 知覚検査・反射検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 23 | 8月26日 | 演習 | 知覚検査・反射検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 24 | 8月26日 | 演習 | 整形外科疾患検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 25 | 8月31日 | 演習 | 整形外科疾患検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 26 | 9月2日 | 演習 | 片麻痺機能検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 27 | 9月2日 | 演習 | 片麻痺機能検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 28 | 9月7日 | 演習 | 日常生活活動の検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 29 | 9月7日 | 演習 | 日常生活活動の検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 30 | 9月14日 | 演習 | 理学療法評価の臨床応用について学び、「理学療法実習」の関連性を理解することができる。 | | | | |
| 31 | 11月30日 | 実技試験 | 徒手筋力検査 実技試験 | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | ①検査・測定方法の事前学習 ②授業後の健常者同士での自主練習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 〇 | | | | | | | |
| ①理学療法評価学(改定第6版) : 金原出版株式会社 ②新・徒手筋力検査法(第10版) : 協同医学出版 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|------|--------------------|
| 科目名 (英) | 地域福祉論 (Principles of Community welfare) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 古川雅一 |
| 学科・コース | 理学療法科 I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 15 1 | 開講区分 | 後期 火曜日 1・2時限 |
| 教員の略歴 | 2009/4 理学療法士免許取得 / 2009-2010 一般病院勤務(大阪府) / 2010-2017 理学療法士養成校教員(兵庫県) / 2017-2019 青年海外協力隊参加(キルギス) 訪問リハビリテーションにて地域における理学療法の実戦経験あり | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士は臨床現場で様々な症例と関わるが、その方々は病院を退院した後に様々な社会福祉サービスをうけ地域で生活されているケースが多い。そのため理学療法士は症例のリハビリテーションゴールを考える上で、どのような福祉のサービスを利用することが将来の幸福へとつながるのか、症例本人や関係職種と検討をおこなっていく必要がある。本授業では、福祉とは何か、福祉の考え方の変化、どのような福祉に関する法律が存在するのか、その法律は症例にどのように関係するのか、どのようなサービスを利用することができるのか、などを学び、身体的な治療のみならず多面的に症例をとらえる視点を持つことを目指し実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉、社会福祉、地域福祉とは何かを日本の福祉の歴史を通して、その意味と考え方を理解する。 ・福祉に関する法律や福祉サービスを学び、どのような方が福祉の対象者となるのかを理解できる。 ・福祉対象者の抱えるニーズおよび専門職者としての具体的な支援方法について理解し、適切に説明できるようになる。 ・日本以外の国における福祉の考え方も学び、それぞれの長所・短所等を理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験(本試験80%、課題レポート20%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------------|--------|------|-----------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9月15日 | 講義 | 福祉とはなにか？なぜ理学療法士が福祉を学ぶ必要があるのかを理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 2 | 9月15日 | 講義 | 日本における福祉の考え方の変化を理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 3 | 9月29日 | 講義 | 社会福祉の基本となる3つの理念を理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 4 | 9月29日 | 講義 | 自立支援に必要な考え方を理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 5 | 10月6日 | 講義 | 社会福祉八法について理解する① | 配布資料の復読、課題作成 |
| 6 | 10月6日 | 講義 | 社会福祉八法について理解する② | 配布資料の復読、課題作成 |
| 7 | 10月13日 | 講義 | 社会福祉八法について理解する③ | 配布資料の復読、課題作成 |
| 8 | 10月13日 | 講義 | 生活保護法について理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 9 | 10月20日 | 講義 | 介護保険について理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 10 | 10月20日 | 講義 | 介護保険にて利用できるサービスを理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 11 | 10月27日 | 講義 | 世界の医療・福祉について理解する① | 配布資料の復読、課題作成 |
| 12 | 10月27日 | 講義 | 世界の医療・福祉について理解する② | 配布資料の復読、課題作成 |
| 13 | 11月10日 | 講義 | 世界の医療・福祉について理解する③ | 配布資料の復読、課題作成 |
| 14 | 11月10日 | 講義 | 日本の福祉における今後の課題を考える | 配布資料の復読、課題作成 |
| 15 | 11月16日 | テスト | 定期試験 | |
| 16 | 11月17日 | 講義 | 試験解説 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 配布資料の復読、課題作成 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ 特になし | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|---------------|----------|----|-------------|---------|------|-----------------------|
| 科目名 (英) | 自然科学 (Natural Science) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 川上 智史 高橋 未倫 |
| | 学科・コース | 理学療法科 I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 木曜4限 土曜1, 2限 |
| 教員の略歴 | 川上: 博士(医学)を2006年に取得し、生理学を中心に公衆衛生学、医学概論等を各種専門学校で教授。現在、大学にて公衆衛生学研究室に所属し、がん細胞の生理学的特徴の研究に従事 高橋: 理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学), Golf physio trainer(2017取得) | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | (物理分野) 物理学の基礎事項、力と運動の関係(力学)、それに伴う数学的知識を学び、物体や人体の運動について物理学的視点で考える力を養い、以降に学ぶ運動学へと繋げる。 (生物分野) 理学療法科専任教員、理学修士 | | | | | | | |
| 到達目標 | (物理) 物体や人体の運動について物理学的視点から考えることができるよう、力学を中心に物理基礎を習得する。 (生物) | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | (物理分野) 筆記試験(70%), 授業内評価(30%) (生物分野) 筆記試験(70%), 授業内評価(30%) | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|-------|------|----------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5月21日 | 講義 | 物理量とその表し方について説明できる。 | |
| 2 | 5月28日 | 講義 | 物理学で使うグラフと関数について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 3 | 6月4日 | 講義 | いろいろな運動について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 4 | 6月11日 | 講義 | さまざまな力について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 5 | 6月18日 | 講義 | 力のつり合いと運動法則について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 6 | 6月25日 | 講義 | 物体の重鎮と回転運動について説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 7 | 7月2日 | 講義 | 運動量、仕事とエネルギーについて説明できる。 | 授業内容の復習 |
| 8 | 7月9日 | 講義 | これまでの講義の復習を行い理解を深めることができる。 | 授業内容の復習 |
| 9 | 5月22日 | 講義 | オリエンテーション、生物学とは | |
| 10 | 5月22日 | 講義 | 人体とは何かを理解できる | 授業内容の復習 |
| 11 | 5月29日 | 講義 | 人体を構成する細胞を理解できる | 授業内容の復習 |
| 12 | 6月5日 | 講義 | 細胞の働きを理解できる | 授業内容の復習 |
| 13 | 6月12日 | 講義 | 細胞のタンパク質合成を理解できる | 授業内容の復習 |
| 14 | 6月19日 | 講義 | DNAと遺伝子、遺伝子発現について理解できる | 授業内容の復習 |
| 15 | 6月26日 | 講義 | ミトコンドリアによるエネルギー産生について理解できる | 授業内容の復習 |
| 16 | 7月8日 | 試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 授業終了後の復習をしっかりと実施すること | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ (物理分野) 講義内で適宜配布。(生物分野) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----------|-------------|---------|------|------|
| 科目名 (英) | 保健科学 | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 吉田晴彦 |
| | (Health Science) | 授業 形態 | 講義 実習 | 総時間 (単位) | 60 2 | 開講区分 | 後期 |
| 学科・コース | 理学療法科 I部 Bクラス | | | | | | |
| 教員の略歴 | 平成15年3月 中学・高等学校教諭一種免許(保健体育)取得 平成22年1月 JATI認定トレーニング指導者資格取得 平成25年3月 柔道整復師免許取得 平成26年4月 スポーツ&コンディショニング「SteadyFive」みやぎのはら接骨院開業 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 体力向上のための実技として球技などを通し身体機能・構造を習得する。 また、健康な体づくりのための授業として栄養などをテーマとし保健分野の知識を習得する。 人間の運動にかかわる身体の機能と構造についてを知る | | | | | | |
| 到達目標 | 健康な体づくり、体力向上のための体育分野と保健分野の専門知識と技術を身につける。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト(筆記50% 授業内評価50%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---------|--------|------|--|------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 10月16日 | 実技 | ハレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | | |
| 2 | 10月16日 | 実技 | ハレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | | |
| 3 | 10月23日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | | |
| 4 | 10月23日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | | |
| 5 | 10月30日 | 実技 | ハレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | | |
| 6 | 11月6日 | 実技 | ハレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | | |
| 7 | 11月6日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | | |
| 8 | 11月13日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | | |
| 9 | 11月13日 | 実技 | ハレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | | |
| 10 | 11月20日 | 実技 | ハレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | | |
| 11 | 11月20日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | | |
| 12 | 11月27日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | | |
| 13 | 11月27日 | 実技 | ハレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | | |

| | | | | |
|----|--------|----|--|--|
| 14 | 12月4日 | 実技 | ハレーボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 15 | 12月4日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 16 | 12月11日 | 実技 | バスケットボールを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |

| | | | | |
|---|--------|----|---|--|
| 17 | 12月11日 | 実技 | フラインクテイスグを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 18 | 12月18日 | 実技 | フラインクテイスグを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 19 | 12月18日 | 実技 | フラインクテイスグを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 20 | 1月8日 | 実技 | フラインクテイスグを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 21 | 1月8日 | 実技 | フラインクテイスグを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 22 | 1月15日 | 実技 | フラインクテイスグを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 23 | 1月22日 | 実技 | フラインクテイスグを通し、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る | |
| 24 | 1月22日 | 講義 | 機能解剖(上肢の骨・筋)を理解する | |
| 25 | 1月29日 | 講義 | 機能解剖(下肢の骨・筋)を理解する | |
| 26 | 1月29日 | 講義 | 機能解剖(体幹部の骨・筋)を理解する | |
| 27 | 2月5日 | 講義 | トレーニング理論(プログラム変数)を理解する | |
| 28 | 2月5日 | 講義 | トレーニング理論(筋力向上)を理解する | |
| 29 | 2月12日 | 講義 | トレーニング理論(栄養及び減量)を理解する | |
| 30 | 2月12日 | 講義 | 血圧・血糖・コレステロールを把握する | |
| 31 | 2月19日 | | 筆記試験 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ トレーニング指導者テキスト実践編・理論編(大修館書店) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|------|---------------------------|
| 科目名 (英) | 教育学 (Education) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 高橋未倫 |
| 学科・コース | 理学療法科 I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 後期 金曜1・2 曜日・時限 限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学), Golf physio trainer(2017取得) | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 「教育」「理学療法」「コミュニケーション」の3つを軸にグループワークなどを通じて協調性を図り、自身の意思(考え)を言葉や文章でしっかりと伝えることができるように参加型の授業となります。 | | | | | | |
| 到達目標 | 教育学の基本的な考え方を学び、「学ぶ」「教える」といった情緒領域に必要な知識について学習する。 本教科は一般教養となります。「教育学」のテーマに沿う形で教育とは何か、なぜ教育が必要なのかを理解し、さらには社会的な側面や理学療法士となっていく過程の中で人間形成へと話を発展させ、学生の皆様がこれから過ごす4年間の重要性について理解を深めることを目標としていきます。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業内評価 30% レポート 70% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|--------|---------|-------------------------------------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 8月28日 | 講義 | オリエンテーション/リハビリテーション概要 | |
| 2 | 8月28日 | 講義 | リハ概論:戦略的思考~理学療法士として考えるべきこと~ | |
| 3 | 9月4日 | 講義 | リハ概論:理学療法と社会情勢~皆が歩む社会人45年間の変化を見据えて~ | |
| 4 | 9月4日 | 講義 | 教育:概論① | |
| 5 | 9月11日 | 講義 | 教育:概論② | |
| 6 | 9月18日 | 講義 | 教育:発達を学ぶ~感情の獲得プロセスから観察する社会性の発達 | |
| 7 | 9月25日 | 講義 | 教育:発達を学ぶ~道徳理論的行動の発達から観察する社会性の発達 | |
| 8 | 10月2日 | 講義 | 臨床概論~臨床実習と現在の学生の傾向(CCSへの取り組み) | |
| 9 | 10月9日 | グループワーク | 各班発表 | 前週にグループを分け、各班の課題を提示します。当日までに分担しパワーポイントでの発表資料を作成してください。 |
| 10 | 10月16日 | グループワーク | 各班発表 | |
| 11 | 10月16日 | 講義 | 教育:社会人類学的視点からみた人間のコミュニケーション | |
| 12 | 10月23日 | 講義 | 教育:人間のコミュニケーション行動 | |
| 13 | 10月23日 | 講義 | コーチングスキル | |
| 14 | 10月30日 | 講義 | ティーチングスキル | |
| 15 | 10月30日 | 試験 | レポート試験90分 | |
| 16 | | | | |

準備学習 時間外学習

理学療法士としてだけでなく社会人としての教養という意味でも重要な科目になります。そのため、知識を一方向的に伝えるのではなく、節度ある態度で受けることや社会的なモラル、学習態度なども求めていきたいと思えます。本科目は、理学療法士として専門性を身に付ける科目とは異なり、どちらかという社会性を学ぶための一般教養に位置付けられます。国家試験にも含まれません。それでもなぜカリキュラムに含まれるのか。その点をしっかりと理解した上で授業に臨みましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

当日資料を配布します。

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 心理学 (Psychology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 江崎浩明 |
| 学科・コース | 理学療法科・Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 火曜日 5時限 |
| 教員の略歴 | 大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約15年間、教育、相談業務に従事。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 心理学の成り立ちや基礎的な心理学用語・概念を学ぶことで、多くの人々が持つ誤解や偏見から脱し、人が持つ考え方や捉え方の特徴について学びます。身体にダメージを受ければ必ず心にも何らかの不調を来します。理学療法士は身体の専門家ですが、心身不可分(心と体は密接に関係している)、分けて考える事はできない)の為、心についても理解を深め、心身両面をサポートできる人材になることが求められます。また、自分自身を支える一つの柱として心理学的な視点を養います。 | | | | | | |
| 到達目標 | 心理学の歴史や他の周辺領域との関連性、用語や概念を学術的基盤に則って学ぶことにより、雑学的な知識ではなく人間を理解する一助としての基礎心理学について理解する。これらの学びを、客観的な自己把握・自己理解のために用いることができるようになる。他者を主観的又は好き嫌いの感情的な枠組のみで捉えるのではなく、特に自分と考えや行動が異なる場合、知的好奇心や興味関心を持ち、客観的な枠組みで捉えることができるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100%(選択式と記述式) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|------|--------------------------------|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/19 | 講義 | 講義の進め方、教科書の使い方、ノートのとり方、評価方法を理解する。心理学を学ぶ目的を理解する。 | 心理学に対するイメージを考えておく |
| 2 | 5/26 | 講義 | 基礎心理学と応用心理学の違い、心理学的知識の活用に対する功罪について説明できる。 | 心理学が誤用・悪用されている例を考えておく 〇〇心理学の〇〇に入りそうな言葉を考えておく |
| 3 | 6/2 | 講義 | 心理学史 哲学からの独立、その後の自然科学からの影響を説明できる。 | 哲学から独立した流れを説明できるようにしておく 心理学が拡大した経緯を説明できるようにする |
| 4 | 6/9 | 講義 | 感覚・知覚・認知 五感の働き、センサーの特徴、知覚的体制化、運動知覚について説明できる。 | 通学中に五感をフル活用して何を感じたかを考えておく。人生で最も痛かった瞬間を思い出しておく |
| 5 | 6/16 | 講義 | 記憶 I 記憶の過程、時間的変遷、種類と分類について説明できる。 | 自分の得意な記憶と苦手な記憶、考えなくても半自動的に動ける体の記憶について考えておく |
| 6 | 6/23 | 講義 | 記憶 II 記憶の定着と忘却(エビングハウスの忘却曲線、逆行抑制、記憶術)について説明できる。 | これまでの勉強や学習の方法について考えておく |
| 7 | 6/30 | 講義 | 学習 経験による思考や行動の変化、古典的条件づけ、オペラント条件付けについて説明できる。 | 幼少期からの他者とは異なる習慣、どうせやっても自分には無理と思っていることについて考えておく |
| 8 | 7/7 | 講義 | 動機づけ やる気の持続、自己効力感・学習性無力感、内発的・外発的動機づけについて説明できる。 | これまでに挫折したことや、「自分にはどうせ〇〇はできない」と思っている事を考えておく。 |
| 9 | 7/14 | 講義 | 感情 喜怒哀楽や不安の種類や特徴、アンガーマネジメントについて説明できる。 | 最近嬉しかった・怒った・不安に思ったこと・仲間はズレにされるのでは、と思ったことについて考えておく |
| 10 | 7/21 | 講義 | 社会と人間 自己と自我、自己呈示や自己開示、パーソナルスペースについて説明できる。 | 友人にどんな人と思われたいか考えておく 人に流された経験について思い出しておく |
| 11 | 7/28 | 講義 | 知能 知能の定義と構成要素、知能指数の測定、創造性や順応力について説明できる。 | 頭がよいとはどういうことか、学歴や偏差値でわかること・わからないことについて考えておく |
| 12 | 8/4 | 講義 | 性格 性格の構成要素、歴史的な分類、変容に必要な条件について説明できる。 | 性格は変わるのか、変わるなら変えるために必要なものは何かについて考えておく |
| 13 | 8/25 | 講義 | 心理検査 種類と分類、誤用と悪用、測定可能範囲について説明できる。 | 心理テストと心理ゲームの違いや何が測れて何が測れないのかについて予想しておく |
| 14 | 9/1 | 講義 | これまでに学んだ心理用語・概念について説明できる。 | それぞれの単元の理解度をチェックしておく |
| | 9/8 | 試験 | 試験 | |
| 15 | 9/14 | 講義 | 解説 | |
| 準備学習 時間外学習 | | 学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 医療の行動科学 I 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー(北大路書房) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------|-------------|-----------|------|---------------------------|
| 科目名 (英) | コミュニケーション論 (Communication) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 片岡洋樹 |
| 学科・コース | 理学療法科 ・ Bクラス | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 火曜日 曜日・時限 2時限 |
| 教員の略歴 | 教員歴5年、300人以上の学生のコミュニケーションを指導した経験を有する | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 事前学習を行い、当日授業は、「導入」、「事前学習の発表会」、「解説」、「演習(ワーク)」、「グループ学習」、個人の「振り返り」で構成される。 これらの内容を通して、自分の意見を持ち、人の考えを正しく汲み取ることの難しさを知る。 そして、自分の考えを大切にすること、皆で決めたことを守ることを両立する態度を身につけ、自己信頼を育むことが出来るようになる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 受講者(学生)が「聞く、話す、読む、書く」ということばを使ったコミュニケーションを上手に行うための基本的な技法(目の付け所と、方法)を知り、それを(何度も使うことにより)使う「習慣」を身につけることを目指す。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | レポート(指定のワークブック) 70%・ 授業内評価30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|------|-------|-----------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/13 | 講義・演習 | 理学療法士に必要なコミュニケーションを説明できる | 資料配布 |
| 2 | 5/20 | 講義・演習 | コミュニケーション技法について述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 3 | 5/27 | 講義・演習 | ブレインストーミング法、KJ法を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 4 | 6/2 | 講義・演習 | 聞き上手の技法を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 5 | 6/9 | 講義・演習 | 話し上手の技法を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 6 | 6/16 | 講義・演習 | 読み上手の技法①を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 7 | 6/23 | 講義・演習 | 読み上手の技法②を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 8 | 6/30 | 講義・演習 | 書き上手の技法を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 9 | 7/7 | 講義・演習 | テーマ探しの技法を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 10 | 7/14 | 講義・演習 | 自分探しの技法①を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 11 | 7/21 | 講義・演習 | 自分探しの技法②を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 12 | 7/28 | 講義・演習 | インタビュー仕事の基本的技術を述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 13 | 8/4 | 講義・演習 | コミュニケーション技法における要点の整理①を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 14 | 8/25 | 講義・演習 | コミュニケーション技法における要点の整理②を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 15 | 8/25 | 講義・演習 | コミュニケーション技法の活用方法を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 準備学習 時間外学習 | | | グループ学習を毎回実施するにあたり課題を出す | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| コミュニケーション技法(キャリア教育総合研究所)、コミュニケーション技法ワークブック(キャリア教育総合研究所) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|------|----------------|
| 科目名 (英) | 英語 I (English Conversation I) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 高田陽子 |
| 学科・コース | 理学療法士科 I 部 Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 火曜 4限 |
| 教員の略歴 | 1997年英語学科卒業、高等学校英語教諭資格取得、1997年より滋慶文化学園にて英語教育を担当 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | グローバルな感性を養い、コミュニケーションに必要な英会話を学ぶ。文法から日常英会話、専門用語まで、幅広い教材を使用し、幅広い英会話場面を設定する。その多面的環境から基本的な英会話のセンスを身に付けていく。 | | | | | | |
| 到達目標 | 医療英語テキストに基づき、医療の現場における様々なシチュエーションでの基本的な文法や語彙を習得する。医療の場で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 評価は、100点満点の筆記試験で行う。授業で学習した内容の定着度を確認する。評価は学則規定に準ずる。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-----------------------------------|------|------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/12 | 講義 | Chapter 1 患者の個人情報聞き出すことが出来る | 教科書の復習 |
| 2 | 5/19 | 講義 | Chapter 2 病院案内が出来る | 教科書の復習 |
| 3 | 5/26 | 講義 | Chapter 3 身体部位や痛みの程度(強弱)を説明出来る | 教科書の復習 |
| 4 | 6/2 | 講義 | Chapter 4 様々な病気を説明出来る | 教科書の復習 |
| 5 | 6/9 | 講義 | Chapter 5 患者の過去の病歴や家族の病歴について話すことが出来る | 教科書の復習 |
| 6 | 6/16 | 講義 | Chapter 6 アレルギーやライフスタイルについて質問出来る | 教科書の復習 |
| 7 | 6/23 | 講義 | Chapter 7 患者に基本的な指示を出すことが出来る | 教科書の復習 |
| 8 | 6/30 | 講義 | Chapter 8 バイタルサインを説明することが出来る | 教科書の復習 |
| 9 | 7/7 | 講義 | Chapter 10 手術や治療について説明することが出来る | 教科書の復習 |
| 10 | 7/14 | 講義 | Chapter 12 整形外科に関連した語彙を覚える | 教科書の復習 |
| 11 | 7/21 | 講義 | Chapter 13 リハビリについて説明出来る | 教科書の復習 |
| 12 | 7/28 | 講義 | Chapter 14 リハビリや人工装具について説明出来る | 教科書の復習 |
| 13 | 8/4 | 講義 | Chapter 16 処方箋の支払いについて説明出来る | 教科書の復習 |
| 14 | 8/25 | 講義 | Chapter 17 処方箋について説明出来る | 教科書の復習 |
| 15 | 9/1 | 試験 | 定期試験 | |
| 16 | 9/8 | 講義 | 試験の解説、これまでに学習した内容の復習 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ 医療英語コミュニケーション | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|------|--------------------|
| 科目名 (英) | 解剖学 I (Anatomy I) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 田中志典 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 前期 金曜日 2・3・4 |
| 教員の略歴 | 東北大学病院 歯科医師として歯科麻酔疼痛管理科に勤務し理学療法科の解剖学担当となる | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 解剖学では正常な人体の構造について学ぶ。 生理学、病理学など他の基礎医学系科目を理解するためには解剖学の知識は必須である。 解剖学 I では特に人体の枠組みとなる骨格系について知識を深める。 | | | | | | |
| 到達目標 | 全身の骨について名称、位置、形を理解する。 全身の関節について、名称、分類、関連する靭帯を理解する。 全身の筋について起始、停止、支配神経、作用を理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト90% 2) 授業内評価10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|------|--------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5月15日 | 講義 | 解剖学がどのような科目なのかを知る | |
| 2 | 5月15日 | 講義 | 解剖学の用語やルールを説明できる | |
| 3 | 5月15日 | 講義 | 細胞小器官とその働きを説明できる | |
| 4 | 5月22日 | 講義 | DNA、染色体について説明できる | |
| 5 | 5月22日 | 講義 | 上皮組織と支持組織の違いを説明できる | |
| 6 | 5月22日 | 講義 | 3層性胚盤を説明できる | |
| 7 | 5月25日 | 講義 | 骨表面につく用語を知る | |
| 8 | 5月25日 | 講義 | 椎骨の基本形態を説明できる | |
| 9 | 5月25日 | 講義 | 胸郭の構成を説明できる | |
| 10 | 6月5日 | 講義 | 上肢の骨の名称と位置を説明できる | |
| 11 | 6月5日 | 講義 | 下肢の骨の名称と位置を説明できる | |
| 12 | 6月5日 | 講義 | 脊柱、胸郭の骨を模型上で確認する | |
| 13 | 6月12日 | 講義 | 頭蓋骨の名称と位置を説明できる | |
| 14 | 6月12日 | 講義 | 外頭蓋底と内頭蓋底の違いを説明できる | |
| 15 | 6月12日 | 講義 | 上下肢、頭蓋骨を模型上で確認する | |
| | 6月18日 | 中間試験 | | |

| | | | | |
|---|-------|----|------------------------------|-------|
| 16 | 6月19日 | 講義 | 試験で間違ったところを重点的に覚える | |
| 17 | 6月19日 | 講義 | 関節の分類を説明できる | |
| 18 | 6月19日 | 講義 | 体幹に存在する関節とその分類を説明できる | |
| 19 | 6月26日 | 講義 | 上肢の関節とその分類を説明できる | |
| 20 | 6月26日 | 講義 | 下肢の関節とその分類を説明できる | |
| 21 | 6月26日 | 講義 | 全身の関節を模型上で復習する | |
| 22 | 6月28日 | 講義 | 筋の種類と特徴を説明できる | |
| 23 | 6月28日 | 講義 | 頭頸部の筋の起始・停止・支配神経・作用を説明できる | |
| 24 | 6月28日 | 講義 | 胸腹背部の筋の起始・停止・支配神経・作用を説明できる | |
| 25 | 7月3日 | 講義 | 上肢帯、上腕の筋の起始・停止・支配神経・作用を説明できる | |
| 26 | 7月3日 | 講義 | 前腕、手の筋の起始・停止・支配神経・作用を説明できる | |
| 27 | 7月3日 | 講義 | 下肢帯、大腿の筋の起始・停止・支配神経・作用を説明できる | |
| 28 | 7月10日 | 講義 | 下腿、足の筋の起始・停止・支配神経・作用を説明できる | |
| 29 | 7月10日 | 講義 | 筋の復習をする | |
| 30 | 7月16日 | 試験 | | 試験勉強 |
| 30 | 7月17日 | 講義 | 試験で間違ったところを重点的に覚える | 試験の復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 毎回授業プリントを予習する(穴埋め) | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ 標準理学療法学・作業療法学、ネッター解剖学アトラス | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|---------------|------|
| 科目名 (英) | 解剖学Ⅱ (AnatomyⅡ) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 木村 瞳 |
| 学科・コース | 理学療法科・Ⅰ部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 |
| 教員の略歴 | 歯科医師、平成26年東北大学大学院博士課程修了。東北大学病院に勤務。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 解剖学では正常な人体の構造について学ぶ。 生理学、病理学など他の基礎医学系科目を理解するためには解剖学の知識は必須である。 解剖学Ⅱでは特に呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌系、発生学について知識を深める | | | | | | |
| 到達目標 | 筋骨格系や神経系と関連づけながら内臓学の知識を深める。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト90% 2) 授業内評価10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------|------|------|----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/11 | 講義 | 喉頭と咽頭の違いを説明できる | 講義プリントの穴埋め |
| 2 | 9/11 | 講義 | 喉頭軟骨、喉頭筋を列挙できる | 講義プリントの穴埋め |
| 3 | 9/11 | 講義 | 気管支、肺の左右差を説明できる | 講義プリントの穴埋め |
| 4 | 9/18 | 講義 | ネフロン、腎小体をそれぞれ説明できる | 講義プリントの穴埋め |
| 5 | 9/18 | 講義 | 移行上皮について説明できる | 講義プリントの穴埋め |
| 6 | 9/18 | 講義 | 精路を順に説明できる | 講義プリントの穴埋め |
| 7 | 9/25 | 講義 | 女性生殖器と男性生殖器の違いを説明できる | 講義プリントの穴埋め |
| 8 | 9/25 | 講義 | 卵巣周期、子宮周期をそれぞれ説明できる | 講義プリントの穴埋め |
| 9 | 9/25 | 講義 | 内分泌器を列挙できる | 講義プリントの穴埋め |
| 10 | 10/2 | 講義 | 各種ホルモンの作用を説明できる | 講義プリントの穴埋め |
| 11 | 10/2 | 講義 | 3層性胚盤を説明できる | 講義プリントの穴埋め |
| 12 | 10/2 | 講義 | 鰓弓と発生する神経の関係を説明できる | 講義プリントの穴埋め |
| | 10/5 | 試験 | | |
| 13 | 10/9 | 講義 | 生後期8期を説明できる | 講義プリントの穴埋め |
| 14 | 10/9 | 講義 | 解剖学Ⅱのまとめを行う | |
| 15 | 10/9 | 講義 | 試験で間違ったところを重点的に覚える | 試験の復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 毎回授業プリントを予習する(穴埋め) | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

標準理学療法学・作業療法学、ネッター解剖学アトラス

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|------|-------------|
| 科目名 (英) | 解剖学実習 (Practice in Anatomy) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 木村瞳 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 90 (2) | 開講区分 | 後期 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 歯科医師、平成26年東北大学大学院博士課程修了。東北大学病院に勤務。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 解剖学では正常な人体の構造について学ぶ。 生理学、病理学など他の基礎医学系科目を理解するためには解剖学の知識は必須である。 解剖学実習では特に神経系、感覚器系、循環器系、消化器系について知識を深める。 | | | | | | |
| 到達目標 | 中枢神経、末梢神経の基本的な構造、機能を理解する。 神経系が他の器官とどのように関連するかを説明できるようにする。 循環器、消化器の特徴を理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト90% 2) 授業内評価10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|------|------|------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 8/26 | 講義 | 神経系の基本的な構成を説明できる | 課題 |
| 2 | 8/26 | 講義 | 中枢神経と末梢神経の違いを説明できる | 課題 |
| 3 | 8/26 | 講義 | 脳脊髄液の存在部位を説明できる | 課題 |
| 4 | 9/2 | 講義 | 神経管と神経堤の違いを説明できる | 課題 |
| 5 | 9/2 | 講義 | 脊髄の構造を説明できる | 課題 |
| 6 | 9/2 | 講義 | 延髄、橋の構造を説明できる | 課題 |
| 7 | 9/9 | 講義 | 中脳、小脳の構造を説明できる | 課題 |
| 8 | 9/9 | 講義 | 間脳の構造を説明できる | 課題 |
| 9 | 9/9 | 講義 | 終脳の構造を説明できる | 課題 |
| 10 | 9/16 | 講義 | 大脳の機能局在を説明できる | 課題 |
| 11 | 9/16 | 講義 | 上行性神経路と下行性神経路の違いを説明できる | 課題 |
| 12 | 9/16 | 講義 | 脊髄神経と脊髄の違いを説明できる | 課題 |
| 13 | 9/23 | 講義 | 頸神経由来の神経の分布を説明できる | 課題 |
| 14 | 9/23 | 講義 | 腕神経叢由来の神経の分布を説明できる | 課題 |
| 15 | 9/23 | 講義 | 胸神経由来の神経の分布を説明できる | 課題 |
| 16 | 9/30 | 講義 | 腰神経由来の神経の分布を説明できる | 課題 |

| | | | | |
|---------------------------|-------|--------------------|-----------------------|-------|
| 17 | 9/30 | 講義 | (課題レポートを作成する) | 課題 |
| 18 | 9/30 | 講義 | 仙骨・尾骨神経由来の神経の分布を説明できる | 課題 |
| 19 | 10/7 | 講義 | 脳神経と脳の違いを説明できる | 課題 |
| 20 | 10/7 | 講義 | (課題レポートを作成する) | 課題 |
| 21 | 10/7 | 講義 | 第I～VI脳神経の特徴を説明できる | 課題 |
| 22 | 10/14 | 講義 | 第VII～XII脳神経の特徴を説明できる | 課題 |
| 23 | 10/14 | 講義 | 解剖学実習(前半)のまとめを行う | 課題 |
| | 10/15 | 試験 | | 試験勉強 |
| 24 | 10/14 | 講義 | 試験で間違ったところを重点的に覚える | 試験の復習 |
| 25 | 10/21 | 講義 | 交感神経と副交感神経の違いを説明できる | 課題 |
| 26 | 10/21 | 講義 | (課題レポートを作成する) | 課題 |
| 27 | 10/21 | 講義 | 皮膚の構造を説明できる | 課題 |
| 28 | 10/28 | 講義 | 視覚の受容器の名称と存在部位を説明できる | 課題 |
| 29 | 10/28 | 講義 | (課題レポートを作成する) | 課題 |
| 30 | 10/28 | 講義 | 聴覚の受容器の名称と存在部位を説明できる | 課題 |
| 31 | 11/4 | 講義 | 心臓の構造を説明できる | 課題 |
| 32 | 11/4 | 講義 | (課題レポートを作成する) | 課題 |
| 33 | 11/4 | 講義 | 刺激伝導系を説明できる | 課題 |
| 34 | 11/11 | 講義 | 肺循環と体循環の違いを説明できる | 課題 |
| 35 | 11/11 | 講義 | (課題レポートを作成する) | 課題 |
| 36 | 11/11 | 講義 | 大動脈の区分が言える | 課題 |
| 37 | 11/18 | 講義 | 胎児循環の特徴を列挙できる | 課題 |
| 38 | 11/18 | 講義 | (課題レポートを作成する) | 課題 |
| 39 | 11/18 | 講義 | 中空性器官と実質性器官の違いを説明できる | 課題 |
| 40 | 11/25 | 講義 | 消化管を順に列挙できる | 課題 |
| 41 | 11/25 | 講義 | (課題レポートを作成する) | 課題 |
| 42 | 11/25 | 講義 | 胃壁の特徴を説明できる | 課題 |
| | 12/1 | 試験 | | |
| 43 | 12/2 | 講義 | 肝臓の構造・機能を説明できる | 課題 |
| 44 | 12/2 | 講義 | 解剖学実習(後半)のまとめを行う | 課題 |
| 45 | 12/2 | 講義 | 試験で間違ったところを重点的に覚える | 試験の復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | 毎回授業プリントを予習する(穴埋め) | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】□ | | | | |
| 標準理学療法学・作業療法学、ネッター解剖学アトラス | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|------|--------------------------------|
| 科目名 (英) | 生理学 I (Biology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 川上智史 |
| 学科・コース | 理学療法科・Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期土曜 1・2時限 後期火曜 1・2限目 |
| 教員の略歴 | 博士(医学)を2006年に取得し、生理学を中心に公衆衛生学、医学概論等を各種専門学校で教授。現在、大学にて公衆衛生学研究室に所属し、がん細胞の生理学的特徴の研究に従事 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ヒトの体を理解することの導入とし、ヒトの最小単位である細胞から組織まで理解し、生命現象の原理や仕組みを理解することを目標とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 生命の基本的知識を習得し、併せて、解剖学・生理学・運動学学習の基本的知識とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験80%、授業内評価10%、課題レポート10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|------|------|----------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 7/3 | 講義 | オリエンテーション、生物学とは | なし |
| 2 | 7/10 | 講義 | 人体とは何かを理解できる | 授業内容の復習 |
| 3 | 7/17 | 講義 | 人体とは何かを理解できる | 授業内容の復習 |
| 4 | 7/31 | 講義 | 人体を構成する細胞を理解できる | 授業内容の復習 |
| 5 | 7/31 | 講義 | 人体を構成する細胞を理解できる | 授業内容の復習 |
| 6 | 8/7 | 講義 | 細胞の働きを理解できる | 授業内容の復習 |
| 7 | 8/7 | 講義 | 細胞の働きを理解できる | 授業内容の復習 |
| 8 | 9/1 | 講義 | 細胞のタンパク質合成を理解できる | 授業内容の復習 |
| 9 | 9/1 | 講義 | 細胞のタンパク質合成を理解できる | 授業内容の復習 |
| 10 | 9/8 | 講義 | DNAと遺伝子、遺伝子発現について理解できる | 授業内容の復習 |
| 11 | 9/8 | 講義 | DNAと遺伝子、遺伝子発現について理解できる | 授業内容の復習 |
| 12 | 9/15 | 講義 | ミトコンドリアによるエネルギー産生について理解できる | 授業内容の復習 |
| 13 | 9/15 | 講義 | ミトコンドリアによるエネルギー産生について理解できる | 授業内容の復習 |
| 14 | 10/6 | 講義 | 各種細胞小器官の作用について理解できる | 授業内容の復習 |
| 15 | 10/6 | 講義 | 各種細胞小器官の作用について理解できる | 授業内容の復習 |

| | | | | |
|------------------------------------|-------|----|--------------------|---------|
| 16 | 9/29 | 講義 | 細胞分裂と細胞周期を理解できる | 授業内容の復習 |
| 17 | 9/29 | 講義 | 細胞分裂と細胞周期を理解できる | 授業内容の復習 |
| 18 | 10/6 | 講義 | 組織とは何かを理解できる | 授業内容の復習 |
| 19 | 10/6 | 講義 | 組織とは何かを理解できる | 授業内容の復習 |
| 20 | 10/13 | 講義 | 組織を構成する細胞を理解できる | 授業内容の復習 |
| 21 | 10/13 | 講義 | 組織を構成する細胞を理解できる | 授業内容の復習 |
| 22 | 10/20 | 講義 | 組織の種類について理解できる | 授業内容の復習 |
| 23 | 10/20 | 講義 | 組織の種類について理解できる | 授業内容の復習 |
| 24 | 10/27 | 講義 | 上皮組織・結合組織の生理を理解できる | 授業内容の復習 |
| 25 | 10/27 | 講義 | 上皮組織・結合組織の生理を理解できる | 授業内容の復習 |
| 26 | 11/10 | 講義 | 筋組織の生理を理解できる | 授業内容の復習 |
| 27 | 11/10 | 講義 | 筋組織の生理を理解できる | 授業内容の復習 |
| 28 | 11/17 | 講義 | 神経組織の生理を理解できる | 授業内容の復習 |
| 29 | 11/17 | 講義 | 神経組織の生理を理解できる | 授業内容の復習 |
| 30 | 11/24 | 試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 復習 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| ナースング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学(メディカ出版) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|---------|------|-----------------------------|
| 科目名 (英) | 生理学Ⅱ (Physiology II) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 川上智史 |
| 学科・コース | 理学療法科・Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 後期 月曜日 曜日・時限 1・2時限 |
| 教員の略歴 | 博士(医学)を2006年に取得し、生理学を中心に公衆衛生学、医学概論等を各種専門学校で教授。 現在、大学にて公衆衛生学研究室に所属し、がん細胞の生理学的特徴の研究に従事 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 人間の体は複雑な構造をしている。しかし必要の無い臓器は一切無く、それぞれが生命維持のために役割を果たしている。生理学Ⅱにおいては臓器レベルでそれぞれの機能を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 理学療法士に必要な人体の機能(筋・神経、呼吸・循環、消化・吸収など)について学習する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験80%、授業内評価10%、課題レポート10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|------|---------------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 11/24 | 講義 | 泌尿器系の概要について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 2 | 12/1 | 講義 | 尿の生成・再吸収について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 3 | 12/1 | 講義 | レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 4 | 12/8 | 講義 | 内分泌について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 5 | 12/8 | 講義 | ホルモン・ホルモンレセプターを理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 6 | 12/15 | 講義 | 各種ホルモンを理解できる① | 教科書を読んでおくこと |
| 7 | 12/15 | 講義 | 各種ホルモンを理解できる② | 教科書を読んでおくこと |
| 8 | 1/12 | 講義 | 各種ホルモンを理解できる③ | 教科書を読んでおくこと |
| 9 | 1/12 | 講義 | 神経系の概要について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 10 | 1/19 | 講義 | α - γ 連関など神経伝達について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 11 | 1/19 | 講義 | 活動電位について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 12 | 1/26 | 講義 | 記憶など脳機能について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| 13 | 1/26 | 講義 | 特殊感覚について理解できる① | 教科書を読んでおくこと |
| 14 | 2/2 | 講義 | 特殊感覚について理解できる② | 教科書を読んでおくこと |
| 15 | 2/2 | 講義 | 生殖器系の生理について理解できる | 教科書を読んでおくこと |
| | 2/27 | 試験 | | |

準備学習 時間外学習

講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり

【使用教科書・教材・参考書】

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学(メディカ出版)

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|-----------|---------------|------------------|
| 科目名 (英) | 生理学実習 (Practice in Physiology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 梶原一将 |
| 学科・コース | 理学療法科 I 部Bクラス | 授業 形態 | 実習 | 総時間 (単位) | 45 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 木曜日 1・2 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、急性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリを経て現在に至る。 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 実習を通じて体験することで理学療法における評価・治療と生理学の知識をつなげるために、実習を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | 生理学実習を通して、座学で学んだ生理学をより深く掘り下げることで、明確な知識を取得することを目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート: 70% ・授業内評価: 30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|------|--------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 8/27 | 実習 | 教科ガイダンス | |
| 2 | 8/27 | 実習 | 該当範囲となる領域の生理学的知識を整理し、実習の準備をする。 | |
| 3 | 9/3 | 実習 | ①体性感覚-表在感覚についての実習を実施する。 | |
| 4 | 9/3 | 実習 | ②体性感覚-表在感覚についての実習を実施する。 | |
| 5 | 9/10 | 実習 | ①体性感覚-深部感覚についての実習を実施する。 | |
| 6 | 9/10 | 実習 | ②体性感覚-深部感覚についての実習を実施する。 | |
| 7 | 9/17 | 実習 | ①血圧測定についての実習を実施する。 | |
| 8 | 9/17 | 実習 | ②血圧測定についての実習を実施する。 | |
| 9 | 9/24 | 実習 | ①体力測定についての実習を実施する。 | |
| 10 | 9/24 | 実習 | ②体力測定についての実習を実施する。 | |
| 11 | 10/1 | 実習 | ①運動負荷時の生理的変化について実習を実施する。 | |
| 12 | 10/1 | 実習 | ②運動負荷時の生理的変化について実習を実施する。 | |
| 13 | 10/8 | 実習 | ①筋電図についての実習を実施する。 | |
| 14 | 10/8 | 実習 | ②筋電図についての実習を実施する。 | |
| 15 | 10/15 | 実習 | ①心電図についての実習を実施する。 | |
| 16 | 10/15 | 実習 | ②心電図についての実習を実施する。 | |
| 17 | 10/22 | 実習 | ①肺機能検査についての実習を実施する。 | |

| | | | | |
|----------------------------------|-------|----|--------------------|--|
| 18 | 10/22 | 実習 | ②肺機能検査についての実習を実施する | |
| 19 | 10/29 | 実習 | 実習内容のまとめ | |
| 20 | 10/29 | 実習 | 実習内容のまとめ | |
| 21 | 11/5 | 実習 | 発表準備 | |
| 22 | 11/5 | 実習 | 発表準備 | |
| | 11/12 | 発表 | 発表 | |
| 23 | 11/12 | 講義 | 総括 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 「生理学実習実習書」 仙台医健・スポーツ&こども専門学校テキスト | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|------|---------------------------|
| 科目名 (英) | 運動学 (Kinesiology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 今野 良紀 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 後期 木曜 曜日・時限 1・2限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士。病院にて回復期リハビリと介護保険領域のリハビリテーションを経験。専門学校教員としての教務とともに、市区町村からの介護予防委託事業や、理学療法士を対象とした講習会運営などに携わっている。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①解剖学的知識から生体力学や運動と動作の分析、運動学習等、人間の運動の科学を学習する。 ②身体運動についての運動学的な用語や表現方法を学習する。 ③健常者同士の体験課題をもとに、関節や筋の知識と実際の身体イメージを関連付けて理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①身体運動における面と軸、基本的肢位を理解し説明できる。 ②各関節の構造と機能について特徴を説明できる。 ③筋の起始・停止、作用、神経支配について説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ・筆記試験:70% ・レポート:30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | | |
|---------|------|------|---|------|--------------------------------------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 5/13 | 講義 | 生体力学基礎運動学の概念を理解する。運動面と軸の関係を説明できる。 | | | | |
| 2 | 5/13 | 講義 | 身体運動と力学ベクトルとモーメントの概念を説明できる。 | | | | |
| 3 | 5/20 | 講義 | 運動筋の構造と機能と手ひ、可動関節の分類、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 4 | 5/20 | 講義 | 骨格筋の特徴について説明できる。 | | | | |
| 5 | 5/27 | 講義 | ①肩複合体の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 6 | 5/27 | 講義 | ②肩複合体の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 7 | 6/4 | 講義 | ①肘関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 8 | 6/4 | 講義 | ②肘関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 9 | 6/11 | 講義 | ①手関節・手指の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 10 | 6/11 | 講義 | ②手関節・手指の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | 《レポート提出①》单元ごとに実施する单元テストの内容をまとめて提出する。 | | |
| 11 | 6/18 | 講義 | ①股関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 12 | 6/18 | 講義 | ②股関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 13 | 6/25 | 講義 | ①膝関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| 14 | 6/25 | 講義 | ②膝関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |
| | 6/29 | 中間試験 | | | | | |
| 15 | 7/2 | 講義 | ①足関節・足部の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | | | | |

| | | | | |
|---------------------|------|------|--|--------------------------------------|
| 16 | 7/2 | 講義 | ②足関節・足部の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。 | |
| 17 | 7/9 | 講義 | 脊柱の構造、運動について特徴を理解し、説明できる。(頸椎) | |
| 18 | 7/9 | 講義 | 脊柱の構造、運動について特徴を理解し、説明できる。(胸・腰椎) | |
| 19 | 7/16 | 講義 | 顎関節の構造、運動について特徴を理解し、説明できる。 | |
| 20 | 7/16 | 講義 | 姿勢と姿勢制御について、重心と支持基底面の関係から説明できる。 | 《レポート提出②》單元ごとに実施する單元テストの内容をまとめて提出する。 |
| 21 | 7/30 | 講義 | 外乱動揺時の姿勢制御、姿勢制御における感覚機構の働きについて説明できる。 | |
| 22 | 7/30 | 講義 | 歩行周期について身体重心移動、下肢関節運動の観点から理解を深め、説明できる。 | |
| 23 | 8/6 | 講義 | 歩行時に必要な筋活動を理解し、異常歩行との関連性を説明できる。 | |
| 24 | 8/6 | 講義 | ①運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。 | |
| 25 | 8/8 | 講義 | ②運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。 | |
| 26 | 8/8 | 講義 | ①ヒトの成長過程と運動発達の間係を学び、姿勢反射について要点を説明できる。 | |
| 27 | 8/28 | 講義 | ②ヒトの成長過程と運動発達の間係を学び、姿勢反射について要点を説明できる。 | |
| 28 | 8/28 | 講義 | ①運動学習の特徴を理解し、練習と訓練に必要な知識を説明できる。 | |
| 29 | 8/31 | 講義 | ②運動学習の特徴を理解し、練習と訓練に必要な知識を説明できる。 | 《レポート提出③》單元ごとに実施する單元テストの内容をまとめて提出する。 |
| | 8/31 | 筆記試験 | | |
| 30 | 9/4 | 講義 | まとめ | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 基礎運動学 第6版 改訂(医歯薬出版) | | | | |

| | | | | | | |
|------------|--|-----------------|----------|----|-------------|-----------|
| 科目名 (英) | 人間発達学 (Human Development) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 |
| | 学科・コース | 理学療法科 ・ I 部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) |
| 教員の略歴 | 大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約15年間、教育、相談 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 生まれてから亡くなるまでの生涯を通し、どのように発達していくのかを、乳児後期・児童期・青年期・成人前期・成人期・高齢期の各発達段階に分け、様々な発達課題について学びます。出生から見られる原始反射や身体的リーニング検査等についての知識を得ることで、身体的な“成長”と精神的なら人間の変化を捉えることが出来る視点を身につけます。 | | | | | |
| 到達目標 | 各発達段階と発達課題を理解し、それぞれに適した養育的・尊重的かかわる。乳児期から幼児前期・幼児後期にかけての標準的な成長・発達の過程を説自分自身の発達について、長期的スパンで捉えられるようになる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験100%(選択式と記述式) | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | |
|---------|------|------|---|----------------------------|-------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習 | |
| 1 | 2/3 | 講義 | 講義の進め方、教科書の使い方、ノートのととり方、評価方法を理解する。 | 成長と発達の違いについて考 | | |
| 2 | 2/4 | 講義 | 成長と発達の違いについて説明できる。 | 数値や目に見える形で変化す初めて違いがわかるものにつ | | |
| 3 | 2/4 | 講義 | 発達概念の歴史的変遷について説明できる。 | ”こども”と”おとな”の社会的考 | | |
| 4 | 2/10 | 講義 | エリクソンの漸成的発達段階の概要について説明できる。 | 人間の発達に、年齢によって考 | | |
| 5 | 2/17 | 講義 | 胎児期・周産期や原始反射について説明できる。 | 母子手帳等を用いて自分の” | | |
| 6 | 2/18 | 講義 | 新生児・乳児期の課題(生理的早産・臨界期・気質論等)について説明できる。 | 乳幼児にとっての安全な環境の動物との生まれの違いにつ | | |
| 7 | 2/18 | 講義 | 幼児前期の課題(歩行と言語獲得・分離不安等)について説明できる。 | 幼児の行動範囲の広がりや興 | | |
| 8 | 2/24 | 講義 | 幼児後期の課題(トイレトレーニング、性別の理解等)について説明できる。 | 自分がいつオムツを使わなくて認識し始めたのはいつか、 | | |
| 9 | 2/25 | 講義 | 児童期の課題(劣等感の形成・ギャングエイジ・不登校やいじめ等)について説明できる。 | 小学生の頃に持っていた劣等めや不登校について考えてお | | |
| 10 | 2/25 | 講義 | 青年期(アイデンティティとモラトリアム、NEET等)について説明できる。 | 今現在の将来になりたい自分考 | | |
| 11 | 3/4 | 講義 | 成人前期(生殖性・過程や仕事に対する停滞感・倦怠感等)について説明できる。 | 5年後・10年後のなりたい自分 | | |
| 12 | 3/4 | 講義 | 成人期の課題(更年期障害・空の巣症候群・熟年離婚等)について説明できる。 | 自分の親世代が直面している | | |
| 13 | 3/4 | 講義 | 高齢期の課題(喪失・孤独・老老介護・生きがいの再設定・死の受容過程等)について説明できる。 | 自分の祖父母世代が直面して | | |
| 14 | 3/11 | 講義 | これまでに学んだ心理用語・概念について説明できる。 | それぞれの単元の理解度を考 | | |
| | 3/11 | | 試験 | | | |
| 15 | 3/11 | 講義 | 解説 | | | |
| 準備学習 | | | 時間外学習 | | | |
| | | | 学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。 | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

| | |
|---|----------|
| 担当教員 | 江崎浩明 |
| 開講区分 | 後期 木曜 |
| 曜日・時限 | 3・4時限 |
| 業務に従事。 | |
| 見期・幼児前期・幼児 とその過程で直面す な変化、発達スク :"発達"の両側面か | |
| 力出来るようにな 明できるようになる。 | |
| | |

| | |
|--------------------------|--|
| 学習(学習課題) | |
| えておく | |
| るものと、話したり行動して いて考えておく | |
| 責任や役割の違いについて | |
| どのような違いがあるのかを | |
| 生まれ"について考えておく | |
| や危険な環境について・他 いて考えておく | |
| 興味関心について考えておく | |
| なったか、性別の違いについ 考えておく | |
| 感や、もの周りにおきたいじ く | |
| や、将来への迷いについて | |
| 像について考えておく | |
| 課題・問題について考えて | |
| ている課題・問題について感g | |
| チェックしておく | |
| | |
| | |
| さい。 | |



| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|---------------|------|
| 科目名 (英) | 医学概論 (Introduction to Medicine) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 川上智史 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 |
| 教員の略歴 | 博士(医学)を2006年に取得し、生理学を中心に公衆衛生学、医学概論等を各種専門学校で教授。現在、大学にて公衆衛生学研究室に所属し、がん細胞の生理学的特徴の研究に従事 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 少子高齢社会を迎えている中で、医療の重要性はますます高くなってきている。日進月歩の医療の進化の中で、チーム医療が非常に重要となってくる。そこで、本講義において各専門分野の理解と、医学の歴史から最新医療までを理解することを目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 医学の歴史から最新医療、世界の人口、死因を理解することで今後どのような考え方を持って医療人として対応していけばいいのかを理解することを目的とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験80%、授業内評価10%、課題レポート10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|------|------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 10/23 | 講義 | 学習方針、医学概論を受講するに当たっての注意事項 | 配布資料にて予習復習すること |
| 2 | 10/23 | 講義 | 医療と医学の違い。現代医学とは。について理解する | 配布資料にて予習復習すること |
| 3 | 10/30 | 講義 | 医療、医学の歴史について理解する | 配布資料にて予習復習すること |
| 4 | 10/30 | 講義 | 近代医学の発展と医の倫理について理解する | 配布資料にて予習復習すること |
| 5 | 11/6 | 講義 | 人体の構造的分類を理解する | 配布資料にて予習復習すること |
| 6 | 11/6 | 講義 | 人体の形状的分類を理解する | 配布資料にて予習復習すること |
| 7 | 11/13 | 講義 | 疾患の発症メカニズムを理解する | 配布資料にて予習復習すること |
| 8 | 11/13 | 講義 | 各症状の発症メカニズムおよび対処方法を理解する | 配布資料にて予習復習すること |
| 9 | 11/20 | 講義 | 日本の人口、世界の人口、死因について各国の違いを理解する | 配布資料にて予習復習すること |
| 10 | 11/20 | 講義 | 社会保障と医療保障、医療保険のしくみを理解する | 配布資料にて予習復習すること |
| 11 | 11/27 | 講義 | コメディカルの役割分担を理解する | 配布資料にて予習復習すること |
| 12 | 11/27 | 講義 | 患者の権利、医の倫理、医師法、薬機法を理解する | 配布資料にて予習復習すること |
| 13 | 12/4 | 講義 | 現代医学について理解する | 配布資料にて予習復習すること |

| | | | | |
|---|-------|-------------------------------|--------------|----------------|
| 14 | 12/4 | 講義 | 最新医学について理解する | 配布資料にて予習復習すること |
| 15 | 12/11 | 講義 | まとめ | 配布資料にて予習復習すること |
| | 12/7 | 試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 随時、資料配布 | | | | |

| | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|
| 科目名 (英) | 病理学 (pathology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 |
| | | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 1 |
| 学科・コース | 理学療法科 I 部Bクラス | | | | |
| 教員の略歴 | 東北大学歯学部卒業後、同大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理を学び、現場で活躍しながら1995年より専門学校にて非常勤講師を務める。 | | | | |
| 授業の学習内容 | 疾患の原因・経過及び症状をトータルな生命現象として理解し、細胞・組織・臓器・物質レベルの分類・概論の基礎を習得する。さらに、疾患を理解するために各臓器に関する病変を病理学的に学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 疾病における臓器、組織、細胞の形態変化を理解し、各臓器に関する病変を病理学的に学んだ疾患の認識と理解を深める。 | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験 70% レポートおよび出席状況、授業内評価30% | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------|-------|--------------------------------------|-------------------|-------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習 |
| 1 | 8/26 | 講義 | 病理概説 病理の業務 疾患の一般 | 病理学の業務と関係 |
| 2 | 9/2 | 講義 | 病因論1 内因 | 疾患の原因(内因) |
| 3 | 9/9 | 講義 | 病因論2 外因① | 疾患の原因(栄養) |
| 4 | 9/16 | 講義 | 病因論3 外因② | 疾患の原因(物理的) |
| 5 | 9/23 | 講義 | 病因論4 外因③ | 疾患の原因(化学的) |
| 6 | 9/30 | 講義 | 病因論5 外因④ | 疾患の原因(生物学的) |
| 7 | 10/7 | 講義 | 細胞障害1(定義・萎縮・変性) | 細胞障害で起こる |
| 8 | 10/14 | 講義 | 細胞障害2(代謝障害と疾患、壊死) | 代謝障害で起こる |
| 9 | 10/21 | 講義 | 循環障害 | 循環障害で起こる |
| 10 | 10/28 | 講義 | 進行性病変 | 細胞の修復過程 |
| 11 | 11/4 | 講義 | 炎症 | 炎症で起こる現 |
| 12 | 11/11 | 講義 | 免疫① | 免疫に関わる細胞と |
| 13 | 11/18 | 講義 | 免疫② | 免疫異常によって起 |
| 14 | 11/25 | 講義 | 腫瘍① | 腫瘍とはどのような |
| 15 | 12/2 | 試験 | | |
| 16 | 12/9 | 講義 | 腫瘍②・先天性異常 | 先天性異常の原因 |
| 準備学習 時間外学習 | | 解剖学・生理学等関連する内容について、必要に応じて確認しながら理解を深め | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

病理学 第4版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 医学書院

担当教員 大沼 英子

開講区分 後期
曜日・時限 水曜
1限

歯科医師として臨床現

で学習することで病的状
理学的に学ぶ。

ること臨床医学と関連さ

学習(学習課題)

系用語を説明できる

因)を説明できる

障害)を説明できる

外因)を説明できる

外因)を説明できる

的外因)を説明できる

現象を説明できる

現象を説明できる

現象を説明できる

程を説明できる

象を説明できる

システムを説明できる

る疾患を説明できる

ものはを説明できる

、疾患を説明できる

めてほしい

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|------|-------------------|
| 科目名 (英) | 臨床心理学 (Clinical Psychology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 江崎浩明 |
| 学科・コース | 理学療法科・Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 木曜 曜日・時限 2~4時限 |
| 教員の略歴 | 大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約15年間、教育、相談業務に従事。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 他の心理学との違いや精神医学・社会学等関連領域との関係性について学ぶことで、心の問題を理解するために必要な臨床心理学的視点の獲得を目指します。その為に、ある人間の今を「人格理論」から、なぜそうだったかを「発達理論」から類推し、面接技法や心理検査も用いて仮説-検証していくモデルを学びます。また、さまざまな精神症状・精神疾患の特徴を学ぶことによって、「なんか変な人・おかしな人」という捉え方から「何らかの特徴によって生き辛さを感じている人」という捉え方にシフトし、差別的な関わりからより援助的な関わりができるように多様な視点の獲得を試みます。これらを学ぶ過程から、自分自身に対する劣等感や不全感を軽減し、問題を抱えながらもそれと上手く折り合いをつけ、たくましく生きていける精神的タフさ・粘り強さの獲得を目指します。 | | | | | | |
| 到達目標 | 一般的又は医学的な問題把握ではなく、医学が捉えきれない心の問題について、臨床心理学的視点で捉えることができるようになる。 正常レベル・神経症レベル・精神病レベルの違いや、病識の有無、病態水準の概念について理解する。 代表的な人格理論と発達理論を学び、さらに各心理臨床家の人を捉える視点や枠組みの違いについて理解する。 他者理解のためにどのような情報が手がかりとなるかについて理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト(前期50%、後期50%) 国家試験出題レベルのマークシート方式 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---------|-------|------|---|------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 8/27 | 講義 | 他の心理学との関連性や独自性を説明できる。 | | これまで学んだ心理学用語や概念を復習しておく。 |
| 2 | 9/3 | 講義 | 従来の医学的視点ではなく、臨床心理学的視点で捉えることの重要性を説明できる。 | | 医学で用いられる検査や機器では測定できない問題について考えておく。 |
| 3 | 9/10 | 講義 | 予後・過剰適応・過剰防衛や、完治・根治と寛解の違いを説明できる。 | | 人に何かを頼まれたら断りにくいタイプか、嫌なら平気で断れるタイプかを考えておく。 |
| 4 | 9/17 | 講義 | 表面に現れている発熱や頭痛等の症状と、その原因を同時並行に捉え対処する必要性を説明できる。 | | これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出しておく。 |
| 5 | 9/24 | 講義 | 「元通りになること」と「より適応的に変化すること」の違いについて説明できる。 | | これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出しておく。 |
| 6 | 10/1 | 講義 | DSM-5(診断基準)の内容と、正常レベル・神経症レベル・精神病レベルについて説明できる。 | | 自分の中での心の問題の重さや軽さの基準について考えておく。 |
| 7 | 10/8 | 講義 | 人格理論Ⅰ Freudの精神分析理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | | 意識と無意識、自分の欲求とそれを抑える気持ちについて考えておく。 |
| 8 | 10/15 | 講義 | 人格理論Ⅱ Jungの分析的心理学理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | | 自分の中の理想的な同性像・異性像、社会的な役割の仮面について考えておく。 |
| 9 | 10/22 | 講義 | 人格理論Ⅲ Rogersの来談者中心療法の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | | 受容や共感に代表される現代のカウンセリングのイメージについて考えておく。 |
| 10 | 10/29 | 講義 | 発達理論Ⅰ Mahler, Winnicottの発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | | 乳幼児期にいつも肌身離さず持ち歩いていた物を思い出しておく。 |
| 11 | 11/3 | 講義 | 発達理論Ⅱ Eriksonの漸成的発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | | 乳児期から高齢期までの8段階の発達段階と発達課題を復習しておく。 |
| 12 | 11/12 | 講義 | 他者理解のための基礎的情報(家計図の見方、既往歴・現病歴等)の扱い・捉え方について説明できる。 | | ”他者を理解するために集める情報”にはどのようなものがあるかについて考えておく。 |
| 13 | 11/19 | 講義 | 心理検査Ⅰ 種類と分類、代表的な発達検査と知能検査について説明できる。 | | 心理テストと心理ゲームの違いや、占い・オーラ等と何が違うかについて考えておく |
| 14 | 11/19 | 講義 | 復習: これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。 | | それぞれの単元の理解度をチェックしておく |
| | 11/24 | 中間試験 | | | |
| 15 | 11/19 | 講義 | 解説 | | |
| 16 | 11/26 | 講義 | 心理検査Ⅱ 代表的な性格検査(質問紙法・投影法・作業検査法)について説明できる。 | | 性格検査で測定可能なことと想定不可能なことは何かを考えておく。 |

| | | | | |
|------------------------------------|-------|----|--|--|
| 17 | 11/26 | 講義 | アセスメントⅠ 自閉スペクトラムについて説明できる。 | 自閉症と聞いてどのような病態像が頭に浮かぶが考えておく。 |
| 18 | 11/26 | 講義 | アセスメントⅡ AD/HD・学習障害を含む発達障害について説明できる。 | 落ち着きが無い子、動き回る子や、発達障害の病態像について考えておく。 |
| 19 | 12/3 | 講義 | アセスメントⅢ 情緒障害・母性剥奪症候群・虐待・不登校・知的能力障害等について説明できる。 | 自分や自分のまわりに居た不登校やひきこもりについて思い出しておく。 |
| 20 | 12/10 | 講義 | アセスメントⅣ 不安障害・パニック障害・摂食障害等について説明できる。 | 自分が抱える不安の種類・強度・持続期間について考えておく。 |
| 21 | 12/17 | 講義 | アセスメントⅤ うつ病・双極性障害について、その特徴や治療について説明できる。 | うつ病について、知っていることやイメージをまとめておく。 |
| 22 | 1/7 | 講義 | アセスメントⅥ 統合失調症について、その特徴や治療について説明できる。 | 統合失調症の病態像について考えておく。 |
| 23 | 1/14 | 講義 | アセスメントⅦ 認知症(アルツハイマー、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型)について説明できる。 | 認知症の種類や症状の違いについて考えておく。 |
| 24 | 1/21 | 講義 | 心理療法Ⅰ 非指示的心理療法・クライエント中心療法について説明できる。 | "カウンセリング"と言われて頭にどのようなイメージが湧くかを考えておく。 |
| 25 | 1/21 | 講義 | 心理療法Ⅱ 精神分析・分析的な心理療法について説明できる。 | 気がついたら無意識のうちに何かやっちゃっていったことを思い出しておく。 |
| 26 | 1/28 | 講義 | 心理療法Ⅲ 遊戯療法・音楽療法・箱庭療法・コラージュについて説明できる。 | まだ上手く言葉で辛さや不安を表現できない子どもへのサポート方法を考えておく。 |
| 27 | 2/4 | 講義 | 心理療法Ⅳ 自律訓練法・家族療法・森田療法について説明できる。 | 自分の家族のそれぞれの人間関係について考えておく。 |
| 28 | 2/18 | 講義 | 心理療法Ⅴ 認知行動療法について説明できる。 | 辛いときやストレスでつぶれそうな時、いつも頭に浮かぶ事やとってしまう行動について考えておく。 |
| | 2/24 | 試験 | | |
| 29 | 2/25 | 講義 | これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。 | それぞれの単元の理解度をチェックしておく |
| 30 | 3/4 | 講義 | 聴くスキル 演習 | 自分にとって大事・大切な人が困っている時を想定しておく。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 心とかかわる臨床心理 基礎・実践・方法[第3版] (ナカニシヤ出版) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|---------|------|------|
| 科目名 (英) | リハビリテーション医学 | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 今田 元 |
| | (Rehabilitation Medicine) | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 1 | 開講区分 | 後期 |
| 学科・コース | 理学療法科 I部 Bクラス | | | | | | |
| 教員の略歴 | 山形大学医学部卒。現在、大崎市民病院リハビリテーションセンター診療部長。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | (1)チーム医療であるリハビリテーション医療における理学療法士の役割を理解する。 (2)リハビリテーション専門職として患者、家族に接する際の心構えを理解する。 (3)リハビリテーションの対象となる疾患・病態と行われる理学療法の概要を理解する。 医療全体の中で、リハビリテーション医療の位置づけ、進め方について、実際の例を踏まえて解説する。解剖学、生理学などを通じて理解した「正常」を基礎として、「障害」を生ずる様々な疾患、それに対する、理学療法士としての関わり方について解説する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ・リハビリテーション医学の歴史や体系について学び、また障害の診断・治療についても説明できる。 (2019年教育指導要領より抜粋) 将来、仕事に就いた際に接する障害について、その原因となる疾病や外傷について、専門的な用語に接して概要を理解する。「障害」を理解するためには「正常」を理解しておく必要があり、解剖学、生理学、運動学などの知識と関連付けて理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 評価方法:定期試験 合格基準:60点/100点 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---------------------------------|------|------|------------------------------------|-------------------------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) | |
| 1 | 1/15 | 講義 | リハビリテーション医学総論(1):歴史, 定義と理念, 分野, 対象 | | |
| 2 | 1/15 | 講義 | リハビリテーション医学総論(2):障害のレベルと評価, 介入方法等 | | |
| 3 | 1/22 | 講義 | 脳卒中(1):定義, 分類と原因 | 解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。 | |
| 4 | 1/22 | 講義 | 脳卒中(2):障害と評価法, リハの進め方 | 解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。 | |
| 5 | 1/29 | 講義 | その他の脳疾患:脳外傷, 低酸素脳症, 遷延性意識障害等 | 解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。 | |
| 6 | 1/29 | 講義 | 神経筋疾患:パーキンソン病, 筋委縮性側索硬化症, 脊髄小脳変性症等 | 解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。 | |
| 7 | 2/5 | 講義 | 末梢神経疾患:腕神経叢麻痺, 多発神経障害, 単神経障害等 | 解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。 | |
| 8 | 2/5 | 講義 | 脊髄疾患:脊髄損傷, 二分脊椎, 脊髄血管障害 | 解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。 | |
| 9 | 2/12 | 講義 | 関節リウマチとその近縁疾患:関節リウマチ, 悪性関節リウマチ等 | 解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。 | |
| 10 | 2/12 | 講義 | 関節疾患:肩関節周囲炎, 変形性股関節症, 変形性膝関節症等 | 解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。 | |
| 11 | 2/19 | 講義 | 外傷:外傷の特徴, 骨折, スポーツ外傷, 複合性局所疼痛症候群等 | 解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。 | |
| 12 | 2/19 | 講義 | 脊椎疾患, 切断:脊柱側弯症, 椎間板ヘルニア, 義肢, 装具等 | 解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。 | |
| 13 | 2/28 | 講義 | 内部疾患(1):心疾患, メタボリック症候群, 呼吸器疾患等 | 解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。 | |
| 14 | 2/28 | 講義 | 高齢者のリハ, 小児リハ, 地域リハ | 解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。 | |
| 15 | 3/12 | 講義 | 試験問題の解説 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | |
| リハビリテーション医学テキスト 改定第4版 南江堂, 2016 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|---------------|----------|----|-------------|---------------|------|----------------------|
| 科目名 (英) | リハビリテーション概論 (Intoroduction to Rehabilitation) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 丸屋健 |
| | 学科・コース | 理学療法科 I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1単位) | 開講区分 | 前期 木・3限 後期 月 3・4限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、2012年4月～2017年3月 回復期病院 リハビリテーション部 勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | リハビリテーションの歴史や概念など理解し、また障害や医療保険制度についても学習する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・自身の中でのリハビリテーションの強いイメージを作る ・職業意識を高め、理学療法士養成校で学ぶ学問の意味を知る | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)レポート課題 (100%) | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------------|--------|------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5月14日 | 講義 | リハビリテーションに対するイメージを作ることができる。 リハビリテーションの存在意義を知ることができる。 | 課題 |
| 2 | 5月21日 | 講義 | リハビリテーションの職域や活躍場面について知ることができる。 | 課題 |
| 3 | 5月28日 | 講義 | リハビリテーションの具体的展開について知ることができる。 | 課題 |
| 4 | 9月28日 | 講義 | 疾病と傷害の関係について学ぶことができる。 ICIDHとICFについて知ることができる。 | |
| 5 | 10月5日 | 講義 | 各病棟、病気で役割や仕事について学ぶことができる。 | |
| 6 | 10月5日 | 講義 | 廃用症候群と二次合併症について学ぶことができる。 | |
| 7 | 10月12日 | 講義 | 作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士の役割について知ることができる。 | |
| 8 | 10月12日 | 講義 | 医学的リハビリテーションに関わる専門職の役割について知ることができる。 | |
| 9 | 10月19日 | 講義 | 職業、社会、教育におけるリハビリテーションについて知ることができる。 | |
| 10 | 10月19日 | 講義 | 障害のある人の家族の問題を理解することができる。 | |
| 11 | 10月29日 | 講義 | 車椅子の種類や選択、福祉機器、福祉用具の種類や選択について学ぶことができる。 | |
| 12 | 10月29日 | 講義 | 身体障害福祉法や介護保険法について学ぶことができる。 | |
| 13 | 11月2日 | 講義 | 機能障害の評価方法について知ることができる。 | |
| 14 | 11月2日 | 講義 | 身体機能と各障害の関連性について知ることができる。 | |
| 15 | 11月9日 | 講義 | 自身の理学療法士としての将来像をイメージし、発表することができる。 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | なし | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ なし | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|---------------|----------|----------|-------------|-----------|---------------|--------------------|
| 科目名 (英) | 理学療法概論 (Introduction to PT) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 梶原一将 |
| | 学科・コース | 理学療法科 I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義 演習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 月・水 3・4時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリを経て、現在に至る。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の概要、定義を学ぶ。 ・理学療法の評価・治療の大まかな流れを学ぶ。 ・インフォームド・コンセント、コミュニケーション法について理解・実施できる。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の定義を述べられる。 ・理学療法の評価、治療の大まかな意図を理解する。 ・インフォームド・コンセントが実施できる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験70%、授業内評価30% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------|-------|------|-----------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/12 | 講義 | 標準予防策を実施できる | 課題 |
| 2 | 5/14 | 講義 | 理学療法の定義を説明できる | 課題 |
| 3 | 5/19 | 講義 | 理学療法の法則を理解する | 課題 |
| 4 | 5/19 | 講義 | 感染対策対策が実施できる | 課題 |
| 5 | 5/26 | 講義 | インフォームド・コンセントが実施できる | 課題 |
| 6 | 5/26 | 講義 | 実技試験 | |
| | 6/8 | 試験 | 学療法における治療の大まかな流れを理解する | |
| 7 | 11/9 | 講義 | 理学療法の職域を理解する | |
| 8 | 11/16 | 講義 | 理学療法士の組織と協働職種を理解する | |
| 9 | 11/16 | 講義 | 療保険と介護保険の大まかな仕組みを理解する | |
| 10 | 11/19 | 講義 | 学療法士に求められる3つの要素を理解する | |
| 11 | 11/19 | 講義 | 学療法士の学生に求められるものを理解する | |
| 12 | 11/26 | 講義 | リスク管理を理解する① | |
| 13 | 11/26 | 講義 | リスク管理を理解する② | |
| 14 | 12/3 | 講義 | 整形外科疾患の理学療法概論 | |
| 15 | 12/3 | 講義 | コミュニケーション技法を実施できる | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 準備学習は事前にテキストを読む | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論 課題・動画を使ってエッセンスを学びとる 第1版 羊土社 その他備品教材使用

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----|-------------|-----------|---------------|----------------------|
| 科目名 (英) | 理学療法評価学 I (Evaluation of PT I) | 必修 選択 | 必須 | 年次 | 1 | 担当教員 | 梶原一将 |
| 学科・コース | 理学療法学科 I 部Bクラス | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 月・水曜部 3・4時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、急性期、亜急性期、地域包括ケア、訪問リハビリを経て現在に至る。 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | ①理学療法評価とは何かを学ぶ ②バイタルサインとは何か学ぶ ③形態測定を学ぶ ④関節可動域検査を学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | ①理学療法評価の統合と解釈ができる ②バイタルサインを理解、実施できる ③形態測定、関節可動域検査が実施できる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ①実技試験 70% ②授業内評価 30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------|------|------|-------------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/11 | 演習 | 評価の意義と目的を説明できる | 課題 |
| 2 | 5/11 | 演習 | 問診や情報収集ができる | 課題 |
| 3 | 5/18 | 演習 | 理学療法評価における観察・検査・測定のための必要知識を整理し述べる事が | 課題 |
| 4 | 5/18 | 演習 | バイタルサインについて理解する | 課題 |
| 5 | 5/25 | 演習 | 触診ができる | 課題 |
| 6 | 5/25 | 演習 | 形態測定ができる | 課題 |
| 7 | 6/1 | 演習 | 関節可動域の定義を述べられる | 小テスト |
| 8 | 6/1 | 演習 | 肩関節の関節可動域を実施できる | 小テスト |
| 9 | 6/3 | 演習 | 肘関節の関節可動域を実施できる | 小テスト |
| 10 | 6/3 | 演習 | 手関節の関節可動域を実施できる | 小テスト |
| 11 | 6/10 | 演習 | 股関節の関節可動域を実施できる | 小テスト |
| 12 | 6/10 | 演習 | 膝関節の関節可動域を実施できる | 小テスト |
| 13 | 6/17 | 演習 | 足関節の関節可動域を実施できる | 小テスト |
| 14 | 6/17 | 演習 | 頸部・体幹の関節可動域を実施できる | 小テスト |
| 15 | 6/22 | 演習 | 関節可動域を測定できる | 小テスト |
| | 7/27 | 実技試験 | 実技試験 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 検査の自主練習を行う | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

理学療法評価学 改定第5、6版 金原出版株式会社

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 理学療法評価学Ⅱ | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 丸屋健 |
| | (Evaluation of PTⅡ) | 授業 形態 | 演習 | 総時間 (単位) | 60 (2単位) | 開講区分 | 後期 火・3・4限 |
| 学科・コース | 理学療法科 I部 Bクラス | | | | | | |
| 教員の略歴 | 理学療法士、2012年4月～2017年3月 回復期病院 リハビリテーション部 勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義にて理学療法評価における意義や目的、必要知識を学ぶ。また、配布資料を基に復習する。 ・演習を中心に、問診・検査・測定を練習する。健常者同士で実施する中で注意点や対象者への接し方を学ぶ。 ・医療面接による情報と検査・測定の結果の関連性について、演習の中で説明しながら理解を深める。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 理学療法評価の意義と目的を理解し説明することができる。 (2) 理学療法評価における必要知識を理解し、演習の中で関連付けることができる。 (3) 検査・測定の意義と目的を理解し、健常者同士で実施することができる。 (4) 徒手筋力検査・そのほかの検査における必要知識を暗記することができる。 (5) 臨床を想定し、一連の流れで問診・検査・測定を実施することができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> 1) 実技試験 80% 2) 筆記試験 20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | | |
|--|--------|------|--|--------------------------------|------------------------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 6月22日 | 演習 | 上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。① | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 2 | 6月24日 | 演習 | 上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。② | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 3 | 6月24日 | 演習 | 上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。③ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 4 | 6月29日 | 演習 | 上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。④ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 5 | 6月29日 | 演習 | 上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。⑤ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 6 | 7月1日 | 演習 | 下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。① | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 7 | 7月1日 | 演習 | 下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。② | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 8 | 7月8日 | 演習 | 下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。③ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 9 | 7月8日 | 演習 | 下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。④ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 10 | 7月13日 | 演習 | 下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。⑤ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 11 | 7月13日 | 演習 | 頭頸部・体幹の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。① | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 12 | 7月15日 | 演習 | 頭頸部・体幹の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。② | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 13 | 7月15日 | 演習 | 頭頸部・体幹の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。③ | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 14 | 7月20日 | 演習 | 実技試験を想定し、一連の流れで徒手筋力検査を実施することができる。 | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 15 | 7月20日 | 演習 | 実技試験を想定し、一連の流れで徒手筋力検査を実施することができる。 | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 16 | 7月22日 | 演習 | 徒手筋力検査の臨床的捉え方と、筋力低下のメカニズムについて理解することができる。 | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 17 | 7月22日 | 演習 | 徒手筋力検査の臨床的捉え方と、筋力低下のメカニズムについて理解することができる。 | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 18 | 7月29日 | 演習 | 徒手筋力検査の定義と目的を説明することができる。測定における筋力の必要知識を述べることができる。 | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 19 | 7月29日 | 演習 | 徒手筋力検査の定義と目的を説明することができる。測定における筋力の必要知識を述べることができる。 | 徒手筋力検査の復習 | 自主練習 (主動作筋・手技・グレード) | | |
| 20 | 8月5日 | 演習 | 痛みの評価について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 21 | 8月5日 | 演習 | 痛みの評価について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 22 | 8月24日 | 演習 | 知覚検査・反射検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 23 | 8月24日 | 演習 | 知覚検査・反射検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 24 | 8月31日 | 演習 | 整形外科疾患検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 25 | 8月31日 | 演習 | 整形外科疾患検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 26 | 9月7日 | 演習 | 片麻痺機能検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 27 | 9月7日 | 演習 | 片麻痺機能検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 28 | 9月14日 | 演習 | 日常生活活動の検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 29 | 9月14日 | 演習 | 日常生活活動の検査について理解し模範・実施することができる。 | | | | |
| 30 | 9月28日 | 演習 | 理学療法評価の臨床応用について学び、「理学療法実習」の関連性を理解することができる。 | | | | |
| 31 | 11月30日 | 実技試験 | 徒手筋力検査 実技試験 | | | | |
| 32 | 1月14日 | 期末試験 | 筆記試験 | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | ①検査・測定方法の事前学習 ②授業後の健常者同士での自主練習 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | |
| ①理学療法評価学(改定第6版) : 金原出版株式会社 ②新・徒手筋力検査法(第10版) : 協同医書出版 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|------|-----------------------------|
| 科目名 (英) | 地域福祉論 (Principles of Community welfare) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 古川雅一 |
| 学科・コース | 理学療法科 I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 15 1 | 開講区分 | 後期 火曜日 曜日・時限 3・4時限 |
| 教員の略歴 | 2009/4 理学療法士免許取得 2009-2015 一般病院勤務(大阪府) 2015-2017 理学療法士養成校教員(兵庫県) 2017-2019 青年海外協働隊参加(キルギス) 訪問リハビリテーションにて地域における理学療法の実践 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士は臨床現場で様々な症例と関わるが、その方々は病院を退院した後に様々な社会福祉サービスを受け地域で生活されているケースが多い。そのため理学療法士は症例のリハビリテーションゴールを考える上で、どのような福祉のサービスを利用することが将来の幸福へとつながるのか、症例本人や関係職種と検討をおこなっていく必要がある。 本授業では、福祉とは何か、福祉の考え方の変化、どのような福祉に関する法律が存在するのか、その法律は症例にどのように関係するのか、どのようなサービスを利用することができるのか、などを学び、身体的な治療のみならず多面的に症例をとらえる視点を持つことを目指し実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 福祉、社会福祉、地域福祉とは何かを日本の福祉の歴史を通して、その意味と考え方を理解する。 福祉に関する法律や福祉サービスを学び、どのような方が福祉の対象者となるのかを理解できる。 福祉対象者の抱えるニーズおよび専門職者としての具体的な支援方法について理解し、適切に説明できるようになる。 日本以外の国における福祉の考え方も学び、それぞれの長所・短所等を理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験(本試験80%、課題レポート20%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------|--------|------|-----------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9月8日 | 講義 | 福祉とはなにか?なぜ理学療法士が福祉を学ぶ必要があるのかを理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 2 | 9月15日 | 講義 | 日本における福祉の考え方の変化を理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 3 | 9月15日 | 講義 | 社会福祉の基本となる3つの理念を理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 4 | 9月29日 | 講義 | 自立支援に必要な考え方を理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 5 | 9月29日 | 講義 | 社会福祉八法について理解する① | 配布資料の復読、課題作成 |
| 6 | 10月6日 | 講義 | 社会福祉八法について理解する② | 配布資料の復読、課題作成 |
| 7 | 10月6日 | 講義 | 社会福祉八法について理解する③ | 配布資料の復読、課題作成 |
| 8 | 10月13日 | 講義 | 生活保護法について理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 9 | 10月13日 | 講義 | 介護保険について理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 10 | 10月20日 | 講義 | 介護保険にて利用できるサービスを理解する | 配布資料の復読、課題作成 |
| 11 | 10月20日 | 講義 | 世界の医療・福祉について理解する① | 配布資料の復読、課題作成 |
| 12 | 10月27日 | 講義 | 世界の医療・福祉について理解する② | 配布資料の復読、課題作成 |
| 13 | 10月27日 | 講義 | 世界の医療・福祉について理解する③ | 配布資料の復読、課題作成 |
| 14 | 11月10日 | 講義 | 日本の福祉における今後の課題を考える | 配布資料の復読、課題作成 |
| 15 | 11月10日 | テスト | 定期試験 | |
| 16 | 11月17日 | 講義 | 試験解説 | |
| 配布資料の復読、課題作成 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】

特になし

| | | | | | | | | |
|------------|--|--|----------|----|-------------|-------------|------|--------------------|
| 科目名 (英) | 国家試験演習 I (The prac of Qualifying Exam I) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 | 丸屋健 |
| 学科・コース | 理学療法科 I部 Bクラス | | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1単位) | 開講区分 | 後期 木:1・2限 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、2012年4月～2017年3月 回復期病院 リハビリテーション部 勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士国家試験合格に向けて、基礎となる解剖学・生理学・運動学の専門基礎分野を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントの把握に加え、専門基礎分野の理解を深める。 | | | | | | | |
| 到達目標 | ①専門基礎分野の基礎学力を向上できる ②学習方法を確立できる ③学習習慣を確立できる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)筆記試験 (100%) | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------|-------|------|--|-----------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 1月7日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(解剖学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 2 | 1月7日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(解剖学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 3 | 1月14日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(解剖学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 4 | 1月14日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(解剖学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 5 | 1月21日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(解剖学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 6 | 1月21日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(生理学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 7 | 1月28日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(生理学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 8 | 1月28日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(生理学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 9 | 2月4日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(生理学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 10 | 2月4日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(生理学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 11 | 2月18日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(運動学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 12 | 2月18日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(運動学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 13 | 2月25日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(運動学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 14 | 2月25日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(運動学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 15 | 3月3日 | 講義 | 国家試験合格に向けて、専門基礎分野(運動学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。 | 国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

国試の達人 PT・OTシリーズ2020 運動解剖生理学編 アイペック

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------|-------------|-----------|------|----------------------------|
| 科目名 (英) | 運動学実習 (Practice in Kinesiology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 今野良紀 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義・実習 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 前期 月曜 曜日・時限 1,2時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、病院にて回復期リハビリと介護保険領域のリハビリテーションを経験。専門学校教員としての教務とともに、市区町村からの介護予防委託事業や、理学療法士を対象とした講習会運営などに携わっている。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 運動学の講義で得た基礎知識をもとに、実際に行われる関節運動や基本動作について理解を深める。前半の講義ではヒトの運動・動作の身体運動学的メカニズムについて、学生自身が運動学用語を用いて説明する課題を中心に実施する。後半の実習では課題ごとに決められた手続きにしたがって、実際の運動・動作を観察・計測・記録し、グループごとにレポートをまとめる課題を中心に実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 運動学的知識について実習を通し、病態運動学につながる臨床的視点を説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験80%、レポート20% | | | | | | |

授業計画・内容

| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
|----|------|-------|-----------------------------------|------------------|
| 1 | 5/12 | 講義 | オリエンテーション | |
| 2 | 5/12 | 講義 | 身体運動力学に必要な基礎用語を確認する | |
| 3 | 5/19 | 講義 | 運動と動作の見方を理解する | |
| 4 | 5/19 | 講義 | 運動パターンの理解と線画練習 | |
| 5 | 5/26 | 講義 | ①課題を用いて運動分析を行う(単関節) | |
| 6 | 5/26 | 講義 | ②課題を用いて運動分析を行う(多関節) | |
| 7 | 6/1 | 講義 | ③課題を用いて運動分析を行う(起居動作) | |
| 8 | 6/1 | 講義 | ④課題を用いて運動分析を行う(歩行動作) | |
| 9 | 6/8 | 講義・実習 | ①肩関節複合体の運動学を理解し、触診/動作観察および分析が行える | |
| 10 | 6/8 | 講義・実習 | ②肘関節・手関節の運動学を理解し、触診/動作観察および分析が行える | |
| 11 | 6/15 | 講義・実習 | ③股関節の運動学を理解し、触診・動作観察および分析が行える | |
| 12 | 6/15 | 講義・実習 | ④膝関節の運動学を理解し、触診・動作観察および分析が行える | |
| 13 | 6/22 | 講義・実習 | ⑥足関節の運動学を理解し、触診・動作観察および分析が行える | |
| 14 | 6/22 | 講義・実習 | ⑦脊柱・体幹の運動学を理解し、触診・動作観察および分析が行える | |
| 15 | 6/29 | 講義・実習 | ①バランス制御と筋活動の推定(静止肢位) | |
| 16 | 6/29 | 講義・実習 | ②バランス制御と筋活動の推定(静止肢位) | |
| 17 | 7/6 | 講義・実習 | ③バランス制御と筋活動の推定(静止肢位) | |
| 18 | 7/6 | 講義・実習 | ④バランス制御と筋活動の推定(静止肢位) | |
| 19 | 7/13 | 講義・実習 | ①起居動作の動作分析 (線画作成が中心) | レポート提出(1回目) |
| 20 | 7/13 | 講義・実習 | ②起居動作の動作分析 (線画作成が中心) | |

| | | | | |
|----------------------------|------|-------|---|-------------|
| 21 | 7/20 | 講義・実習 | ③起居動作の動作分析 (線画作成が中心) | |
| 22 | 7/20 | 講義・実習 | ④起居動作の動作分析 (線画作成が中心) | |
| | 7/21 | 試験 | | |
| 23 | 7/27 | 講義・実習 | ①起居動作の動作分析 (関節運動の変化と筋活動の推定) | |
| 24 | 7/27 | 講義・実習 | ②起居動作の動作分析 (関節運動の変化と筋活動の推定) | |
| 25 | 8/3 | 講義・実習 | ③起居動作の動作分析 (関節運動の変化と筋活動の推定) | |
| 26 | 8/3 | 講義・実習 | ④起居動作の動作分析 (関節運動の変化と筋活動の推定) | |
| 27 | 8/24 | 講義・実習 | ①歩行動作を観察・分析し、 レポートにまとめることができる | |
| 28 | 8/24 | 講義・実習 | ②歩行動作を観察・分析し、 レポートにまとめることができる | |
| 29 | 8/31 | 講義・実習 | ③歩行動作を観察・分析し、 レポートにまとめることができる | |
| 30 | 8/31 | 講義・実習 | ④歩行動作を観察・分析し、 レポートにまとめることができる | |
| | 9/1 | 試験 | | |
| 31 | 9/7 | 講義・実習 | 総まとめ | レポート提出(3回目) |
| 準備学習 時間外学習 | | | 1年次で学習した解剖学・運動学との関連が深いため、より理解を深めるために復習をして運動学実習の講義を受けることが望ましい。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 基礎運動学 第6版 (医歯薬出版株式会社) | | | | |
| 筋骨格系のキネシオロジー (医歯薬出版株式会社) | | | | |
| 観察による運動・動作分析ノート(医歯薬出版株式会社) | | | | |
| 日常生活活動の分析 (医歯薬出版株式会社) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|------|-----------------|
| 科目名 (英) | 障害論 (Disability) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 今野 良紀 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 後期 月曜 2時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、病院にて回復期リハビリと介護保険領域のリハビリテーションを経験。専門学校教員としての教務とともに、市区町村からの介護予防委託事業や、理学療法士を対象とした講習会運営などに携わっている。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①リハビリテーション医学における障害について、専門職として必要な要素(用語)や基礎概念を理解する。 ②障害構造の理解に必要な『障害モデル(WHO)』についての課題を実施する。 ③障害に関する社会的トピックについて、意見交換や発表(ペアワーク)を実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 基礎的な社会福祉や障害、広義でのノーマライゼーションを説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験70%、プレゼンテーション評価30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|-------|------|--|------------------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/14 | 講義 | 「障害」とは何か | 【学習ヒント】(使用教科書を参考にする) 「障害」、「障がい」 |
| 2 | 9/28 | 講義 | 「障害」の受容 | 「障害受容」 |
| 3 | 10/5 | 講義 | 「障害」にかかわる専門家に求められること | 「身体障害者福祉法」 |
| 4 | 10/12 | 講義 | 運動障害(肢体不自由)の規定 起因疾患と分類基準 | 「身体障害者手帳」 |
| 5 | 10/19 | 講義 | ①リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF) | 「WHO」、「ICIDH」、「ICF」 |
| 6 | 10/26 | 講義 | ②リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF) | 「廃用症候群」 |
| 7 | 11/2 | 講義 | ③リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF) | 「運動障害」「高次脳機能機能障害」 |
| 8 | 11/9 | 講義 | ④リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF) | 「発達障害」 |
| 9 | 11/16 | 講義 | ①ノーマライゼーションについて | 「ノーマライゼーション」 |
| 10 | 11/30 | 講義 | ②ノーマライゼーションについて | |
| 11 | 12/7 | 講義 | ペアワーク① プレゼンテーション準備 | |
| 12 | 12/14 | 講義 | ペアワーク② プレゼンテーション準備 | |
| 13 | 1/18 | 講義 | プレゼンテーション | |
| 14 | 1/25 | 講義 | プレゼンテーション | |
| | 1/26 | 定期試験 | 筆記試験 | |
| 15 | 2/1 | 講義 | 総まとめ | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 講義理解に必要な用語について、授業の冒頭で小テストを行う。事前学習をすることでより理解しやすくなると考える。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 理学療法学テキストⅠ 理学療法概論 神陵文庫 目でみるリハビリテーション医学 東京大学出版社 QOLと理学療法 三輪書店 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|-------|-----------------|
| 科目名 (英) | 臨床心理学 (Clinical Psychology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 江崎浩明 |
| | | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 通年 木曜 3時限 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | | | | | 曜日・時限 | |
| 教員の略歴 | 大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約15年間、教育、相談業務に従事。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 他の心理学との違いや精神医学・社会学等周辺領域との関係性について学ぶことで、心の問題を理解するために必要な臨床心理学的視点の獲得を目指します。その為に、ある人間の心を「人格理論」から、なぜそうなったかを「発達理論」から類推し、面接技法や心理検査も用いて仮説-検証していくモデルを学びます。また、さまざまな精神症状・精神疾患の特徴を学ぶことにより、「なんか変な人・おかしな人」という捉え方から「何らかの特徴によって生き辛さを感じている人」という捉え方にシフトし、差別的な関わりからより援助的な関わりができるように多様な視点の獲得を試みます。これらを学ぶ過程から、自分自身に対する劣等感や不全感を軽減し、問題を抱えながらもそれと上手く折り合いをつけ、たくましく生きていける精神的ゆとり・粘り強 | | | | | | |
| 到達目標 | 一般的又は医学的な問題把握ではなく、医学が捉えきれない心の問題について、臨床心理学的視点で捉えることができるようになる。 正常レベル・神経症レベル・精神病レベルの違いや、病識の有無、病態水準の概念について理解する。 代表的な人格理論と発達理論を学び、さらに各心理臨床家の人を捉える視点や枠組みの違いについて理解する。 他者理解のためにどのような情報が手がかりとなるかについて理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト(前期50%、後期50%) 国家試験出題レベルのマークシート方式 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------------------------|-------|--------------------------------|---|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/21 | 講義 | 他の心理学との関連性や独自性を説明できる。 | これまで学んだ心理学用語や概念を復習しておく。 |
| 2 | 5/28 | 講義 | 従来の医学的視点ではなく、臨床心理学的視点で捉えることの重要性を説明できる。 | 医学で用いられる検査や機器では測定できない問題について考えておく。 |
| 3 | 6/4 | 講義 | 予後・過剰適応・過剰防衛や、完治・根治と寛解の違いを説明できる。 | 人に何かを頼まれたら断りにくいタイプか、嫌なら平気で断れるタイプかを考えておく。 |
| 4 | 6/11 | 講義 | 表面に現れている発熱や頭痛等の症状と、その原因を同時並行に捉え対処する必要性を説明できる。 | これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出しておく。 |
| 5 | 6/18 | 講義 | 「元通りになること」と「より適応的に変化すること」の違いについて説明できる。 | これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出しておく。 |
| 6 | 6/25 | 講義 | DSM-5(診断基準)の内容と、正常レベル・神経症レベル・精神病レベルについて説明できる。 | 自分の中で心の問題の重さや軽さの基準について考えておく。 |
| 7 | 7/2 | 講義 | 人格理論Ⅰ Freudの精神分析理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | 意識と無意識、自分の欲求とそれを抑える気持ちについて考えておく。 |
| 8 | 7/9 | 講義 | 人格理論Ⅱ Jungの分析的心理学理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | 自分の中の理想的な同性像・異性像、社会的な役割の仮面について考えておく。 |
| 9 | 7/16 | 講義 | 人格理論Ⅲ Rogersの来談者中心療法の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | 受容と共感に代表される現代のカウンセリングのイメージについて考えておく。 |
| 10 | 7/23 | 講義 | 発達理論Ⅰ Mahler, Winnicottの発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | 乳幼児期にいつも肌身離さず持ち歩いていた物を思い出しておく。 |
| 11 | 7/30 | 講義 | 発達理論Ⅱ Eriksonの漸成的発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | 乳児期から高齢期までの8段階の発達段階と発達課題を復習しておく。 |
| 12 | 8/6 | 講義 | 他者理解のための基礎的情報(家計図の見方、既往歴・現病歴等)の扱い、捉え方について説明できる。 | "他者を理解するために集める情報"にはどのようなものがあるかについて考えておく。 |
| 13 | 8/27 | 講義 | 心理検査Ⅰ 種類と分類、代表的な発達検査と知能検査について説明できる。 | 心理テストと心理ゲームの違いや、古い・オーラ等と何が違うかについて考えておく。 |
| 14 | 9/3 | 講義 | 復習：これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。 | それぞれの単元の理解度をチェックしておく |
| | 9/8 | | 試験 | |
| 15 | 9/10 | 講義 | 解説 | |
| 16 | 9/17 | 講義 | 心理検査Ⅱ 代表的な性格検査(質問紙法・投影法・作業検査法)について説明できる。 | 性格検査で測定可能なことと想定不可能なことは何かを考えておく。 |
| 17 | 9/24 | 講義 | アセスメントⅠ 自閉スペクトラムについて説明できる。 | 自閉症と聞いてどのような病態像が頭に浮かぶかを考えておく。 |
| 18 | 10/1 | 講義 | アセスメントⅡ AD/HD・学習障害を含む発達障害について説明できる。 | 落ち着きがない子、動き回る子や、発達障害の病態像について考えておく。 |
| 19 | 10/8 | 講義 | アセスメントⅢ 情緒障害・母性剥奪症候群・虐待・不登校・知的能力障害等について説明できる。 | 自分や自分のまわりに居た不登校やひきこもりについて思い出しておく。 |
| 20 | 10/15 | 講義 | アセスメントⅣ 不安障害・パニック障害・摂食障害等について説明できる。 | 自分が抱える不安の種類・強度・持続期間について考えておく。 |
| 21 | 10/22 | 講義 | アセスメントⅤ うつ病・双極性障害について、その特徴や治療について説明できる。 | うつ病について、知っていることやイメージをまとめておく。 |
| 22 | 10/29 | 講義 | アセスメントⅥ 統合失調症について、その特徴や治療について説明できる。 | 統合失調症の病態像について考えておく。 |
| 23 | 11/5 | 講義 | アセスメントⅦ 認知症(アルツハイマー、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型)について説明できる。 | 認知症の種類や症状の違いについて考えておく。 |
| 24 | 11/12 | 講義 | 心理療法Ⅰ 非指示的心理療法・クライエント中心療法について説明できる。 | "カウンセリング"と言われて頭にどのようなイメージが湧くかを考えておく。 |
| 25 | 11/19 | 講義 | 心理療法Ⅱ 精神分析・分析的心理学について説明できる。 | 気がついたら無意識のうちに何かやってしまったことを思い出しておく。 |
| 26 | 11/26 | 講義 | 心理療法Ⅲ 遊戯療法・音楽療法・箱庭療法・コラージュについて説明できる。 | まだ上手い言葉で辛さや不安を表現できない子どもへのサポート方法を考えておく。 |
| 27 | 12/3 | 講義 | 心理療法Ⅳ 自律訓練法・家族療法・森田療法について説明できる。 | 自分の家族のそれぞれの人間関係について考えておく。 |
| 28 | 12/10 | 講義 | 心理療法Ⅴ 認知行動療法について説明できる。 | 辛いときやストレスでつぶれそうなる時、いつも頭に浮かぶ事やとってしまう行動について考えておく。 |
| 29 | 12/17 | 講義 | これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。 | それぞれの単元の理解度をチェックしておく |
| | 12/18 | | 試験 | |
| 30 | 1/7 | 演習 | 聴くスキル 演習 | 自分にとって大事・大切な人が困っている時を想定しておく。 |
| 準備学習 時間外学習 | | 学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 心とかわかる臨床心理 基礎・実践・方法[第3版] (ナカニシヤ出版) | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|--|-----------------|----------|----|-------------|-----------|---------------|-------------------|
| 科目名 (英) | 一般臨床医学 (General Clinical Medicine) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 白木達也 |
| | 学科・コース | 理学療法科 ・ I 部Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 金曜 1・2時限 |
| 教員の略歴 | 医師、2010年より仙台市立病院、東北薬科大学病院、東北大学病院等に勤務 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 将来的に医療に関わっていく者として、医科診療の概要を学ぶ そのうち、本校にて別途授業のある診療科を除く 眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科等の基礎知識・検査・主な疾患等について学習する | | | | | | | |
| 到達目標 | 医科診療の概要、眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科等の基礎知識・検査・主な疾患等を理解する | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(筆記) 100% ※レポートを含む場合あり | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|-------|----------------------------|-------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 10/2 | 講義 | 一般的に使用する用語について説明できる | 資料配布 |
| 2 | 10/2 | 講義 | 救急医療・外科の概要について述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 3 | 10/9 | 講義 | 脳神経外科の概要について述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 4 | 10/9 | 講義 | 皮膚科疾患(1)について述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 5 | 10/16 | 講義 | 皮膚科疾患(2)について述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 6 | 10/16 | 講義 | 免疫・アレルギーについて述べることができる | 資料配布 |
| 7 | 10/23 | 講義 | 泌尿器科(1)について述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 8 | 10/23 | 講義 | 泌尿器科(2)について述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 9 | 10/30 | 講義 | 産婦人科(1)について述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 10 | 10/30 | 講義 | 産婦人科(2)について述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 11 | 11/6 | 講義 | 眼科疾患(1)について述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 12 | 11/6 | 講義 | 眼科疾患(2)について述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 13 | 11/13 | 講義 | 耳鼻咽喉科疾患(1)について述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 14 | 11/13 | 講義 | 耳鼻咽喉科疾患(2)について述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 15 | 11/20 | 講義 | 総括、試験解説 | |
| 16 | 11/20 | | 試験 | |
| 準備学習 時間外学習 | | 授業前後で、該当分野の範囲を教科書中心に確認すること | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ 一般臨床医学・第3版(医歯薬出版株式会社) および 模型等の提示 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|--------------|----------|----|-------------|-----------|---------------|--------------------|
| 科目名 (英) | 整形外科学 (Orthopedic Surgery) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 高橋忠久 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 前後期 金曜 1・2時限 |
| 教員の略歴 | 整形外科医 臨床場面での経験に加え専門学校の非常勤講師として整形外科学の講義を担当する | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 国家試験に合格し、理学療法士として実臨床に臨む上で、整形外科学は必須の学習項目である。超高齢社会となった本邦においては、高齢者の運動器疾患が増加しており、理学療法における運動器疾患のウエイトは大きなものである。本講義を受ける学生には、社会貢献ができる理学療法士になることを期待している。本講義では、国家試験対策はもちろん、実臨床で役立つ知識を身に付けることを目標とし、現場の生きた経験に基づく講義を行う予定である。 | | | | | | | |
| 到達目標 | ①本邦における運動器疾患に対する理学療法の重要性を理解する。 ②理学療法士国家試験に合格しうる十分な知識を習得する。 ③実臨床で役立つ知識や考え方を身に付ける。 ④運動器に対する学問的興味を深め、学問の発展の重要性と、それに寄与する研究活動の重要性を理解する。 | | | | | | | |
| 評価方法及び基準 | 定期試験100% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------|------|----------------------------|-------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/21 | 講義 | 整形外科総論を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 2 | 5/21 | 講義 | 各種検査治療法の概要を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 3 | 5/22 | 講義 | 骨折総論を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 4 | 5/22 | 講義 | 上肢骨折を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 5 | 5/28 | 講義 | 体幹骨折を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 6 | 5/28 | 講義 | 下肢骨折を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 7 | 6/3 | 講義 | 骨軟部腫瘍①を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 8 | 6/5 | 講義 | 骨軟部腫瘍②を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 9 | 6/5 | 講義 | 神経筋疾患を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 10 | 6/12 | 講義 | 感染症を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 11 | 6/12 | 講義 | 変形性関節症を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 12 | 6/19 | 講義 | リウマチ類縁疾患を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 13 | 6/19 | 講義 | 先天性・骨系統・代謝性疾患①を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 14 | 6/26 | 講義 | 先天性・骨系統・代謝性疾患②を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 15 | 6/26 | 講義 | 先天性・骨系統・代謝性疾患③を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 16 | 7/3 | 講義 | 先天性・骨系統・代謝性疾患④を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 17 | 7/3 | 講義 | 脊髄損傷を説明できる | 講義プリントの復習 |
| | 7/7 | 試験 | 前期試験 | |
| 18 | 7/10 | 講義 | 頸椎・頸髄部位を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 19 | 7/10 | 講義 | 胸腰椎部位を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 20 | 7/17 | 講義 | 末梢神経を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 21 | 7/17 | 講義 | 肩関節疾患を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 22 | 7/24 | 講義 | 肘関節疾患を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 23 | 7/24 | 講義 | 手関節疾患を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 24 | 7/31 | 講義 | 股関節疾患を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 25 | 7/31 | 講義 | 膝関節疾患を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 26 | 8/7 | 講義 | 足関節・足部疾患を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 27 | 8/7 | 講義 | 骨端症①を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 28 | 8/28 | 講義 | 骨端症②を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 29 | 8/28 | 講義 | 総括 | 講義プリントの復習 |
| 30 | 9/4 | 講義 | 総括 | 講義プリントの復習 |
| | 9/11 | 試験 | 後期試験 | |
| 準備学習 時間外学習 | | 毎回配布される講義資料と教科書対応ページの復習が必要 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 標準整形外科学 第13版(医学書院) | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|----|-------------|-----------|------|----------|
| 科目名 (英) | 神経内科学 (Neurology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 坂部 貢 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 後期 木曜 |
| 教員の略歴 | 医師、現在大学医学部の教授を兼任しつつ、医学部長を務める。 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 理学療法士に必要な神経内科学について実際の症例等を交えながら教授する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 理学療法士に必要な知識として、神経の特徴および疾患について理解する。同時に、神経内科学を理解することで理学療法に繋げることを目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------------------------------|-------|-------------------------------|-------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 8/27 | 講義 | 神経内科を理解するために必要な基礎知識について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 2 | 8/27 | 講義 | 神経系の構造と機能について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 3 | 9/3 | 講義 | 神経学的診断の意義について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 4 | 9/3 | 講義 | 神経学的診断の実際について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 5 | 9/10 | 講義 | 病歴と障害歴の聴取方法について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 6 | 9/10 | 講義 | 神経学的診察の手順について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 7 | 9/17 | 講義 | 意識障害について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 8 | 9/17 | 講義 | 神経症候学の基礎について理解する ①頭痛やめまいなど | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 9 | 9/24 | 講義 | 神経症候学の基礎について理解する ②感覚障害など | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 10 | 9/24 | 講義 | 神経症候学の基礎について理解する ③失語症・失認など | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 11 | 10/1 | 講義 | 画像診断の基礎について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 12 | 10/1 | 講義 | 高次機能障害について理解する① | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 13 | 10/8 | 講義 | 高次機能障害について理解する② | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 14 | 10/8 | 講義 | 構音・嚥下障害について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 15 | 10/15 | 講義 | 脳神経外科学の疾患について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 16 | 10/15 | 講義 | 脳血管障害の診察・診断について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 17 | 10/22 | 講義 | 脳出血について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 18 | 10/22 | 講義 | 脳梗塞について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 19 | 10/29 | 講義 | 脳腫瘍について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 20 | 10/29 | 講義 | 認知症について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 21 | 11/5 | 講義 | 脊髄疾患について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 22 | 11/5 | 講義 | 錐体外路の変性疾患について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 23 | 11/12 | 講義 | パーキンソン病について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 24 | 11/12 | 講義 | その他中枢神経系疾患について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 25 | 11/19 | 講義 | 成人と小児に共通した神経疾患について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 26 | 11/19 | 講義 | てんかんについて理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 27 | 11/26 | 講義 | 多発性硬化症について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 28 | 11/26 | 講義 | 神経系の感染症について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 29 | 12/3 | 講義 | その他神経内科学的疾患について理解する① | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 30 | 12/3 | 講義 | その他神経内科学的疾患について理解する② | 事前配布資料を読んでおくこと |
| | 12/4 | 試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 病気がみえる VOL.7 脳・神経 2版(メディックメディア) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------|-------------|-----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 理学療法評価学Ⅱ (Evaluation of PT Ⅱ) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 塚野智史 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 通年 火1・2限 目 |
| 教員の略歴 | 理学療法士として11年の臨床経験を有する。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①理学療法を行う上で対象者の状態を正確に把握する事は不可欠である。この授業では対象者の状態を「評価」するための知識、方法を学ぶ。 ②これまで学習してきた基礎科目や今後学習する科目すべてに関係する。 ③授業だけではこの単元を理解・習得する事は出来ない。必ず復習や実技練習をすること。その結果、臨床実習で対象者に適切な評価項目を選択し、正確に実施できるようになってもらいたい。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①授業内容が座学、実技に関わらず、復習を必ず行う。 ②代表的な理学療法評価の方法や関連する知識を憶え、実技をできるようになる。 ③国家試験の「評価学」の問題を60%程度正答できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験50% 2) 実技テスト40% 3) 授業内態10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|------|-------|------------------------------|-------------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 6/2 | 講義・演習 | オリエンテーション 評価の流れを説明する事ができる | 教科書2～14ページ 272～277ページを予習する |
| 2 | 6/2 | 講義・演習 | 痛みの評価、知覚検査を行う事ができる | 教科書117～130ページを予習する |
| 3 | 6/9 | 講義・演習 | 深部腱反射、病的反射を実践できる | 教科書131～144ページを予習する |
| 4 | 6/9 | 講義・演習 | 深部腱反射、病的反射を実践できる | 教科書131～144ページを予習する |
| 5 | 6/16 | 講義・演習 | 筋緊張検査を実践できる | 教科書151～158ページを予習する |
| 6 | 6/16 | 講義・演習 | 筋緊張検査を実践できる | 教科書151～158ページを予習する |
| 7 | 6/23 | 講義・演習 | 協調性検査を実践できる | 教科書251～258ページを予習する |
| 8 | 6/23 | 講義・演習 | 片麻痺機能検査を実践できる | 教科書259～287ページを予習する |
| 9 | 6/30 | 講義・演習 | 片麻痺機能検査を実践できる | 教科書259～288ページを予習する |
| 10 | 6/30 | 講義・演習 | 片麻痺機能検査を実践できる | 教科書259～289ページを予習する |
| 11 | 7/7 | 講義・演習 | 整形外科疾患検査を実践できる | 教科書193～207ページを予習する |
| 12 | 7/7 | 講義・演習 | 整形外科疾患検査を実践できる | 教科書193～207ページを予習する |
| 13 | 7/14 | 講義・演習 | 整形外科疾患検査を実践できる | 教科書193～207ページを予習する |
| 14 | 7/14 | 講義・演習 | 整形外科疾患検査を実践できる | 教科書193～207ページを予習する |
| | 7/21 | 実技試験 | OSCE2 | |
| 15 | 7/21 | 講義・演習 | バランス検査を実践できる | 教科書145～150ページを予習する |
| 16 | 7/21 | 講義・演習 | バランス検査を実践できる | 教科書145～150ページを予習する |
| 17 | 7/28 | 講義・演習 | 姿勢反射検査を実践できる | 教科書235～250ページを予習する |
| 18 | 7/28 | 講義・演習 | 姿勢反射検査を実践できる | 教科書235～250ページを予習する |
| 19 | 8/4 | 講義・演習 | 運動発達検査を説明できる | 教科書217～234ページを予習する |
| 20 | 8/4 | 講義・演習 | 高次脳機能検査を説明できる | 教科書299～306ページを予習する |
| 21 | 8/25 | 講義・演習 | 呼吸・循環・代謝機能検査を説明できる | 教科書315～333ページを予習する |
| 22 | 8/25 | 講義・演習 | 呼吸・循環・代謝機能検査を説明できる | 教科書315～333ページを予習する |
| 23 | 9/1 | 講義・演習 | 姿勢・動作を観察し文章で表現できる | 教科書243～251ページを予習する |
| 24 | 9/1 | 講義・演習 | 姿勢・動作を観察し文章で表現できる | 教科書243～251ページを予習する |
| 25 | 9/8 | 講義・演習 | 姿勢・動作を観察し文章で表現できる | 教科書243～251ページを予習する |
| 26 | 9/8 | 講義・演習 | 姿勢・動作を観察し文章で表現できる | 教科書243～251ページを予習する |
| 27 | 9/15 | 講義・演習 | 姿勢・動作を観察し文章で表現できる | 教科書243～251ページを予習する |
| 28 | 9/15 | 講義・演習 | 姿勢・動作を観察し文章で表現できる | 教科書243～251ページを予習する |
| 29 | 9/29 | 講義・演習 | 統合と解釈、問題点抽出、 評価の流れを説明できる | 教科書2～14ページを予習する |
| 30 | 9/29 | 講義・演習 | 統合と解釈、問題点抽出、 評価の流れを説明できる | 教科書2～14ページを予習する |
| | 10/2 | 試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ 【準備物】 KC、評価道具 | | | | |
| ①理学療法評価学(第6版) ②新・徒手筋力検査法 ③ベッドサイドの神経の診かた 他 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------------|---------------|-------------|-------------|---------------|
| 科目名 (英) | 理学療法評価学実習 (Physical therapy evaluation clinical practicum) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 佐藤美紀 |
| | 学科・コース | 理学療法科 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 45 (1単位) | 開講区分 曜日・時間 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、臨床歴：1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月アイサークル勤務。 2002年4月～2007年12月病院・老施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・指導)。 2014年4月～高齢者の健康増進教室。 講師歴・介助法講習会講師 臨床動作分析講習会講師 他 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①理学療法は評価に始まり評価に終わると言われている。適切な治療を提供する上で、信頼性のある評価技術や統合と解釈能力は絶対条件である。 ②評価学Ⅰ・Ⅱで学習したもの(形態測定法、関節可動域検査法、徒手筋力検査法、反射検査、感覚検査など)を実際に体験しながら深い理解につなげる。統合と解釈には様々な知識が必要となる。 ③自信がつかずまで反復練習を重ねて欲しい。自分の身体の動かし方を覚えて欲しい。 授業では技術の確認だけでなく、統合と解釈につなげるための基礎知識を復習していく。 各評価をつなげ統合と解釈の仕方を理解し、問題点抽出までを学ぶ。 健康老人の評価体験やOSCE2(実技試験)を通して準備と対策を踏まえ技術を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①理学療法評価学における代表的な検査、測定法を習得する。 ②目的に応じた評価項目を想起でき、かつそれを実施することができるようになる。 ③評価した数値や内容の意味を理解し、各評価をつなげ統合と解釈できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験 30% 2) 実技試験 30% 3) レポート30%(発表も含む) 4) 授業内評価他10%(服装・持ち物・授業内参加度など) * 半袖Tシャツ・短パンまたはジャージやユニホームで動きやすい服装かつ膝・肘など出せるもの ジーンズなど不適切な服装は授業内評価で減点とする。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|--------|-------|--|--------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 10月6日 | 講義・実技 | 可動域変化させる筋の影響を推測できる。 | ROM測定復習(軸や角度の暗記) |
| 2 | 10月6日 | 実技 | ROM計測の精度を増して実施できる。 | |
| 3 | 10月13日 | 講義・実技 | 関節の遊びの確認、アライメントを理解できる。ROMの制限因子を病態と関連付けることができる。 | 形態計測復習 関節の構造復習 |
| 4 | 10月13日 | 実技 | 形態計測・アライメント・モビリティ検査を実践できる。 | |
| 5 | 10月20日 | 講義・実技 | 筋の厚み・角度などから筋力低下を予測できる。 | MMT復習(グレード手技・代償など) |
| 6 | 10月20日 | 実技 | 筋力計測の精度を増して実施できる。 | |
| 7 | 10月27日 | 講義・実技 | 整形外科の疾患名・経過・禁忌などから必要検査項目を抽出できる。 | |
| 8 | 10月27日 | 実技 | 整形外科の検査項目を実施できる。 | |
| 9 | 11月10日 | 講義・実技 | 筋出力を変化させる因子(協調性・知覚循環・麻痺・筋緊張など)を理解できる。 | 協調性、感覚、筋緊張の復習 |
| 10 | 11月10日 | 実技 | 協調性、感覚、筋緊張の検査が実践できる。 | |
| | | 実技試験 | 整形における基礎的な検査技術が実施できる。 | (再試は12/16) |
| 11 | 11月17日 | 講義・実技 | 姿勢を変化させる因子を学び、姿勢から変化する評価項目を考えることができる。 | |
| 12 | 11月17日 | 実技 | 線画で姿勢を表現できる。 | |
| 13 | 11月24日 | 講義・実技 | 動作を変化させる因子を学び、姿勢との関連を考えることができる。 | |
| 14 | 11月24日 | 実技 | 姿勢分析が実践できる。 | |
| 15 | 12月1日 | 講義・実技 | バランスに影響する評価項目を挙げられる。 | 配布文献「バランス機能」を熟読 |
| 16 | 12月1日 | 実技 | バランステストが実践できる。 | |
| 17 | 12月8日 | 演習 | 問診～評価までを体験する。 | |
| 18 | 12月8日 | 実技 | 問診～評価までを実践できる。 | |
| 19 | 12月15日 | 実技 | 健常者での評価を実践できる。 | |
| 20 | 12月15日 | 演習 | レポート作成を通し、情報の処理の仕方を実践できる。 | レポート作成(症例報告形式) |
| 21 | 1月19日 | 実技 | 中枢神経疾患の評価項目を挙げることができる。 | ブルンストロームステージ復習 |
| 22 | 1月19日 | 実技 | 中枢神経疾患の運動機能の基本的な検査が実施できる。 | |
| | 1月26日 | 本試験 | | |
| 23 | 1月26日 | 発表 | レポート内容のプレゼンテーションが実施できる。質疑応答に対応できる。 | (発表後レポート提出) |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】資料配布 ①標準理学療法評価学 ②新・徒手筋力検査法 参考：基礎運動学(医歯薬)、機能的解剖的触診技術(メジカルビュー)、ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) | | | | |

実技試験について

日時：12月2日(月)1～4限目 *4グループに分けて時間を指定する予定

場所：機能訓練室

服装：指定のユニホームと靴、学生証

* 爪・髪型、装備品など適切な身なりであること

持ち物：ゴニオメーター、打鍵器、テープメジャー

試験内容：指定された整形外科疾患の検査・測定技術(問診～ROM/MMT/形態計測/感覚検査など)

再試：12月16日

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------|-------------|-----------|---------------|-------------------|
| 科目名 (英) | 運動療法学 I (Movement Therapy I) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 片岡洋樹 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 水曜 3・4時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士免許取得後11年臨床現場で、急性期・回復期・生活期経、修士(医科学)保有 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①国家試験・臨床実習で重要な運動療法に関わる基礎知識を学習するため。 ②解剖学、生理学、運動学との関連が深い。 ③予習、復習を行い、基本的な運動療法の知識を身につけてもらいたい。 ④基本的には予習を行い、レポートを作成・提出すること。 基本は講義であるが、実技演習やグループでの調べもの学習も取り入れる。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①基本的運動療法技術における医学的根拠を理解し、説明できること。 ②体系的な基本的運動療法の方法論を学び、演習を交えて健常者同士で安全に実技体験が出来るようになること。 ③予習とレポート作成に慣れ、効率よく調べものができるようになること。 | | | | | | |
| 評価方法及び基準 | 1)定期試験70% 2)レポート10% 3)小テスト10% 4)出席・授業内評価10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------------------------|------|-----------------|--|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/14 | 講義・演習 | [講義] I.運動療法の概念を説明できる [演習]演習にあたっての基本的な手技 正しい身体の触り方、動かし方などを 実践できる | ・レポート提出 教科書p.2~20までを読み 内容をレポートにまとめる。 |
| 2 | 5/14 | 講義・演習 | [講義] II.運動療法の基礎 1.関節の構造と運動を説明できる [演習]演習にあたっての基本的な手技 正しい身体の触り方、動かし方などを 実践できる | ・レポート提出 教科書p.22~48までを事前に読 み 内容をレポートにまとめる。 |
| 3 | 5/21 | 講義・演習 | [講義] II.運動療法の基礎 1.関節の構造と運動 2.筋と筋収縮を説明できる [演習]関節を動かす際の注意点 安全に配慮した徒手抵抗のかけ方と 声かけを実践できる | |
| 4 | 5/21 | 講義・演習 | [講義] II.運動療法の基礎 1.関節の構造と運動 2.筋と筋収縮を説明できる [演習]関節を動かす際の注意点 安全に配慮した徒手抵抗のかけ方と 声かけを実践できる | ・レポート提出 教科書p.49~58までを事前に読 み 内容をレポートにまとめる。 ・小テスト 関節、筋について |
| 5 | 5/28 | 講義 | [講義] II.運動療法の基礎 3.随意運動と運動制御の生理 を説明できる | ・レポート提出 教科書p.59~74までを事前に読 み 内容をレポートにまとめる |
| 6 | 5/28 | 講義 | [講義] II.運動療法の基礎 4.運動制御と運動学習 を説明できる | ・レポート提出 教科書p.76~96までを事前に読 み 内容をレポートにまとめる |
| 7 | 6/3 | 講義 | [講義] II.運動療法の基礎 4.運動制御と運動学習 を説明できる | |
| 8 | 6/10 | 講義 | [講義] II.運動療法の基礎 5.運動と呼吸 [視聴覚教材]呼吸器疾患に対する運動療 法 | ・レポート提出 教科書p.97~113までを事前に読 み 内容をレポートにまとめる。 |
| 9 | 6/10 | 講義 | [講義] II.運動療法の基礎 6.運動と循環を説明できる | ・レポート提出 教科書p.114~127までを事前に 読み内容をレポートにまとめる。 |
| 10 | 6/17 | 講義 | [講義] II.運動療法の基礎 7.運動と代謝を説明できる | ・レポート提出 教科書p.128~137までを事前に 読み内容をレポートにまとめる。 |
| 11 | 6/17 | 講義 | III.組織の病態生理と修復 1.運動器系を説明できる | ・レポート提出 教科書p.140~157までを事前に 読み内容をレポートにまとめる。 |
| 12 | 6/24 | 講義 | III.組織の病態生理と修復 1.運動器系 2.神経系を説明できる [視聴覚教材]脳血管疾患に対する運動療 法 | ・レポート提出 教科書p.158~166までを事前に 読み内容をレポートにまとめる。 |
| 13 | 6/24 | 講義・演習 | III.組織の病態生理と修復 1.運動器系 2.神経系を説明できる | |
| 14 | 6/30 | 試験 | | |
| 15 | 7/1 | 講義・演習 | III.組織の病態生理と修復 1.運動器系 2.神経系を説明できる | |
| 16 | 7/1 | 講義・演習 | 全体のまとめ | |
| 準備学習 時間外学習 | | 毎回の講義の予習と復習を行う事 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 標準理学療法学 運動療法学総論 第4版(医学書院) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------|-------------|-----------|------|-------------------|
| 科目名 (英) | 運動療法学実習 I (Practice of Movement Therapy I) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 片岡洋樹 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 45 (1) | 開講区分 | 後期 水曜 3・4時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士免許取得後11年臨床現場で、急性期・回復期・生活期経、修士(医科学)保有 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 疾患別に病態を理解し、その治療と関連する運動療法の概略を理解することが必要である 運動療法学 I・II、解剖学、生理学、運動学、理学療法評価学、等に関連する 骨関節疾患、中枢神経疾患に対する運動療法の概略を学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | 各疾患の病態を理解し、それに対する基本的な理学療法、運動療法を理解し、説明できる 簡単な運動療法を学生同士で実施できる この分野の国家試験の過去問を解くことができる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験60% 2) 小テスト20% 3) レポート20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------------------------|-------|----------------------------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/9 | 講義・演習 | 骨折・脱臼の病態を理解する | 学習内容の復習を行うこと |
| 2 | 9/16 | 講義・演習 | 骨折・脱臼の病態から簡単な運動療法を考案できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 3 | 9/16 | 講義・演習 | 膝関節の靭帯・半月板損傷の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる① | 学習内容の復習を行うこと |
| 4 | 9/23 | 講義・演習 | 膝関節の靭帯・半月板損傷の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる② | 学習内容の復習を行うこと |
| 5 | 9/23 | 講義・演習 | 腱板断裂の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 6 | 9/30 | 講義・演習 | アキレス腱損傷の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 7 | 9/30 | 講義・演習 | 関節リウマチの病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 8 | 10/7 | 講義・演習 | 変形性股関節症の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 9 | 10/7 | 講義・演習 | 変形性膝関節症の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 10 | 10/14 | 講義・演習 | 側弯症の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 11 | 10/14 | 講義・演習 | 脳血管障害の病態を理解し、病気ごとの 簡単な運動療法を実施できる(早期)① | 学習内容の復習を行うこと |
| 12 | 10/21 | 講義・演習 | 脳血管障害の病態を理解し、病気ごとの 簡単な運動療法を実施できる(早期)② | 学習内容の復習を行うこと |
| 13 | 10/21 | 講義・演習 | 脳血管障害の病態を理解し、病気ごとの 簡単な運動療法を実施できる(回復期)① | 学習内容の復習を行うこと |
| 14 | 10/28 | 講義・演習 | 脳血管障害の病態を理解し、病気ごとの 簡単な運動療法を実施できる(回復期)② | 学習内容の復習を行うこと |
| 15 | 10/28 | 講義・演習 | パーキンソン病の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる① | 学習内容の復習を行うこと |
| 16 | 11/4 | 講義・演習 | パーキンソン病の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる② | 学習内容の復習を行うこと |
| 17 | 11/4 | 講義・演習 | 脳性麻痺の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 18 | 11/11 | 講義・演習 | 脳外傷の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 19 | 11/11 | 講義・演習 | 脊髄損傷の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる① | 学習内容の復習を行うこと |
| 20 | 11/18 | 講義・演習 | 脊髄損傷の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる② | 学習内容の復習を行うこと |
| 21 | 11/18 | 講義・演習 | 脊柱管狭窄症の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 22 | 11/15 | 講義・演習 | 後縦靭帯骨化症の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 23 | 11/25 | 講義・演習 | 総まとめ | |
| | 11/27 | 試験 | 各領域の運動療法の総合実技試験 | |
| 準備学習 時間外学習 | | 授業前後で、該当分野の範囲を教科書中心に確認すること | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 標準理学療法学 運動療法学各論 第4版(医学書院) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------|-------------|-----------|---------------|-------------------|
| 科目名 (英) | 運動療法学Ⅱ (Movement Therapy Ⅱ) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 片岡洋樹 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義・ 実技 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 前後期 水曜 3・4限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士免許取得後11年臨床現場で、急性期・回復期・生活期経、修士(医科学)保有 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法介入において大きな柱として位置づけられている運動療法は、解剖学や生理学、運動学を基礎とし、理学療法士が得意とする領域である。各単元の前半では必要な生物医学側面と社会科学的側面の両面からみた必要な基礎知識を確認した上で、運動療法の基本手技を学んでいく。2年次後期に予定されている運動療法学実習への移行が円滑に行なわれるよう、講義内でも随時実技での体験をしていく。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①運動療法の歴史、基本的概念について学ぶ。 ②身体の構造と機能への理解を深め、運動療法構築への概念を学習する。 ③講義内容に応じて実施される単元テストを活用し、該当する単元の要点を説明できる。 ④講義内容に応じた基本的運動療法技術を健常者同士で一部体験する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ・レポート:20% ・筆記試験:80% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------------------------|------|------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 7/8 | 講義 | ・オリエンテーション 運動療法の歴史、運動療法の位置づけを理解する。 | |
| 2 | 7/8 | 講義 | ①運動の種類(分類)について文章表現できる。 | |
| 3 | 7/15 | 講義 | 《単元テスト》運動の種類(分類) ②関節可動域運動(関節包内運動)について文章表現できる。 | |
| 4 | 7/15 | 講義 | ②関節可動域運動(関節包外運動)について文章表現できる。 | |
| 5 | 7/22 | 講義 | 《単元テスト》関節可動域運動 ③筋力増強運動(概念)について理解できる。 | |
| 6 | 7/22 | 講義 | ③筋力増強運動(原理・原則、方法論)について文章表現ができる。 | |
| 7 | 7/29 | 講義 | 《単元テスト》筋力増強運動 ④持久力増強運動(概念)について説明できる。 | |
| 8 | 7/29 | 講義 | ④持久力増強運動(実践例の紹介)の理解ができる。 ⑤協調性運動(概念)についての説明できる。 | 《課題》復習単元テスト 前半内容を振り返り。 《レポート提出①》授業ノートの体裁を整え、提出。 |
| 9 | 8/5 | 講義 | 《単元テスト》持久力運動・協調性運動 ⑤協調性運動(協調性運動の実際)の説明できる。 | |
| 10 | 8/5 | 講義 | ⑥脳のシステム障害と運動療法について説明できる。 | |
| 11 | 8/26 | 講義 | ⑥脳のシステム障害と運動療法について説明できる。 | |
| 12 | 8/26 | 講義 | ⑦痛みに対する運動療法について説明できる。 | |
| 13 | 9/2 | 講義 | ⑦痛みに対する運動療法について説明できる。 | |
| 14 | 9/2 | 講義 | 《単元テスト》単元⑥・⑦の内容 《単元》⑧発達と運動療法 | 《課題》復習単元テスト 後半内容を振り返り。 《レポート提出②》授業ノートの体裁を整え、提出。 |
| | 9/4 | 筆記試験 | | |
| 15 | 9/9 | 講義 | 総括 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・予習と復習:教材と授業ノート並びに単元テストを活用すること。 ・同学年に履修する運動療法学実習の基礎となる知識であり、運動実践における注意点を特によく理解するように努めること。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第4版 (医学書院) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-----------|-------------|-----------|---------------|------------------|
| 科目名 (英) | 運動療法学実習Ⅱ (Practice of Movement TherapyⅡ) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 古川雅一 |
| | | 授業 形態 | 講義・ 実習 | 総時間 (単位) | 45 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 月曜 3・4限 |
| 学科・コース | 理学療法科・Ⅰ部Aクラス | | | | | | |
| 教員の略歴 | 2009/4 理学療法士免許取得 2009-2015 一般病院勤務(大阪府) 2015-2017 理学療法士養成校教員(兵庫県) 2017-2019 青年海外協力隊参加(キルギス) 運動療法に関して現場での実施および学生や同僚へ指導経験あり | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 疾患別に病態と症状を理解し、運動療法の概略を理解することが必要である。 解剖学・生理学・運動学、運動療法学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識をもとに、疾患別運動療法の概略を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①運動療法の対象となる疾患について、病態と症状を理解し、文章表現できる。 ②対象となる疾患について、運動療法実施の主目的と注意点について説明できる。 ③授業内容に応じて実施される単元テストを活用し、該当する単元の要点を説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法及び基準 | ・レポート:20% ・テスト:80% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------------------------|-------|-------|---------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/7 | 講義・実習 | 骨折・脱臼の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 2 | 9/7 | 講義・実習 | 膝の靭帯・半月板損傷の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 3 | 9/14 | 講義・実習 | 腱断裂の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 4 | 9/14 | 講義・実習 | 関節リウマチの運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 5 | 9/28 | 講義・実習 | 変形性関節症と人工関節置換術の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 6 | 9/28 | 講義・実習 | 側弯症の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 7 | 10/5 | 講義・実習 | 脊髄損傷の運動療法について理解できる① | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 8 | 10/5 | 講義・実習 | 脊髄損傷の運動療法について理解できる② | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 9 | 10/12 | 講義・実習 | 腰部脊柱管狭窄症の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 10 | 10/12 | 講義・実習 | 頚椎症性脊髄症と頸椎後縦靭帯骨化症の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 11 | 10/19 | 講義・実習 | 腰痛症の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 12 | 10/19 | 講義・実習 | 肩関節痛の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 13 | 10/26 | 講義・実習 | 切断に対する運動療法について理解できる① | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 14 | 10/26 | 講義・実習 | 切断に対する運動療法について理解できる② | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 15 | 11/2 | 講義・実習 | 糖尿病に対する運動療法について理解できる① | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 16 | 11/2 | 講義・実習 | 糖尿病に対する運動療法について理解できる② | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 17 | 11/9 | 講義・実習 | ICUにおける運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 18 | 11/9 | 講義・実習 | 熱傷に対する運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 19 | 11/16 | 講義・実習 | 悪性腫瘍に対する運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 20 | 11/16 | 講義・実習 | 浮腫に対する運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 21 | 11/30 | 講義・実習 | 廃用症候群の運動療法について理解できる① | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 22 | 11/30 | 講義・実習 | 廃用症候群の運動療法について理解できる② | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 23 | 12/7 | 講義・実習 | 総復習 | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 24 | 12/8 | 試験 | 筆記 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 第4版 (医学書院) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|------|-------------------|
| 科目名 (英) | 物理療法学 (Physical Agents) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 古川 雅一 |
| 学科・コース | 理学療法学科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 月曜 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 2009/4 理学療法士免許取得 2009-2015 一般病院勤務(大阪府) 2015-2017 理学療法士養成校教員(兵庫県) 2017-2019 青年海外協力隊参加(モルゴス) 臨床現場での物理療法の実施および学生や同僚への指導 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士法及び作業療法士法の中で物理的刺激を加えることが理学療法の手段の一つとして記載されている。本授業は講義を中心に行い各物理療法の特徴や実施方法、禁忌事項等に加え、物理療法が適応となる炎症や疼痛、関節可動域制限のメカニズムと物理刺激を加えた際の生理学的変化などについて学ぶ。後期の物理療法学実習にて一定の知識を持ち各機器を使用できるように本授業にて備える。 | | | | | | |
| 到達目標 | 物理療法の種類が理解できる 物理療法が適応となることの多い炎症・疼痛・関節可動域制限等の症状において物理刺激を加えた際の生理学的変化が理解できる 各物理療法の特徴や実施手順、禁忌事項等を理解できる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験(本試験80%、課題レポート20%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|------|------|--------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/11 | 講義 | 物理療法の概要とリスク管理が説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 2 | 5/11 | 講義 | 物理療法が適応となる炎症について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 3 | 5/18 | 講義 | 物理療法が適応となる疼痛について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 4 | 5/18 | 講義 | 物理療法が適応となるROM制限について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 5 | 5/25 | 講義 | 温熱について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 6 | 5/25 | 講義 | 温熱療法の特徴と実施方法について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 7 | 6/1 | 講義 | 電磁波について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 8 | 6/1 | 講義 | 超短波療法・極超短波療法について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 9 | 6/8 | 講義 | 光線療法の特徴と実施方法について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 10 | 6/8 | 講義 | 音波療法の特徴と実施方法について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 11 | 6/15 | 講義 | 電気刺激について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 12 | 6/15 | 講義 | 電気刺激療法について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 13 | 6/22 | 講義 | 寒冷療法・水治療法について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 14 | 6/22 | 講義 | 牽引療法・圧迫療法・振動刺激療法を説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 15 | 6/23 | 試験 | | |
| 16 | 6/29 | 講義 | テスト解説(総復習) | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 指定教科書の予読、課題作成 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 使用教科書: PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第1版(羊土社) | | | | |
| 参考書: 物理療法学 改定第2版(金原出版)、機能障害科学入門(神陵文庫)、理学療法学テキストIV物理療法 第2版(神陵文庫) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-----------|-------------|-----------|------|-----------------------|
| 科目名 (英) | 物理療法学実習 (Practice of Physical Agents) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 古川雅一 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義・実 習 | 総時間 (単位) | 45 (1) | 開講区分 | 前・後期 月・金曜 3・4時限 |
| 教員の略歴 | 2009/4 理学療法士免許取得 2009-2010 阪南院勤務(大阪府) 2010-2017 理学療法士養成校教員(兵庫県) 2017-2019 青年海外協力隊参加(キルギス) 臨床現場での物理療法の実施および学生への指導 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 物理療法学で学んだ知識を基に、それぞれの物理療法機器の取り扱い方法を学びリスク管理を行いながら実際に使用する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 適応・リスク管理を把握しながら物理療法の機器の使用を経験する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 試験(80%)、課題レポート(20%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|-------|-------------------------------|------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 6/29 | 講義 | 物理療法の適応となる疾患を理解する① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 2 | 7/6 | 講義 | 物理療法の適応となる疾患を理解する② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 3 | 7/6 | 講義 | 物理療法の適応となる疾患を理解する③ | 指定教科書該当ページの予読 |
| 4 | 7/13 | 講義 | 物理刺激の人体への作用を理解する① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 5 | 7/13 | 講義 | 物理刺激の人体への作用を理解する② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 6 | 7/20 | 講義 | 物理刺激の人体への作用を理解する③ | 指定教科書該当ページの予読 |
| 7 | 7/20 | 講義 | ホットパックの実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 8 | 7/27 | 講義 | パラフィン浴の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 9 | 7/27 | 講義 | 寒冷療法(クリッカー)の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 10 | 8/3 | 講義 | 水治療法の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 11 | 8/3 | 講義 | 赤外線療法の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 12 | 8/24 | 講義 | 極超短波療法の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 13 | 8/24 | 講義 | 超音波療法の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 14 | 8/31 | 講義 | 電気刺激療法の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 15 | 8/31 | 講義 | 牽引療法の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 16 | 10/9 | 実習 | ホットパックを実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 17 | 10/9 | 実習 | パラフィン浴を実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 18 | 10/16 | 実習 | 寒冷療法(クリッカー)を実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 19 | 10/16 | 実習 | 赤外線療法を実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 20 | 10/23 | 実習 | 極超短波療法を実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 21 | 10/23 | 実習 | 超音波療法を実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 22 | 10/30 | 実習 | 電気刺激療法を実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 23 | 10/30 | 実習 | 牽引療法を実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| | 11/6 | 試験 | 筆記試験にて理解度を確認する | |
| 準備学習 時間外学習 | | 講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 使用教科書:PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第1版(羊土社) | | | | |
| 参考書:物理療法学 改定第2版(金原出版)、機能障害科学入門(神陵文庫)、理学療法学テキストIV物理療法 第2版(神陵文庫) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|---------------|-------------|-----------|------|----------------------------|
| 科目名 (英) | 生活環境学 (Environment for A Human Life) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 石田広 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義・演習 及び実技 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 金曜 曜日・時限 3・4時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、1993年～現在総合病院の急性期リハ、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問リハ、養成校等の開設及び業務に従事 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①生活環境について学ぶことにより適切な環境整備ができるようになるためにこの教科を学ぶ必要がある ②日常生活活動学や社会保障制度に関する科目との関連が深くこれらの知識を生かして環境整備を実施する必要がある ③生活環境整備についての知識を身につけ障害やニーズに即した適切な環境整備ができるようになる ④障害の特性と生活環境の関連性、バリアフリーとユニバーサルデザイン、福祉用具の適応、住環境整備等について学ぶ ⑤講義・演習に加えて校外学習も含め実地研修も実施し具体的に学ぶ機会を設ける | | | | | | |
| 到達目標 | ①バリアフリーとユニバーサルデザインについてその概念を理解し説明できるようになる ②福祉用具の適応について理解し障害に即して具体的な適応が実施できるようになる ③住環境整備について建築関係の情報も理解でき適切なアドバイスが実施できるようになる ④福祉車両について種類及び装備を理解し障害に対応した適応を判断できるようになる ⑤家庭復帰や社会復帰における環境整備の役割を説明でき実践できるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験、課題レポート、口頭試問にて知識技能の到達評価を行う。 定期試験50%、授業内レポート30%、実習レポート5%、出席点15%の割合で成績評価を実施する。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------------|------|--|------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 6/5 | 講義 | 生活環境とは何かを説明できるようになる | 教科書及びプリント学習 |
| 2 | 6/5 | 講義 | 生活環境を構成する要素を述べることができる | 教科書及びプリント学習 |
| 3 | 6/12 | 講義 | バリアフリーについて説明できる | 教科書及びプリント学習 |
| 4 | 6/12 | 講義 | ユニバーサルデザインについて説明できる | 教科書及びプリント学習 |
| 5 | 6/19 | 講義 | 福祉用具の種類について述べられる | 教科書及びプリント学習 |
| 6 | 6/19 | 演習 | 福祉用具のカタログを利用することができる | プレゼン準備 |
| 7 | 6/26 | 講義 | 福祉用具と障害を関連づけることができる | 教科書及びプリント学習 |
| 8 | 6/26 | 演習 | 福祉用具の適応が判断できる | レポート作成 |
| 9 | 7/8 | 講義 | 住環境整備に必要な建築関係の法規や設備について述べられる | 教科書及びプリント学習 |
| 10 | 7/8 | 講義 | 住環境整備の流れについて述べられる | 教科書及びプリント学習 |
| 11 | 7/15 | 演習 | 住宅図面を作成することができる | レポート作成 |
| 12 | 7/15 | 演習 | 住宅環境整備の具体例に沿ってアドバイスができる | 議論 |
| 13 | 7/22 | 実習 | 福祉車両の種類を述べられる | レポート作成 |
| 14 | 7/22 | 実習 | 障害と福祉車両の適応を判断できる | レポート作成 |
| | 7/28 | 定期試験 | 筆記試験 | |
| 15 | 7/29 | 講義 | 試験解説およびまとめ | アンケート |
| 準備学習 時間外学習 | | 準備学習はテキストを事前に読んでおく。時間外学習は体験したことを自分の体験を重ねてみる。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 日常生活活動学・生活環境学 第5版 (医学書院) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----------|-------------|-----------|------|-------------------|
| 科目名 (英) | 日常生活活動学 | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 石田広 |
| | (Activities of Daily Living) | 授業 形態 | 講義 演習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 水曜 1・2時限 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | | | | | | |
| 教員の略歴 | 理学療法士、1993年～現在総合病院の急性期リハ、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問リハ、養成校等の開設及び業務に従事 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①日常生活活動についてその概念と成り立ちを理解し理学療法における位置づけを学ぶ。 ②日常生活活動学実習と共に日常生活活動の概要を学び全ての科目と関連があることを理解する。 ③日常生活活動がどのような構成になっているのかを理解し理学療法に取り組むモチベーションにして欲しい。 ④日常生活活動を普遍的に評価できるようになるため概念、定義、具体的評価方法を講義と演習で展開する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①日常生活活動の定義と概念を説明できるようになる。 ②日常生活活動の各行為を分類し普遍的に評価できるようになる。 ③日常生活活動の各種の評価方法を述べ状況に応じて使用できるようになる。 ④日常生活活動とICFの関係を理解しICFの他の要素と関連づけて説明できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験、課題レポート、口頭試問にて知識技能の到達評価を行う。 定期試験50%、授業内レポート30%、口頭試問5%、出席点15%の割合で成績評価を実施する。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------------|------|--|----------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/15 | 講義 | 日常生活活動の定義が述べられる | プリント学習 |
| 2 | 5/15 | 講義 | 日常生活活動の概念が説明できる | プリント学習 |
| 3 | 5/22 | 演習 | 食事行為を要素に分類し述べられる | 議論、発表プレゼン準備 |
| 4 | 5/22 | 演習 | 排泄行為を要素に分類し述べられる | 議論、発表プレゼン準備 |
| 5 | 5/29 | 演習 | 入浴行為を要素に分類し述べられる | 議論、発表プレゼン準備 |
| 6 | 5/29 | 演習 | 整容行為を要素に分類し述べられる | 議論、発表プレゼン準備 |
| 7 | 6/3 | 演習 | 生活関連行為を要素に分類し述べられる | 議論、発表プレゼン準備 |
| 8 | 6/3 | 講義 | 日常生活活動の実際を概観する | ビデオ教材の視聴とレポート |
| 9 | 6/10 | 講義 | 各種のADL評価方法を使用できる | プリント学習 |
| 10 | 6/10 | 講義 | 各種のADL評価方法を使用できる | プリント学習 |
| 11 | 6/17 | 講義 | FIMの評価方法のマニュアルを説明できる | プリント学習 |
| 12 | 6/17 | 講義 | FIMでのADLの評価ができる | プリント学習 |
| 13 | 6/24 | 講義 | 姿勢の種類を述べられる | 論文抄読 |
| 14 | 6/24 | 実技 | 各種の姿勢を実施できる | 実技練習 |
| | 6/30 | 定期試験 | 筆記試験にて実施 | |
| 15 | 7/1 | 講義 | 定期試験の解説 | レポート作成(誤回答を再確認する) |
| 準備学習 時間外学習 | | 準備学習はテキストを事前に読んでおく。時間外学習は体験したことを自分の体験を重ねてみる。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 日常生活活動学・生活環境学 第5版(医学書院) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 日常生活活動学実習 (Activities of daily living science training) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 佐藤美紀 |
| 学科・コース | 理学療法科 | 授業 形態 | 実習 | 総時間 (単位) | 45 (1単位) | 開講区分 | 通年 金・3-4限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、臨床歴:1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月デイサービス勤務。 2002年4月～2007年12月病院・老健施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・指導)。 介護歴:2009年2月～2012年3月、2017年6月～高齢者介護。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①ADL(日常生活動作)の目指す最終目的はQOLの向上である。運動療法だけでは生活の改善に限界がある。それ故、如何に機能を代償し、工夫した動きを獲得し、それを生活に実践できる必要がある。日常生活活動学では機能と生活を結びつけながら、これらの応用を学ぶ。 ②ADLは動作であり、病態運動学が基盤となる。このため、基礎には運動学が不可欠となる。ADLを学ぶことで、評価学・運動療法学を深めて行ける。ADL学の次のステップとして知識を実践するのがADL学実習である。 ③患者とその家族のQOL向上に貢献できるような理学療法を提供できるようになって欲しい。 PTとして治療につながる介助法を身につける。障害の特徴を体験し、動作の評価からADL指導までの実際を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 起居動作を介助で安全に実施できるようになる。 障害の特徴を押さえた動作を体験した上で、疾患別にADL指導のポイントにそって実施できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)本試験70% 2)実技試験20% 3)服装、授業内評価10% *動きやすい服装 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|------------|-------|-------|---|-------------------------|---------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 7月3日 | 講義・実技 | 介助の基本原則を説明できる。 | | |
| 2 | 7月3日 | 実技 | 起居動作の一人介助を健常者で実施できる。 | | |
| 3 | 7月10日 | 実技 | 移乗動作の一人介助(車椅子上で姿勢を整えるまで)を健常者で実施できる。 | | |
| 4 | 7月10日 | 実技 | 移乗動作の二人介助を健常者で実施できる。 | | |
| 5 | 7月17日 | 実技 | 三人介助でリフティングを実施できる。 | | |
| 6 | 7月17日 | 実技 | 食事介助を健常者で実施できる。 | ゼリーとスプーン、飲み物とコップ、タオルを持参 | |
| 7 | 7月24日 | 講義・実技 | 身体変化における動作への影響を説明できる。 | | |
| 8 | 7月24日 | 実技 | 身体変化における動作への影響を健常者で調べることができる。 | | |
| 9 | 7月31日 | 講義・実技 | RAの疾患特異性を理解し、関節保護・痛み・生活リズムのADL指導を説明できる。 | | RAについて調べる |
| 10 | 7月31日 | 実技 | 関節保護を意識したADL指導を実施できる。 | | |
| 11 | 8月7日 | 講義・実技 | 変形性股関節症の疾患の特異性を理解し、時期に応じた注意点を説明できる。 | | 変形性股関節症・膝関節症について調べる |
| 12 | 8月7日 | 実技 | 股関節予防をした動作を健常者で実施できる。 | | |
| 13 | 8月28日 | 講義・実技 | 切断の質量変化、義足の限界を理解し、拘縮予防や動き方の注意点を説明できる。 | | 糖尿病からの切断について調べる |
| 14 | 8月28日 | 実技 | 義足での安全な動き方を指導できる。 | | |
| 15 | 9月4日 | 講義・実技 | 脊髄損傷の損傷レベルの違いによる可能な動きや動作を説明できる。 | | 筋と感覚の髄節レベルについて調べる |
| 16 | 9月4日 | 実技 | レベルごとの動きを実施できる。 | | |
| 17 | 9月11日 | 講義・実技 | 片麻痺の特徴を理解し、体性感覚の必要性を説明できる。 | | 脳の部位とその機能について調べる |
| 18 | 9月11日 | 実技 | 片麻痺の安全性を重視したADLの仕方を実施できる。 | | |
| 19 | 9月18日 | 講義・実技 | 脳性麻痺タイプ別の特徴的な動きを説明できる。 | | |
| 20 | 9月18日 | 実技 | 発達における介入の仕方を説明できる。 | | 基本動作の獲得時期について調べる |
| 21 | 9月25日 | 講義・実技 | パーキンソンの特徴的な動きを理解し、転倒対策を説明できる。 | | パーキンソンの病態を調べる |
| 22 | 9月25日 | 実技 | 転倒対策を考慮した立位・歩行、立ち上がりを実施できる。 | | |
| | 10月2日 | 本試験 | | | |
| 23 | 10月2日 | 講義・演習 | FIMの評価を実践できる。問題点でのADLの位置付けを説明できる。 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

1-8回は介助法テキスト配布。9-23回は標準理学療法学「日常生活活動学・生活環境学」(医学書院)、ADL実習テキスト配布。

| | | | | | | | | |
|------------|---|--------------|----------|-------|-------------|-----------|---------------|--------------------|
| 科目名 (英) | 義肢装具学 (Prosthetics and Orthotics) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 梶原一将 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 木曜日 1・2時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、急性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリで勤務を経て現在に至る。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士のアプローチの一つとして義肢装具の概要を学ぶ。 義肢・装具の構造や特徴、種類、機能を学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 使用頻度が高い義肢・装具の種類と部品を覚えて説明できるようになる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験60%、出席率30%、小テスト10% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--|------|-------------------------------|-----------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/13 | 講義・演習 | 義肢学総論を理解する | 確認テスト |
| 2 | 5/13 | 講義・演習 | 下肢切断の理学療法評価 | 確認テスト |
| 3 | 5/20 | 講義・演習 | 大腿義足の種類と適合判定を理解する | 確認テスト |
| 4 | 5/20 | 講義・演習 | 膝義足の種類と適合判定を理解する | 確認テスト |
| 5 | 5/27 | 講義・演習 | 下腿義足の種類と適合判定を理解する | 確認テスト |
| 6 | 5/27 | 講義・演習 | サイム義足・股義足の種類と適合判定を理解する | 確認テスト |
| 7 | 6/4 | 講義・演習 | 足部部分義足の種類と適合判定 継手の種類と設定調整を理解する | 確認テスト |
| 8 | 6/4 | 講義・演習 | 義肢についてプレゼンできる | |
| 9 | 6/11 | 講義・演習 | 装具学総論を理解する | 確認テスト |
| 10 | 6/11 | 講義・演習 | 下肢装具の構成部品を説明できる | 確認テスト |
| 11 | 6/18 | 講義・演習 | 足継手の制御機構を理解する | 確認テスト |
| 12 | 6/18 | 講義・演習 | 靴型装具を理解する | 確認テスト |
| 13 | 6/25 | 講義・演習 | 義肢装具の給付制度を理解する | 確認テスト |
| 14 | 6/25 | 講義・演習 | 装具についてプレゼンができる | |
| 15 | 7/2 | 講義・演習 | 疾患別の装具療法への関連性を理解する | |
| | 7/3 | 試験 | 筆記試験 | |
| 準備学習 時間外学習 | | 講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| PT・OTビジュアルテキスト義肢・装具学異常とその対応がわかる動画付き(羊土社) その他備品の義肢装具の資料使用 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|-----------|-------------|-----------|------|-----------------------------|
| 科目名 (英) | 義肢装具学実習 (Practice of Prosthetics and Orthotics) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 梶原一博 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 90 (2) | 開講区分 | 前後期 木曜 曜日・時間 1,2時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、急性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリで勤務を経て現在に至る。 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 理学療法士として、義肢装具の作成時に必要な視点を中心に、適応・チェックアウトを理解し、体験する。義肢装具療法で出来ること、できないことを学び、理学療法(評価、運動療法)につながる理解を深める。また、現在の最新の動向を確認し、経験する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 義肢装具の作成過程の体験・見学を通し、義肢装具学で学んだ知識と技術の理解を深めることをめざす。 さらに、各疾患の詳細適応について学ぶ。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験30%・レポート40%・出席率30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---|-------------------------------|-------|-----------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 7/2 | 講義 | 下肢のアライメント評価の概要を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 2 | 7/9 | 講義 | 足部のアーチ構造を理解し説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 3 | 7/9 | 講義・実習 | 足部のアライメントを評価できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 4 | 7/16 | 講義・実習 | 足部の簡易のアーチサポートを作成できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 5 | 7/16 | 講義・実習 | アーチ変化が身体に及ぼす影響を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 6 | 7/23 | 講義・実習 | 包帯による断端管理を実践できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 7 | 7/23 | 講義・実習 | 包帯が関節固定に与える影響を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 8 | 7/30 | 講義・実習 | 包帯:膝関節固定を実践できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 9 | 7/30 | 講義・実習 | 包帯:足関節固定を実践できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 10 | 8/6 | 講義・実習 | 切断の評価と運動療法を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 11 | 8/6 | 講義・実習 | 義足のソケット、継手、適切な位置関係の説明ができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 12 | 8/27 | 講義・実習 | 足のチェックアウトと修正方法を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 13 | 8/27 | 講義・実習 | 採型(AFO)を実践できる① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 14 | 9/3 | 講義・実習 | 採型(AFO)を実践できる② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 15 | 9/3 | 講義・実習 | 採型(AFO)を実践できる③ | 指定教科書該当ページの予読 |
| 16 | 9/10 | 講義・実習 | 装具のチェックアウトを説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 17 | 9/10 | 講義 | 短下肢装具の違いを説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 18 | 9/17 | 講義 | 長下肢装具の違いを説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 19 | 9/17 | 講義・実習 | 長下肢装具の違いを説明できる疑似体験をする | 指定教科書該当ページの予読 |
| 20 | 9/24 | 講義・実習 | 2関節以上の固定が身体に及ぼす影響について説明できる① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 21 | 9/24 | 講義・実習 | 2関節以上の固定が身体に及ぼす影響について説明できる② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 22 | 10/1 | 講義・実習 | 下肢へのテーピングを実践できる① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 23 | 10/1 | 講義・実習 | 下肢へのテーピングを実践できる② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 24 | 10/8 | 講義・実習 | 下肢へのテーピングを実践できる③ | 指定教科書該当ページの予読 |
| 25 | 10/8 | 講義・実習 | 車椅子の構造を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| | 10/9 | 試験 | レポート課題 | |
| 26 | 10/15 | 講義・実習 | 車椅子の修理方法を説明できる① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 27 | 10/15 | 講義・実習 | 車椅子の修理方法を説明できる② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 28 | 10/22 | 講義・実習 | 車椅子の修理方法を説明できる③ | 指定教科書該当ページの予読 |
| 29 | 10/22 | 講義・実習 | 日常生活補助具の概要を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 30 | 10/29 | 講義・実習 | ソックスエイドを作成できる① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 31 | 10/29 | 講義・実習 | ソックスエイドを作成できる② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 32 | 11/5 | 講義・実習 | スライディングボードを作成できる① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 33 | 11/5 | 講義・実習 | スライディングボードを作成できる② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 34 | 11/12 | 講義・実習 | 上肢へのテーピングを実践できる① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 35 | 11/12 | 講義・実習 | 上肢へのテーピングを実践できる② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 36 | 11/19 | 講義・実習 | 装具採型を説明できる①(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 37 | 11/19 | 講義・実習 | 装具採型を説明できる②(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 38 | 11/26 | 講義・実習 | 最新の装具の動向を知る①(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 39 | 11/26 | 講義・実習 | 最新の装具の動向を知る②(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 40 | 12/3 | 講義・実習 | 最新の義足の動向を知る①(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 41 | 12/3 | 講義・実習 | 最新の義足の動向を知る②(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 42 | 12/10 | 講義 | 理学療法士に必要な義肢装具の知識①(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 43 | 12/10 | 講義 | 理学療法士に必要な義肢装具の知識②(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 44 | 12/17 | 講義・実習 | POの装具策を見学する① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 45 | 12/17 | 講義・実習 | POの装具策を見学する② | 指定教科書該当ページの予読 |
| | 11/18 | 試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | 講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 口 | | | | |
| 「装具学」15レクチャー(中山書店)、「義肢学」15レクチャー(中山書店)、備品の義肢・装具を使用 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|-----------|-------------|-----------|------|--------------------|
| 科目名 (英) | 理学療法海外セミナー (International Training of PT) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 片岡洋樹 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Aクラス | 授業 形態 | 講義・実 習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 後期 曜日・時限 水3・4限目 |
| 教員の略歴 | 理学療法免許取得後11年経過、米国理学療法にも数回触れ、通訳の経験を有する | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 米国と日本における理学療法士のステータス、学習内容、技術・知識、社会情勢の違いを学ぶことで、理学療法士に必要な視野を広げる。 また、実際に米国で実施されている理学療法技術やトレーニングを体験する。 異国の地での異文化交流を通し、人としての思考の幅を広げる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 米国で実施されている最先端の理学療法技術やトレーニングに触れ、今後の日本での学習へ活かすことを目指す | | | | | | |
| 評価方法と基準 | レポート(指定のワークブック、英語論文の和訳課題) 100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------|------|-------|--------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 1/13 | 講義・実習 | 合同オリエンテーションにて 米国での過ごし方を確認する | 随時配布した資料を確認 |
| 2 | 1/13 | 講義・実習 | 肩関節に対するアプローチを体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 3 | 1/20 | 講義・実習 | 足関節に対するアプローチを体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 4 | 1/20 | 講義・実習 | 米国における医療に関する法律を理解する | 随時配布した資料を確認 |
| 5 | 1/27 | 講義・実習 | ピラティスアプローチを体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 6 | 1/27 | 講義・実習 | 物理療法アプローチを体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 7 | 2/3 | 講義・実習 | 筋カトレーニングを体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 8 | 2/3 | 講義・実習 | バランストレーニングを体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 9 | 2/10 | 講義・実習 | ウォーミングアップの重要性を理解し、体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 10 | 2/10 | 講義・実習 | クールダウンの重要性を理解し、体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 11 | 2/17 | 講義・実習 | 米国におけるトレーナー活動を述べることができる | 随時配布した資料を確認 |
| 12 | 2/17 | 講義・実習 | スポーツ選手の評価について説明できる | 随時配布した資料を確認 |
| 13 | 2/24 | 講義・実習 | 米国理学療法士について述べるができる | 随時配布した資料を確認 |
| 14 | 2/24 | 講義・実習 | ホスピタリティの概要を説明できる① | 随時配布した資料を確認 |
| 15 | 3/3 | 講義・実習 | ホスピタリティの概要を説明できる② | 随時配布した資料を確認 |
| | 3/3 | 試験 | 指定レポート冊子を提出 | 配布資料の復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 授業内で学んだことのメモから都度まとめ作業を実施すること | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

世界の理学療法における動向の資料を配布、理学療法海外研修の手引き

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|------|-----------------|
| 科目名 (英) | 臨床心理学 (Clinical Psychology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 江崎浩明 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 通年 木曜 5時限 |
| 教員の略歴 | 大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約15年間、教育、相談業務に従事。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 他の心理学との違いや精神医学・社会学等関連領域との関係性について学ぶことで、心の問題を理解するために必要な臨床心理学的視点の獲得を目指します。その為に、ある人間の今を「人格理論」から、なぜそうだったかを「発達理論」から類推し、面接技法や心理検査も用いて仮説-検証していくモデルを学びます。また、さまざまな精神症状・精神疾患の特徴を学ぶことによって、「なんか変な人・おかしな人」という捉え方から「何らかの特徴によって生き辛さを感じている人」という捉え方にシフトし、差別的な関わりからより援助的な関わりができるように多様な視点の獲得を試みます。これらを学ぶ過程から、自分自身に対する劣等感や不全感を軽減し、問題を抱えながらもそれと上手く折り合いをつけ、たくましく生きていける精神的タフさ・粘り強さの獲得を目指します。 | | | | | | |
| 到達目標 | 一般的又は医学的な問題把握ではなく、医学が捉えきれない心の問題について、臨床心理学的視点で捉えることができるようになる。 正常レベル・神経症レベル・精神病レベルの違いや、病識の有無、病態水準の概念について理解する。 代表的な人格理論と発達理論を学び、さらに各心理臨床家の人を捉える視点や枠組みの違いについて理解する。 他者理解のためにどのような情報が手がかりとなるかについて理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト(前期50%、後期50%) 国家試験出題レベルのマークシート方式 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---------|------|------|---|------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/21 | 講義 | 他の心理学との関連性や独自性を説明できる。 | | これまで学んだ心理学用語や概念を復習しておく。 |
| 2 | 5/28 | 講義 | 従来の医学的視点ではなく、臨床心理学的視点で捉えることの重要性を説明できる。 | | 医学で用いられる検査や機器では測定できない問題について考えておく。 |
| 3 | 6/4 | 講義 | 予後・過剰適応・過剰防衛や、完治・根治と寛解の違いを説明できる。 | | 人に何かを頼まれたら断りにくいタイプか、嫌なら平気で断れるタイプかを考えておく。 |
| 4 | 6/11 | 講義 | 表面に現れている発熱や頭痛等の症状と、その原因を同時並行に捉え対処する必要性を説明できる。 | | これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出しておく。 |
| 5 | 6/18 | 講義 | 「元通りになること」と「より適応的に変化すること」の違いについて説明できる。 | | これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出しておく。 |
| 6 | 6/25 | 講義 | DSM-5(診断基準)の内容と、正常レベル・神経症レベル・精神病レベルについて説明できる。 | | 自分の中での心の問題の重さや軽さの基準について考えておく。 |
| 7 | 7/2 | 講義 | 人格理論Ⅰ Freudの精神分析理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | | 意識と無意識、自分の欲求とそれを抑える気持ちについて考えておく。 |
| 8 | 7/9 | 講義 | 人格理論Ⅱ Jungの分析的心理学理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | | 自分の中の理想的な同性像・異性像、社会的な役割の仮面について考えておく。 |
| 9 | 7/16 | 講義 | 人格理論Ⅲ Rogersの来談者中心療法の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | | 受容や共感に代表される現代のカウンセリングのイメージについて考えておく。 |
| 10 | 7/23 | 講義 | 発達理論Ⅰ Mahler, Winnicottの発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | | 乳幼児期にいつも肌身離さず持ち歩いていた物を思い出しておく。 |
| 11 | 7/30 | 講義 | 発達理論Ⅱ Eriksonの漸成的発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。 | | 乳児期から高齢期までの8段階の発達段階と発達課題を復習しておく。 |
| 12 | 8/6 | 講義 | 他者理解のための基礎的情報(家計図の見方、既往歴・現病歴等)の扱い・捉え方について説明できる。 | | ”他者を理解するために集める情報”にはどのようなものがあるかについて考えておく。 |
| 13 | 8/27 | 講義 | 心理検査Ⅰ 種類と分類、代表的な発達検査と知能検査について説明できる。 | | 心理テストと心理ゲームの違いや、占い・オーラ等と何が違うかについて考えておく |
| 14 | 9/3 | 講義 | 復習: これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。 | | それぞれの単元の理解度をチェックしておく |
| | 9/8 | | 試験 | | |
| 15 | 9/10 | 講義 | 解説 | | |
| 16 | 9/17 | 講義 | 心理検査Ⅱ 代表的な性格検査(質問紙法・投影法・作業検査法)について説明できる。 | | 性格検査で測定可能なことと想定不可能なことは何かを考えておく。 |

| | | | | |
|------------------------------------|-------|----|--|--|
| 17 | 9/24 | 講義 | アセスメントⅠ 自閉スペクトラムについて説明できる。 | 自閉症と聞いてどのような病態像が頭に浮かぶが考えておく。 |
| 18 | 10/1 | 講義 | アセスメントⅡ AD/HD・学習障害を含む発達障害について説明できる。 | 落ち着きが無い子、動き回る子や、発達障害の病態像について考えておく。 |
| 19 | 10/8 | 講義 | アセスメントⅢ 情緒障害・母性剥奪症候群・虐待・不登校・知的能力障害等について説明できる。 | 自分や自分のまわりに居た不登校やひきこもりについて思い出しておく。 |
| 20 | 10/15 | 講義 | アセスメントⅣ 不安障害・パニック障害・摂食障害等について説明できる。 | 自分が抱える不安の種類・強度・持続期間について考えておく。 |
| 21 | 10/22 | 講義 | アセスメントⅤ うつ病・双極性障害について、その特徴や治療について説明できる。 | うつ病について、知っていることやイメージをまとめておく。 |
| 22 | 10/29 | 講義 | アセスメントⅥ 統合失調症について、その特徴や治療について説明できる。 | 統合失調症の病態像について考えておく。 |
| 23 | 11/5 | 講義 | アセスメントⅦ 認知症(アルツハイマー、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型)について説明できる。 | 認知症の種類や症状の違いについて考えておく。 |
| 24 | 11/12 | 講義 | 心理療法Ⅰ 非指示的心理療法・クライエント中心療法について説明できる。 | "カウンセリング"と言われて頭にどのようなイメージが湧くかを考えておく。 |
| 25 | 11/19 | 講義 | 心理療法Ⅱ 精神分析・分析的な心理療法について説明できる。 | 気がついたら無意識のうちに何かやっちゃっていったことを思い出しておく。 |
| 26 | 11/26 | 講義 | 心理療法Ⅲ 遊戯療法・音楽療法・箱庭療法・コラージュについて説明できる。 | まだ上手く言葉で辛さや不安を表現できない子どもへのサポート方法を考えておく。 |
| 27 | 12/3 | 講義 | 心理療法Ⅳ 自律訓練法・家族療法・森田療法について説明できる。 | 自分の家族のそれぞれの人間関係について考えておく。 |
| 28 | 12/10 | 講義 | 心理療法Ⅴ 認知行動療法について説明できる。 | 辛いときやストレスでつぶれそうな時、いつも頭に浮かぶ事やとってしまう行動について考えておく。 |
| 29 | 12/17 | 講義 | これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。 | それぞれの単元の理解度をチェックしておく |
| | 12/18 | | 試験 | |
| 30 | 1/7 | 演習 | 聴くスキル 演習 | 自分にとって大事・大切な人が困っている時を想定しておく。 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 心とかかわる臨床心理 基礎・実践・方法[第3版] (ナカニシヤ出版) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------|-------------|-----------|---------------|------------------|
| 科目名 (英) | 理学療法評価学Ⅱ (Evaluation of PTⅡ) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 塚野智史 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 曜日・時間 | 通年 火3・4限 目 |
| 教員の略歴 | 理学療法士として11年の臨床経験を有する。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①理学療法を行う上で対象者の状態を正確に把握する事は不可欠である。この授業では対象者の状態を「評価」するための知識、方法を学ぶ。 ②これまで学習してきた基礎科目や今後学習する科目すべてに関係する。 ③授業だけではこの単元を理解・習得する事は出来ない。必ず復習や実技練習をすること。その結果、臨床実習で対象者に適切な評価項目を選択し、正確に実施できるようになってもらいたい。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①授業内容が座学、実技に関わらず、復習を必ず行う。 ②代表的な理学療法評価の方法や関連する知識を憶え、実技をできるようになる。 ③国家試験の「評価学」の問題を60%程度正答できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)定期試験50% 2)実技テスト40% 3)授業内態10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|------|-------|-------------------------------|--------------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 6/2 | 講義・演習 | オリエンテーション 評価の流れを説明することができる | 教科書2～14ページ、 272～277ページを予習する |
| 2 | 6/2 | 講義・演習 | 痛みの評価、知覚検査を行う事ができる | 教科書117～130ページを予習する |
| 3 | 6/9 | 講義・演習 | 深部腱反射、病的反射を実践できる | 教科書131～144ページを予習する |
| 4 | 6/9 | 講義・演習 | 深部腱反射、病的反射を実践できる | 教科書131～144ページを予習する |
| 5 | 6/16 | 講義・演習 | 筋緊張検査を実践できる | 教科書151～158ページを予習する |
| 6 | 6/16 | 講義・演習 | 筋緊張検査を実践できる | 教科書151～158ページを予習する |
| 7 | 6/23 | 講義・演習 | 協調性検査を実践できる | 教科書251～258ページを予習する |
| 8 | 6/23 | 講義・演習 | 片麻痺機能検査を実践できる | 教科書259～287ページを予習する |
| 9 | 6/30 | 講義・演習 | 片麻痺機能検査を実践できる | 教科書259～288ページを予習する |
| 10 | 6/30 | 講義・演習 | 片麻痺機能検査を実践できる | 教科書259～289ページを予習する |
| 11 | 7/7 | 講義・演習 | 整形外科疾患検査を実践できる | 教科書193～207ページを予習する |
| 12 | 7/7 | 講義・演習 | 整形外科疾患検査を実践できる | 教科書193～207ページを予習する |
| 13 | 7/14 | 講義・演習 | 整形外科疾患検査を実践できる | 教科書193～207ページを予習する |
| 14 | 7/14 | 講義・演習 | 整形外科疾患検査を実践できる | 教科書193～207ページを予習する |
| | 7/21 | 実技試験 | OSCE2 | |
| 15 | 7/21 | 講義・演習 | バランス検査を実践できる | 教科書145～150ページを予習する |
| 16 | 7/21 | 講義・演習 | バランス検査を実践できる | 教科書145～150ページを予習する |
| 17 | 7/28 | 講義・演習 | 姿勢反射検査を実践できる | 教科書235～250ページを予習する |
| 18 | 7/28 | 講義・演習 | 姿勢反射検査を実践できる | 教科書235～250ページを予習する |
| 19 | 8/4 | 講義・演習 | 運動発達検査を説明できる | 教科書217～234ページを予習する |

| | | | | |
|---|------|-------|-----------------------------|--------------------|
| 20 | 8/4 | 講義・演習 | 高次脳機能検査を説明できる | 教科書299～306ページを予習する |
| 21 | 8/25 | 講義・演習 | 呼吸・循環・代謝機能検査を説明できる | 教科書315～333ページを予習する |
| 22 | 8/25 | 講義・演習 | 呼吸・循環・代謝機能検査を説明できる | 教科書315～333ページを予習する |
| 23 | 9/1 | 講義・演習 | 姿勢・動作を観察し文章で表現できる | 教科書243～251ページを予習する |
| 24 | 9/1 | 講義・演習 | 姿勢・動作を観察し文章で表現できる | 教科書243～251ページを予習する |
| 25 | 9/8 | 講義・演習 | 姿勢・動作を観察し文章で表現できる | 教科書243～251ページを予習する |
| 26 | 9/8 | 講義・演習 | 姿勢・動作を観察し文章で表現できる | 教科書243～251ページを予習する |
| 27 | 9/15 | 講義・演習 | 姿勢・動作を観察し文章で表現できる | 教科書243～251ページを予習する |
| 28 | 9/15 | 講義・演習 | 姿勢・動作を観察し文章で表現できる | 教科書243～251ページを予習する |
| 29 | 9/29 | 講義・演習 | 統合と解釈、問題点抽出、 評価の流れを説明できる | 教科書2～14ページを予習する |
| 30 | 9/29 | 講義・演習 | 統合と解釈、問題点抽出、 評価の流れを説明できる | 教科書2～14ページを予習する |
| | 10/2 | 試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | 【準備物】 KC、評価道具 | |
| ①理学療法評価学(第6版) ②新・徒手筋力検査法 ③ベッドサイドの神経の診かた 他 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|----------|-----------|-------------|-----------|------|--------------------|
| 科目名 (英) | 理学療法海外セミナー (International Training of PT) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 片岡洋樹 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義・実 習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 後期 曜日・時限 水1・2限目 |
| 教員の略歴 | 理学療法免許取得後11年経過、米国理学療法にも数回触れ、通訳の経験を有する | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 米国と日本における理学療法士のステータス、学習内容、技術・知識、社会情勢の違いを学ぶことで、理学療法士に必要な視野を広げる。 また、実際に米国で実施されている理学療法技術やトレーニングを体験する。 異国の地での異文化交流を通し、人としての思考の幅を広げる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 米国で実施されている最先端の理学療法技術やトレーニングに触れ、今後の日本での学習へ活かすことを目指す | | | | | | |
| 評価方法と基準 | レポート(指定のワークブック、英語論文の和訳課題) 100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------|------|------------------------------|--------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 1/13 | 講義・実習 | 合同オリエンテーションにて 米国での過ごし方を確認する | 随時配布した資料を確認 |
| 2 | 1/13 | 講義・実習 | 肩関節に対するアプローチを体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 3 | 1/20 | 講義・実習 | 足関節に対するアプローチを体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 4 | 1/20 | 講義・実習 | 米国における医療に関する法律を理解する | 随時配布した資料を確認 |
| 5 | 1/27 | 講義・実習 | ピラティスアプローチを体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 6 | 1/27 | 講義・実習 | 物理療法アプローチを体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 7 | 2/3 | 講義・実習 | 筋カトレーニングを体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 8 | 2/3 | 講義・実習 | バランストレーニングを体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 9 | 2/10 | 講義・実習 | ウォーミングアップの重要性を理解し、体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 10 | 2/10 | 講義・実習 | クールダウンの重要性を理解し、体験する | 随時配布した資料を確認 |
| 11 | 2/17 | 講義・実習 | 米国におけるトレーナー活動を述べることができる | 随時配布した資料を確認 |
| 12 | 2/17 | 講義・実習 | スポーツ選手の評価について説明できる | 随時配布した資料を確認 |
| 13 | 2/24 | 講義・実習 | 米国理学療法士について述べるができる | 随時配布した資料を確認 |
| 14 | 2/24 | 講義・実習 | ホスピタリティの概要を説明できる① | 随時配布した資料を確認 |
| 15 | 3/3 | 講義・実習 | ホスピタリティの概要を説明できる② | 随時配布した資料を確認 |
| | 3/3 | 試験 | 指定レポート冊子を提出 | 配布資料の復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | 授業内で学んだことのメモから都度まとめ作業を実施すること | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

世界の理学療法における動向の資料を配布、理学療法海外研修の手引き

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------|-------------|-----------|------|--------------------------------|
| 科目名 (英) | 物理療法学実習 (Practice of Physical Agents) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 古川雅一 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義・実 習 | 総時間 (単位) | 45 (1) | 開講区分 | 前・後期 月・金曜 曜日・時限 1・2時限 |
| 教員の略歴 | 2009/4 理学療法士免許取得 2009-2013 一般病院勤務(大阪府) 2013-2017 理学療法士養成校教員(兵庫県) 2017-2019 青年海外協力隊参加(キルギス) 臨床現場での物理療法の実施および学生への指導 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 物理療法学で学んだ知識を基に、それぞれの物理療法機器の取り扱い方法を学びリスク管理を行いながら実際に使用する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 適応・リスク管理を把握しながら物理療法の機器の使用を経験する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 試験(80%)、課題レポート(20%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|------|------|------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 6/29 | 講義 | 物理療法の適応となる疾患を理解する① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 2 | 7/6 | 講義 | 物理療法の適応となる疾患を理解する② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 3 | 7/6 | 講義 | 物理療法の適応となる疾患を理解する③ | 指定教科書該当ページの予読 |
| 4 | 7/13 | 講義 | 物理刺激の人体への作用を理解する① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 5 | 7/13 | 講義 | 物理刺激の人体への作用を理解する② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 6 | 7/20 | 講義 | 物理刺激の人体への作用を理解する③ | 指定教科書該当ページの予読 |
| 7 | 7/20 | 講義 | ホットパックの実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 8 | 7/27 | 講義 | パラフィン浴の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 9 | 7/27 | 講義 | 寒冷療法(クリッカー)の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 10 | 8/3 | 講義 | 水治療法の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 11 | 8/3 | 講義 | 赤外線療法の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 12 | 8/24 | 講義 | 極超短波療法の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 13 | 8/24 | 講義 | 超音波療法の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 14 | 8/31 | 講義 | 電気刺激療法の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 15 | 8/31 | 講義 | 牽引療法の実施手順を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 16 | 10/9 | 実習 | ホットパックを実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 17 | 10/9 | 実習 | パラフィン浴を実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |

| | | | | |
|---|-------|-------------------------------|-------------------|---------------|
| 18 | 10/16 | 実習 | 寒冷療法(クリッカー)を実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 19 | 10/16 | 実習 | 赤外線療法を実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 20 | 10/23 | 実習 | 極超短波療法を実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 21 | 10/23 | 実習 | 超音波療法を実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 22 | 10/30 | 実習 | 電気刺激療法を実施できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 23 | 10/30 | 実習 | 牽引療法を実施できる | |
| | 11/6 | 試験 | 筆記試験にて理解度を確認する | |
| 準備学習 時間外学習 | | 講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 使用教科書:PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第1版(羊土社) | | | | |
| 参考書:物理療法学 改定第2版(金原出版)、機能障害科学入門(神陵文庫)、理学療法学テキストⅣ物理療法 第2版(神陵文庫) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|------|-------------------|
| 科目名 (英) | 物理療法学 (Physical Agents) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 古川 雅一 |
| 学科・コース | 理学療法学科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 月曜 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 2009/4 理学療法士免許取得 2009-2015 一般病院勤務(大阪府) 2015-2017 理学療法士養成校教員 (兵庫県) 2017-2019 青年海外協力隊参加(キルギス) 臨床現場での物理療法の実施および学生や同僚への指 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士法及び作業療法士法の中で物理的刺激を加えることが理学療法の手段の一つとして記載されている。本授業は講義を中心に行い各物理療法の特徴や実施方法、禁忌事項等に加え、物理療法が適応となる炎症や疼痛、関節可動域制限のメカニズムと物理刺激を加えた際の生理学的変化などについて学ぶ。後期の物理療法学実習にて一定の知識を持ち各機器を使用できるよう本授業にて備える。 | | | | | | |
| 到達目標 | 物理療法の種類が理解できる 物理療法が適応となることの多い炎症・疼痛・関節可動域制限等の症状において物理刺激を加えた際の生理学的変化が理解できる 各物理療法の特徴や実施手順、禁忌事項等を理解できる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験(本試験80%、課題レポート20%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|------|------|--------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/11 | 講義 | 物理療法の概要とリスク管理が説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 2 | 5/11 | 講義 | 物理療法が適応となる炎症について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 3 | 5/18 | 講義 | 物理療法が適応となる疼痛について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 4 | 5/18 | 講義 | 物理療法が適応となるROM制限について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 5 | 5/25 | 講義 | 温熱について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 6 | 5/25 | 講義 | 温熱療法の特徴と実施方法について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 7 | 6/1 | 講義 | 電磁波について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 8 | 6/1 | 講義 | 超短波療法・極超短波療法について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 9 | 6/8 | 講義 | 光線療法の特徴と実施方法について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 10 | 6/8 | 講義 | 音波療法の特徴と実施方法について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 11 | 6/15 | 講義 | 電気刺激について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 12 | 6/15 | 講義 | 電気刺激療法について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 13 | 6/22 | 講義 | 寒冷療法・水治療法について説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 14 | 6/22 | 講義 | 牽引療法・圧迫療法・振動刺激療法を説明できる | 指定教科書の予読、課題作成 |
| 15 | 6/23 | 試験 | | |
| 16 | 6/29 | 講義 | テスト解説(総復習) | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 指定教科書の予読、課題作成 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

使用教科書:PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第1版(羊土社)

参考書:物理療法学 改定第2版(金原出版)、機能障害科学入門(神陵文庫)、理学療法学テキストⅣ物理療法 第2版(神陵文庫)

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-----------------|-------------|-------------|------|----------------------|
| 科目名 (英) | 理学療法評価学実習 (Physical therapy evaluation clinical practicum) | 必修 選択 | 必修・選択必 修・選択等 | 年次 | 2 | 担当教員 | 佐藤美紀 |
| 学科・コース | 理学療法学科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義・演習・実 習等 | 総時間 (単位) | 45 (1単位) | 開講区分 | 後期 曜日・時限 火3-4限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、臨床歴：1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月アイサービス勤務。 2002年4月～2007年12月病院・老健施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・指導)。 2014年4月～高齢者の健康増進教室。 講師歴・介助法講習会講師、臨床動作分析講習会講師、他 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①理学療法は評価に始まり評価に終わると言われている。適切な治療を提供する上で、信頼性のある評価技術や統合と解釈能力は絶対条件である。 ②評価学Ⅰ・Ⅱで学習したもの(形態測定法、関節可動域検査法、徒手筋力検査法、反射検査、感覚検査など)を実際に体験しながら深い理解につなげる。統合と解釈には様々な知識が必要となる。 ③自信がつくまで反復練習を重ねて欲しい。自分の身体の動かし方を覚えて欲しい。 授業では技術の確認だけでなく、統合と解釈につなげるための基礎知識を復習していく。 各評価をつなげ統合と解釈の仕方を理解し、問題点抽出までを学ぶ。 健康老人の評価体験やOSCE2(実技試験)を通して準備と対策を踏まえ技術を身につける。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①理学療法評価学における代表的な検査、測定法を習得する。 ②目的に応じた評価項目を想起でき、かつそれを実施することができるようになる。 ③評価した数値や内容の意味を理解し、各評価をつなげ統合と解釈できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験 30% 2) 実技試験 30% 3) レポート30%(発表も含む) 4) 授業内評価他10%(服装・持ち物・授業内参加度など) | | | | | | |

服装

* 半袖Tシャツ・短パンまたはジャージやユニホームで動きやすい服装かつ膝・肘など出せるもの
ジーンズなど不適切な服装は授業内評価で減点とする。

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|--------|-------|--|--------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 10月6日 | 講義・実技 | 可動域変化させる筋の影響を推測できる。 | ROM測定復習(軸や角度の暗記) |
| 2 | 10月6日 | 実技 | ROM計測の精度を増して実施できる。 | |
| 3 | 10月13日 | 講義・実技 | 関節の遊びの確認、アライメントを理解できる。ROMの制限因子を病態と関連付けることができる。 | 形態計測復習 関節の構造復習 |
| 4 | 10月13日 | 実技 | 形態計測・アライメント・モビリティ検査を実践できる。 | |
| 5 | 10月20日 | 講義・実技 | 筋の厚み・角度などから筋力低下を予測できる。 | MMT復習(グレード手技・代償など) |
| 6 | 10月20日 | 実技 | 筋力計測の精度を増して実施できる。 | |
| 7 | 10月27日 | 講義・実技 | 整形外科の疾患名・経過・禁忌などから必要検査項目を抽出できる。 | |
| 8 | 10月27日 | 実技 | 整形疾患の検査項目を実施できる。 | |
| 9 | 11月10日 | 講義・実技 | 筋出力を変化させる因子(協調性・知覚循環・麻痺・筋緊張など)を理解できる。 | 協調性、感覚、筋緊張の復習 |
| 10 | 11月10日 | 実技 | 協調性、感覚、筋緊張の検査が実践できる。 | |
| | | 実技試験 | 整形における基礎的な検査技術が実施できる。 | (12月16日再試) |
| 11 | 11月17日 | 講義・実技 | 姿勢を変化させる因子を学び、姿勢から変化させる評価項目を考えることができる。 | |
| 12 | 11月17日 | 実技 | 線画で姿勢を表現できる。 | |

| | | | | |
|--|--------|-------|------------------------------------|-----------------|
| 13 | 11月24日 | 講義・実技 | 動作を変化させる因子を学び、姿勢との関連を考えることができる。 | |
| 14 | 11月24日 | 実技 | 姿勢分析が実践できる。 | |
| 15 | 12月1日 | 講義・実技 | バランスに影響する評価項目を挙げられる。 | 配布文献「バランス機能」を熟読 |
| 16 | 12月1日 | 実技 | バランステストが実践できる。 | |
| 17 | 12月8日 | 演習 | 問診～評価までを体験する。 | |
| 18 | 12月8日 | 実技 | 問診～評価までを実践できる。 | |
| 19 | 12月15日 | 実技 | 健常者での評価を実践できる。 | |
| 20 | 12月15日 | 演習 | レポート作成を通し、情報の処理の仕方を実践できる。 | レポート作成(症例報告形式) |
| 21 | 1月19日 | 実技 | 中枢神経疾患の評価項目を挙げることができる。 | ブルンストロームステージ復習 |
| 22 | 1月19日 | 実技 | 中枢神経疾患の運動機能の基本的な検査が実施できる。 | |
| | 1月26日 | 本試験 | | |
| 23 | 1月26日 | 発表 | レポート内容のプレゼンテーションが実施できる。質疑応答に対応できる。 | (発表後レポート提出) |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】資料配布 ①標準理学療法評価学 ②新・徒手筋力検査法 参考:基礎運動学(医歯薬)、機能的解剖的触診技術(メジカルビュー)、ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) | | | | |

実技試験について

日時:12月9日(月)1~4限目 *4グループに分けて時間を指定する予定

場所:機能訓練室

服装:指定のユニホームと靴、学生証

*爪・髪型、装備品など適切な身なりであること

持ち物:ゴニオメーター、打腱器、テープメジャー

試験内容:指定された整形外科疾患の検査・測定技術(問診～ROM/MMT/形態計測/感覚検査など)

再試:12月16日

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 日常生活活動学実習 (Activities of daily living science training) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 佐藤美紀 |
| 学科・コース | 理学療法学科・I部Bクラス | 授業 形態 | 実習 | 総時間 (単位) | 45 (1単位) | 開講区分 | 通年 金・1-4限 |
| 教員の略歴 | 理学利用法氏、臨床歴:1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月デイサービス勤務。 2002年4月～2007年12月病院・老健施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・指導)。 介護歴:2009年2月～2012年3月、2017年6月～高齢者介護。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①「ハビタ」プログラムの目指す最終目的はQOLの向上である。運動療法だけでは生活の改善に限界がある。それ故、如何に機能を代償し、工夫した動きを獲得し、それを生活に実践できる必要がある。日常生活活動学では機能と生活を結びつけながら、これらの応用を学ぶ。 ②ADLは動作であり、病態運動学が基盤となる。このため、基礎には運動学が不可欠となる。ADLを学ぶことで、評価学・運動療法学を深めて行ける。ADL学の次のステップとして知識を実践するのがADL学実習である。 ③患者とその家族のQOL向上に貢献できるような理学療法を提供できるようになって欲しい。 PTとして治療につながる介助法を身につける。障害の特徴を体験し、動作の評価からADL指導までの実際を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 起居動作を介助で安全に実施できるようになる。 障害の特徴を押さえた動作を体験した上で、疾患別にADL指導のポイントにそって実施できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)本試験70% 2)実技試験20% 3)服装、授業参加度10% *動きやすい服装 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|-------|---|-------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 7月3日 | 講義・実技 | 介助の基本原則を説明できる。 | |
| 2 | 7月3日 | 実技 | 起居動作の一人介助を健常者で実施できる。 | |
| 3 | 7月10日 | 実技 | 移乗動作の一人介助(車椅子上で姿勢を整えるまで)を健常者で実施できる。 | |
| 4 | 7月10日 | 実技 | 移乗動作の二人介助を健常者で実施できる。 | |
| 5 | 7月17日 | 実技 | 三人介助でリフティングを実施できる。 | |
| 6 | 7月17日 | 実技 | 食事介助を健常者で実施できる。 | ゼリーとスプーン、飲み物とコップ、タオルを持参 |
| 7 | 7月24日 | 講義・実技 | 身体変化における動作への影響を説明できる。 | |
| 8 | 7月24日 | 実技 | 身体変化における動作への影響を健常者で調べることができる。 | |
| 9 | 7月31日 | 講義・実技 | RAの疾患特異性を理解し、関節保護・痛み・生活リズムのADL指導を説明できる。 | RAについて調べる |
| 10 | 7月31日 | 実技 | 関節保護を意識したADL指導を実施できる。 | |
| 11 | 8月7日 | 講義・実技 | 変形性股関節症の疾患の特異性を理解し、時期に応じた注意点を説明できる。 | 変形性股関節症・膝関節症について調べる |
| 12 | 8月7日 | 実技 | 股脱臼予防をした動作を健常者で実施できる。 | |
| 13 | 8月28日 | 講義・実技 | 切断の質量変化、義足の限界を理解し、拘縮予防や動き方の注意点を説明できる。 | 糖尿病からの切断について調べる |
| 14 | 8月28日 | 実技 | 義足での安全な動き方を指導できる。 | |
| 15 | 9月4日 | 講義・実技 | 脊髄損傷の損傷レベルの違いによる可能な動きや動作を説明できる。 | 筋と感覚の髄節レベルについて調べる |
| 16 | 9月4日 | 実技 | レベルごとの動きを実施できる。 | |
| 17 | 9月11日 | 講義・実技 | 片麻痺の特徴を理解し、体性感覚の必要性を説明できる。 | 脳の部位とその機能について調べる |
| 18 | 9月11日 | 実技 | 片麻痺の安全性を重視したADLの仕方を実施できる。 | |
| 19 | 9月18日 | 講義・実技 | 脳性麻痺タイプ別の特徴的な動きを説明できる。 | |
| 20 | 9月18日 | 実技 | 発達における介入の仕方を説明できる。 | 基本動作の獲得時期について調べる |
| 21 | 9月25日 | 講義・実技 | パーキンソンの特徴的な動きを理解し、転倒対策を説明できる。 | パーキンソンの病態を調べる |
| 22 | 9月25日 | 実技 | 転倒対策を考慮した立位・歩行、立ち上がりを実施できる。 | |
| | 10月2日 | 本試験 | | |
| 23 | 10月2日 | 講義・演習 | FIMの評価を実践できる。問題点でのADLの位置付けを説明できる。 | |

| | |
|------------|--|
| 準備学習 時間外学習 | |
|------------|--|

【使用教科書・教材・参考書】

1-8回は介助法テキスト配布。9-23回は標準理学療法学「日常生活活動学・生活環境学」(医学書院)、ADL実習テキスト配布。

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----------|-------------|-----------|---------------|-------------------|
| 科目名 (英) | 日常生活活動学 (Activities of Daily Living) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 石田広 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 演習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 水曜 3・4時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、1993年～現在総合病院の急性期リハ、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問リハ、養成校等の開設及び業務に従事 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①日常生活活動についてその概念と成り立ちを理解し理学療法における位置づけを学ぶ。 ②日常生活活動学実習と共に日常生活活動の概要を学び全ての科目と関連があることを理解する。 ③日常生活活動がどのような構成になっているのかを理解し理学療法に取り組むモチベーションにして欲しい。 ④日常生活活動を普遍的に評価できるようになるため概念、定義、具体的評価方法を講義と演習で展開する。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①日常生活活動の定義と概念を説明できるようになる。 ②日常生活活動の各行為を分類し普遍的に評価できるようになる。 ③日常生活活動の各種の評価方法を述べ状況に応じて使用できるようになる。 ④日常生活活動とICFの関係を理解しICFの他の要素と関連づけて説明できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験、課題レポート、口頭試問にて知識技能の到達評価を行う。 定期試験50%、授業内レポート30%、口頭試問5%、出席点15%の割合で成績評価を実施する。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------------|------|--|----------------------|-------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/15 | 講義 | 日常生活活動の定義が述べられる | プリント学習 |
| 2 | 5/15 | 講義 | 日常生活活動の概念が説明できる | プリント学習 |
| 3 | 5/22 | 演習 | 食事行為を要素に分類し述べられる | 議論、発表プレゼン準備 |
| 4 | 5/22 | 演習 | 排泄行為を要素に分類し述べられる | 議論、発表プレゼン準備 |
| 5 | 5/29 | 演習 | 入浴行為を要素に分類し述べられる | 議論、発表プレゼン準備 |
| 6 | 5/29 | 演習 | 整容行為を要素に分類し述べられる | 議論、発表プレゼン準備 |
| 7 | 6/3 | 演習 | 生活関連行為を要素に分類し述べられる | 議論、発表プレゼン準備 |
| 8 | 6/3 | 講義 | 日常生活活動の実際を概観する | ビデオ教材の視聴とレポート |
| 9 | 6/10 | 講義 | 各種のADL評価方法を使用できる | プリント学習 |
| 10 | 6/10 | 講義 | 各種のADL評価方法を使用できる | プリント学習 |
| 11 | 6/17 | 講義 | FIMの評価方法のマニュアルを説明できる | プリント学習 |
| 12 | 6/17 | 講義 | FIMでのADLの評価ができる | プリント学習 |
| 13 | 6/24 | 講義 | 姿勢の種類を述べられる | 論文抄読 |
| 14 | 6/24 | 実技 | 各種の姿勢を実施できる | 実技練習 |
| | 6/30 | 定期試験 | 筆記試験にて実施 | |
| 15 | 7/1 | 講義 | 定期試験の解説 | レポート作成(誤回答を再確認する) |
| 準備学習 時間外学習 | | 準備学習はテキストを事前に読んでおく。時間外学習は体験したことを自分の体験を重ねてみる。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 日常生活活動学・生活環境学 第5版(医学書院) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|---------------|-------------|-----------|---------------|-------------------|
| 科目名 (英) | 生活環境学 (Environment for A Human Life) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 石田広 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義・演習 及び実技 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 金曜 1・2時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、1993年～現在総合病院の急性期リハ、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問リハ、養成校等の開設及び業務に従事 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①生活環境について学ぶことにより適切な環境整備ができるようになるためにこの教科を学ぶ必要がある ②日常生活活動学や社会保障制度に関する科目との関連が深くこれらの知識を生かして環境整備を実施する必要がある ③生活環境整備についての知識を身につけ障害やニーズに即した適切な環境整備ができるようになる ④障害の特性と生活環境の関連性、バリアフリーとユニバーサルデザイン、福祉用具の適応、住環境整備等について学ぶ ⑤講義・演習に加えて校外学習も含め実地研修も実施し具体的に学ぶ機会を設ける | | | | | | |
| 到達目標 | ①バリアフリーとユニバーサルデザインについてその概念を理解し説明できるようになる ②福祉用具の適応について理解し障害に即して具体的な適応が実施できるようになる ③住環境整備について建築関係の情報も理解でき適切なアドバイスが実施できるようになる ④福祉車両について種類及び装備を理解し障害に対応した適応を判断できるようになる ⑤家庭復帰や社会復帰における環境整備の役割を説明でき実践できるようになる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験、課題レポート、口頭試問にて知識技能の到達評価を行う。 定期試験50%、授業内レポート30%、実習レポート5%、出席点15%の割合で成績評価を実施する。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-------------------------|------|---|------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 6/5 | 講義 | 生活環境とは何かを説明できるようになる | 教科書及びプリント学習 |
| 2 | 6/5 | 講義 | 生活環境を構成する要素を述べることができる | 教科書及びプリント学習 |
| 3 | 6/12 | 講義 | バリアフリーについて説明できる | 教科書及びプリント学習 |
| 4 | 6/12 | 講義 | ユニバーサルデザインについて説明できる | 教科書及びプリント学習 |
| 5 | 6/19 | 講義 | 福祉用具の種類について述べられる | 教科書及びプリント学習 |
| 6 | 6/19 | 演習 | 福祉用具のカタログを利用することができる | プレゼン準備 |
| 7 | 6/26 | 講義 | 福祉用具と障害を関連づけることができる | 教科書及びプリント学習 |
| 8 | 6/26 | 演習 | 福祉用具の適応が判断できる | レポート作成 |
| 9 | 7/15 | 講義 | 住環境整備に必要な建築関係の法規や設備について述べられる | 教科書及びプリント学習 |
| 10 | 7/22 | 講義 | 住環境整備の流れについて述べられる | 教科書及びプリント学習 |
| 11 | 7/22 | 演習 | 住宅図面を作成することができる | レポート作成 |
| 12 | 7/29 | 演習 | 住宅環境整備の具体例に沿ってアドバイスができる | 議論 |
| 13 | 7/29 | 実習 | 福祉車両の種類を述べられる | レポート作成 |
| 14 | 8/5 | 実習 | 障害と福祉車両の適応を判断できる | レポート作成 |
| | 8/5 | 定期試験 | レポート | |
| 15 | 8/5 | 講義 | 試験解説およびまとめ | アンケート |
| 準備学習 時間外学習 | | 準備学習はテキストを事前に読んでおく。時間外学習は体験したことを自分の体験を重ねてみる | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 日常生活活動学・生活環境学 第5版(医学書院) | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|--------------|----------|----|-------------|-----------|---------------|--------------------|
| 科目名 (英) | 整形外科学 (Orthopedic Surgery) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 吉田 新一郎 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 前後期 金曜 3・4時限 |
| 教員の略歴 | 整形外科医として10年勤務し、専門学校非常勤講師として整形外科学の講義を担当の経験を有する | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 国家試験に合格し、理学療法士として実臨床に臨む上で、整形外科学は必須の学習項目である。超高齢社会となった本邦においては、高齢者の運動器疾患が増加しており、理学療法における運動器疾患のウエイトは大きなものである。本講義を受ける学生には、社会貢献ができる理学療法士になることを期待している。本講義では、国家試験対策はもちろん、実臨床で役立つ知識を身に付けることを目標とし、現場の生きた経験に基づく講義を行う予定である。 | | | | | | | |
| 到達目標 | ①本邦における運動器疾患に対する理学療法の重要性を理解する。 ②理学療法士国家試験に合格しうる十分な知識を習得する。 ③実臨床で役立つ知識や考え方を身に付ける。 ④運動器に対する学問的興味を深め、学問の発展の重要性と、それに寄与する研究活動の重要性を理解する。 | | | | | | | |
| 評価方法及び基準 | 定期試験100%(前期、後期の2回実施) | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------|------|----------------------------|-------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/14 | 講義 | 整形外科総論を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 2 | 5/14 | 講義 | 各種検査治療法の概要を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 3 | 5/21 | 講義 | 骨折総論を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 4 | 5/21 | 講義 | 上肢骨折を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 5 | 5/28 | 講義 | 体幹骨折を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 6 | 5/28 | 講義 | 下肢骨折を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 7 | 6/4 | 講義 | 骨軟部腫瘍①を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 8 | 6/5 | 講義 | 骨軟部腫瘍②を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 9 | 6/5 | 講義 | 神経筋疾患を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 10 | 6/12 | 講義 | 感染症を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 11 | 6/12 | 講義 | 変形性関節症を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 12 | 6/19 | 講義 | リウマチ類縁疾患を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 13 | 6/19 | 講義 | 先天性・骨系統・代謝性疾患①を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 14 | 6/26 | 講義 | 先天性・骨系統・代謝性疾患②を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 15 | 6/26 | 講義 | 先天性・骨系統・代謝性疾患③を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 16 | 7/3 | 講義 | 先天性・骨系統・代謝性疾患④を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 17 | 7/3 | 講義 | 脊髄損傷を説明できる | 講義プリントの復習 |
| | 7/7 | 試験 | 前期試験 | 前期分の講義の復習 |
| 18 | 7/10 | 講義 | 頸椎・頸髄部位を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 19 | 7/10 | 講義 | 胸腰椎部位を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 20 | 7/17 | 講義 | 末梢神経を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 21 | 7/17 | 講義 | 肩関節疾患を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 22 | 7/24 | 講義 | 肘関節疾患を説明できる | 講義プリントの復習 |
| 23 | 7/24 | 講義 | 手関節疾患を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 24 | 7/31 | 講義 | 股関節疾患を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 25 | 7/31 | 講義 | 膝関節疾患を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 26 | 8/7 | 講義 | 足関節・足部疾患を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 27 | 8/7 | 講義 | 骨端症①を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 28 | 8/28 | 講義 | 骨端症②を述べる事ができる | 講義プリントの復習 |
| 29 | 8/28 | 講義 | 総括 | 講義プリントの復習 |
| 29 | 9/4 | 試験 | 後期試験 | |
| 30 | 9/4 | 講義 | 試験解説 | 講義プリントの復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | 毎回配布される講義資料と教科書対応ページの復習が必要 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 標準整形外科学 第13版(医学書院) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|---------------|-------------------|
| 科目名 (英) | 神経内科学 (Neurology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 坂部貢 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 土曜 1-3時限 |
| 教員の略歴 | 医師、現在大学医学部の教授を兼任しつつ、医学部長を務める。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士に必要な神経内科学について実際の症例等を交えながら教授する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 理学療法士に必要な知識として、神経の特徴および疾患について理解する。同時に、神経内科学を理解することで理学療法に繋げることを目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|------|------|-----------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/5 | 講義 | 神経内科を理解するために必要な基礎知識について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 2 | 9/5 | 講義 | 神経系の構造と機能について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 3 | 9/5 | 講義 | 神経学的診断の意義について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 4 | 9/12 | 講義 | 神経学的診断の実際について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 5 | 9/12 | 講義 | 病歴と障害歴の聴取方法について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 6 | 9/12 | 講義 | 神経学的診察の手順について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 7 | 9/19 | 講義 | 意識障害について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 8 | 9/19 | 講義 | 神経症候学の基礎について理解する①頭痛やめまいなど | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 9 | 9/19 | 講義 | 神経症候学の基礎について理解する②感覚障害など | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 10 | 9/26 | 講義 | 神経症候学の基礎について理解する③失語症・失認など | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 11 | 9/26 | 講義 | 画像診断の基礎について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |

| | | | | |
|---|-------|----|-------------------------------|----------------|
| 12 | 9/26 | 講義 | 高次機能障害について理解する① | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 13 | 10/3 | 講義 | 高次機能障害について理解する② | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 14 | 10/3 | 講義 | 構音・嚥下障害について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 15 | 10/3 | 講義 | 脳神経外科学の疾患について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 16 | 10/10 | 講義 | 脳血管障害の診察・診断について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 17 | 10/10 | 講義 | 脳出血について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 18 | 10/10 | 講義 | 脳梗塞について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 19 | 10/17 | 講義 | 脳腫瘍について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 20 | 10/17 | 講義 | 認知症について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 21 | 10/17 | 講義 | 脊髄疾患について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 22 | 10/24 | 講義 | 錐体外路の変性疾患について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 23 | 10/24 | 講義 | パーキンソン病について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 24 | 10/24 | 講義 | その他中枢神経系疾患について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 25 | 10/31 | 講義 | 成人と小児に共通した神経疾患について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 26 | 10/31 | 講義 | てんかんについて理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 27 | 10/31 | 講義 | 多発性硬化症について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 28 | 11/7 | 講義 | 神経系の感染症について理解する | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 29 | 11/7 | 講義 | その他神経内科学的疾患について理解する① | 事前配布資料を読んでおくこと |
| 30 | 11/7 | 講義 | その他神経内科学的疾患について理解する② | 事前配布資料を読んでおくこと |
| | 11/13 | 試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ 病気がみえる VOL.7 脳・神経 2版(メディックメディア) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|------|-----------------|
| 科目名 (英) | 障害論 (Disability) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 今野 良紀 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 後期 月曜 3時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、病院にて回復期リハビリと介護保険領域のリハビリテーションを経験。専門学校教員としての教務とともに、市区町村からの介護予防委託事業や、理学療法士を対象とした講習会運営などに携わっている。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①リハビリテーション医学における障害について、専門職として必要な要素(用語)や基礎概念を理解する。 ②障害構造の理解に必要な『障害モデル(WHO)』についての課題を実施する。 ③障害に関する社会的トピックについて、意見交換や発表(ペアワーク)を実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 基礎的な社会福祉や障害、広義でのノーマライゼーションを説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験70%、プレゼンテーション評価30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---------|-------|------|-------------------------------------|----------------------|---------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/14 | 講義 | 「障害」とは何か | 【学習ヒント】(使用教科書を参考にする) | 「障害」、「障がい」 |
| 2 | 9/28 | 講義 | 「障害」の受容 | | 「障害受容」 |
| 3 | 10/5 | 講義 | 「障害」にかかわる専門家に求められること | | 「身体障害者福祉法」 |
| 4 | 10/12 | 講義 | 運動障害(肢体不自由)の規定 起因疾患と分類基準 | | 「身体障害者手帳」 |
| 5 | 10/19 | 講義 | ①リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF) | | 「WHO」、「ICIDH」、「ICF」 |
| 6 | 10/26 | 講義 | ②リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF) | | 「廃用症候群」 |
| 7 | 11/2 | 講義 | ③リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF) | | 「運動障害」「高次脳機能機能障害」 |
| 8 | 11/9 | 講義 | ④リハビリテーションにおける障害の捉え方 (ICIDH・ICF) | | 「発達障害」 |
| 9 | 11/16 | 講義 | ①ノーマライゼーションについて | | 「ノーマライゼーション」 |
| 10 | 11/30 | 講義 | ②ノーマライゼーションについて | | |
| 11 | 12/7 | 講義 | ペアワーク① プレゼンテーション準備 | | |
| 12 | 12/14 | 講義 | ペアワーク② プレゼンテーション準備 | | |
| 13 | 1/18 | 講義 | プレゼンテーション | | |
| 14 | 1/25 | 講義 | プレゼンテーション | | |
| | 1/26 | 定期試験 | 筆記試験 | | |
| 15 | 2/1 | 講義 | 総まとめ | | |

準備学習 時間外学習

講義理解に必要な用語について、授業の冒頭で小テストを行う。事前学習をすることでより理解しやすくなるを考える。

【使用教科書・教材・参考書】

理学療法学テキストⅠ 理学療法概論 神陵文庫
目でみるリハビリテーション医学 東京大学出版社
QOLと理学療法 三輪書店

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|------|----------------------------|
| 科目名 (英) | 一般臨床医学 (General Clinical Medicine) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 白木達也 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 後期 金曜 曜日・時限 1-3時限 |
| 教員の略歴 | 2010年 東北大学医学部医学科卒業 医師免許取得 仙台赤十字病院、東北大学病院、東北薬科大学病院、仙台市立病院を経て、東北大学病院 精神科に勤務。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 将来的に医療に関わっていく者として、医科診療の概要を学ぶ そのうち、本校にて別途授業のある診療科を除く眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・産 婦人科等の基礎知識・検査・主な疾患等について学習する | | | | | | |
| 到達目標 | 医科診療の概要、眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科等の基礎知識・検査・主 な疾患等を理解する | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(筆記) 100% ※レポートを含む場合あり | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|------|-----------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 12/18 | 講義 | 一般的に使用する用語について説明できる | 資料配布 |
| 2 | 12/18 | 講義 | 救急医療・外科の概要について 述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 3 | 12/18 | 講義 | 脳神経外科の概要について 述べることができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 4 | 1/8 | 講義 | 皮膚科疾患(1)について述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 5 | 1/8 | 講義 | 皮膚科疾患(2)について述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 6 | 1/8 | 講義 | 免疫・アレルギーについて述べるができる | 資料配布 |
| 7 | 1/15 | 講義 | 泌尿器科(1)について述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 8 | 1/15 | 講義 | 泌尿器科(2)について述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 9 | 1/15 | 講義 | 産婦人科(1)について述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 10 | 1/29 | 講義 | 産婦人科(2)について述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 11 | 1/29 | 講義 | 眼科疾患(1)について述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 12 | 1/29 | 講義 | 眼科疾患(2)について述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 13 | 2/5 | 講義 | 耳鼻咽喉科疾患(1)について述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 14 | 2/5 | 講義 | 耳鼻咽喉科疾患(2)について述べるができる | 指定教科書該当ページの予読 |
| | 2/5 | | 試験 | |
| 15 | 2/5 | 講義 | 総括、試験解説 | |

準備学習 時間外学習

授業前後で、該当分野の範囲を教科書中心に確認すること

【使用教科書・教材・参考書】

一般臨床医学・第3版(医歯薬出版株式会社) および 模型等の提示

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------|-------------|-----------|------|-----------------------------|
| 科目名 (英) | 運動学実習 (Practice in Kinesiology) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 今野良紀 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義・実習 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 前後期 月曜 曜日・時限 3,4時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、病院にて回復期リハビリと介護保険領域のリハビリテーションを経験。専門学校教員としての教務とともに、市区町村からの介護予防委託事業や、理学療法士を対象とした講習会運営などに携わっている。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 運動学の講義で得た基礎知識をもとに、実際に行われる関節運動や基本動作について理解を深める。前半の講義ではヒトの運動・動作の身体運動学的メカニズムについて、学生自身が運動学用語を用いて説明する課題を中心に実施する。後半の実習では課題ごとに決められた手続きにしたがって、実際の運動・動作を観察・計測・記録し、グループごとにレポートをまとめる課題を中心に実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 運動学的知識について実習を通し、病態運動学につながる臨床的視点を説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験80%、レポート20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------------------|---|-------|-----------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/12 | 講義 | オリエンテーション | |
| 2 | 5/12 | 講義 | 身体運動力学に必要な基礎用語を確認する | |
| 3 | 5/19 | 講義 | 運動と動作の見方を理解する | |
| 4 | 5/19 | 講義 | 運動パターンの理解と線画練習 | |
| 5 | 5/26 | 講義 | ①課題を用いて運動分析を行う(単関節) | |
| 6 | 5/26 | 講義 | ②課題を用いて運動分析を行う(多関節) | |
| 7 | 6/1 | 講義 | ③課題を用いて運動分析を行う(起居動作) | |
| 8 | 6/1 | 講義 | ④課題を用いて運動分析を行う(歩行動作) | |
| 9 | 6/8 | 講義・実習 | ①肩関節複合体の運動学を理解し、触診/動作観察および分析が行える | |
| 10 | 6/8 | 講義・実習 | ②肘関節・手関節の運動学を理解し、触診/動作観察および分析が行える | |
| 11 | 6/15 | 講義・実習 | ③股関節の運動学を理解し、触診・動作観察および分析が行える | |
| 12 | 6/15 | 講義・実習 | ④膝関節の運動学を理解し、触診・動作観察および分析が行える | |
| 13 | 6/22 | 講義・実習 | ⑤足関節の運動学を理解し、触診・動作観察および分析が行える | |
| 14 | 6/22 | 講義・実習 | ⑦脊柱・体幹の運動学を理解し、触診・動作観察および分析が行える | |
| 15 | 6/29 | 講義・実習 | ①バランス制御と筋活動の推定(静止肢位) | レポート提出(1回目) |
| 16 | 6/29 | 講義・実習 | ②バランス制御と筋活動の推定(静止肢位) | |
| 17 | 7/6 | 講義・実習 | ③バランス制御と筋活動の推定(静止肢位) | |
| 18 | 7/6 | 講義・実習 | ④バランス制御と筋活動の推定(静止肢位) | |
| 19 | 7/13 | 講義・実習 | ①起居動作の動作分析(線画作成が中心) | |
| 20 | 7/13 | 講義・実習 | ②起居動作の動作分析(線画作成が中心) | |
| 21 | 7/20 | 講義・実習 | ③起居動作の動作分析(線画作成が中心) | |
| 22 | 7/20 | 講義・実習 | ④起居動作の動作分析(線画作成が中心) | |
| | 7/21 | 試験 | | |
| 23 | 7/27 | 講義・実習 | ①起居動作の動作分析(関節運動の変化と筋活動の推定) | |
| 24 | 7/27 | 講義・実習 | ②起居動作の動作分析(関節運動の変化と筋活動の推定) | |
| 25 | 8/3 | 講義・実習 | ③起居動作の動作分析(関節運動の変化と筋活動の推定) | |
| 26 | 8/3 | 講義・実習 | ④起居動作の動作分析(関節運動の変化と筋活動の推定) | |
| 27 | 8/24 | 講義・実習 | ①歩行動作を観察・分析し、レポートにまとめることができる | |
| 28 | 8/24 | 講義・実習 | ②歩行動作を観察・分析し、レポートにまとめることができる | |
| 29 | 8/31 | 講義・実習 | ③歩行動作を観察・分析し、レポートにまとめることができる | |
| 30 | 8/31 | 講義・実習 | ④歩行動作を観察・分析し、レポートにまとめることができる | |
| | 9/1 | 試験 | | |
| 31 | 9/7 | 講義・実習 | 総まとめ | レポート提出(3回目) |
| 準備学習 時間外学習 | 1年次で学習した解剖学・運動学との関連が深いため、より理解を深めるために復習をして運動学実習の講義を受けることが望ましい。 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 基礎運動学 第6版 (医歯薬出版株式会社) | | | | |
| 筋骨格系のキネシオロジー (医歯薬出版株式会社) | | | | |
| 観察による運動・動作分析ノート(医歯薬出版株式会社) | | | | |
| 日常生活活動の分析 (医歯薬出版株式会社) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------|-------------|-----------|------|----------------------------|
| 科目名 (英) | 運動療法学 I (Movement Therapy I) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 片岡洋樹 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 水曜 曜日・時限 1・2時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士免許取得後11年臨床現場で、急性期・回復期・生活期経、修士(医科学)保有 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①国家試験・臨床実習で重要な運動療法に関わる基礎知識を学習するため。 ②解剖学、生理学、運動学との関連が深い。 ③予習、復習を行い、基本的な運動療法の知識を身につけてもらいたい。 ④基本的には予習を行い、レポートを作成・提出すること。 基本は講義であるが、実技演習やグループでの調べもの学習も取り入れる。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①基本的運動療法技術における医学的根拠を理解し、説明できること。 ②体系的な基本的運動療法の方法論を学び、演習を交えて健常者同士で安全に実技体験ができるようになること。 ③予習とレポート作成に慣れ、効率よく調べものができるようになること。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験70% 2) レポート10% 3) 小テスト10% 4) 出席・授業内評価10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|------|-------|--|---|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/14 | 講義・演習 | [講義] I .運動療法の概念を説明できる [演習] 演習にあたっての基本的な手技 正しい身体の触り方、動かし方などを 実践できる | ・レポート提出 教科書p.2～20までを読み 内容をレポートにまとめる。 |
| 2 | 5/14 | 講義・演習 | [講義] II .運動療法の基礎 1.関節の構造と運動を説明できる [演習] 演習にあたっての基本的な手技 正しい身体の触り方、動かし方などを 実践できる | ・レポート提出 教科書p.22～48までを事前に読み 内容をレポートにまとめる。 |
| 3 | 5/21 | 講義・演習 | [講義] II .運動療法の基礎 1.関節の構造と運動 2.筋と筋収縮を説明できる [演習] 関節を動かす際の注意点 安全に配慮した徒手抵抗のかけ方と 声かけを実践できる | |
| 4 | 5/21 | 講義・演習 | [講義] II .運動療法の基礎 1.関節の構造と運動 2.筋と筋収縮を説明できる [演習] 関節を動かす際の注意点 安全に配慮した徒手抵抗のかけ方と 声かけを実践できる | ・レポート提出 教科書p.49～58までを事前に読み 内容をレポートにまとめる。 ・小テスト 関節、筋について |
| 5 | 5/28 | 講義 | [講義] II .運動療法の基礎 3.随意運動と運動制御の生理 を説明できる | ・レポート提出 教科書p.59～74までを事前に読み 内容をレポートにまとめる。 |
| 6 | 5/28 | 講義 | [講義] II .運動療法の基礎 4.運動制御と運動学習 を説明できる | ・レポート提出 教科書p.76～96までを事前に読み 内容をレポートにまとめる。 |
| 7 | 6/3 | 講義 | [講義] II .運動療法の基礎 4.運動制御と運動学習 を説明できる | |
| 8 | 6/3 | 講義 | [講義] II .運動療法の基礎 5.運動と呼吸 [視聴覚教材] 呼吸器疾患に対する運動療法 | ・レポート提出 教科書p.97～113までを事前に読み 内容をレポートにまとめる。 |

| | | | | |
|---------------------------|------|-------|---|--|
| 9 | 6/10 | 講義 | [講義] II.運動療法の基礎 6.運動と循環を説明できる | ・レポート提出 教科書p.114～127までを事前に読み内容をレポートにまとめる。 |
| 10 | 6/10 | 講義 | [講義] II.運動療法の基礎 7.運動と代謝を説明できる | ・レポート提出 教科書p.128～137までを事前に読み内容をレポートにまとめる。 |
| 11 | 6/17 | 講義 | III.組織の病態生理と修復 1.運動器系を説明できる | ・レポート提出 教科書p.140～157までを事前に読み内容をレポートにまとめる。 |
| 12 | 6/17 | 講義 | III.組織の病態生理と修復 1.運動器系 2.神経系を説明できる [視聴覚教材]脳血管疾患に対する運動療法 | ・レポート提出 教科書p.158～166までを事前に読み内容をレポートにまとめる。 |
| 13 | 6/24 | 講義・演習 | III.組織の病態生理と修復 1.運動器系 2.神経系を説明できる | |
| 14 | 6/24 | 講義・演習 | III.組織の病態生理と修復 1.運動器系 2.神経系を説明できる | |
| 15 | 7/1 | 講義・演習 | 全体のまとめ | |
| 16 | 7/3 | 試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 毎回の講義の予習と復習を行う事 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 標準理学療法学 運動療法学総論 第4版(医学書院) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------|-------------|-----------|---------------|-------------------|
| 科目名 (英) | 運動療法学Ⅱ (Movement Therapy Ⅱ) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 片岡洋樹 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義・ 実技 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 前後期 水曜 1・2限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士免許取得後11年臨床現場で、急性期・回復期・生活期経、修士(医科学)保有 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法介入において大きな柱として位置づけられている運動療法は、解剖学や生理学、運動学を基礎とし、理学療法士が得意とする領域である。各単元の前半では必要な生物医学側面と社会科学的側面の両面からみた必要な基礎知識を確認した上で、運動療法の基本手技を学んでいく。2年次後期に予定されている運動療法学実習への移行が円滑に行なわれるよう、講義内でも随時実技での体験をしていく。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①運動療法の歴史、基本的概念について学ぶ。 ②身体の構造と機能への理解を深め、運動療法構築への概念を学習する。 ③講義内容に応じて実施される単元テストを活用し、該当する単元の要点を説明できる。 ④講義内容に応じた基本的運動療法技術を健常者同士で一部体験する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ・レポート:20% ・筆記試験:80% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------------------------|------|------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 7/1 | 講義 | ・オリエンテーション 運動療法の歴史、運動療法の位置づけを理解する。 | |
| 2 | 7/8 | 講義 | ①運動の種類(分類)について文章表現できる。 | |
| 3 | 7/8 | 講義 | 《単元テスト》運動の種類(分類) ②関節可動域運動(関節包内運動)について文章表現できる。 | |
| 4 | 7/15 | 講義 | ②関節可動域運動(関節包外運動)について文章表現できる。 | |
| 5 | 7/15 | 講義 | 《単元テスト》関節可動域運動 ③筋力増強運動(概念)について理解できる。 | |
| 6 | 7/22 | 講義 | ③筋力増強運動(原理・原則、方法論)について文章表現ができる。 | |
| 7 | 7/22 | 講義 | 《単元テスト》筋力増強運動 ④持久力増強運動(概念)について説明できる。 | |
| 8 | 7/29 | 講義 | ④持久力増強運動(実践例の紹介)の理解ができる。 ⑤協調性運動(概念)についての説明できる。 | 《課題》復習単元テスト 前半内容を振り返り。 《レポート提出①》授業ノートの体裁を整え、提出。 |
| 9 | 7/29 | 講義 | 《単元テスト》持久力運動・協調性運動 ⑤協調性運動(協調性運動の実際)の説明できる。 | |
| 10 | 8/5 | 講義 | ⑥脳のシステム障害と運動療法について説明できる。 | |
| 11 | 8/5 | 講義 | ⑥脳のシステム障害と運動療法について説明できる。 | |
| 12 | 8/26 | 講義 | ⑦痛みに対する運動療法について説明できる。 | |
| 13 | 8/26 | 講義 | ⑦痛みに対する運動療法について説明できる。 | |
| 14 | 9/2 | 講義 | 《単元テスト》単元⑥・⑦の内容 《単元》⑧発達と運動療法 | 《課題》復習単元テスト 後半内容を振り返り。 《レポート提出②》授業ノートの体裁を整え、提出。 |
| 15 | 9/2 | 講義 | 総括 | |
| | 9/4 | 筆記試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・予習と復習:教材と授業ノート並びに単元テストを活用すること。 ・同学年に履修する運動療法学実習の基礎となる知識であり、運動実践における注意点を特によく理解するように努めること。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第4版 (医学書院) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------|-------------|-----------|------|-------------------|
| 科目名 (英) | 運動療法学実習 I | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 片岡洋樹 |
| | (Practice of Movement Therapy I) | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 45 (1) | 開講区分 | 後期 水曜 1・2時限 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | | | | | | |
| 教員の略歴 | 理学療法士免許取得後11年臨床現場で、急性期・回復期・生活期経、修士(医科学)保有 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 疾患別に病態を理解し、その治療と関連する運動療法の概略を理解することが必要である 運動療法学 I・II、解剖学、生理学、運動学、理学療法評価学、等に関連する 骨関節疾患、中枢神経疾患に対する運動療法の概略を学ぶ | | | | | | |
| 到達目標 | 各疾患の病態を理解し、それに対する基本的な理学療法、運動療法を理解し、説明できる 簡単な運動療法を学生同士で実施できる この分野の国家試験の過去問を解くことができる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験60% 2) 小テスト20% 3) レポート20% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|-------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/9 | 講義・演習 | 骨折・脱臼の病態を理解する | 学習内容の復習を行うこと |
| 2 | 9/9 | 講義・演習 | 骨折・脱臼の病態から簡単な運動療法を考案できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 3 | 9/16 | 講義・演習 | 膝関節の靭帯・半月板損傷の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる① | 学習内容の復習を行うこと |
| 4 | 9/16 | 講義・演習 | 膝関節の靭帯・半月板損傷の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる② | 学習内容の復習を行うこと |
| 5 | 9/23 | 講義・演習 | 腱板断裂の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 6 | 9/23 | 講義・演習 | アキレス腱損傷の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 7 | 9/30 | 講義・演習 | 関節リウマチの病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 8 | 9/30 | 講義・演習 | 変形性股関節症の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 9 | 10/7 | 講義・演習 | 変形性膝関節症の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 10 | 10/7 | 講義・演習 | 側弯症の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 11 | 10/14 | 講義・演習 | 脳血管障害の病態を理解し、病気ごとの 簡単な運動療法を実施できる(早期)① | 学習内容の復習を行うこと |
| 12 | 10/14 | 講義・演習 | 脳血管障害の病態を理解し、病気ごとの 簡単な運動療法を実施できる(早期)② | 学習内容の復習を行うこと |
| 13 | 10/21 | 講義・演習 | 脳血管障害の病態を理解し、病気ごとの 簡単な運動療法を実施できる(回復期)① | 学習内容の復習を行うこと |
| 14 | 10/21 | 講義・演習 | 脳血管障害の病態を理解し、病気ごとの 簡単な運動療法を実施できる(回復期)② | 学習内容の復習を行うこと |
| 15 | 10/28 | 講義・演習 | パーキンソン病の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる① | 学習内容の復習を行うこと |

| | | | | |
|---------------------------|-------|----------------------------|-----------------------------------|--------------|
| 16 | 10/28 | 講義・演習 | パーキンソン病の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる② | 学習内容の復習を行うこと |
| 17 | 11/4 | 講義・演習 | 脳性麻痺の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 18 | 11/4 | 講義・演習 | 脳外傷の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 19 | 11/11 | 講義・演習 | 脊髄損傷の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる① | 学習内容の復習を行うこと |
| 20 | 11/11 | 講義・演習 | 脊髄損傷の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる② | 学習内容の復習を行うこと |
| 21 | 11/18 | 講義・演習 | 脊柱管狭窄症の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 22 | 11/18 | 講義・演習 | 後縦靭帯骨化症の病態を理解し、 簡単な運動療法を実施できる | 学習内容の復習を行うこと |
| 23 | 11/20 | 試験 | 各領域の運動療法の総合実技試験 | |
| | 11/25 | 講義・演習 | 総まとめ | |
| 準備学習 時間外学習 | | 授業前後で、該当分野の範囲を教科書中心に確認すること | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 標準理学療法学 運動療法学各論 第4版(医学書院) | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|---|--------------|----------|-----------|-------------|-----------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 運動療法学実習Ⅱ (Practice of Movement TherapyⅡ) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 古川雅一 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義・ 実習 | 総時間 (単位) | 45 (1) | 開講区分 | 後期 月曜 1・2限 |
| 教員の略歴 | 2009/4 理学療法士免許取得 2009-2015 一般病院勤務(大阪府) 2015-2017 理学療法士養成校教員(兵庫県) 2017-2019 青年海外協力隊参加(キルギス) 運動療法に関して現場での実施および学生や同僚へ指導経験あり | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 疾患別に病態と症状を理解し、運動療法の概略を理解することが必要である。 解剖学・生理学・運動学、運動療法学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識をもとに、疾患別運動療法の概略を理解する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | ①運動療法の対象となる疾患について、病態と症状を理解し、文章表現できる。 ②対象となる疾患について、運動療法実施の主目的と注意点について説明できる。 ③授業内容に応じて実施される単元テストを活用し、該当する単元の要点を説明できる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ・レポート:20% ・テスト:80% | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|---------|-------|-------|---------------------------------|------------------|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) | |
| 1 | 9/7 | 講義・実習 | 骨折・脱臼の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 2 | 9/7 | 講義・実習 | 膝の靭帯・半月板損傷の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 3 | 9/14 | 講義・実習 | 腱断裂の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 4 | 9/14 | 講義・実習 | 関節リウマチの運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 5 | 9/28 | 講義・実習 | 変形性関節症と人工関節置換術の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 6 | 9/28 | 講義・実習 | 側弯症の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 7 | 10/5 | 講義・実習 | 脊髄損傷の運動療法について理解できる① | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 8 | 10/5 | 講義・実習 | 脊髄損傷の運動療法について理解できる② | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 9 | 10/12 | 講義・実習 | 腰部脊柱管狭窄症の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 10 | 10/12 | 講義・実習 | 頸椎症性脊髄症と頸椎後縦靭帯骨化症の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 11 | 10/19 | 講義・実習 | 腰痛症の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 12 | 10/19 | 講義・実習 | 肩関節痛の運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 13 | 10/26 | 講義・実習 | 切断に対する運動療法について理解できる① | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 14 | 10/26 | 講義・実習 | 切断に対する運動療法について理解できる② | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 15 | 11/2 | 講義・実習 | 糖尿病に対する運動療法について理解できる① | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 16 | 11/2 | 講義・実習 | 糖尿病に対する運動療法について理解できる② | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |

| | | | | |
|----------------------------------|-------|-------|-----------------------|------------------|
| 17 | 11/9 | 講義・実習 | ICUにおける運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 18 | 11/9 | 講義・実習 | 熱傷に対する運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 19 | 11/16 | 講義・実習 | 悪性腫瘍に対する運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 20 | 11/16 | 講義・実習 | 浮腫に対する運動療法について理解できる | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 21 | 11/30 | 講義・実習 | 廃用症候群の運動療法について理解できる① | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 22 | 11/30 | 講義・実習 | 廃用症候群の運動療法について理解できる② | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 23 | 12/7 | 講義・実習 | 総復習 | 教科書や配布物にて復習を行うこと |
| 24 | 12/8 | 試験 | 筆記 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 教科書や配布物にて復習を行うこと | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 第4版 (医学書院) | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|-----------|---------------|-----------------|
| 科目名 (英) | 英語Ⅱ (English Conversation Ⅱ) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 高田陽子 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (2) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 火曜 2時限 |
| 教員の略歴 | 1997年英語学科卒業、高等学校英語教諭資格取得、1997年より滋慶文化学園にて英語教育を担当 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 滋慶学園の英語教育に長期に渡って携わり、学生が専門分野に関連した専門英語の基本的な表現を使って、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけることを目的としたコミュニケーション主体の授業を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | 患者に挨拶する、簡単な病症を診断する、基本的な情報を伝達する、などの医療現場における基本的なコミュニケーションを英語で行うことができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 評価は、100点満点の筆記試験で行う。授業で学習した内容の定着度を確認する。 評価は学則規定に準ずる。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------------|-------|---------------------|-------------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 9/29 | 講義 | 患者の受付案内が出来る | 配布資料の復習 |
| 2 | 10/6 | 講義 | 病院内の様々な部門の名称を覚えて基本的な案内が出来る | 配布資料の復習 |
| 3 | 10/13 | 講義 | 特定の患者から痛みに関する情報を得ることが出来る | 配布資料の復習 |
| 4 | 10/20 | 講義 | 特定の患者から病症に関する情報を得ることが出来る | 配布資料の復習 |
| 5 | 10/27 | 講義 | 病歴に関して尋ねたり、質問に返答することが出来る | 配布資料の復習 |
| 6 | 11/10 | 講義 | アレルギーやライフスタイルに関して尋ねたり、質問に返答することが出来る | 配布資料の復習 |
| 7 | 11/17 | 講義 | これまで学習した内容を元により複雑な場面の対応が出来る | 配布資料の復習 |
| 8 | 11/24 | 講義 | 患者に基本的な指示を出したり、簡単な質問に答えることが出来る | 配布資料の復習 |
| 9 | 12/1 | 講義 | 骨の名称をQ&Aを通して学習する | 配布資料の復習 |
| 10 | 12/8 | 講義 | 医療における緊急の場面の対応が出来る | 配布資料の復習 |
| 11 | 12/15 | 講義 | 基本的なりハビリを患者と行うことが出来る | 配布資料の復習 |
| 12 | 1/19 | 講義 | 様々な料金の支払いを処理することが出来る | 配布資料の復習 |
| 13 | 1/26 | 講義 | 処方箋を出し、説明することが出来る | 配布資料の復習 |
| 14 | 2/2 | 講義 | これまで学習した内容を元に医療の様々な場面の対応が出来る | 配布資料の復習 |
| | 2/2 | 試験 | 定期試験 | |
| 15 | 2/9 | 講義 | 定期試験の解説 これまでに学習した内容の復習 | |
| 準備学習 時間外学習 | | 各回の授業で配布された資料の復習が必要 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 医療英語コミュニケーション(国際教育社) | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|-----------|-------------|-----------|------|-----------------------------|
| 科目名 (英) | 義肢装具学 (Prosthetics and Orthotics) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 梶原一将 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 木曜日 曜日・時限 3・4時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、急性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリで勤務を経て現在に至る。 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 理学療法士のアプローチの一つとして義肢装具の概要を学ぶ。 義肢・装具の構造や特徴、種類、機能を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 使用頻度が高い義肢・装具の種類と部品を覚えて説明できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験60%、出席率30%、小テスト10% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------|------|-------|-----------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/13 | 講義・演習 | 義肢学総論を理解する | 確認テスト |
| 2 | 5/13 | 講義・演習 | 下肢切断の理学療法評価 | 確認テスト |
| 3 | 5/20 | 講義・演習 | 大腿義足の種類と適合判定を理解する | 確認テスト |
| 4 | 5/20 | 講義・演習 | 膝義足の種類と適合判定を理解する | 確認テスト |
| 5 | 5/27 | 講義・演習 | 下腿義足の種類と適合判定を理解する | 確認テスト |
| 6 | 5/27 | 講義・演習 | サイム義足・股義足の種類と適合判定を理解する | 確認テスト |
| 7 | 6/4 | 講義・演習 | 足部部分義足の種類と適合判定 継手の種類と設定調整を理解する | 確認テスト |
| 8 | 6/11 | 講義・演習 | 義肢についてプレゼンできる | |
| 9 | 6/11 | 講義・演習 | 装具学総論を理解する | 確認テスト |
| 10 | 6/18 | 講義・演習 | 下肢装具の構成部品を説明できる | 確認テスト |
| 11 | 6/18 | 講義・演習 | 足継手の制御機構を理解する | 確認テスト |
| 12 | 6/25 | 講義・演習 | 靴型装具を理解する | 確認テスト |
| 13 | 6/25 | 講義・演習 | 義肢装具の給付制度を理解する | 確認テスト |
| 14 | 7/2 | 講義・演習 | 装具についてプレゼンができる | |
| 15 | 7/2 | 講義・演習 | 疾患別の装具療法への関連性を理解する | |
| | 7/7 | 試験 | 筆記試験 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

PT・OTビジュアルテキスト義肢・装具学異常とその対応がわかる動画付き(羊土社) その他備品の義肢装具の資料使用

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|-----------|-------------|-----------|------|-----------------------------|
| 科目名 (英) | 義肢装具学実習 (Practice of Prosthetics and Orthotics) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 2 | 担当教員 | 梶原一将 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 90 (2) | 開講区分 | 前後期 木曜 曜日・時限 3・4時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、急性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリで勤務を経て現在に至る。 | | | | | | |
| 授業の学習内 容 | 理学療法士として、義肢装具の作成時に必要な視点を中心に、適応・チェックアウトを理解し、体験する。義肢装具療法で出来ること、出来ないことを学び、理学療法(評価、運動療法)につながる理解を深める。また、現在の最新の動向を確認し、経験する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 義肢装具の作成過程の体験・見学を通し、義肢装具学で学んだ知識と技術の理解を深めることをめざす。 さらに、各疾患の詳細適応について学ぶ。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験30%・レポート40%・出席率30% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|------|-------|-------------------------------|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 7/9 | 講義 | 足のアライメント評価の概要を説明できる(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 2 | 7/9 | 講義 | 足のアーチ構造を理解し説明できる(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 3 | 7/16 | 講義・実習 | 足部のアライメントを評価できる(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 4 | 7/16 | 講義・実習 | 足の簡易のアーチサポートを作成できる(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 5 | 7/23 | 講義・実習 | アーチ変化が身体に及ぼす影響を説明できる(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 6 | 7/23 | 講義・実習 | 包帯による断端管理を実践できる(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 7 | 7/30 | 講義・実習 | 包帯が関節固定に与える影響を説明できる(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 8 | 7/30 | 講義・実習 | 包帯:膝関節固定を実践できる(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 9 | 8/6 | 講義・実習 | 包帯:足関節固定を実践できる(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 10 | 8/6 | 講義・実習 | 足関節の評価と運動療法を説明できる(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 11 | 8/27 | 講義・実習 | 義足のソケット、継手、適切な位置関係の説明ができる(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 12 | 8/27 | 講義・実習 | 義足のチェックアウトと修正方法を説明できる(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 13 | 9/3 | 講義・実習 | 採型(AFO)を実践できる①(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 14 | 9/3 | 講義・実習 | 採型(AFO)を実践できる②(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 15 | 9/10 | 講義・実習 | 採型(AFO)を実践できる③(梶原) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 16 | 9/10 | 講義・実習 | 装具のチェックアウトを説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 17 | 9/17 | 講義 | 短下肢装具の違いを説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 18 | 9/17 | 講義 | 長下肢装具の違いを説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |

| | | | | |
|---|-------|-------|-------------------------------|---------------|
| 19 | 9/24 | 講義・実習 | 長下肢装具の違いを説明できる疑似体験をする | 指定教科書該当ページの予読 |
| 20 | 9/24 | 講義・実習 | 2関節以上の固定が身体に及ぼす影響について説明できる① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 21 | 10/1 | 講義・実習 | 2関節以上の固定が身体に及ぼす影響について説明できる② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 22 | 10/1 | 講義・実習 | 下肢へのテーピングを実践できる① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 23 | 10/8 | 講義・実習 | 下肢へのテーピングを実践できる② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 24 | 10/8 | 講義・実習 | 下肢へのテーピングを実践できる③ | 指定教科書該当ページの予読 |
| | 10/9 | 試験 | レポート課題 | |
| 25 | 10/15 | 講義・実習 | 車椅子の構造を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 26 | 10/15 | 講義・実習 | 車椅子の修理方法を説明できる① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 27 | 10/22 | 講義・実習 | 車椅子の修理方法を説明できる② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 28 | 10/22 | 講義・実習 | 車椅子の修理方法を説明できる③ | 指定教科書該当ページの予読 |
| 29 | 10/29 | 講義・実習 | 日常生活補助具の概要を説明できる | 指定教科書該当ページの予読 |
| 30 | 10/29 | 講義・実習 | ソックスエイドを作成できる① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 31 | 11/5 | 講義・実習 | ソックスエイドを作成できる② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 32 | 11/5 | 講義・実習 | スライディングボードを作成できる① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 33 | 11/12 | 講義・実習 | スライディングボードを作成できる② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 34 | 11/12 | 講義・実習 | 上肢へのテーピングを実践できる① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 35 | 11/19 | 講義・実習 | 上肢へのテーピングを実践できる② | 指定教科書該当ページの予読 |
| 36 | 11/19 | 講義・実習 | 装具採型を説明できる①(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 37 | 11/26 | 講義・実習 | 装具採型を説明できる②(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 38 | 11/26 | 講義・実習 | 最新の装具の動向を知る①(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 39 | 12/3 | 講義・実習 | 最新の装具の動向を知る②(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 40 | 12/3 | 講義・実習 | 最新の義足の動向を知る①(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 41 | 12/10 | 講義・実習 | 最新の義足の動向を知る②(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 42 | 12/10 | 講義 | 理学療法士に必要な義肢装具の知識①(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 43 | 12/17 | 講義 | 理学療法士に必要な義肢装具の知識②(PO) | 指定教科書該当ページの予読 |
| 44 | 12/17 | 講義・実習 | POの装具策を見学する① | 指定教科書該当ページの予読 |
| 45 | 1/7 | 講義・実習 | POの装具策を見学する② | 指定教科書該当ページの予読 |
| | 1/8 | 試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 「装具学」 15レクチャー(中山書店)、「義肢学」 15レクチャー(中山書店)、備品の義肢・装具を使用 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-----------------------|--|---------------|---------------------|----|-------------|------------------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 障害者福祉論 (Welfares for Disable Persons) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 佐野 篤 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 1 | 開講区分 | 前期 土曜1・2限 |
| 教員の略歴 | ・平成24年、社会福祉士免許取得 ・平成31年、精神保健福祉士免許取得 ・社会福祉法人施設で30年職務経験を有する | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士に求められている専門性とは、正しい理学療法の知識と技術のみならず「対人援助職」として心理的なサポートをすることや、対象者の人生の質を高めていけるような継続的な関わりをする関係機関との連携を図ること等多岐にわたる。病院の中に留まらず、関係職種とのネットワークの中で当事者を支えるために、理学療法士としての役割を知るために、当事者の生活や様々な施策についても基本を押さえておくことは必要である。本講義を通じて理学療法士の国家試験対策だけではなく「多職種連携」や、連携の輪の中での理学療法士の立ち位置をイメージする一助としたい。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的人権を尊重し、当事者の権利を守ることなど、正しい人権意識と人間観に立ち、障害をお持ちの方々の生活を多面的に支えるための基礎的な知識を身につける。また、リハビリテーションの営みの中で、理学療法士としての自らの役割を正しく理解し、適切に専門性を発揮するための人間的基盤を養うこと。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験(80%) 出席(10%) 授業態度(10%) | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 6/6 | 講義 | 心と身体の関係と障害の呼称を説明できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 2 | 6/6 | 講義 | 障害の概念について説明できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 3 | 6/20 | 講義 | 障がい者の定義を説明できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 4 | 6/20 | 講義 | 人権思想の発展について説明できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 5 | 6/27 | 講義 | 人権と対立する思想を説明できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 6 | 6/27 | 講義 | 障害福祉の基礎理念を説明できる① | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 7 | 7/11 | 講義 | 障害福祉の基礎理念を説明できる② | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 8 | 7/11 | 講義 | 障害者施策の発展について説明できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 9 | 7/25 | 講義 | 障害者関連施策を説明できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 10 | 7/25 | 講義 | 雇用と就労支援について説明できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 11 | 7/25 | 講義 | 高次脳機能障害について説明できる① | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 12 | 8/1 | 講義 | 高次脳機能障害について説明できる② | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 13 | 8/1 | 講義 | 障害福祉の法体系を説明できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 14 | 8/1 | 講義 | 障害福祉サービスの概要を説明できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| | 8/4 | 試験 | | | | | | |
| 15 | 8/15 | 講義 | 試験の解答を理解し説明できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | |
| 教科書の指定なし。講師作成のレジュメ使用。 | | | | | | | | |

| 科目名 (英) | 統計学 (Stastics) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 高橋未倫 |
|------------------|--|---------------|---------------------|----|-------------|------------------|---------------|-----------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 曜日・時限 | 土曜 2時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士として8年間の実務経験. 修士(理学), Golf physio trainer(2017取得). | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | この授業は、理学療法士として必要な統計学の知識を学修するためのものです。 他に関連する科目として、医学概論における疫学分野と関係します。 受講生に対する要望として、卒業後の研究活動に役立てるためにを学んでほしいと願っております。 | | | | | | | |
| 到達目標 | ①医学研究に必要な統計学の基礎知識を説明できる。 ②統計的視点からの医学的判断を説明できる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | レポート課題70%、出席数30% | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 9/5 | 講義 | 医学研究のプロセスについて説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 2 | 9/12 | 講義 | データの収集について説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 3 | 9/19 | 講義 | 変数について説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 4 | 9/26 | 講義 | 変数の測定方法について説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 5 | 10/3 | 講義 | 測定の妥当性について説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 6 | 10/10 | 講義 | 悉皆調査について説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 7 | 10/17 | 講義 | 標本調査について説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 8 | 10/24 | 講義 | 調査票の作成方法について説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 9 | 10/31 | 講義 | 選択肢の設定について説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 10 | 11/7 | 講義 | 実験計画について説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 11 | 11/7 | 講義 | 統制について説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 12 | 11/21 | 講義 | クロス集計析について説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 13 | 11/21 | 講義 | 代表値について説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 14 | 12/5 | 講義 | 相関分析について説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 15 | 12/12 | 講義 | スクリーニングについて説明できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 授業内容の復習 | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | |
| 授業内で適宜配布. | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------------|---|----------------|---------------------------|----|-------------|------------------|------|------------|
| 科目名 (英) | 医学英語 (Medical English) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 高橋 未倫 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 | 前期 木曜4限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学)、Golf physio trainer(2017取得)。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士に必要な英単語、文法、医学英語論文を実際読み、抄読会を行い、国内外問わず多岐にわたる情報の中から自分が必要とする情報を選び、それを他へ伝えるという一連のプロセスを習得する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | ①リハビリテーションに関する文献を読みこなすことができるよう、医学英単語、文法、医学論文に関する知識を習得する。 ②文献から得られた内容を他者に分かりやすく伝える。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | グループ発表(70%)、授業内評価(30%) | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 5/22 | 講義 | 理学療法に必要な英単語を記することができる。① | | | | | |
| 2 | 5/29 | 講義 | 理学療法に必要な英単語を記することができる。② | | | 授業内容の復習 | | |
| 3 | 6/4 | 講義 | 理学療法に必要な英単語を記することができる。② | | | 授業内容の復習 | | |
| 4 | 6/11 | 講義 | 文法の復習：文型を理解できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 5 | 6/18 | 講義 | 英語論文の読み方を理解できる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 6 | 6/25 | 講義 | PubMedを利用して論文を検索することができる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 7 | 7/2 | 講義 | 医学英語論文の和訳することができる。① | | | 授業内容の復習 | | |
| 8 | 7/9 | 講義 | 医学英語論文の和訳することができる。② | | | 授業内容の復習 | | |
| 9 | 7/16 | 講義 | 医学英語論文の和訳することができる。③ | | | 授業内容の復習 | | |
| 10 | 7/23 | 講義 | 医学英語論文の和訳することができる。④ | | | 授業内容の復習 | | |
| 11 | 7/30 | 講義 | 医学英語論文の和訳することができる。⑤ | | | 授業内容の復習 | | |
| 12 | 8/6 | 講義 | 医学英語論文の和訳することができる。⑥ | | | 授業内容の復習 | | |
| 13 | 8/13 | 講義 | 全訳した論文の発表準備ができる。① | | | 授業内容の復習 | | |
| 14 | 9/3 | 講義 | 全訳した論文の発表準備ができる。② | | | 授業内容の復習 | | |
| 15 | 9/10 | 試験 | プレゼン：全訳した論文の発表ができる。 | | | 授業内容の復習 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 講義参加後に復習する必要あり | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | |
| 適宜、資料を配布する。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|---|---------------|--|----|-------------|------------------|------|----------|
| 科目名 (英) | 内科学 (Internal Medicine) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 小川 恵子 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 2 | 開講区分 | 通年 |
| 教員の略歴 | 昭和63年弘前大学医学部卒業、医師免許取得。現在みちのく記念病院に勤務。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①内科学の知識は理学療法を行う上で必要不可欠なものである。この講義では総論として、主要な症候の病態生理について理解し、各論として、各疾患特有の疫学、病態生理、検査、治療についての知識を習得する。 ②内科学を理解する上では、解剖学、生理学、病理学等と関連が深い。 ③学生には予習復習を行い、各器官の基本的な解剖・生理と各疾患の症状や病態について説明できるようになることを願う。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 患者の全身状態を把握するために内科的基礎的知識を身につけ、説明できる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験：100% | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 6/5 | 講義 | 内科学の概念と診断の進め方を説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 2 | 6/12 | 講義 | 臨床検査とデータの解釈に関して理解し、説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 3 | 6/19 | 講義 | 循環器系の解剖・生理と循環器疾患の主要な徴候について説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 4 | 6/26 | 講義 | 高血圧、虚血性心疾患、弁膜症、心不全の病態を理解し、説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 5 | 7/3 | 講義 | 肺の解剖・生理と呼吸器疾患の主な症候について説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 6 | 7/10 | 講義 | 呼吸器疾患の検査所見（画像検査、生理学的検査、喀痰検査、等）を説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 7 | 7/17 | 講義 | 感染性肺炎疾患、慢性閉塞性肺炎疾患、気管支ぜんそく、拘束性肺炎疾患、肺腫瘍の病態を理解し、説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 8 | 7/24 | 講義 | 消化管の解剖・生理について説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 9 | 7/31 | 講義 | 消化管疾患の徴候とその病態生理、各検査法を理解し、説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 10 | 8/7 | 講義 | 口腔疾患、食道疾患、胃疾患、小腸・大腸疾患について説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 11 | 9/4 | 講義 | 肝臓、胆のう・胆管、膵臓の解剖・生理を説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 12 | 9/11 | 講義 | 急性ウイルス性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎、肝硬変の病態・症状について説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 13 | 9/18 | 講義 | 腹膜の解剖・生理、急性・慢性腹膜炎について説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 14 | 9/25 | 講義 | 前期に行った講義の要点を理解し、説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| | 9/25 | 試験 | 前期試験 | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 15 | 10/2 | 講義 | 解説：前期試験の正答を答えられる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 16 | 10/9 | 講義 | 血液の成分と生理、造血機能について説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 17 | 10/14 | 講義 | 血液疾患の症候と検査法、各血液疾患について理解し、説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 18 | 10/16 | 講義 | 代謝調節の仕組みと各代謝性疾患（糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム等）を理解し、説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 19 | 10/21 | 講義 | 内分泌の仕組み、内分泌腺・ホルモンの解剖・生理について説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 20 | 10/23 | 講義 | 視床下部症候群、下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患の病態・症状を理解し説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 21 | 10/28 | 講義 | 腎臓の解剖・生理、腎・尿路系疾患の各検査について説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 22 | 10/30 | 講義 | 各腎・泌尿器疾患の病態・症状について説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 23 | 11/4 | 講義 | 免疫系の働きについて説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 24 | 11/6 | 講義 | アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症について説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 25 | 11/13 | 講義 | 感染症の成立、病原体、感染経路について説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 26 | 11/20 | 講義 | 感染症の予防と、各感染症（細菌感染、真菌症、ウイルス感染、等）に関して説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 27 | 11/27 | 講義 | 皮膚の解剖・生理、各皮膚疾患について説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 28 | 12/4 | 講義 | 後期に行った講義の要点を理解し、説明できる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 29 | 12/11 | 講義 | 演習問題を行い、正答を答えられる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| | 12/12 | 試験 | 後期試験 | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 30 | 12/25 | 講義 | 解説：後期試験の正答を答えられる | | | その日のうちに講義の復習を行う | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(医学書院) | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|---------------|-------------------------|----|-------------|------------------|------|------|
| 科目名 (英) | 精神医学 (Psychiatry) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 白木達也 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 |
| 教員の略歴 | 2010年 東北大学医学部医学科卒業 医師免許取得 仙台赤十字病院、東北大学病院、東北薬科大学病院、仙台市立病院を経て、東北大学病院精神科に勤務。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士に必要な精神疾患の病態・診断・治療について学ぶ | | | | | | | |
| 到達目標 | 精神疾患の概要、治療について理解を深め、理学療法士国家試験の過去問を解くことができる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(100%) | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 6/17 | 講義 | 精神障害と精神医学について述べる事ができる | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 2 | 6/17 | 講義 | 精神障害の成因と分類について述べる事ができる | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 3 | 6/18 | 講義 | 統合失調症の症状について述べる事ができる | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 4 | 6/19 | 講義 | 統合失調症の分類について述べる事ができる | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 5 | 6/19 | 講義 | 統合失調症の治療について述べる事ができる | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 6 | 6/19 | 講義 | 気分障害について述べる事ができる (1) | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 7 | 6/26 | 講義 | 気分障害について述べる事ができる (2) | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 8 | 6/26 | 講義 | 神経症について述べる事ができる (1) | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 9 | 6/26 | 講義 | 神経症について述べる事ができる (2) | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 10 | 7/3 | 講義 | 心身症、薬物関連障害について述べる事ができる | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 11 | 7/3 | 講義 | 認知症の症状について述べる事ができる | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 12 | 8/7 | 講義 | 認知症の分類について述べる事ができる | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 13 | 8/7 | 講義 | 認知症の治療について述べる事ができる | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 14 | 8/7 | 講義 | てんかん、児童精神医学について述べる事ができる | | | 講義の復習を行う事 | | |
| | 8/13 | 試験 | | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 15 | 8/14 | 講義 | 精神保健福祉法について述べる事ができる | | | 講義の復習を行う事 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | |
| 標準 理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版(医学書院) | | | | | | | | |

| 科目名 (英) | 小児科学 (pediatrics) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 坂部貢 |
|--------------------------------------|---|-------------------------------|--------------------------|------|------------------|-----------|------|----------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 後期 土曜 |
| 教員の略歴 | 医師、現在大学医学部の教授を兼任しつつ、医学部長を務める。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 小児の身体的特徴および疾患について理学療法士に必要な知識を教授する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 理学療法士に必要な知識として、小児の特徴および疾患について理解する。同時に、小児についてのリハビリテーションについて理解することを目標とする。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験100% | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | | |
| 1 | 11/7 | 講義 | 成長と発達について理解する | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 2 | 11/7 | 講義 | 先天異常について理解する | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 3 | 11/7 | 講義 | 小児の消化器系疾患について理解する① | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 4 | 11/14 | 講義 | 小児の消化器系疾患について理解する② | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 5 | 11/14 | 講義 | 小児の呼吸器疾患について理解する | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 6 | 11/14 | 講義 | 小児の循環器疾患について理解する | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 7 | 11/21 | 講義 | 小児の感染症について理解する | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 8 | 11/21 | 講義 | 小児の内分泌代謝疾患について理解する | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 9 | 11/21 | 講義 | 障害児について理解する | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 10 | 11/28 | 講義 | 重大な結果を招くリスクのある疾患について理解する | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 11 | 11/28 | 講義 | 重大な結果を招くリスクのある疾患について理解する | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 12 | 11/28 | 講義 | 小児症候学：よく見られる症状を述べる① | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 13 | 12/5 | 講義 | 小児症候学：よく見られる症状を述べる② | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 14 | 12/5 | 講義 | 小児症候学：よく見られる症状を述べる③ | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| 15 | 12/5 | 講義 | まとめ | | 事前配布プリントを讀んでおくこと | | | |
| | 12/12 | 試験 | | | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 講義参加前に指定教科書の該当ページを讀み、予習する必要あり | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | |
| 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第4版 (医学書院) | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---------------------|---|-------|---|-------|-------------|------------------|---------------|----------------|
| 科目名 (英) | 老年学 (Gerontology) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 佐藤美紀 |
| | 学科・コース | 理学療法科 | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 (1単位) | 開講区分 曜日・時限 | 前期 火 2限目 |
| 教員の略歴 | 臨床歴：1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月デイサービス勤務。 2002年4月～2007年12月病院・老健施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・指導)。 2014年4月～高齢者の健康増進教室。 介護歴：2009年2月～2012年3月、2017年6月～高齢者介護。 講師歴：介助法講師。臨床動作分析講習会講師。他 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①日本は超高齢社会となり、高齢者の人口率が高い。臨床実習に於いて高齢者を担当することになる。高齢者の場合、本来の病 気や障害に加えて老化に伴う変化もある。より質の高い適切な治療を提供するため、老年学を学ぶ必要性が高い。 ②人間発達学の教科と関連が深く、整形、内部障害、日常生活活動学等の理解を深めるための位置付けとなる。 ③年齢に応じた理学療法を展開できるようになって欲しい。 授業では高齢者の特性や疾患を学ぶことで、年齢に応じた対応を知ることができる。 | | | | | | | |
| 到達目標 | ①高齢者の特性を説明することができる。 ②高齢者に特徴的な疾患の病態・治療・予防の関連を説明することができる。 ③高齢者に向けた行政の対策について説明することができる。 ④加齢に伴う運動・心理などの変化、その対策を述べるることができる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験(80%) 2) 出席率・授業中の参加度(出席、参加、課題20%) | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 5月12日 | 講義 | 加齢と老化の違い、老化の特徴、高齢者の健康増進のた めの行政の対策が説明できる。 | | | | | |
| 2 | 5月12日 | 講義 | 加齢に伴う生理機能の変化を説明できる。 | | | 生理機能とは何か | | |
| 3 | 5月19日 | 講義 | 加齢に伴う運動機能の変化を説明できる。 | | | 筋力低下・可動域制限について | | |
| 4 | 5月19日 | 講義 | 高齢者の心理機能の変化を説明できる。性別による違い を述べられる。 | | | 人間発達学の各時期における課題 | | |
| 5 | 5月26日 | 講義 | 高齢者に接する際に年齢に応じた対応と評価を工夫する ことができる。 | | | | | |
| 6 | 5月26日 | 講義 | 高齢者の精神面(鬱、認知症)の特徴を述べることのでき る。 | | | 臨床心理学の鬱の復習 | | |
| 7 | 6月2日 | 講義 | 高齢者の循環器の病態と特徴を説明できる。 | | | 心・肺機能の生理学の復習 | | |
| 8 | 6月9日 | 講義 | 高齢者の運動器、耳・目の疾患の病態と特徴を説明でき る。 | | | 眼・耳の解剖学の復習 | | |
| 9 | 6月16日 | 講義 | 高齢者の消化と排泄の病態と特徴を説明できる。 | | | 消化・排せつの生理学の復習 | | |
| 10 | 6月23日 | 講義 | 高齢者の代謝、免疫の変化を説明できる。 | | | 感染対策について | | |
| 11 | 6月30日 | 実技・演習 | 高齢者を取り巻く環境の問題とその解決策を工夫するこ とができる。 | | | | | |
| 12 | 7月7日 | 演習 | 高齢者の年齢に応じたリハビリテーションの進め方を工 夫することができる。 | | | | | |
| 13 | 7月14日 | 演習 | 認知症のリハの進め方を工夫することができる。 | | | | | |
| 14 | 7月21日 | 講義 | 医療の現状と終末期医療のあり方を述べられる。 | | | | | |
| | 7月28日 | 本試験 | | | | | | |
| 15 | 8月4日 | 講義 | (復習・まとめ・テスト解説) 不明な点を明確にできる。 | | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 資料配布 | | | | | | | | |
| 標準理学療法学・作業療法学(医学書院) | | | | | | | | |

* 1～6はオンライン授業(火曜日1・2限目)。7以降は社会情勢で決定。

| | | | | | | | | |
|----------------------------------|---|---------------|--|-------|-------------|------------------|---------------|-----------|
| 科目名 (英) | 救急医学 (Emergency Medicine) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 浅沼達二 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 1 | 開講区分 曜日・時限 | 前期 土曜日 |
| 教員の略歴 | ・S53年、岩手医科大学卒業 ・S60年、浅沼整形外科を開院 ・現在に至る | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 各臓器の疾患を理解し、鑑別診断を出来るようにします。 緊急の症状が出現した時、脳か、循環器科か、呼吸器科か、低血糖症状か鑑別できるようにします。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 医師不在の施設に勤務する人が増えております。 緊急時のバイタルサインを正確に把握し、症状を正確に救急隊へ連絡し、搬送依頼を確実に出来るようにします。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験(100%)です。 | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 6/6 | 講義 | 基礎的な専門用語を理解できる | | | 講義の復習を行う | | |
| 2 | 6/6 | 講義 | 脳卒中、脳動脈を理解できる Japan comma scaleをとる事ができる | | | 講義の復習を行う | | |
| 3 | 6/6 | 講義 | 脱臼、骨折(上下肢、体幹)について理解できる | | | 講義の復習を行う | | |
| 4 | 6/13 | 講義 | 心電図の取り方と心電図の各波を理解できる | | | 講義の復習を行う | | |
| 5 | 6/13 | 講義 | 各種不整脈(特に緊急を要する不整脈)を 理解できる | | | 講義の復習を行う | | |
| 6 | 6/13 | 講義 | 心電図用語を理解できる WPW症候群の波形は何を疑うかを説明できる | | | 講義の復習を行う | | |
| 7 | 6/20 | 講義 | 心筋梗塞の病態・症状と緊急時に 何をするかを理解できる | | | 講義の復習を行う | | |
| 8 | 6/20 | 講義 | 肺区域、排痰処理とそれに基づく 排痰体位を理解できる | | | 講義の復習を行う | | |
| 9 | 6/20 | 講義 | スパイログラム、フローボリュームの意味を 理解し、検査結果を読むことが出来る | | | 講義の復習を行う | | |
| 10 | 6/27 | 講義 | 悪性腫瘍(特に転移性悪性腫瘍)の 概要を理解できる | | | 講義の復習を行う | | |
| 11 | 6/27 | 講義 | 糖尿病・低血糖の病態、症状を理解できる | | | 講義の復習を行う | | |
| 12 | 6/27 | 講義 | 意識障害・呼吸困難の概要を理解し、 救急搬送の手順を実践できる | | | 講義の復習を行う | | |
| 13 | 7/4 | 講義 | 高血圧・低血圧・てんかんの概要 を理解し、各対処が行える | | | 講義の復習を行う | | |
| 14 | 7/4 | 講義 | 頭痛・発熱、深部静脈血栓症の概要 を理解し、その対処ができる | | | 講義の復習を行う | | |
| 15 | 7/6 | 試験 | | | | | | |
| 16 | 7/11 | 講義 | 試験解説を通し、試験問題の解答を理解できる | | | 講義の復習を行う | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | |
| 講義プリント、リハビリテーション リスク管理ハンドブック 第2版 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------------|--|-------------------------------------|---|-------|-------------|------------------|---------------|--------------|
| 科目名 (英) | 病態運動学 (Psychopathogy Movement) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 丸屋健 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 60 (2単位) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 木 1・2限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、2012年4月～2017年3月 回復期病院 リハビリテーション部 勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・臨床的視点から病態構造を理解する ・運動学・運動学実習で得た知識を元に、病態を学習する ・各疾患が及ぼす運動障害に関して、運動機能と疾患、運動機能障害、動作分析等を理解する | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ①病態運動学を理解するうえで重要な基礎知識について理解し説明することができる。 ②各疾患と機能障害について知識を整理し、運動学と疾患、および理学療法との関係について理解を深めることができる。 ③演習を通して、各疾患に対する運動学的アプローチと、評価・治療介入について体験することができる。 | | | | | | | |
| 評価方法及び基準 | <ul style="list-style-type: none"> 1) 定期試験90% 2) 授業参加率・授業内態度10% | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 5/13 | 講義 | 運動学で学んだ知識と病態の関連について、臨床的視点から学ぶことができる。 | | | 講義内容の復習 | | |
| 2 | 5/20 | 講義 | 骨・関節の構造と機能について説明できる。 | | | 講義内容の復習 | | |
| 3 | 5/27 | 講義 | 筋の構造と機能について説明できる。 | | | 講義内容の復習 | | |
| 4 | 9/2 | 講義 | 随意運動と反射・筋緊張について説明できる。 | | | 講義内容の復習 | | |
| 5 | 9/9 | 講義 | 生体力学(バイオメカニクス)について説明できる。 | | | 講義内容の復習 | | |
| 6 | 9/9 | 講義 | 重心と支持基底面について説明できる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 7 | 9/16 | 演習 | 肩関節の関節構造と機能障害について述べる事ができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 8 | 9/16 | 演習 | 肘関節の関節構造と機能障害について述べる事ができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 9 | 9/23 | 演習 | 手関節の関節構造と機能障害について述べる事ができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 10 | 9/23 | 演習 | 股関節・骨盤帯の関節構造と機能障害について述べる事ができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 11 | 9/30 | 演習 | 膝関節の関節構造と機能障害について述べる事ができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 12 | 9/30 | 演習 | 足関節の関節構造と機能障害について述べる事ができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 13 | 10/7 | 演習 | 脊柱の関節構造と機能障害について述べる事ができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 14 | 10/7 | 演習 | 関節構造と機能障害に臨床応用について理解することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 15 | 10/9 | 中間試験 | 筆記 | | | | | |
| 16 | 10/14 | 演習 | 前期で学んだ病態運動学を学ぶ上で必要な基礎知識と、機能障害について説明することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 17 | 10/14 | 演習 | 基本的な姿勢の概念について述べる事ができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 18 | 10/21 | 演習 | 基本的な姿勢の概念について述べる事ができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 19 | 10/21 | 演習 | 基本的な後向き・起き上がりの概念について述べる事ができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 20 | 10/28 | 演習 | 基本的な後向き・起き上がりの概念について述べる事ができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 21 | 10/28 | 演習 | 基本的な起立・着座動作の概念について述べる事ができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 22 | 11/4 | 演習 | 基本的な起立・着座動作の概念について述べる事ができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 23 | 11/4 | 演習 | 基本的な歩行動作の概念について述べる事ができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 24 | 11/11 | 演習 | 基本的な歩行動作の概念について述べる事ができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 25 | 11/11 | 演習 | 基本的な歩行動作の概念について述べる事ができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 26 | 11/18 | 演習 | 整形外科疾患の病態と運動障害特性について説明することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 27 | 11/18 | 演習 | 整形外科疾患の病態と運動障害特性について説明することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 28 | 11/25 | 演習 | 中枢疾患の病態と運動障害特性について説明することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 29 | 11/25 | 演習 | 中枢疾患の病態と運動障害特性について説明することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 30 | 12/2 | 演習 | 各疾患の病態と運動障害特性の臨床応用について理解することができる。 | | | 演習内容の復習と練習 | | |
| 31 | 12/2 | 演習 | 後期のまとめと確認 | | | | | |
| 32 | 11/27 | 期末試験 | 筆記 | | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 授業での板書と、演習で学んだ内容についてまとめ、復習することができる。 | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | |
| ・基礎運動学(医歯薬出版株式会社) | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|---|----------------|-------------------------------------|-------|-------------|--------------------|------|-------|
| 科目名 (英) | 理学療法技術論Ⅰ(整形外科疾患) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 茂呂 行哲 |
| | (Orthopedic Disease) | | 授業 形態 | 講義・実技 | 総時間 (単位) | 60 (2) | 開講区分 | 後期 |
| 学科・コース | 理学療法科・Ⅰ部 Aクラス | | | | | | | |
| 教員の経歴 | 理学療法士、2012年4月～2015年3月まで介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月まで整形外科病院(外来)勤務。 2017年5月～高齢者の健康増進教室。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 整形外科疾患に対する臨床推論過程の例を示し、理学療法の考え方、捉え方について学ぶ。 ・整形外科疾患の病態 ・整形外科疾患に対する理学療法評価(実技含む) ・整形外科疾患に対するアプローチ(実技含む) をそれぞれ身につける。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 整形外科疾患の病態、各疾患に対する理学療法の考え方、捉え方を理解し、実施することができる。 臨床評価実習における整形外科疾患に対するイメージを身につけることができる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)筆記試験:80% 2)実技試験:20% | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 9/1 | 講義・実技 | オリエンテーション | | | 組織再生・修復についての復習 | | |
| 2 | 9/1 | 講義・実技 | 組織再生・修復の過程を理解できる。 | | | | | |
| 3 | 9/8 | 講義・実技 | 骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | 骨折と脱臼についての復習 | | |
| 4 | 9/8 | 講義・実技 | 骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | | | |
| 5 | 9/15 | 講義・実技 | 骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | 変形性関節症についての復習 | | |
| 6 | 9/15 | 講義・実技 | 骨折と脱臼、変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | | | |
| 7 | 9/29 | 講義・実技 | 変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | 変形性関節症についての復習 | | |
| 8 | 9/29 | 講義・実技 | 変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | | | |
| 9 | 10/6 | 講義・実技 | 人工関節の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | 人工関節についての復習 | | |
| 10 | 10/6 | 講義・実技 | 人工関節の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | | | |
| 11 | 10/13 | 講義・実技 | 関節リウマチの病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | 関節リウマチについての復習 | | |
| 12 | 10/13 | 講義・実技 | 関節リウマチの病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | | | |
| 13 | 10/20 | 講義・実技 | 末梢神経損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | 末梢神経損傷についての復習 | | |
| 14 | 10/20 | 講義・実技 | 末梢神経損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | | | |
| 15 | 10/27 | 講義・実技 | 頸部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | 頸部疾患についての復習 | | |
| 16 | 10/27 | 講義・実技 | 頸部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | | | |
| 17 | 11/10 | 講義・実技 | 腰部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | 腰部疾患についての復習 | | |
| 18 | 11/10 | 講義・実技 | 腰部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | | | |
| 19 | 11/17 | 講義・実技 | 肩関節周囲炎の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | 肩関節疾患についての復習 | | |
| 20 | 11/17 | 講義・実技 | 肩関節周囲炎の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | | | |
| 21 | 11/24 | 講義・実技 | 腱板断裂、肩関節脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | 肩関節疾患についての復習 | | |
| 22 | 11/24 | 講義・実技 | 腱板断裂、肩関節脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | | | |
| 23 | 12/1 | 講義・実技 | 膝関節靭帯損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | 膝関節疾患についての復習 | | |
| 24 | 12/1 | 講義・実技 | 膝関節靭帯損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | | | |
| 25 | 12/8 | 講義・実技 | 捻挫と肉離れの病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | 足関節靭帯損傷、筋損傷についての復習 | | |
| 26 | 12/8 | 講義・実技 | 捻挫と肉離れの病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | | | |
| 27 | 12/15 | 講義・実技 | 学習内容の総復習を行う。 | | | 捻挫と肉離れについての復習 | | |
| 28 | 12/15 | 講義・実技 | 学習内容の総復習を行う。 | | | | | |
| | 12/17 | 本試験 | | | | | | |
| 29 | 12/22 | 講義・実技 | 試験解説を行う。 | | | これまでの総復習 | | |
| 30 | 12/22 | 講義・実技 | カリキュラムの総まとめを行う。 | | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 各学習内容の予習・復習を行う | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | |
| 『運動器障害理学療法Ⅰ』15レクチャー(中山書店)、『運動器障害理学療法Ⅱ』15レクチャー(中山書店)、資料随時配布 | | | | | | | | |

| 科目名 (英) | | 中枢神経疾患 (Central Nerve Disease) | | 必修 選択 | 必須 | 年次 | 3 | 担当教員 | 塚野智史 |
|--|------|--|-----------------------|------------------|----|-------------|---------|------|------|
| 学科・コース | | 理学療法科・I部 Aクラス | | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 2 | 開講区分 | 前期 |
| 教員の略歴 | | 理学療法士、急性期病棟(脳外科、整形外科、呼吸器科、循環器科、外科、等)、回復期病棟、通所リハビリテーションに理学療法士として計11年勤務。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | | ヒトという動物のなかで最も特徴的な器官である「脳」を対象としているため難解に思われる中枢PTであるが、中枢性運動障害を改善するための根拠や、基本的な概念、必要な関連知識を交えて理解することで、臨床でのトレーニングの意義や目的を学生自身が考えることが可能となるような講義である。 | | | | | | | |
| 到達目標 | | 中枢神経疾患に対する理学療法技術と理論を学び、概要を説明できるようになる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | | 1) 定期試験100%。 | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | | | | |
| 1 | 5/11 | 講義 | 中枢神経系の構造と生理を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 2 | 5/11 | 講義 | 中枢神経系の構造と生理を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 3 | 5/14 | 講義 | 中枢神経系の構造と生理を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 4 | 5/14 | 講義 | 脳卒中の病態とリスク管理を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 5 | 5/18 | 講義 | 脳卒中の病態とリスク管理を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 6 | 5/18 | 講義 | 脳卒中の病態とリスク管理を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 7 | 5/21 | 講義 | 脳画像と各種経路を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 8 | 5/21 | 講義 | 脳画像と各種経路を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 9 | 5/25 | 講義 | 脳画像と各種経路を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 10 | 5/25 | 講義 | 脳卒中の回復メカニズムを説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 11 | 5/28 | 講義 | 脳卒中の回復メカニズムを説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 12 | 5/28 | 講義 | 脳卒中の回復メカニズムを説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 13 | 6/3 | 講義 | 脳卒中の障害構造を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 14 | 6/10 | 講義 | 脳卒中の障害構造を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 15 | 6/10 | 講義 | 脳卒中の障害構造を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 16 | 6/17 | 講義 | 意識障害について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 17 | 6/17 | 講義 | 運動麻痺について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 18 | 6/24 | 講義 | 運動麻痺について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 19 | 6/24 | 講義 | 運動麻痺について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 20 | 7/1 | 講義 | 感覚障害について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 21 | 7/1 | 講義 | 感覚障害について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 22 | 7/8 | 講義 | 異常筋緊張について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 23 | 7/8 | 講義 | 異常筋緊張について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 24 | 7/15 | 講義 | 運動失調について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 25 | 7/15 | 講義 | 運動失調について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 26 | 7/22 | 講義 | 身体失認、半側空間無視を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 27 | 7/22 | 講義 | 痛みについて説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 28 | 7/29 | 講義 | 姿勢定位障害、姿勢バランス障害を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 29 | 7/29 | 講義 | 起居動作障害について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| | 8/6 | 試験 | | | | | | | |
| 30 | 8/12 | 講義 | 歩行障害について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | | |
| 医療情報科学研究所eds.病気が見える Vol7.MEDIC MEDIA,2017 原寛美,吉尾雅春eds.脳卒中理学療法の理論と技術,2019,MEDICAL VIEW | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---------------------------|---|----------|-----------------|-----------|------------------|-----------|---------------|-------------------|
| 科目名 (英) | 理学療法技術論Ⅲ (Technical theory of Physical therapyⅢ) | | | 必修 選択 | 必修・選択必修・選 択等 | 年次 | 3年 | 担当教員 | 石島孝樹 古川雅一 | |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | | | 授業 形態 | 講義・演習・実習等 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 前期・後期(通学・集 中等) |
| 教員の略歴 | 石島:主に急性期病院等で、約10年間に渡る呼吸理学療法法の臨床経験を有する。 古川:2009年理学療法士免許取得。回復期病棟、訪問リハビリ等で循環器疾患をもつ症例への理学療法の実施経験あり。 | | | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | (呼吸器疾患) ①近年、呼吸器疾患が増大しており呼吸器に関する知識・技術の重要性が高まっている。 ②呼吸器は循環器との関係が深く、呼吸循環器として関連して理解する必要がある。また、理学療法全般においてリスクを管理する際の重要な知識である。 ③卒後、呼吸理学療法が実施できるセラピストに成長することを期待している。 この科目では、呼吸器疾患の基礎知識と病態・アプローチ方法を理解できるよう指導する。 (循環器疾患) 主要理学療法対象疾患の一つである循環器疾患を、まずリスク管理的観点から捉えられよう、講義形式中心に授業を進めていく。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | (呼吸器疾患) ①呼吸器疾患の基礎知識を理解する。 ②呼吸器疾患患者の病態から、正確に身体状況を把握することができる。 ③呼吸器疾患患者に対する評価とアプローチ内容を理解することができる。 (循環器疾患) リスク管理の概念を理解する 虚血性心疾患・心不全の病態特性と理学療法の位置づけを理解する 運動療法プログラム立案に必要な評価項目とプログラムの実際を実践できる | | | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | (呼吸器疾患) 1)定期テスト60% 2)出席数40% (循環器疾患) 筆記試験(本試験80%、確認テスト20%) | | | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | | |
| 1 | 6/17 | 講義 | 呼吸器の構造と運動を説明できる。 | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 2 | 6/24 | 講義 | 呼吸器の生理機能を説明できる。 | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 3 | 7/1 | 講義 | 呼吸器疾患について説明できる。 | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 4 | 7/8 | 講義 | 呼吸理学療法評価を説明できる。 | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 5 | 7/15 | 講義 | 徒手的手技について説明できる。 | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 6 | 7/29 | 講義 | 酸素療法について説明できる。 | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 7 | 8/4 | 定期テスト | 授業で学んだことを記述できる。 | | | | | | | |
| 8 | 8/12 | テストの解説 | テスト結果から自己の課題を抽出する。 | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 9 | 9/25 | 講義 | 心臓と血管の構造と機能を説明できる | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 10 | 10/2 | 講義 | 心電図と不整脈の診方が理解できる | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 11 | 10/9 | 講義 | 運動耐容能とその評価が理解できる | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 12 | 10/16 | 講義 | 虚血性心疾患、心臓弁膜症と心筋症の病態・検査と治療が理解できる | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 13 | 10/23 | 講義 | 心不全に加え大動脈および末梢動脈疾患の病態・検査と治療が理解できる | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 14 | 10/30 | 講義 | 糖尿病の合併症と治療について理解できる | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 15 | 11/6 | 講義 | 心血管に対する運動療法実施プログラムと疾病管理および患者教育について理解できる | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 16 | 11/13 | 試験 | | | | | | | | |
| 17 | 11/20 | 講義 | 試験解説および総復習 | | | | 講義の復習を行う事 | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 教科書や配布資料にて講義の確認を行い試験に備える事 | | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 〇 | | | | | | | | | | |
| 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト<内部障害理学療法学 呼吸> 第2版(中山書店) 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト<内部障害理学療法学 循環・代謝> 第2版(中山書店) | | | | | | | | | | |

| 科目名 (英) | 理学療法技術論Ⅳ 小児期疾患 (Childhood disease) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 佐藤美紀 |
|---|---|---------------|---|-------|-------------|------------------|------|-------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 1単位 | 開講区分 | 前期 火(2限) |
| 教員の略歴 | 理学療法士、臨床歴:1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月デイサービス勤務。 2002年4月～2007年12月病院・老健施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・指導)。 講師歴:介助法講師。臨床動作分析講習会講師。他 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 小児期疾患に対する理学療法評価・治療について体験を通して学習する。 (ハンドリング・ポジショニングなど他の疾患でも応用できる技術を体験する) | | | | | | | |
| 到達目標 | 発達における小児の特性、各疾患の病態(禁忌や予後も含む)を理解できるようになる。 ①発達年齢を判定できる ②CPのタイプを判定できるようになる ③各疾患の特徴から、評価の目的を明確にできる ④発達年齢に応じた治療を選択できる | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 本試験80% 平常点20%(授業内参加度、出席率) *ただし、本試験が60点を満たない場合は、そのほかで点数があっても再試となります。 | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 6月2日 | 講義/演習 | 小児期疾患の特徴を理解する | | | | | |
| 2 | 6月2日 | 講義/演習 | 正常発達を月齢ごとに理解する。原始反射、姿勢反射と運動の発達の関係を言える | | | 人間発達学の復習 | | |
| 3 | 6月9日 | 講義/演習 | 解剖学的構造や数値を理解し、小児期疾患のリスク確認ができる | | | | | |
| 4 | 6月9日 | 演習 | 発達の評価により、発達年齢を判定できる | | | 人間発達学の復習 | | |
| 5 | 6月16日 | 講義/演習 | 整形外科的な視点から成長と運動療法の関係を述べる言える | | | 股関節の運動学の復習 | | |
| 6 | 6月16日 | 講義/演習 | 整形外科疾患の評価とその目的を言える | | | 脊柱の運動学の復習 | | |
| 7 | 6月23日 | 演習 | 小児の義肢装具を考える | | | 義肢装具学の復習 | | |
| 8 | 6月23日 | 講義/演習 | CPの種類を判別ができるようになる その病態と特徴をいうことができる | | | | | |
| 9 | 6月30日 | 講義/演習 | 痙直型CPの評価とその目的を言える | | | | | |
| 10 | 6月30日 | 講義/演習 | その他のCPの評価とその目的を言える | | | | | |
| 11 | 7月7日 | 演習 | 発達年齢に応じたCPの治療を考える | | | | | |
| 12 | 7月7日 | 講義/演習 | 二分脊椎の評価とその目的を言える 装具や運動を考えることができる | | | 下肢の筋の髄節レベルの復習 | | |
| 13 | 7月14日 | 講義/演習 | 筋ジストロフィーの評価とその目的を言える 禁忌を基に時期に応じた運動が言える | | | | | |
| 14 | 7月14日 | 講義/演習 | 発達障害の分類を言える。 低緊張の特徴に応じた治療を考える | | | | | |
| 15 | 7月21日 | 本試験 | | | | | | |
| 16 | 7月28日 | 講義/演習 | まとめ・復習 | | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | |
| 資料配布+人間発達学、評価学、運動療法学、ADL、小児科学、運動学、義肢装具学 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------------|--|----------------|------------------------------------|-------|-------------|------------------|---------------|-------------------|
| 科目名 (英) | 理学療法技術論Ⅴ (難病・スポーツ障害) (Intractable Disease,Sports Disease) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 茂呂 行哲 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義・実技 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 火曜 1・2時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、2012年4月～2015年3月まで介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月まで整形外科病院(外来)勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 難病・スポーツ障害に対する理学療法評価・治療について学ぶ。症例検討も行う。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 難病・スポーツ障害と理学療法の概念を理解することができる。 「難病」の定義が言える。「指定難病」の要件を言える。難病患者の就労について説明できる。具体的な難病の病態と治療法を説明できる。 臨床評価実習における難病・スポーツ障害に対するイメージを身につけることができる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業態度(30%) 定期試験(70%) | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 10/1 | 講義 | 「難病」・「指定難病」の定義が言える。障害者基本法の難病を言える。 | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 2 | 10/1 | 講義 | 障害者総合支援法の難病を言える。合理的配慮について説明できる | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 3 | 10/8 | 講義 | インクルーシブ・障害の「医学モデル」・「社会モデル」を説明できる | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 4 | 10/8 | 講義 | 器官劣等生・環世界を説明できる | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 5 | 10/15 | 講義 | バリアフリー・ユニバーサルデザインを説明できる | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 6 | 10/15 | 講義 | 難病患者の就労について説明できる | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 7 | 10/22 | 講義 | 難病相談・支援センターの機能について説明できる | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 8 | 10/22 | 講義 | 脊髄性筋萎縮症の病態・訓練法を説明できる | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 9 | 10/29 | 講義・実技 | スポーツ障害と理学療法(総論、コンディショニング)について理解する。 | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 10 | 10/29 | 講義・実技 | スポーツ障害と理学療法(総論、コンディショニング)について理解する。 | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 11 | 11/5 | 講義・実技 | 膝関節の靭帯損傷(膝関節の解剖・運動、受傷メカニズム)を理解する。 | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 12 | 11/5 | 講義・実技 | 膝関節の靭帯損傷(運動連鎖、動作分析)を理解する。 | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 13 | 11/12 | 講義・実技 | 上肢のスポーツ障害(投球障害肩等)について理解する。 | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 14 | 11/12 | 講義・実技 | 上肢のスポーツ障害(運動連鎖、動作分析)について理解する。 | | | 講義内容の復習を行う | | |
| | 11/19 | 試験 | | | | | | |
| 15 | 11/26 | 講義・実技 | 試験の解説を行う。学習内容の総復習を行う。 | | | 講義内容の復習を行う | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 各学習内容の予習・復習を行う | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | |
| 資料随時配布 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---------------|----------------------------|-------|-------------|------------------|------|-------------|
| 科目名 (英) | 理学療法演習 (Practice PT) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 塚野智史 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 60 2 | 開講区分 | 通年 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士として病院(急性期・回復期)、通所リハビリ施設で11年の臨床経験を有する | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ① 臨床自習に向け、最低限必要な知識・能力を身に付けるための講義を行う。 ② これまで学んできた科目すべての知識が必要である。特に評価学と基礎3科目が重要である。 ③ 礼節ある態度を身に付け、自発的に学習する姿勢が重要である。 | | | | | | | |
| 到達目標 | ①挨拶、礼儀をわきまえた行動をとる ②実習生として最低限行えなければならない評価技術を身に付ける | | | | | | | |
| 評価方法及び基準 | 1)試験100% | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 6/4 | 講義・演習 | オリエンテーション | | | | | |
| 2 | 6/4 | 講義・演習 | オリエンテーション | | | | | |
| 3 | 6/11 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 4 | 6/11 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 5 | 6/18 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 6 | 6/18 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 7 | 6/25 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 8 | 6/25 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 9 | 7/2 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 10 | 7/2 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 11 | 7/9 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 12 | 7/9 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 13 | 7/23 | 講義・演習 | 症例レポートの書き方を理解できる | | | 復習をする事 | | |
| 14 | 7/23 | 講義・演習 | 症例レポートの書き方を理解できる | | | 復習をする事 | | |
| 15 | 8/6 | 講義・演習 | 症例レポートを助言のもと作成できる | | | 症例レポートを作成する | | |
| 16 | 8/6 | 講義・演習 | 症例レポートを助言のもと作成できる | | | 症例レポートを作成する | | |
| 17 | 8/13 | 講義・演習 | 症例レポートを助言のもと作成できる | | | 症例レポートを作成する | | |
| 18 | 8/13 | 講義・演習 | 症例レポートを助言のもと作成できる | | | 症例レポートを作成する | | |
| 19 | 9/3 | 講義・演習 | 症例レポートを助言のもと作成できる | | | 症例レポートを作成する | | |
| 20 | 9/3 | 講義・演習 | 症例レポートを助言のもと作成できる | | | 症例レポートを作成する | | |
| 21 | 9/10 | 講義・演習 | OSCE3の試験科目を演習できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 22 | 9/10 | 講義・演習 | OSCE3の試験科目を演習できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 23 | 9/17 | 講義・演習 | OSCE3の試験科目を演習できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 24 | 9/17 | 講義・演習 | OSCE3の試験科目を演習できる | | | 実技の復習をする事 | | |
| 25 | 9/24 | 講義・演習 | 動作観察(起立)を表現できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 26 | 9/24 | 講義・演習 | 動作観察(起立)を表現できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 27 | 10/1 | 講義・演習 | 動作観察(歩行)を表現できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 28 | 10/1 | 講義・演習 | 動作観察(歩行)を表現できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 29 | 10/25 | 講義・演習 | 臨床実習で必須となる基本的な理学療法評価を実施できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| 30 | 10/25 | 講義・演習 | 臨床実習で必須となる基本的な理学療法評価を実施できる | | | 授業の復習を行う事 | | |
| | | 定期試験 | | | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | |
| ・PT・OTのための臨床技能とOSCE: コミュニケーションと介助・検査測定 編 (金原出版) ・理学療法評価学 改訂第5版(金原出版) ・動作分析 臨床活用講座—バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 (MEDICAL VIEW) 他 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|---|--------------------------------------|-------------------------------------|----|-------------|------------------|---------------|------|
| 科目名 (英) | 地域理学療法学 (Community PT) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 塚野智史 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 後期 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、急性期病棟、回復期病棟、デイケアで勤務し、計11年の臨床経験を有する。 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 地域で生活している高齢者や障がい者の生活を支援するため、関係法規や支援技術・知識を学び、その背景も理解する。地域生活は日本が抱える社会問題とも関わりが深いため、日本の政治経済にも関心を持てるようになってもらい、在宅生活支援を実践する理学療法士としての基本を学んでほしい。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 地域理学療法概念・背景・関連法規について理解し説明できる。 地域で生活する高齢者や障がい者のリハビリ提供システムを理解し説明できる。 地域支援におけるケアマネジメント機能を理解し説明できる。 地域包括ケアシステムについて理解し説明できる。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト100% | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 9/2 | 講義 | 地域理学療法概論 | | | 復習を行う事 | | |
| 2 | 9/9 | 講義 | ①地域包括ケアシステムについて理解する | | | 復習を行う事 | | |
| 3 | 9/16 | 講義 | ②地域包括ケアシステムについて理解する | | | 復習を行う事 | | |
| 4 | 9/23 | 講義 | 介護保険制度制定の背景と仕組みについて理解する | | | 復習を行う事 | | |
| 5 | 9/30 | 講義 | 地域包括支援センターの役割について理解する | | | 復習を行う事 | | |
| 6 | 10/7 | 講義 | ①介護保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する | | | 復習を行う事 | | |
| 7 | 10/14 | 講義 | ②介護保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する | | | 復習を行う事 | | |
| 8 | 10/21 | 講義 | ③介護保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する | | | 復習を行う事 | | |
| 9 | 10/28 | 講義 | ①医療保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する | | | 復習を行う事 | | |
| 10 | 11/4 | 講義 | ②医療保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する | | | 復習を行う事 | | |
| 11 | 11/11 | 講義 | 地域リハビリテーションニーズについて理解する | | | 復習を行う事 | | |
| 12 | 11/18 | 講義 | 地域における健康増進・介護予防について学習する | | | 復習を行う事 | | |
| 13 | 11/25 | 講義 | 障がい者福祉と地域理学療法について理解する | | | 復習を行う事 | | |
| 14 | 12/2 | 講義 | 地域でのリハビリテーションにおける課題についてグループワークで検討する | | | 復習を行う事 | | |
| 15 | 12/9 | 試験 | | | | | | |
| 16 | 12/16 | 講義 | 試験解答を説明する事ができる | | | 復習を行う事 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 各回毎に必要なと考える運動学の知識を事前に確認し、終了後は復習をすること | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | | | |
| 理学療法学 ゴールド・マスター・テキスト7 地域理学療法学 (メジカルビュー社) | | | | | | | | |

| 科目名 (英) | ケアマネジメント論 (Care Manegiment) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 石田広 |
|-----------------------------|--|---------------|---|----|-------------|-----------------|---------------|---------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 1 | 開講区分 曜日・時限 | 水 3限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、1993年～現在総合病院の急性期リハ、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問リハ、養成校等の開設及び業務に従事 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | <p>①わが国の少子高齢化が進んでいることは周知のとおりであり、国民全体の4分の1が高齢期に到達し、その割合は今後も上昇する見通しである。国民が、自らの生活を可能な限り自立して過ごすことは、わが国の財政問題のみならず生活主体者としての喫緊の課題といえよう。高齢期に訪れる要介護状態について、本人の理解と支援方法を学ぶことは、対人援助職として必須の内容であるといえる。</p> <p>②当科目の対象者は主には介護保険制度の該当者である高齢者である。高齢に関する関連領域と共に学ぶことが求められる。</p> <p>③生きていく限り不可避である高齢期についての考えを持ち、将来的に支援する場合の自分なりの視点を持ってほしいと考える。</p> <p>④以上をふまえ、高齢期に対する理解と高齢者・要支援者側の視点としての理解を促す授業とする。相手の立場に立たない対人援助はあり得ないからである。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <p>①高齢期に訪れる心身の変化を理解し、それを当事者が理解できるように説明できる。</p> <p>②要介護の状態を理解し、活用できる制度を当事者が利用できるように説明できる。</p> <p>③要介護状態の対象者が、可能な限り自立した生活を送ることができるマネジメントについて解説できる。</p> <p>④マネジメントを行う際に必要な、多職種・他機関連携について理解し、相互理解を促して実践できる。</p> <p>⑤理学療法士としてのケアマネジメントにおける位置づけを理解し、事業者として、又はマネジャーとしての活動内容を理解したうえで、それぞれの立場で実践できるようにする。</p> | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | <p>1) 定期テスト(レポート)50% 授業内提出物30% 授業内活動(態度)20%</p> <p>2) 定期テストは、知識と理解度を測るための自分の考えを問うものとする。</p> <p>3) 授業内提出物は当該授業内容や当該資料(紙資料・視聴覚映像等)についての小レポートを課し内容で評価する。</p> <p>4) 授業内において、数人での演習や自分の考えを発表する機会を設ける。今般の医療・福祉現場をみると、何かあった場合所属部署長のみでなく、当事者(職員)が直接説明や証言を求められる機会が増加し、自分自身の身を守るために、関わった事象や自分の行っている業務等について説明・解説できることが必要と考えるからである。</p> | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 6/10 | 講義 | ケアマネジメントとは何かを説明できるようになる | | | 介護保険制度とケアマネジメント | | |
| 2 | 6/24 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。レポートを作成する。 | | | 評価実技の復習、レポートの作成 | | |
| 3 | 7/1 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | | | 運動指導の復習 | | |
| 4 | 7/8 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | | | 運動指導の復習 | | |
| 5 | 7/15 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | | | 運動指導の復習 | | |
| 6 | 7/22 | 講義 | ケアマネジメントにおけるアセスメントが説明できる | | | アセスメントツールの把握 | | |
| 7 | 7/29 | 講義・演習 | ケアマネジメントにおけるアセスメントが実施できる | | | アセスメントツールの使用 | | |
| 8 | 8/5 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。レポートを作成する。 | | | 評価実技の復習、レポートの作成 | | |
| 9 | 8/12 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | | | 運動指導の復習 | | |
| 10 | 9/2 | 講義 | ケアマネジメントにおけるケアプランが説明できる | | | ケアプランの把握 | | |
| 11 | 9/9 | 講義・演習 | 東口ますます元気教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。レポートを作成する。 | | | 評価実技の復習、レポートの作成 | | |
| 12 | 9/16 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | | | 運動指導の復習 | | |
| 13 | 9/23 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。レポートを作成する。 | | | 評価実技の復習、レポートの作成 | | |
| 14 | 9/30 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | | | 運動指導の復習 | | |
| | 10/8 | | ケアマネジメントにおけるケアプランが作成できる | | | ケアプランの作成 | | |
| 15 | 10/16 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | | | 運動指導の復習 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 当該部分の事前調査検索による予習と、授業後の資料含めた復習による知識の固定を図る | | | | | |
| ケアマネジャー実践マニュアル(ケアマネジャー@ワーク) | | | | | | | | |

| 科目名 (英) | 地域福祉論 (Principles of Community welfare) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 古川雅一 |
|------------------|--|---------------|-----------------------------------|--------------|-------------|---------|---------------|--------------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 1 | 開講区分 曜日・時限 | 後期 火曜日 1・2時限 |
| 教員の略歴 | 2009/4 理学療法士免許取得 2009-2015一般病院勤務(大阪府) 2015-2017理学療法士養成校教員(兵庫県) 2017-2019青年海外協力隊参加(キルギス) 訪問リハビリテーションにて地域における理学療法の実戦経験あり | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士は臨床現場で様々な症例と関わるが、その方々は病院を退院した後に様々な社会福祉サービスをうけ地域で生活されているケースが多い。そのため理学療法士は症例のリハビリテーションゴールを考える上で、どのような福祉のサービスを利用することが将来の幸福へとつながるのか、症例本人や関係職種と検討をおこなっていく必要がある。 本授業では、福祉とは何か、福祉の考え方の変化、どのような福祉に関する法律が存在するのか、その法律は症例にどのように関係するのか、どのようなサービスを利用することができるのか、などを学び、身体的な治療のみならず多面的に症例をとらえる視点を持つことを目指し実施する。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉、社会福祉、地域福祉とは何かを日本を福祉の歴史を通して、その意味と考え方を理解する。 ・福祉に関する法律や福祉サービスを学び、どのような方が福祉の対象者となるのかを理解できる。 ・福祉対象者の抱えるニーズおよび専門職者としての具体的な支援方法について理解し、適切に説明できるようになる。 ・日本以外の国における福祉の考え方も学び、それぞれの長所・短所を理解する。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験(本試験80%、課題レポート20%) | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | | |
| 1 | 5月15日 | 講義 | 福祉とはなにか?なぜ理学療法士が福祉を学ぶ必要があるのかを理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 2 | 5月22日 | 講義 | 日本における福祉の考え方の変化を理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 3 | 5月29日 | 講義 | 社会福祉の基本となる3つの理念を理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 4 | 6月5日 | 講義 | 自立支援に必要な考え方を理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 5 | 6月12日 | 講義 | 社会福祉八法について理解する① | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 6 | 6月19日 | 講義 | 社会福祉八法について理解する② | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 7 | 6月26日 | 講義 | 社会福祉八法について理解する③ | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 8 | 7月3日 | 講義 | 生活保護法について理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 9 | 7月10日 | 講義 | 介護保険について理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 10 | 7月17日 | 講義 | 介護保険にて利用できるサービスを理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 11 | 7月24日 | 講義 | 世界の医療・福祉について理解する① | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 12 | 7月31日 | 講義 | 世界の医療・福祉について理解する② | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 13 | 8月7日 | 講義 | 世界の医療・福祉について理解する③ | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 14 | 8月14日 | 講義 | 日本の福祉における今後の課題を考える | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 15 | 9月4日 | テスト | 定期試験 | | | | | |
| 16 | 9月11日 | 講義 | 試験解説 | | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 配布資料の復読、課題作成 | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | |
| 特になし | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------------|---|----------------------------|--|----------|-------------|------------------|------|---------------|
| 科目名 (英) | 臨床評価実習 I (Evaluation of Clinical Practice) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | ①塚野智史 ②石田広 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Aクラス | 授業 形態 | 講義・演習・実習 | 総時間 (単位) | 135 (3) | 開講区分 | 通年 |
| 教員の略歴 | ①急性期病棟、回復期病棟、通所リハビリテーションで計11年の臨床経験を有する ②1993年～現在総合病院の急性期リハ、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問リハ、養成校等の開設及び業務に従事 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価(知識・技術など)が実践できる。 ① 情報収集～統合と解釈までの流れを体験することで、今後の学習課題を認識させる機会をもたせる。 ② 医療人としての態度を学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | ケースを通じて、競技の意味での評価の一連の流れを体験し、ケースに必要な検査・測定ができるようになる。広義の意味での評価を「指導」により体験することで、障害を理解し、情報をつなげていく過程を学ぶ。 ① 基本的な評価技術と治療の立案につながる過程を学ぶ。 ② 患者に丁寧な対応を続けられるようになる。 ③ 治療器具・備品などの基本的な取り扱いと使用目的を学ぶ。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での実習報告(レポートとレジメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60% | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1~4 | 11/30 | 講義 | 実習オリエンテーション 「臨床評価実習 I」の概要・目的を理解できる。 | | | | | |
| 5~8 | 12/7 | 演習 | 実習前OSCE 「臨床評価実習 I」にあたっての基本的な技能を実施できる。 | | | 事前練習 | | |
| 9~68 | 2020/1/12~ 2/1 | 実習 | 学外 臨床評価実習 I 期間 1/14~2/5 | | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 学外 臨床評価実習に向けた自己学習、実技練習を行う。 | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|--|--------------------------|--|----------|-------------|------------------|------|---------------|
| 科目名 (英) | 臨床評価実習Ⅱ (Evaluation of Clinical Practice) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | ①塚野智史 ②石田広 |
| | 学科・コース | 理学療法科・Ⅰ部 Aクラス | 授業 形態 | 講義・演習・実習 | 総時間 (単位) | 135 (3) | 開講区分 | 通年 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | ①急性期病棟、回復期病棟、通所リハビリテーションで計11年の臨床経験を有する ②1993年～現在総合病院の急性期リハ、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問リハ、養成校等の開設及び業務に従事 | | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価(知識・技術など)が実践できる。 ① 情報収集～統合と解釈までの流れを体験することで、今後の学習課題を認識させる機会をもたせる。 ② 医療人としての態度を学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | ケースを通じて、競技の意味での評価の一連の流れを体験し、ケースに必要な検査・測定ができるようになる。広義の意味での評価を「指導」により体験することで、障害を理解し、情報をつなげていく過程を学ぶ。 可能であれば、治療の見学・体験を通し、更なる理解を深める。 ① 基本的な評価技術と治療の立案につながる過程を学ぶ。 ② 患者に丁寧な対応を続けられるようになる。 ③ 治療器具・備品などの基本的な取り扱いと使用目的を学ぶ。 | | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60% | | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | | 準備学習 時間外学習(学習課題) | | |
| 1～56 | 2/2～3/10 | 実習 | 学外 臨床評価実習Ⅱ 期間 2/6～3/4 | | | | | |
| 57～60 | 3/15 | 講義 | 実習オリエンテーション 「臨床評価実習Ⅱ」についてのフィードバックをすることができる。 | | | | | |
| 61～64 | 3/16 | 演習 | 実習後OSCE 「臨床評価実習Ⅱ」で習得した技能を実践することができる。 | | | 事前練習 | | |
| 65～68 | 3/17 | 演習 | 実習報告会 「臨床評価実習Ⅱ」で学んだ事を基にレポート・レジュメを作成し、学内で報告することができる。 | | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 学外 臨床実習に向けた自己学習、実技練習を行う。 | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----|-------------|---------|------|---------|
| 科目名 (英) | ケアマネジメント論 (Care Manegiment) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 | 石田広 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 1 | 開講区分 | 金 1限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、1993年～現在総合病院の急性期リハ、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問リハ、養成校等の開設及び業務に従事 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①わが国の少子高齢化が進んでいることは周知のとおりであり、国民全体の4分の1が高齢期に到達し、その割合は今後も上昇する見通しである。国民が、自らの生活を可能な限り自立して過ごすことは、わが国の財政問題のみならず生活主体者としての喫緊の課題といえよう。高齢期に訪れる要介護状態について、本人の理解と支援方法を学ぶことは、対人援助職として必須の内容であるといえる。②当科目の対象者は主には介護保険制度の該当者である高齢者である。高齢に関する関連領域と共に学ぶことが求められる。③生きている限り不可避である高齢期についての考えを持ち、将来的に支援する場合の自分なりの視点を持ってほしいと考える。④以上をふまえ、高齢期に対する理解と高齢者・要支援者側の \forall としての理解を促す授業とする。相手の立場に立たない対人援助はあり得ないからである。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①高齢期に訪れる心身の変化を理解し、それを当事者が理解できるように説明できる。 ②要介護の状態を理解し、活用できる制度を当事者が利用できるように説明できる。 ③要介護状態の対象者が、可能な限り自立した生活を送ることができるマネジメントについて解説できる。 ④マネジメントを行う際に必要な、多職種・他機関連携について理解し、相互理解を促して実践できる。 ⑤理学療法士としてのケアマネジメントにおける位置づけを理解し、事業者として、又はマネジャーとしての活動内容を理解したうえで、それぞれの立場で実践できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期テスト(レポート)50% 授業内提出物30% 授業内活動(態度)20% 2) 定期テストは、知識と理解度を測るための自分の考えを問うものとする。 3) 授業内提出物は当該授業内容や当該資料(紙資料・視聴覚映像等)について的小レポートを課し内容で評価する。 4) 授業内において、数人での演習や自分の考えを発表する機会を設ける。今般の医療・福祉現場をみると、何かあった場合所属部署長のみでなく、当事者(職員)が直接説明や証言を求められる機会が増加し、自分自身の身を護るために、関わった事象や自分の行っている業務等について説明・解説できることが必要と考えるからである。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|-----------------------------|------|--|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 6/5 | 講義 | ケアマネジメントとは何かを説明できるようになる | 介護保険制度とケアマネジメント |
| 2 | 6/5 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。レポートを作成する。 | 評価実技の復習、レポートの作成 |
| 3 | 6/26 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | 運動指導の復習 |
| 4 | 7/3 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | 運動指導の復習 |
| 5 | 7/10 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | 運動指導の復習 |
| 6 | 7/17 | 講義 | ケアマネジメントにおけるアセスメントが説明できる | アセスメントツールの把握 |
| 7 | 7/24 | 講義・演習 | ケアマネジメントにおけるアセスメントが実施できる | アセスメントツールの使用 |
| 8 | 7/31 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。レポートを作成する。 | 評価実技の復習、レポートの作成 |
| 9 | 8/7 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | 運動指導の復習 |
| 10 | 8/14 | 講義 | ケアマネジメントにおけるケアプランが説明できる | ケアプランの把握 |
| 11 | 9/4 | 講義・演習 | 東口ますます元気教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。レポートを作成する。 | 評価実技の復習、レポートの作成 |
| 12 | 9/11 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | 運動指導の復習 |
| 13 | 9/18 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。レポートを作成する。 | 評価実技の復習、レポートの作成 |
| 14 | 9/25 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | 運動指導の復習 |
| | 10/8 | | ケアマネジメントにおけるケアプランが作成できる | ケアプランの作成 |
| 15 | 10/9 | 講義・演習 | 亀岡運動教室での評価を振り返り、反省点と次回への改善策を挙げる事ができる。 | 運動指導の復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | 当該部分の事前調査検索による予習と、授業後の資料含めた復習による知識の固定を図る | | |
| ケアマネジャー実践マニュアル(ケアマネジャー@ワーク) | | | | |

| 科目名 (英) | 医学英語 (Medical English) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 |
|------------------|--|----------------|---------------------------|----------|-------------|-------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 |
| 教員の略歴 | 理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学), Golf physio trainer(2017取得)。 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士に必要な英単語、文法、医学英語論文を実際に読み、抄読会を行い、にわたる情報の中から自分が必要とする情報を選び、それを他へ伝えるという一連の過程。 | | | | | |
| 到達目標 | ①リハビリテーションに関する文献を読みこなすことができるよう、医学英単語、文法に関する知識を習得する。 ②文献から得られた内容を他者に分かりやすく伝える。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | グループ発表(70%), 出席(30%) | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外 | | |
| 1 | 5/22 | 講義 | 理学療法に必要な英単語を記することができる。① | | | |
| 2 | 5/29 | 講義 | 理学療法に必要な英単語を記することができる。② | 授業内容 | | |
| 3 | 6/4 | 講義 | 理学療法に必要な英単語を記することができる。② | 授業内容 | | |
| 4 | 6/11 | 講義 | 文法の復習:文型を理解できる。 | 授業内容 | | |
| 5 | 6/18 | 講義 | 英語論文の読み方を理解できる。 | 授業内容 | | |
| 6 | 6/25 | 講義 | PubMedを利用して論文を検索することができる。 | 授業内容 | | |
| 7 | 7/2 | 講義 | 医学英語論文の和訳することができる。① | 授業内容 | | |
| 8 | 7/9 | 講義 | 医学英語論文の和訳することができる。② | 授業内容 | | |
| 9 | 7/16 | 講義 | 医学英語論文の和訳することができる。③ | 授業内容 | | |
| 10 | 7/23 | 講義 | 医学英語論文の和訳することができる。④ | 授業内容 | | |
| 11 | 7/30 | 講義 | 医学英語論文の和訳することができる。⑤ | 授業内容 | | |
| 12 | 8/6 | 講義 | 医学英語論文の和訳することができる。⑥ | 授業内容 | | |
| 13 | 8/13 | 講義 | 全訳した論文の発表準備ができる。① | 授業内容 | | |
| 14 | 9/3 | 講義 | 全訳した論文の発表準備ができる。② | 授業内容 | | |
| 15 | 9/10 | 試験 | プレゼン:全訳した論文の発表ができる。 | 授業内容 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 講義参加後に復習する必要あり | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | |
| 適宜、資料を配布する。 | | | | | | |

| 科目名 (英) | 救急医学 (Emergency Medicine) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 |
|----------------------------------|---|--------------|--|-------|-------------|-------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 1 |
| 教員の略歴 | ・S53年、岩手医科大学卒業 ・S60年、浅沼整形外科を開院 ・現在に至る | | | | | |
| 授業の学習内容 | 各臓器の疾患を理解し、鑑別診断を出来るようにします。 緊急の症状が出現した時、脳か、循環器科か、呼吸器科か、低血糖症状か 鑑別できるようにします。 | | | | | |
| 到達目標 | 医師不在の施設に勤務する人が増えております。 緊急時のバイタルサインを正確に把握し、症状を正確に救急隊へ連絡し、搬送依頼 します。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験(100%)です。 | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | 準備学習 時間外 | |
| 1 | 6/20 | 講義 | 基礎的な専門用語を理解できる | | 講義の復 | |
| 2 | 6/20 | 講義 | 脳卒中、脳動脈を理解できる Japan comma scaleをとる事ができる | | 講義の復 | |
| 3 | 6/20 | 講義 | 脱臼、骨折(上下肢、体幹)について理解できる | | 講義の復 | |
| 4 | 6/27 | 講義 | 心電図の取り方と心電図の各波を理解できる | | 講義の復 | |
| 5 | 6/27 | 講義 | 各種不整脈(特に緊急を要する不整脈)を 理解できる | | 講義の復 | |
| 6 | 6/27 | 講義 | 心電図用語を理解できる WPW症候群の波形は何を疑うかを説明できる | | 講義の復 | |
| 7 | 7/4 | 講義 | 心筋梗塞の病態・症状と緊急時に 何をするかを理解できる | | 講義の復 | |
| 8 | 7/14 | 講義 | 肺区域、排痰処理とそれに基づく 排痰体位を理解できる | | 講義の復 | |
| 9 | 7/4 | 講義 | スパイログラム、フローボリュームの意味を 理解し、検査結果を読むことが出来る | | 講義の復 | |
| 10 | 7/11 | 講義 | 悪性腫瘍(特に転移性悪性腫瘍)の 概要を理解できる | | 講義の復 | |
| 11 | 7/11 | 講義 | 糖尿病・低血糖の病態、症状を理解できる | | 講義の復 | |
| 12 | 7/18 | 講義 | 意識障害・呼吸困難の概要を理解し、 救急搬送の手順を実践できる | | 講義の復 | |
| 13 | 7/18 | 講義 | 高血圧・低血圧・てんかんの概要 を理解し、各対処が行える | | 講義の復 | |
| 14 | 7/18 | 講義 | 頭痛・発熱、深部静脈血栓症の概要 を理解し、その対処ができる | | 講義の復 | |
| 15 | 7/23 | 試験 | | | | |
| 16 | 7/25 | 講義 | 試験解説を通し、試験問題の解答を理解できる | | 講義の復 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | |
| 講義プリント、リハビリテーション リスク管理ハンドブック 第2版 | | | | | | |

| 科目名 (英) | 小児科学 (pediatrics) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 |
|--------------------------------------|--|---------------|-----------------------------|----|-------------|---------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) |
| 教員の略歴 | 医師、現在大学医学部の教授を兼任しつつ、医学部長を務める。 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 小児の身体的特徴および疾患について理学療法士に必要な知識を教授する。 | | | | | |
| 到達目標 | 理学療法士に必要な知識として、小児の特徴および疾患について理解する。同時リハビリテーションについて理解することを目標とする。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験100% | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | 準備学習 時間 | |
| 1 | 9/5 | 講義 | 成長と発達について理解する | | 事前配布プリント | |
| 2 | 9/5 | 講義 | 先天異常について理解する | | 事前配布プリント | |
| 3 | 9/12 | 講義 | 小児の消化器系疾患について理解する① | | 事前配布プリント | |
| 4 | 9/12 | 講義 | 小児の消化器系疾患について理解する② | | 事前配布プリント | |
| 5 | 9/19 | 講義 | 小児の呼吸器疾患について理解する | | 事前配布プリント | |
| 6 | 9/19 | 講義 | 小児の循環器疾患について理解する | | 事前配布プリント | |
| 7 | 9/26 | 講義 | 小児の感染症について理解する | | 事前配布プリント | |
| 8 | 9/26 | 講義 | 小児の内分泌代謝疾患について理解する | | 事前配布プリント | |
| 9 | 10/3 | 講義 | 障害児について理解する | | 事前配布プリント | |
| 10 | 10/3 | 講義 | 重大な結果を招くリスクのある疾患について理解する① | | 事前配布プリント | |
| 11 | 10/10 | 講義 | 重大な結果を招くリスクのある疾患について理解する② | | 事前配布プリント | |
| 12 | 1/10 | 講義 | 小児症候学:よく見られる症状を述べる① | | 事前配布プリント | |
| 13 | 10/17 | 講義 | 小児症候学:よく見られる症状を述べる② | | 事前配布プリント | |
| 14 | 10/17 | 講義 | 小児症候学:よく見られる症状を述べる③ | | 事前配布プリント | |
| 15 | 10/24 | 講義 | まとめ | | 事前配布プリント | |
| | 10/24 | 試験 | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必須 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | |
| 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第4版 (医学書院) | | | | | | |

| 科目名 (英) | 障害者福祉論 (Welfares for Disable Persons) | | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 |
|-----------------------|---|---------------|---------------------|----------|----|-------------|---------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 1 |
| 教員の略歴 | ・平成24年、社会福祉士免許取得 ・平成31年、精神保健福祉士免許取得 ・社会福祉法人施設 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士に求められている専門性とは、正しい理学療法の知識と技術のみならず「対人援助職」とすることや、対象者の人生の質を高めていけるような継続的な関わりをする関係機関との連携を図る院の中に留まらず、関係職種とのネットワークの中で当事者を支えるために、理学療法士としての役の生活や様々な施策についても基本を押さえておくことは必要である。本講義を通じて理学療法士でない「多職種連携」や、連携の輪の中での理学療法士の立ち位置をイメージする一助としたい。 | | | | | | |
| 到達目標 | 基本的人権を尊重し、当事者の権利を守ることなど、正しい人権意識と人間観に立ち、障害をお持ちに支えるための基礎的な知識を身につける。また、リハビリテーションの営みの中で、理学療法士と理解し、適切に専門性を発揮するための人間的基盤を養うこと。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験(80%) 出席(10%) 授業態度(10%) | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外 | | | |
| 1 | 9/5 | 講義 | 心と身体の関係と障害の呼称を説明できる | 授業の復習 | | | |
| 2 | 9/5 | 講義 | 障害の概念について説明できる | 授業の復習 | | | |
| 3 | 9/19 | 講義 | 障がい者の定義を説明できる | 授業の復習 | | | |
| 4 | 9/19 | 講義 | 人権思想の発展について説明できる | 授業の復習 | | | |
| 5 | 10/3 | 講義 | 人権と対立する思想を説明できる | 授業の復習 | | | |
| 6 | 10/3 | 講義 | 障害福祉の基礎理念を説明できる① | 授業の復習 | | | |
| 7 | 10/17 | 講義 | 障害福祉の基礎理念を説明できる② | 授業の復習 | | | |
| 8 | 10/17 | 講義 | 障害者施策の発展について説明できる | 授業の復習 | | | |
| 9 | 10/31 | 講義 | 障害者関連施策を説明できる | 授業の復習 | | | |
| 10 | 10/31 | 講義 | 雇用と就労支援について説明できる | 授業の復習 | | | |
| 11 | 11/14 | 講義 | 高次脳機能障害について説明できる① | 授業の復習 | | | |
| 12 | 11/14 | 講義 | 高次脳機能障害について説明できる② | 授業の復習 | | | |
| 13 | 11/28 | 講義 | 障害福祉の法体系を説明できる | 授業の復習 | | | |
| 14 | 11/28 | 講義 | 障害福祉サービスの概要を説明できる | 授業の復習 | | | |
| | 12/5 | 試験 | | | | | |
| 15 | 12/12 | 講義 | 試験の解答を理解し説明できる | 授業の復習 | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | |
| 教科書の指定なし。講師作成のレジュメ使用。 | | | | | | | |

| 科目名 (英) | 精神医学 (Psychiatry) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 |
|-------------------------------|--|--------------|------------------------|----|-------------|---------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) |
| 教員の略歴 | 2010年 東北大学医学部医学科卒業 医師免許取得 仙台赤十字病院、東北大学病院、東北薬科大学病院、仙台市立病院を経て、東北大学病 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士に必要な精神疾患の病態・診断・治療について学ぶ | | | | | |
| 到達目標 | 精神疾患の概要、治療について理解を深め、理学療法士国家試験の過去問を解 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験(100%) | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | 準備学習 時間外 | |
| 1 | 6/12 | 講義 | 精神障害と精神医学について述べるができる | | 講義の復習を行う事 | |
| 2 | 6/12 | 講義 | 精神障害の成因と分類について述べるができる | | 講義の復習を行う事 | |
| 3 | 6/12 | 講義 | 統合失調症の症状について述べるができる | | 講義の復習を行う事 | |
| 4 | 6/19 | 講義 | 統合失調症の分類について述べるができる | | 講義の復習を行う事 | |
| 5 | 6/19 | 講義 | 統合失調症の治療について述べるができる | | 講義の復習を行う事 | |
| 6 | 6/19 | 講義 | 気分障害について述べるができる(1) | | 講義の復習を行う事 | |
| 7 | 6/26 | 講義 | 気分障害について述べるができる(2) | | 講義の復習を行う事 | |
| 8 | 7/3 | 講義 | 神経症について述べるができる(1) | | 講義の復習を行う事 | |
| 9 | 7/10 | 講義 | 神経症について述べるができる(2) | | 講義の復習を行う事 | |
| 10 | 7/17 | 講義 | 心身症、薬物関連障害について述べるができる | | 講義の復習を行う事 | |
| 11 | 7/24 | 講義 | 認知症の症状について述べるができる | | 講義の復習を行う事 | |
| 12 | 7/31 | 講義 | 認知症の分類について述べるができる | | 講義の復習を行う事 | |
| 13 | 7/31 | 講義 | 認知症の治療について述べるができる | | 講義の復習を行う事 | |
| 14 | 8/7 | 講義 | てんかん、児童精神医学について述べるができる | | 講義の復習を行う事 | |
| | 8/13 | 試験 | | | 講義の復習を行う事 | |
| 15 | 8/14 | 講義 | 精神保健福祉法について述べるができる | | 講義の復習を行う事 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | |
| 標準 理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版(医学書院) | | | | | | |

| 科目名 (英) | 地域福祉論 (Principles of Community welfare) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1 | 担当教員 |
|------------------|--|---------------|---------------------------------------|----------------|-------------|-------------|-------------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 15 1 | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 2009/4 理学療法士免許取得 2009-2015一般病院勤務(大阪府) 2015-2017理学療法士養成校 2017-2019青年海外協力隊参加(キルギス) 訪問リハビリテーションにて地域における理学療法(| | | | | | |
| 授業の学習内容 | 理学療法士は臨床現場で様々な症例と関わるが、その方々は病院を退院した後に様々な社会福祉サービ 域で生活されているケースが多い。そのため理学療法士は症例のリハビリテーションゴールを考える上で、 福祉のサービスを利用することが将来の幸福へとつながるのか、症例本人や関係職種と検討をおこなって ある。 本授業では、福祉とは何か、福祉の考え方の変化、どのような福祉に関する法律が存在するのか、その法 どどのように関係するのか、どのようなサービスを利用することができるのか、などを学び、身体的な治療の 面的に症例をとらえる視点を持つことを目指し実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉、社会福祉、地域福祉とは何かを日本を福祉の歴史を通して、その意味と考え方を理解する。 ・福祉に関する法律や福祉サービスを学び、どのような方が福祉の対象者となるのかを理解できる。 ・福祉対象者の抱えるニーズおよび専門職者としての具体的な支援方法について理解し、適切に説明できる。 ・日本以外の国における福祉の考え方も学び、それぞれの長所・短所等を理解する。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験(本試験80%、課題レポート20%) | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習) | | | |
| 1 | 5月14日 | 講義 | 福祉とはなにか?なぜ理学療法士が福祉を学 ぶ必要があるのかを理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 2 | 5月21日 | 講義 | 日本における福祉の考え方の変化を理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 3 | 5月28日 | 講義 | 社会福祉の基本となる3つの理念を理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 4 | 6月4日 | 講義 | 自立支援に必要な考え方を理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 5 | 6月11日 | 講義 | 社会福祉八法について理解する① | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 6 | 6月18日 | 講義 | 社会福祉八法について理解する② | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 7 | 6月15日 | 講義 | 社会福祉八法について理解する③ | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 8 | 7月2日 | 講義 | 生活保護法について理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 9 | 7月9日 | 講義 | 介護保険について理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 10 | 7月16日 | 講義 | 介護保険にて利用できるサービスを理解する | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 11 | 7月23日 | 講義 | 世界の医療・福祉について理解する① | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 12 | 7月30日 | 講義 | 世界の医療・福祉について理解する② | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 13 | 8月6日 | 講義 | 世界の医療・福祉について理解する③ | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 14 | 8月13日 | 講義 | 日本の福祉における今後の課題を考える | 配布資料の復読、課題作成 | | | |
| 15 | 9月4日 | テスト | 定期試験 | | | | |
| 16 | 9月11日 | 講義 | 試験解説 | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 配布資料の復読、課題作成 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | |
| 特になし | | | | | | | |

| 科目名 (英) | 地域理学療法学 (Community PT) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 |
|--|--|---------------------------------|-------------------------------------|------------|-------------|---------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) |
| 教員の略歴 | 理学療法士、急性期病棟回復期病棟、デイケアで勤務し、計11年の臨床経験を有する。 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 地域で生活している高齢者や障がい者の生活を支援するため、関係法規や支援の背景も理解する。地域生活は日本が抱える社会問題とも関わりが深いため、日心を持てるようになってもらい、在宅生活支援を実践する理学療法士としての基本 | | | | | |
| 到達目標 | 地域理学療法概念・背景・関連法規について理解し説明できる。 地域で生活する高齢者や障がい者のリハビリ提供システムを理解し説明できる。 地域支援におけるケアマネジメント機能を理解し説明できる。 地域包括ケアシステムについて理解し説明できる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期テスト100% | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習 | | |
| 1 | 9/3 | 講義 | 地域理学療法概論 | 復習を | | |
| 2 | 9/10 | 講義 | ①地域包括ケアシステムについて理解する | 復習を | | |
| 3 | 9/17 | 講義 | ②地域包括ケアシステムについて理解する | 復習を | | |
| 4 | 9/24 | 講義 | 介護保険制度制定の背景と仕組みについて理解する | 復習を | | |
| 5 | 10/1 | 講義 | 地域包括支援センターの役割について理解する | 復習を | | |
| 6 | 10/8 | 講義 | ①介護保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する | 復習を | | |
| 7 | 10/15 | 講義 | ②介護保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する | 復習を | | |
| 8 | 10/22 | 講義 | ③介護保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する | 復習を | | |
| 9 | 10/29 | 講義 | ①医療保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する | 復習を | | |
| 10 | 11/5 | 講義 | ②医療保険でのリハビリテーション提供システムについて理解する | 復習を | | |
| 11 | 11/12 | 講義 | 地域リハビリテーションニーズについて理解する | 復習を | | |
| 12 | 11/19 | 講義 | 地域における健康増進・介護予防について学習する | 復習を | | |
| 13 | 11/26 | 講義 | 障がい者福祉と地域理学療法について理解する | 復習を | | |
| 14 | 12/3 | 講義 | 地域でのリハビリテーションにおける課題についてグループワークで検討する | 復習を | | |
| 15 | 12/10 | 試験 | | | | |
| 16 | 12/17 | 講義 | 試験解答を説明する事ができる | 復習を | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 各回毎に必要と考える運動学の知識を事前に確認し、終了後は復習を | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | | | |
| 理学療法学 ゴールド・マスター・テキスト7 地域理学療法学 (メジカルビュー社) | | | | | | |

| | |
|-------|------|
| 担当教員 | 塚野智史 |
| 開講区分 | 後期 |
| 曜日・時限 | |

支術・知識を学び、その政治経済にも関心を学んでほしい。

学習(学習課題)

行う事

とすること

| 科目名 (英) | 統計学 (Stistics) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 |
|------------------|--|---------------|---------------------|------|-------------|---------|---------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学), Golf physio trainer(2017取得)。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | この授業は、理学療法士として必要な統計学の知識を学修するためのものです。 他に関連する科目として、医学概論における疫学分野と関係します。 受講生に対する要望として、卒業後の研究活動に役立てるためにを学んでほしいと願っております。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①医学研究に必要な統計学の基礎知識を説明できる。 ②統計的視点からの医学的判断を説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | レポート課題70%、出席数30% | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習) | | |
| 1 | 9/5 | 講義 | 医学研究のプロセスについて説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 2 | 9/12 | 講義 | データの収集について説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 3 | 9/19 | 講義 | 変数について説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 4 | 9/26 | 講義 | 変数の測定方法について説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 5 | 10/3 | 講義 | 測定の妥当性について説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 6 | 10/10 | 講義 | 悉皆調査について説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 7 | 10/17 | 講義 | 標本調査について説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 8 | 10/24 | 講義 | 調査票の作成方法について説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 9 | 10/31 | 講義 | 選択肢の設定について説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 10 | 11/7 | 講義 | 実験計画について説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 11 | 11/7 | 講義 | 統制について説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 12 | 11/21 | 講義 | クロス集計析について説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 13 | 11/21 | 講義 | 代表値について説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 14 | 12/5 | 講義 | 相関分析について説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 15 | 12/12 | 講義 | スクリーニングについて説明できる。 | | 授業内容の復習 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 授業内容の復習 | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | | |
| 授業内で適宜配布。 | | | | | | | |

高橋未倫

土曜
3時限

課題)

| 科目名 (英) | 内科学 (Internal Medicine) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 |
|------------|--|---------------|--|------|--------------|-------------|-------------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 2 | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 昭和63年弘前大学医学部卒業、医師免許取得。現在みちのく記念病院に勤務。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①内科学の知識は理学療法を行う上で必要不可欠なものである。この講義では総論として、主要な症候について理解し、各論として、各疾患特有の疫学、病態生理、検査、治療についての知識を習得する。 ② 内科学を理解する上では、解剖学、生理学、病理学等と関連が深い。 ③学生には予習復習を行い、各器官の基本的な解剖・生理と各疾患の症状や病態について説明できるように願う。 | | | | | | |
| 到達目標 | 患者の全身状態を把握するために内科的基礎的知識を身につけ、説明できる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 定期試験:100% | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習) | | |
| 1 | 6/5 | 講義 | 内科学の概念と診断の進め方を説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 2 | 6/12 | 講義 | 臨床検査とデータの解釈に関して理解し、説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 3 | 6/19 | 講義 | 循環器系の解剖・生理と循環器疾患の主要な徴候について説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 4 | 6/26 | 講義 | 高血圧、虚血性心疾患、弁膜症、心不全の病態を理解し、説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 5 | 7/3 | 講義 | 肺の解剖・生理と呼吸器疾患の主な症候について説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 6 | 7/10 | 講義 | 呼吸器疾患の検査所見(画像検査、生理学的検査、喀痰検査、等)を説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 7 | 7/17 | 講義 | 慢性気管支炎、慢性閉塞性気管支炎、気管支拡張症、拘束性肺疾患、肺腫瘍の病態を理解し、説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 8 | 7/24 | 講義 | 消化管の解剖・生理について説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 9 | 7/31 | 講義 | 消化管疾患の徴候としての病態生理、各検査法を理解し、説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 10 | 8/7 | 講義 | 口腔疾患、食道疾患、胃疾患、小腸・大腸疾患について説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 11 | 9/4 | 講義 | 肝臓、胆のう・胆管、膵臓の解剖・生理を説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 12 | 9/11 | 講義 | 急性ウイルス性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎、肝硬変の病態・症状について説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 13 | 9/18 | 講義 | 腹膜の解剖・生理、急性・慢性腹膜炎について説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 14 | 9/25 | 講義 | 前期に行った講義の要点を理解し、説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| | 9/25 | 試験 | 前期試験 | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 15 | 10/2 | 講義 | 解説:前期試験の正答を答えられる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 16 | 10/9 | 講義 | 血液の成分と生理、造血機能について説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 17 | 10/14 | 講義 | 血液疾患の症候と検査法、各血液疾患について理解し、説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 18 | 10/16 | 講義 | 代謝調節の仕組みと各代謝性疾患(糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム等)を理解し、説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 19 | 10/21 | 講義 | 内分泌の仕組み、内分泌腺・ホルモンの解剖・生理について説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 20 | 10/23 | 講義 | 内分泌疾患の病態・症状を理解し、説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |
| 21 | 10/28 | 講義 | 腎臓の解剖・生理、腎・尿路系疾患の各検査について説明できる | | その日のうちに講義の復習 | | |

| | | | | |
|----|-------|----|--|--------------|
| 22 | 10/30 | 講義 | 各腎・泌尿器疾患の病態・症状について説明できる | その日のうちに講義の復習 |
| 23 | 11/4 | 講義 | 免疫系の働きについて説明できる | その日のうちに講義の復習 |
| 24 | 11/6 | 講義 | アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症について説明できる | その日のうちに講義の復習 |
| 25 | 11/13 | 講義 | 感染症の成立、病原体、感染経路について説明できる | その日のうちに講義の復習 |
| 26 | 11/20 | 講義 | 感染症の予防と、各感染症(細菌感染、真菌症、ウイルス感染、等)に関して説明できる | その日のうちに講義の復習 |
| 27 | 11/27 | 講義 | 皮膚の解剖・生理、各皮膚疾患について説明できる | その日のうちに講義の復習 |
| 28 | 12/4 | 講義 | 後期に行った講義の要点を理解し、説明できる | その日のうちに講義の復習 |
| 29 | 12/11 | 講義 | 演習問題を行い、正答を答えられる | その日のうちに講義の復習 |
| | 12/12 | 試験 | 後期試験 | その日のうちに講義の復習 |
| 30 | 12/25 | 講義 | 解説: 後期試験の正答を答えられる | その日のうちに講義の復習 |

準備学習 時間外学習

【使用教科書・教材・参考書】
標準運理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(医学書院)

小川
恵子

通年

病態生理に

うになること

(課題)

を行う

| 科目名 (英) | 病態運動学 (Psychopathogy Movement) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 |
|------------|---|---------------|--|-------|-------------|---------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 60 (2単位) |
| 教員の略歴 | 理学療法士、2012年4月～2017年3月 回復期病院 リハビリテーション部 勤務。 2017年5月～ | | | | | |
| 授業の学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・臨床的視点から病態構造を理解する ・運動学・運動学実習で得た知識を元に、病態を学習する ・各疾患が及ぼす運動障害に関して、運動機能と疾患、運動機能障害、動作分析等を理解する | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ①病態運動学を理解するうえで重要な基礎知識について理解し説明することができる。 ②各疾患と機能障害について知識を整理し、運動学と疾病、および理学療法との関係について理解 ③演習を通して、各疾患に対する運動学的捉え方と、評価、治療介入について体験することができる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | <ul style="list-style-type: none"> 1) 定期試験90% 2) 授業参加率・授業内態度10% | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間 | 内容 |
| 1 | 5/13 | 講義 | 運動学で学んだ知識と病態の関連について、臨床的視点から学ぶことができる。 | | | 講義内容 |
| 2 | 5/20 | 講義 | 骨・関節の構造と機能について説明できる。 | | | 講義内容 |
| 3 | 5/27 | 講義 | 筋の構造と機能について説明できる。 | | | 講義内容 |
| 4 | 9/3 | 講義 | 随意運動と反射・筋緊張について説明できる。 | | | 講義内容 |
| 5 | 9/10 | 講義 | 生体力学(バイオメカニクス)について説明できる。 | | | 講義内容 |
| 6 | 9/10 | 講義 | 重心と支持基底面について説明できる。 | | | 演習内容の |
| 7 | 9/17 | 演習 | 肩関節の関節構造と機能障害について述べることができる。 | | | 演習内容の |
| 8 | 9/17 | 演習 | 肘関節の関節構造と機能障害について述べることができる。 | | | 演習内容の |
| 9 | 9/24 | 演習 | 手関節の関節構造と機能障害について述べることができる。 | | | 演習内容の |
| 10 | 9/24 | 演習 | 股関節・骨盤帯の関節構造と機能障害について述べることができる。 | | | 演習内容の |
| 11 | 10/1 | 演習 | 膝関節の関節構造と機能障害について述べることができる。 | | | 演習内容の |
| 12 | 10/1 | 演習 | 足関節の関節構造と機能障害について述べることができる。 | | | 演習内容の |
| 13 | 10/8 | 演習 | 脊柱の関節構造と機能障害について述べることができる。 | | | 演習内容の |
| 14 | 10/8 | 演習 | 関節構造と機能障害に臨床応用について理解することができる。 | | | 演習内容の |
| 15 | 10/9 | 中間試験 | 筆記 | | | |
| 16 | 10/15 | 演習 | 前期で学んだ病態運動学を学ぶ上で必要な基礎知識と、機能障害について説明することができる。 | | | 演習内容の |
| 17 | 10/15 | 演習 | 基本的な姿勢の概念について述べることができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の |
| 18 | 10/22 | 演習 | 基本的な姿勢の概念について述べることができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の |
| 19 | 10/22 | 演習 | 基本的な寝返り・起き上がりの概念について述べることができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の |
| 20 | 10/29 | 演習 | 基本的な寝返り・起き上がりの概念について述べることができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の |
| 21 | 10/29 | 演習 | 基本的な起立・着座動作の概念について述べることができる。また、病態の関連を理解することができる。 | | | 演習内容の |

| | | | | |
|-------------------|-------|---------------------------------|--|-------|
| 22 | 11/5 | 演習 | 基本的な起立・着座動作の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解することができる。 | 演習内容の |
| 23 | 11/5 | 演習 | 基本的な歩行動作の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解することができる。 | 演習内容の |
| 24 | 11/12 | 演習 | 基本的な歩行動作の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解することができる。 | 演習内容の |
| 25 | 11/12 | 演習 | 基本的な歩行動作の概念について述べるができる。また、病態の関連を理解することができる。 | 演習内容の |
| 26 | 11/19 | 演習 | 整形外科疾患の病態と運動障害特性について説明することができる。 | 演習内容の |
| 27 | 11/19 | 演習 | 整形外科疾患の病態と運動障害特性について説明することができる。 | 演習内容の |
| 28 | 11/26 | 演習 | 中枢疾患の病態と運動障害特性について説明することができる。 | 演習内容の |
| 29 | 11/26 | 演習 | 中枢疾患の病態と運動障害特性について説明することができる。 | 演習内容の |
| 30 | 12/3 | 演習 | 各疾患の病態と運動障害特性の臨床応用について理解することができる。 | 演習内容の |
| 31 | 12/3 | 演習 | 後期のまとめと確認 | |
| 32 | 11/27 | 期末試験 | 筆記 | |
| 準備学習 時間外学習 | | 授業での板書と、演習で学んだ内容についてまとめ、復習することが | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| ・基礎運動学(医歯薬出版株式会社) | | | | |

復習と練習

復習と練習

復習と練習

復習と練習

復習と練習

復習と練習

復習と練習

復習と練習

復習と練習

いできる。

| 科目名 (英) | 理学療法演習 (Practice PT) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 |
|------------|---|---------------|-------------------|-------|-------------|-------------|-------------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 60 2 | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士として病院(急性期・回復期)、通所リハビリ施設で11年の臨床経験を有する | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ① 臨床自習に向け、最低限必要な知識・能力を身に着けるための講義を行う。 ② これまで学んできた科目すべての知識が必要である。特に評価学と基礎3科目が重要である。 ③ 礼節ある態度を身に着け、自発的に学習する姿勢が重要である。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①挨拶、礼儀をわきまえた行動をとる ②実習生として最低限行えなければならない評価技術を身に着ける | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)試験100% | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習) | | |
| 1 | 6/3 | 講義・演習 | オリエンテーション | | | | |
| 2 | 6/3 | 講義・演習 | オリエンテーション | | | | |
| 3 | 6/10 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | 実技の復習をする事 | | |
| 4 | 6/10 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | 実技の復習をする事 | | |
| 5 | 6/17 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | 実技の復習をする事 | | |
| 6 | 6/17 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | 実技の復習をする事 | | |
| 7 | 6/24 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | 実技の復習をする事 | | |
| 8 | 6/24 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | 実技の復習をする事 | | |
| 9 | 7/1 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | 実技の復習をする事 | | |
| 10 | 7/1 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | 実技の復習をする事 | | |
| 11 | 7/8 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | 実技の復習をする事 | | |
| 12 | 7/8 | 講義・演習 | 触察・マッサージを実施できる | | 実技の復習をする事 | | |
| 13 | 7/22 | 講義・演習 | 症例レポートの書き方を理解できる | | 復習をする事 | | |
| 14 | 7/22 | 講義・演習 | 症例レポートの書き方を理解できる | | 復習をする事 | | |
| 15 | 8/5 | 講義・演習 | 症例レポートを助言のもと作成できる | | 症例レポートを作成する | | |
| 16 | 8/5 | 講義・演習 | 症例レポートを助言のもと作成できる | | 症例レポートを作成する | | |
| 17 | 8/12 | 講義・演習 | 症例レポートを助言のもと作成できる | | 症例レポートを作成する | | |
| 18 | 8/12 | 講義・演習 | 症例レポートを助言のもと作成できる | | 症例レポートを作成する | | |
| 19 | 11/10 | 講義・演習 | 症例レポートを助言のもと作成できる | | 症例レポートを作成する | | |
| 20 | 11/10 | 講義・演習 | 症例レポートを助言のもと作成できる | | 症例レポートを作成する | | |
| 21 | 11/17 | 講義・演習 | OSCE3の試験科目を演習できる | | 実技の復習をする事 | | |
| 22 | 11/17 | 講義・演習 | OSCE3の試験科目を演習できる | | 実技の復習をする事 | | |

| | | | | |
|------------|-------|-------|----------------------------|-----------|
| 23 | 11/24 | 講義・演習 | OSCE3の試験科目を演習できる | 実技の復習をする事 |
| 24 | 11/24 | 講義・演習 | OSCE3の試験科目を演習できる | 実技の復習をする事 |
| 25 | 12/1 | 講義・演習 | 動作観察(起立)を表現できる | 授業の復習を行う事 |
| 26 | 12/1 | 講義・演習 | 動作観察(起立)を表現できる | 授業の復習を行う事 |
| 27 | 12/8 | 講義・演習 | 動作観察(歩行)を表現できる | 授業の復習を行う事 |
| 28 | 12/8 | 講義・演習 | 動作観察(歩行)を表現できる | 授業の復習を行う事 |
| 29 | 12/15 | 講義・演習 | 臨床実習で必須となる基本的な理学療法評価を実施できる | 授業の復習を行う事 |
| 30 | 12/15 | 講義・演習 | 臨床実習で必須となる基本的な理学療法評価を実施できる | 授業の復習を行う事 |
| | 12/17 | 定期試験 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

・PT・OTのための臨床技能とOSCE: コミュニケーションと介助・検査測定 編 (金原出版) ・理学療法評価学 改訂第5版(金
 ・動作分析 臨床活用講座—バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 (MEDICAL VIEW) 他

塚野智史

通年

課題)

3

3

3

3

3

3

3

| 科目名 (英) | 理学療法技術論 I (整形外科疾患) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 |
|------------|---|-------|---|------------|-------------|-----------------|
| | (Orthopedic Disease) | | 授業 形態 | 講義・実技 | 総時間 (単位) | 60 (2) |
| 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | | | | | |
| 教員の略歴 | 理学療法士、2012年4月～2015年3月まで介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月まで整形外科 2017年5月～高齢者の健康増進教室。 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 整形外科疾患に対する臨床推論過程の例を示し、理学療法の考え方、捉え方について学ぶ。 ・整形外科疾患の病態 ・整形外科疾患に対する理学療法評価(実技含む) ・整形外科疾患に対するアプローチ(実技含む) をそれぞれ身につける。 | | | | | |
| 到達目標 | 整形外科疾患の病態、各疾患に対する理学療法の考え方、捉え方を理解し、実施することができる。 臨床評価実習における整形外科疾患に対するイメージを身につけることができる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1)筆記試験:80% 2)実技試験:20% | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間 | | |
| 1 | 9/1 | 講義・実技 | オリエンテーション | 組織再生・修復につい | | |
| 2 | 9/2 | 講義・実技 | 組織再生・修復の過程を理解できる。 | | | |
| 3 | 9/2 | 講義・実技 | 骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | 骨折と脱臼について | | |
| 4 | 9/9 | 講義・実技 | 骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | |
| 5 | 9/9 | 講義・実技 | 骨折と脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | 変形性関節症につい | | |
| 6 | 9/16 | 講義・実技 | 骨折と脱臼、変形性股・膝関節症の病態、評価、治療 を理解し、実施できる。 | | | |
| 7 | 9/16 | 講義・実技 | 変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実 施できる。 | 変形性関節症につい | | |
| 8 | 9/23 | 講義・実技 | 変形性股・膝関節症の病態、評価、治療を理解し、実 施できる。 | | | |
| 9 | 9/23 | 講義・実技 | 人工関節の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | 人工関節についての | | |
| 10 | 9/30 | 講義・実技 | 人工関節の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | |
| 11 | 9/30 | 講義・実技 | 関節リウマチの病態、評価、治療を理解し、実施でき る。 | 関節リウマチについ | | |
| 12 | 10/7 | 講義・実技 | 関節リウマチの病態、評価、治療を理解し、実施でき る。 | | | |
| 13 | 10/7 | 講義・実技 | 末梢神経損傷の病態、評価、治療を理解し、実施でき る。 | 末梢神経損傷につい | | |
| 14 | 10/14 | 講義・実技 | 末梢神経損傷の病態、評価、治療を理解し、実施でき る。 | | | |
| 15 | 10/14 | 講義・実技 | 頸部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | 頸部疾患についての | | |
| 16 | 10/21 | 講義・実技 | 頸部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | |
| 17 | 10/21 | 講義・実技 | 腰部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | 腰部疾患についての | | |
| 18 | 10/28 | 講義・実技 | 腰部疾患の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | | | |
| 19 | 10/28 | 講義・実技 | 肩関節周囲炎の病態、評価、治療を理解し、実施でき る。 | 肩関節疾患につい | | |
| 20 | 11/4 | 講義・実技 | 肩関節周囲炎の病態、評価、治療を理解し、実施でき る。 | | | |

| | | | | |
|------------|-------|-------|--------------------------------|-------------|
| 21 | 11/4 | 講義・実技 | 腱板断裂、肩関節脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | 肩関節疾患について |
| 22 | 11/11 | 講義・実技 | 腱板断裂、肩関節脱臼の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | |
| 23 | 11/11 | 講義・実技 | 膝関節靭帯損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | 膝関節疾患について |
| 24 | 11/18 | 講義・実技 | 膝関節靭帯損傷の病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | |
| 25 | 11/18 | 講義・実技 | 捻挫と肉離れの病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | 足関節靭帯損傷、筋損傷 |
| 26 | 11/25 | 講義・実技 | 捻挫と肉離れの病態、評価、治療を理解し、実施できる。 | |
| 27 | 11/25 | 講義・実技 | 学習内容の総復習を行う。 | 捻挫と肉離れについて |
| 28 | 12/2 | 講義・実技 | 学習内容の総復習を行う。 | |
| | 12/2 | 本試験 | | |
| 29 | 12/9 | 講義・実技 | 試験解説を行う。 | これまでの総復習 |
| 30 | 12/9 | 講義・実技 | カリキュラムの総まとめを行う。 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 各学習内容の予習・復習を行う | |

【使用教科書・教材・参考書】

「運動器障害理学療法学Ⅰ」 15レクチャー(中山書店)、「運動器障害理学療法学Ⅱ」 15レクチャー(中山書店)、資料随時

の復習

の復習

傷についての復習

ての復習

配布

| 科目名 (英) | 中枢神経疾患 (Central Nerve Disease) | | 必修 選択 | 必須 | 年次 | 3 | 担当教員 |
|------------|---|--------------|--------------------|----------------|-------------|---------|---------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 2 | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 急性期病棟(脳外科、整形外科、呼吸器科、循環器科、外科、等)、回復期病棟、通所リハビリテーションに理学療法士として計12年勤務。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ヒトという動物のなかで最も特徴的な器官である「脳」を対象としているため難解に思われがちだが、中枢性運動障害を改善するための根拠や、基本的な概念、必要な関連知識を理解することで、臨床でのトレーニングの意義や目的を学生自身が考えることが可能な講義である。 | | | | | | |
| 到達目標 | 中枢神経疾患に対する理学療法技術と理論を学び、概要を説明できるようになる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験100%。 | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習) | | | |
| 1 | 5/11 | 講義 | 中枢神経系の構造と生理を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 2 | 5/11 | 講義 | 中枢神経系の構造と生理を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 3 | 5/12 | 講義 | 中枢神経系の構造と生理を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 4 | 5/14 | 講義 | 脳卒中の病態とリスク管理を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 5 | 5/18 | 講義 | 脳卒中の病態とリスク管理を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 6 | 5/18 | 講義 | 脳卒中の病態とリスク管理を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 7 | 5/19 | 講義 | 脳画像と各種経路を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 8 | 5/21 | 講義 | 脳画像と各種経路を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 9 | 5/25 | 講義 | 脳画像と各種経路を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 10 | 5/25 | 講義 | 脳卒中の回復メカニズムを説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 11 | 5/26 | 講義 | 脳卒中の回復メカニズムを説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 12 | 5/28 | 講義 | 脳卒中の回復メカニズムを説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 13 | 6/6 | 講義 | 脳卒中の障害構造を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 14 | 6/13 | 講義 | 脳卒中の障害構造を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 15 | 6/13 | 講義 | 脳卒中の障害構造を説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 16 | 6/20 | 講義 | 意識障害について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 17 | 6/20 | 講義 | 運動麻痺について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 18 | 6/27 | 講義 | 運動麻痺について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 19 | 6/27 | 講義 | 運動麻痺について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 20 | 7/4 | 講義 | 感覚障害について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |
| 21 | 7/4 | 講義 | 感覚障害について説明できる | 講義の復習を行う事 | | | |

| | | | | |
|------------|------|----|-----------------------|-----------|
| 22 | 7/11 | 講義 | 異常筋緊張について説明できる | 講義の復習を行う事 |
| 23 | 7/11 | 講義 | 異常筋緊張について説明できる | 講義の復習を行う事 |
| 24 | 7/18 | 講義 | 運動失調について説明できる | 講義の復習を行う事 |
| 25 | 7/18 | 講義 | 運動失調について説明できる | 講義の復習を行う事 |
| 26 | 7/25 | 講義 | 身体失認、半側空間無視を説明できる | 講義の復習を行う事 |
| 27 | 7/25 | 講義 | 痛みについて説明できる | 講義の復習を行う事 |
| 28 | 8/1 | 講義 | 姿勢定位障害、姿勢バランス障害を説明できる | 講義の復習を行う事 |
| 29 | 8/1 | 講義 | 起居動作障害について説明できる | 講義の復習を行う事 |
| | 8/6 | 試験 | | |
| 30 | 8/15 | 講義 | 歩行障害について説明できる | 講義の復習を行う事 |
| | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |

【使用教科書・教材・参考書】 □

医療情報科学研究所eds.病気が見える Vol7.MEDIC MEDIA,2017
原寛美,吉尾雅春eds.脳卒中理学療法理論と技術,2019,MEDICAL VIEW

塚野智史

前期

リハビリ

れる中枢
知識を交え
となるよう

課題)

| 科目名 (英) | 理学療法技術論Ⅲ | | 必修 選択 | 必修・選択必修・ 選択等 | 年次 | 3年 | 担当教員 |
|------------|---|--------|--------------------|-----------------|----------------|---------------|-------|
| | (Technical theory of Physical therapyⅢ) | | 授業 形態 | 講義・演習・実習 等 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | | | | | | 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | 石島:主に急性期病院等で、約10年間に渡る呼吸理学療法の臨床経験を有する。 古川:2009年理学療法士免許取得。回復期病棟、訪問リハビリ等で循環器疾患をもつ症例への の実施経験あり。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | <p>(呼吸器疾患)</p> <p>①近年、呼吸器疾患が増大しており呼吸器に関する知識・技術の重要性が高まってい ②呼吸器は循環器との関係が深く、呼吸循環器として関連して理解する必要がある。ま 療法全般においてリスクを管理する際の重要な知識である。 ③卒後、呼吸理学療法が実施できるセラピストに成長することを期待している。 この科目では、呼吸器疾患の基礎知識と病態・アプローチ方法を理解できるよう指導す (循環器疾患) 主要理学療法対象疾患の一つである循環器疾患を、まずリスク管理的観点から捉えら う、講義形式中心に授業を進めていく。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>(呼吸器疾患)</p> <p>①呼吸器疾患の基礎知識を理解する。 ②呼吸器疾患患者の病態から、正確に身体状況を把握することができる。 ③呼吸器疾患患者に対する評価とアプローチ内容を理解することができる。 (循環器疾患) リスク管理の概念を理解する 虚血性心疾患・心不全の病態特性と理学療法の位置づけを理解する 運動療法プログラム立案に必要な評価項目とプログラムの実践を実践できる</p> | | | | | | |
| 評価方法及び基準 | <p>(呼吸器疾患)</p> <p>1)定期テスト60% 2)出席数40% (循環器疾患) 筆記試験(本試験80%、確認テスト20%)</p> | | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | | 準備学習 時間外学習(学習) | | |
| 1 | 6/17 | 講義 | 呼吸器の構造と運動を説明できる。 | | 講義の復習を行う事 | | |
| 2 | 6/24 | 講義 | 呼吸器の生理機能を説明できる。 | | 講義の復習を行う事 | | |
| 3 | 7/1 | 講義 | 呼吸器疾患について説明できる。 | | 講義の復習を行う事 | | |
| 4 | 7/8 | 講義 | 呼吸理学療法評価を説明できる。 | | 講義の復習を行う事 | | |
| 5 | 7/15 | 講義 | 徒手的手技について説明できる。 | | 講義の復習を行う事 | | |
| 6 | 7/29 | 講義 | 酸素療法について説明できる。 | | 講義の復習を行う事 | | |
| 7 | 8/4 | 定期テスト | 授業で学んだことを記述できる。 | | | | |
| 8 | 8/12 | テストの解説 | テスト結果から自己の課題を抽出する。 | | 講義の復習を行う事 | | |
| 9 | 9/25 | 講義 | 心臓と血管の構造と機能を説明できる | | 講義の復習を行う事 | | |
| 10 | 10/2 | 講義 | 心電図と不整脈の診方が理解できる | | 講義の復習を行う事 | | |
| 11 | 10/9 | 講義 | 運動耐容能とその評価が理解できる | | 講義の復習を行う事 | | |

| | | | | |
|------------|-------|----|---|-----------|
| 12 | 10/16 | 講義 | 虚血性心疾患、心臓弁膜症と心筋症の病態・検査と治療が理解できる | 講義の復習を行う事 |
| 13 | 10/23 | 講義 | 心不全に加え大動脈および末梢動脈疾患の病態・検査と治療が理解できる | 講義の復習を行う事 |
| 14 | 10/30 | 講義 | 糖尿病の合併症と治療について理解できる | 講義の復習を行う事 |
| 15 | 11/6 | 講義 | 心血管に対する運動療法実施プログラムと疾病管理および患者教育について理解できる | 講義の復習を行う事 |
| 16 | 11/13 | 試験 | | |
| 17 | 11/20 | 講義 | 試験解説および総復習 | 講義の復習を行う事 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 教科書や配布資料にて講義の確認を行い試験に備える事 | |

【使用教科書・教材・参考書】

15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト<内部障害理学療法学 呼吸> 第2版(中山書店)

15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト<内部障害理学療法学 循環・代謝> 第2版(中山書店)

石島孝樹
古川雅一

前期・後期・通年・
集中等

理学療法

る。
また、理学

る。
れえるよ

課題)

| 科目名 (英) | 理学療法技術論Ⅳ 小児期疾患 (Childhood disease) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 |
|---|--|---------------|---|----------|-------------|-----------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 1単位 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、臨床歴：1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月 2002年4月～2007年12月病院・老健施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・ 講師歴：介助法講師。臨床動作分析講習会講師。他 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 小児期疾患に対する理学療法評価・治療について体験を通しながら学習する。 (ハンドリング・ポジショニングなど他の疾患でも応用できる技術を体験する) | | | | | |
| 到達目標 | 発達における小児の特性、各疾患の病態(禁忌や予後も含む)を理解できるようになる。 ①発達年齢を判定できる ②CPのタイプを判定できるようになる ③各疾患の特徴から、評価の目的を明確にできる ④発達年齢に応じた治療を選択できる | | | | | |
| 評価方法と基準 | 本試験80% 平常点20%(授業内参加度、出席率) *ただし、本試験が60点を満たない場合は、そのほかで点数があっても再試となります。 | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外 | | |
| 1 | 6月4日 | 講義/演習 | 小児期疾患の特徴を理解する | | | |
| 2 | 6月4日 | 講義/演習 | 正常発達を月齢ごとに理解する。原始反射、姿勢反 射と運動の発達の関係を言える | 人間発達 | | |
| 3 | 6月11日 | 講義/演習 | 解剖学的構造や数値を理解し、小児期疾患のリスク 確認ができる | | | |
| 4 | 6月11日 | 演習 | 発達の評価により、発達年齢を判定できる | 人間発達 | | |
| 5 | 6月18日 | 講義/演習 | 整形外科的な視点から成長と運動療法の関係を述 べることができる | 股関節の運 | | |
| 6 | 6月18日 | 講義/演習 | 整形外科疾患の評価とその目的を言える | 脊柱の運 | | |
| 7 | 6月25日 | 演習 | 小児の義肢装具を考える | 義肢装具 | | |
| 8 | 6月25日 | 講義/演習 | CPの種類を判別ができるようになる その病態と特徴をいうことができる | | | |
| 9 | 7月2日 | 講義/演習 | 痙直型CPの評価とその目的を言える | | | |
| 10 | 7月2日 | 講義/演習 | その他のCPの評価とその目的を言える | | | |
| 11 | 7月9日 | 演習 | 発達年齢に応じたCPの治療を考える | | | |
| 12 | 7月9日 | 講義/演習 | 二分脊椎の評価とその目的を言える 装具や運動を考えることができる | 下肢の筋の髓 | | |
| 13 | 7月16日 | 講義/演習 | 筋ジストロフィーの評価とその目的を言える 禁忌を基に時期に応じた運動が言える | | | |
| 14 | 7月16日 | 講義/演習 | 発達障害の分類を言える。 低緊張の特徴に応じた治療を考える | | | |
| 15 | 7月23日 | 本試験 | | | | |
| 16 | 7月30日 | 講義/演習 | まとめ・復習 | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | |
| 資料配布十人間発達学、評価学、運動療法学、ADL、小児科学、運動学、義肢装具学 | | | | | | |

| 科目名 (英) | 理学療法技術論Ⅴ (難病・スポーツ障害) (Intractable Disease,Sports Disease) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 |
|------------------|---|----------------|--|----------|-------------|-----------------|
| | 学科・コース | 理学療法科・I部Bクラス | 授業 形態 | 講義・実技 | 総時間 (単位) | 30 (1) |
| 教員の略歴 | 理学療法士、2012年4月～2015年3月まで介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月まで整形 2017年5月～高齢者の健康増進教室。 | | | | | |
| 授業の学習内容 | 難病・スポーツ障害に対する理学療法評価・治療について学ぶ。症例検討も行う。 | | | | | |
| 到達目標 | 難病・スポーツ障害と理学療法の概念を理解することができる。 「難病」の定義が言える。「指定難病」の要件を言える。難病患者の就労について説明できる。具体的 説明できる。 臨床評価実習における難病・スポーツ障害に対するイメージを身につけることができる。 | | | | | |
| 評価方法と基準 | 授業態度(30%) 定期試験(70%) | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | | |
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外 | | |
| 1 | 9/29 | 講義 | 「難病」・「指定難病」の定義が言える。障害者基本法 の難病を言える。 | 講義内容の | | |
| 2 | 9/29 | 講義 | 障害者総合支援法の難病を言える。合理的配慮につ いて説明できる | 講義内容の | | |
| 3 | 10/6 | 講義 | インクルーシブ・障害の「医学モデル」・「社会モデル」 を説明できる | 講義内容の | | |
| 4 | 10/6 | 講義 | 器官劣等生・環世界を説明できる | 講義内容の | | |
| 5 | 10/13 | 講義 | バリアフリー・ユニバーサルデザインを説明でき る | 講義内容の | | |
| 6 | 10/13 | 講義 | 難病者の就労について説明できる | 講義内容の | | |
| 7 | 10/20 | 講義 | 難病相談・支援センターの機能について説明で きる | 講義内容の | | |
| 8 | 10/20 | 講義 | 脊髄性筋萎縮症の病態・訓練法を説明できる | 講義内容の | | |
| 9 | 10/27 | 講義・実技 | スポーツ障害と理学療法(総論、コンディショニング)につ いて理解する。 | 講義内容の | | |
| 10 | 10/27 | 講義・実技 | スポーツ障害と理学療法(総論、コンディショニング)につ いて理解する。 | 講義内容の | | |
| 11 | 11/10 | 講義・実技 | 膝関節の靭帯損傷(膝関節の解剖・運動、受傷メカニズム) を理解する。 | 講義内容の | | |
| 12 | 11/10 | 講義・実技 | 膝関節の靭帯損傷(運動連鎖、動作分析)を理解する。 | 講義内容の | | |
| 13 | 11/17 | 講義・実技 | 上肢のスポーツ障害(投球障害肩等)について理解する。 | 講義内容の | | |
| 14 | 11/17 | 講義・実技 | 上肢のスポーツ障害(運動連鎖、動作分析)について理解 する。 | 講義内容の | | |
| | 11/24 | 試験 | | | | |
| 15 | 12/1 | 講義・実技 | 試験の解説を行う。学習内容の総復習を行う。 | 講義内容の | | |
| 準備学習 時間外学習 | | 各学習内容の予習・復習を行う | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | | | |
| 資料随時配布 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|---------------|----------|----------|-------------|------------|---------------|
| 科目名 (英) | 臨床評価実習 I (Evaluation of Clinical Practice) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義・演習・実習 | 総時間 (単位) | 135 (3) | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | ①急性期病棟、回復期病棟、通所リハビリテーションで計11年の臨床経験を有する ②1993年～現在総合病院の急性期リハ、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問リハ、養設及び業務に従事 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般を経験する。この実習は医療人としての待遇と的確な知識・技術などが実践できる。 ① 情報収集～統合と解釈までの流れを体験することで、今後の学習課題を認識させる機会をもつ ② 医療人としての態度を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | ケースを通じて、競技の意味での評価の一連の流れを体験し、ケースに必要な検査・測定ができる。広義の意味での評価を「指導」により体験することで、障害を理解し、情報をつなげていく過程 ① 基本的な評価技術と治療の立案につながる過程を学ぶ。 ② 患者に丁寧な対応を続けられるようになる。 ③ 治療器具・備品などの基本的な取り扱いと使用目的を学ぶ。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|-------------------|----------------------------|--|----------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習) |
| 1～4 | 11/30 | 講義 | 実習オリエンテーション 「臨床評価実習 I」の概要・目的を理解できる。 | |
| 5～8 | 12/7 | 演習 | 実習前OSCE 「臨床評価実習 I」にあたっての基本的な技能 | 事前練習 |
| 9～68 | 2020/1/12 ～2/1 | 実習 | 学外 臨床評価実習 I 期間 1/14～2/5 | |
| 準備学習 時間外学習 | | 学外 臨床評価実習に向けた自己学習、実技練習を行う。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

- ①塚野智史
- ②石田広

通年

校等の開

な評価(知
もたせる。

るようにな
を学ぶ。

(課題)

| | | | | | | | |
|------------|---|---------------|----------|----------|-------------|------------|---------------|
| 科目名 (英) | 臨床評価実習Ⅱ (Evaluation of Clinical Practice) | | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 |
| | 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | 授業 形態 | 講義・演習・実習 | 総時間 (単位) | 135 (3) | 開講区分 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | ①急性期病棟、回復期病棟、通所リハビリテーションで計11年の臨床経験を有する ②1993年～現在総合病院の急性期リハ、回復期リハ病棟、介護老人保健施設、訪問リハ、養護施設及び業務に従事 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な知識・技術などが実践できる。 ① 情報収集～統合と解釈までの流れを体験することで、今後の学習課題を認識させる機会を ② 医療人としての態度を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | ケースを通じて、競技の意味での評価の一連の流れを体験し、ケースに必要な検査・測定がで なる。広義の意味での評価を「指導」により体験することで、障害を理解し、情報をつなげていく べ。可能であれば、治療の見学・体験を通し、更なる理解を深める。 ① 基本的な評価技術と治療の立案につながる過程を学ぶ。 ② 患者に丁寧な対応を続けられるようになる。 ③ 治療器具・備品などの基本的な取り扱いと使用目的を学ぶ。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|----------|--------------------------|---------------------------------------|----------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習) |
| 1～56 | 2/2～3/10 | 実習 | 学外 臨床評価実習Ⅱ 期間 2/6～3/4 | |
| 57～60 | 3/15 | 講義 | 実習オリエンテーション 「臨床評価実習Ⅱ」についてのフィードバックを | |
| 61～64 | 3/16 | 演習 | 実習後OSCE 「臨床評価実習Ⅱ」で習得した技能を実践する | 事前練習 |
| 65～68 | 3/17 | 演習 | 実習報告会 「臨床評価実習Ⅱ」で学んだ事を基にレポート・ | |
| 準備学習 時間外学習 | | 学外 臨床実習に向けた自己学習、実技練習を行う。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

①塚野智史
②石田広

通年

校等の開

な評価(知
らたせる。

きるように
過程を学

(課題)

| | | | | | | |
|------------|--|----------|-------|-------------|-------------|-------|
| 科目名 (英) | 老年学 | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 3 | 担当教員 |
| | (Gerontology) | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 (1単位) | 開講区分 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部 Bクラス | | | | | 曜日・時限 |
| 教員の略歴 | <p>理学療法士、臨床歴：1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月デイサー 2002年4月～2007年12月病院・老健施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・指導)。 2014年4月～高齢者の健康増進教室。 介護歴：2009年2月～2012年3月、2017年6月～高齢者介護。 講師歴：介助法講師。臨床動作分析講習会講師。他</p> | | | | | |
| 授業の学習内容 | <p>①日本は超高齢社会となり、高齢者の人口率が高い。臨床実習に於いて高齢者を担当することになる。高齢者 来の病気や障害に加えて老化に伴う変化もある。より質の高い適切な治療を提供するため、老年学を学ぶ必 ②人間発達学の教科と関連が深く、整形、内部障害、日常生活活動学等の理解を深めるための位置付けとな ③年齢に応じた理学療法を展開できるようにしたい。 授業では高齢者の特性や疾患を学ぶことで、年齢に応じた対応を知ることができる。</p> | | | | | |
| 到達目標 | <p>①高齢者の特性を説明することができる。 ②高齢者に特徴的な疾患の病態・治療・予防の関連を説明することができる。 ③高齢者に向けた行政の対策について説明することができる。 ④加齢に伴う運動・心理などの変化、その対策を述べるることができる。</p> | | | | | |
| 評価方法と基準 | <p>1) 定期試験(80%) 2) 出席率・授業中の参加度(出席、参加、課題20%)</p> | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|-------|-------|---|----------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習) |
| 1 | 5月15日 | 講義 | 加齢と老化の違い、老化の特徴、高齢者の健康増進のための行政の対策が説明できる。 | |
| 2 | 5月15日 | 講義 | 加齢に伴う生理機能の変化を説明できる。 | 生理機能とは何か |
| 3 | 5月22日 | 講義 | 加齢に伴う運動機能の変化を説明できる。 | 筋力低下・可動域制限について |
| 4 | 5月22日 | 講義 | 高齢者の心理機能の変化を説明できる。性別による違いを述べられる。 | 人間発達学の各時期における |
| 5 | 5月29日 | 講義 | 高齢者に接する際に年齢に応じた対応と評価を工夫することができる。 | |
| 6 | 5月29日 | 講義 | 高齢者の精神面(鬱、認知症)の特徴を述べるこ | 臨床心理学の鬱の復習 |
| 7 | 6月2日 | 講義 | 高齢者の循環器の病態と特徴を説明できる。 | 心・肺機能の生理学の復習 |
| 8 | 6月9日 | 講義 | 高齢者の運動器、耳・目の疾患の病態と特徴を説明できる。 | 眼・耳の解剖学の復習 |
| 9 | 6月16日 | 講義 | 高齢者の消化と排泄の病態と特徴を説明できる。 | 消化・排せつの生理学の復習 |
| 10 | 6月23日 | 講義 | 高齢者の代謝、免疫の変化を説明できる。 | 感染対策について |
| 11 | 6月30日 | 実技・演習 | 高齢者を取り巻く環境の問題とその解決策を工夫することができる。 | |
| 12 | 7月7日 | 演習 | 高齢者の年齢に応じたリハビリテーションの進め方を工夫することができる。 | |
| 13 | 7月14日 | 演習 | 認知症のリハの進め方を工夫することができる。 | |
| 14 | 7月21日 | 講義 | 医療の現状と終末期医療のあり方を述べられる。 | |
| | 7月28日 | 本試験 | | |
| 15 | 8月4日 | 講義 | (復習・まとめ・テスト解説) 不明な点を明確にできる。 | |

| | |
|------------|--|
| 準備学習 時間外学習 | |
|------------|--|

【使用教科書・教材・参考書】 資料配布

標準理学療法学・作業療法学(医学書院)

* 1～6はオンライン授業(火曜日1・2限目)。7以降は社会情勢で決定。

佐藤美紀

前期
火
2限目

ビス勤務。

音の場合、本
変性が高い。
る。

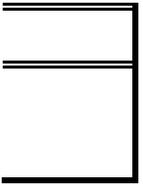
課題)

て

課題

?

習



| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------|-------------|-----------|------|--------------|
| 科目名 (英) | 社会保障制度論 (Social Security) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 4 | 担当教員 | 高梨友也 千脇隆志 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部 | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 曜日・時限 前期 |
| 教員の略歴 | 障害者・高齢者福祉施設において生活相談員、管理者、施設長 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①現代の社会保障制度は、人口動態や世帯構造の変化、国家のあり方など、制度の背景となる時代や政策が大きく変化しながら推移しています。特に我が国では、人口減少や少子高齢化など喫緊の課題があり、制度の持続可能性を含めた検討と取り組みが求められていることから、歴史と現状を学ぶ必要があります。②社会保障を構成する医療・公衆衛生・社会保障等の各領域を含めた上位概念として「社会保障」があります。③社会保障領域に携わる者として、それらを理解し、他領域の人々に説明できるようになることが必要です。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①社会保障の基本的な機能と役割を理解し、国民生活に沿った形で説明できる。 ②社会保障制度の構造と必要性について、他者に説明できる。 ③社会保障制度における自分の位置が理解でき、そのなかの役割を説明できる。 ④自分の役割を理解したうえで、他領域とどのように連携していくかをイメージできる。 ⑤生活支援を必要とする人に、活用できる制度を説明できる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 定期試験60% 2) 授業内レポート20% 3) 授業内活動20% 4) 到達目標の①②③について、80%以上理解すること 5) 到達目標の④⑤について、60%以上理解すること 6) 準備学習と時間外学習を課し、その達成度が60%以上であること | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|-------|-------|---------------------------------|----------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 6月5日 | 講義 | 社会保障の概念を自分の言葉で説明できる | 教科書の事前学習と授業後の確認 |
| 2 | 6月5日 | 講義と演習 | 社会保障の目的を述べることができる | 教科書の事前学習と授業後の確認 |
| 3 | 6月13日 | 講義 | 社会福祉の法制度の概要を説明できる | 社会福祉の説明資料の検索と確認 |
| 4 | 6月13日 | 講義と演習 | 現代社会の変化と人口構造・世帯構造の変化を例を用いて説明できる | 人口の変化を示す資料の準備と授業後の確認 |
| 5 | 6月20日 | 講義 | 経済状況と地域社会の変化を説明できる | 地域別の社会構造と経済状況の関連分析 |
| 6 | 6月20日 | 講義と演習 | 社会保障と社会福祉の動向について述べるができる | 関連資料を自力で検索・分析と復習 |
| 7 | 7月3日 | 講義 | 貧困・低所得問題と公的扶助制度の概要を説明できる | 教科書の事前学習と授業後の確認 |
| 8 | 7月3日 | 講義 | 生活保護制度の内容と課題を記すことができる | 教科書の事前学習と授業後の確認 |
| 9 | 7月4日 | 講義と演習 | 医療保障制度の沿革と構造を説明できる | 関連資料を自力で検索・分析と復習 |
| 10 | 7月4日 | 講義 | 高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉それぞれを説明できる | 教科書の事前学習と授業後の確認 |
| 11 | 7月10日 | 講義と演習 | 社会福祉援助と連携の重要性について自分の言葉で説明できる | 関連資料を自力で検索・分析と復習 |
| 12 | 7月10日 | 講義 | 介護保障の歴史と介護保険制度創設の背景を述べるができる | 教科書の事前学習と授業後の確認 |
| 13 | 7月18日 | 講義 | 所得保障制度の構造を説明できる | 教科書の事前学習と授業後の確認 |
| 14 | 7月18日 | 講義と演習 | 年金保険制度のしくみと今後の展望を述べることができる | 教科書の事前学習と授業後の確認 |
| 15 | | | レポート試験 | |
| 16 | 7月31日 | 講義と演習 | 社会保障制度を総括して述べるができる | これまでの資料の概観と総括 |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|-------|-------------|-----------|------|------|
| 科目名 (英) | 理学療法研究法 Reserch in PT | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 4年 | 担当教員 | 古川雅一 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部 | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 |
| 教員の略歴 | 2009/4 理学療法士免許取得 2009-2015一般病院勤務(大阪府) 2015-2017理学療法士養成校教員(兵庫県) 2017-2019青年海外協力隊参加(キルギス) 訪問リハビリテーションにて地域における理学療法の実戦経験あり | | | | | | |
| 授業の学習内容 | リハビリテーション・理学療法領域研究の進め方や作成方法を説明できる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 理学療法学における研究の意義、目的および研究を遂行する際の具体的な方法論について理解することができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ・授業内評価(50%) ・レポート課題(50%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | |
|--------------------------|-------|------|-------------------------------------|------|-----------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/14 | 講義 | 理学療法研究の必要性について理解することができる。(概要) | | 講義内容の復習 |
| 2 | 5/14 | 講義 | 理学療法研究の必要性について理解することができる。(EBM・EBPT) | | 講義内容の復習 |
| 3 | 5/21 | 講義 | 理学療法研究の必要性について理解することができる。(診療ガイドライン) | | 講義内容の復習 |
| 4 | 5/21 | 講義 | 研究デザインについて説明することができる。 | | 講義内容の復習 |
| 5 | 5/28 | 講義 | 研究計画・研究倫理について説明することができる。 | | 講義内容の復習 |
| 6 | 5/28 | 演習 | 文献査読を行い研究について理解を深めることができる。 | | 演習内容の復習・練習 |
| 7 | 10/29 | 演習 | 症例を基にした理学療法研究の概要について理解することができる。 | | 演習内容の復習・練習 |
| 8 | 10/29 | 演習 | 症例を基にした理学療法研究の計画を進めることができる。 | | 演習内容についてのレポート作成 |
| 9 | 10/29 | 演習 | 症例を基にした理学療法研究からレポートを作成することができる。 | | 演習内容についてのレポート作成 |
| 10 | 10/29 | 演習 | 症例を基にした理学療法研究からレポートを作成することができる。 | | 演習内容についてのレポート作成 |
| 11 | 11/5 | 演習 | 症例を基にした理学療法研究からレポートを作成することができる。 | | 演習内容についてのレポート作成 |
| 12 | 11/5 | 演習 | 症例を基にした理学療法研究からレポートを作成することができる。 | | 演習内容についてのレポート作成 |
| 13 | 11/5 | 演習 | レポートを基にした研究発表を実施することができる。 | | |
| 14 | 11/5 | 演習 | レポートを基にした研究発表を実施することができる。 | | |
| 15 | 11/12 | 演習 | レポートを基にした研究発表を実施することができる。 | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 復習・講義のまとめ、演習の復習 課題:レポート作成 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ 指定なし | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|----|-------------|-----------|------|-------------------|
| 科目名 (英) | 理学療法教育・職場管理法 Educatin of PT,Job of Management | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 4年次 | 担当教員 | 片岡洋樹 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 | 前期 木曜 6・7時限 |
| 教員の略歴 | 理学療法士免許取得後11年経過(急性期・回復期・生活期経験)、修士(医科学)保有 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ①理学療法概論及びリハビリテーション概論の内容を踏まえ、より具体的に職業倫理と職場管理について学ぶ。 ②医療・福祉現場における教育について、カルテやリハビリテーション実施計画書作成などの業務管理について学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①理学療法士にふさわしい倫理と心構えを説明できる。 ②医療現場におけるスタッフ教育の在り方、スタッフマネジメントについての理解を深める | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 1) 授業態度30%、定期試験70%。 | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|----------------|-------|------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 10/26 | 講義 | 医療現場のルール(医療人のモラル、命を扱うということ)を理解することができる | 講義内容の復習 |
| 2 | 10/27 | 講義 | 社会人としてのマナー(挨拶の仕方・意義、時間管理、公私混同、整理整頓の仕方)を理解することができる | 講義内容の復習 |
| 3 | 10/28 | 講義 | 就業規則について(良い職場をつくる、トラブルの予防)理解することができる | 講義内容の復習 |
| 4 | 10/29 | 講義 | サービスの構造とマネジメント(医療の質、マネジメント理論)を理解することができる | 講義内容の復習 |
| 5 | 10/30 | 講義 | PDCAマネジメントサイクル(PDCAサイクルを回す意義、その他)を理解することができる | 講義内容の復習 |
| 6 | 11/2 | 講義 | 研修の種類と、その目的(職場における研修の在り方、研修の種類)の検討)を理解することができる | 講義内容の復習 |
| 7 | 11/3 | 講義 | 患者サービスと医療サービス(安全対策マニュアル、セカンドオピニオン、質の高い医療と満足度の高いサービス)を理解することができる | 講義内容の復習 |
| 8 | 11/4 | 講義 | チーム医療(医療専門職の連携)を理解することができる | 講義内容の復習 |
| 9 | 11/5 | 講義 | チーム医療(患者・家族の尊厳、QOLの向上・維持)を理解することができる | 講義内容の復習 |
| 10 | 11/6 | 講義 | 優先順位の考え方(優先順位をつける項目、意義と方法について)を理解することができる | 講義内容の復習 |
| 11 | 11/9 | 講義 | タイムマネジメント(生産性を高める時間管理、仕事効率と時間効率)についてを理解することができる | 講義内容の復習 |
| 12 | 11/10 | 講義 | タイムマネジメント(手帳の管理、ToDoリスト、ブレンストーミング、職場コミュニケーション)を理解することができる | 講義内容の復習 |
| 13 | 11/11 | 講義 | 生涯教育(生涯学習社会)について理解することができる | 講義内容の復習 |
| 14 | 11/12 | 講義 | 生涯教育(生涯学習が個人に与える影響と社会に与える影響)について理解することができる | 講義内容の復習 |
| | | 試験 | | |
| 15 | 11/16 | 講義 | まとめ(学びの意義、総まとめ) | 講義内容の復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 授業内容の予習・復習を行うこと | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | | | | |
| 資料を配布する | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-----------|-------------|------------|------|-----------------------|
| 科目名 (英) | 卒業研究 (Graduation Research) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 4 | 担当教員 | ①茂呂行哲 ②佐藤美紀、他 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部 | 授業 形態 | 講義・演 習 | 総時間 (単位) | 120 (4) | 開講区分 | 後期 火・水・木・金 6・7限 |
| 教員の略歴 | ①2012年4月～2017年3月 回復期病院 リハビリテーション部 勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。 ②1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月デイサービス勤務。2002年4月～2007年12月病院・老健施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・指導)。2014年4月～高齢者の健康増進教室。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 基礎医学分野(精神医学、内科学、解剖一部を除く)と理学療法専門分野の知識をまとめ、国家試験に対応できる「理解力」「思考力」を養う。またそれらの知識を基にした臨床的思考力を養う。 | | | | | | |
| 到達目標 | 学習の集大成として理学療法の理解を最大限に深めることができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 筆記試験:100% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|---------|------|------|--|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/11 | 講義 | オリエンテーション:勉強の仕方(理解→反復定着→考える力、解決力)を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 2 | 5/11 | 講義 | 各分野についてのガイドラインを理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 3 | 5/11 | 講義 | 神経系(中枢神経・自律神経)の解剖を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 4 | 5/11 | 講義 | 神経線維の構造、興奮と伝導、ジャンプ伝達、反射、受容器、筋接合部の伝達を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 5 | 5/12 | 講義 | 体性感覚、内臓感覚、視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚、発声器官、言語中枢を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 6 | 5/12 | 講義 | 神経筋運動単位、随意運動、筋緊張、運動による生理学的反応、交感神経、自律神経(働き)を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 7 | 5/12 | 講義 | 呼吸、循環(心臓の機能を含む)を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 8 | 5/12 | 講義 | 運動分析、動作分析、姿勢、歩行を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 9 | 5/18 | 講義 | 運動とエネルギー代謝、力学、四肢と体幹の運動を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 10 | 5/18 | 講義 | 運動学習を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 11 | 5/18 | 講義 | リハビリテーション医学:機能障害の評価とリハビリテーション、廃用症候群を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 12 | 5/18 | 講義 | 骨関節障害と臨床医学:疫学・予後、病理・徴候、評価・検査・診断、リハビリテーションを理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 13 | 5/19 | 講義 | 神経・筋系の障害と臨床医学:疫学・予後、病理・徴候、評価・検査・診断、リハビリテーションを理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 14 | 5/19 | 講義 | 内部障害と臨床医学:疫学・予後、病理・徴候、評価・検査・診断、リハビリテーションを理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 15 | 5/9 | 講義 | 老年期障害と臨床医学:疫学・予後、病理・徴候、評価・検査・診断、リハビリテーションを理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 16 | 5/19 | 講義 | 保健医療福祉、リハビリテーション概論:医療・保健、制度、ICF等を理解することができる。 | 講義内容の復習 |

| | | | | |
|----|-------|-------|---|---------|
| 17 | 5/25 | 講義 | 理学療法概要、基礎：歴史、倫理、管理等。運動制御、運動発現、持久性等を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 18 | 5/25 | 講義・演習 | 評価学：目的、手順、全身状態、運動系、感覚系、高次脳機能、呼吸・循環、動作、発達、評価指標を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 19 | 5/25 | 講義・演習 | 評価学：各領域の評価・・・骨関節系、中枢神経、呼吸・循環等を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 20 | 5/25 | 講義・演習 | 理学療法治療学：基本的運動療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 21 | 5/26 | 講義・演習 | 理学療法治療学：基本的運動療法Ⅱを理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 22 | 5/26 | 講義・演習 | 理学療法治療学：物理療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 23 | 5/28 | 講義・演習 | 理学療法治療学：補装具療法Ⅰを理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 24 | 5/28 | 講義・演習 | 理学療法治療学：補装具療法Ⅱを理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 25 | 10/26 | 講義・演習 | 理学療法治療学：補装具療法Ⅲを理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 26 | 10/26 | 講義・演習 | 理学療法治療学：補装具療法Ⅳを理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 27 | 10/26 | 講義・演習 | 骨関節障害(変形性関節症、骨折、リウマチ)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 28 | 10/26 | 講義・演習 | 骨関節障害(スポーツ外傷、腰痛症、側彎症)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 29 | 10/27 | 講義・演習 | 骨関節障害(脊損)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| | | 中間試験 | | |
| 30 | 10/27 | 講義・演習 | 骨関節障害(脊損)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 31 | 10/27 | 講義・演習 | 骨関節障害(脊損)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 32 | 10/27 | 講義・演習 | 中枢神経障害(脳血管障害)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 33 | 11/2 | 講義・演習 | 中枢神経障害(脳血管障害)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 34 | 11/2 | 講義・演習 | 中枢神経障害(脳血管障害、画像所見)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 35 | 11/2 | 講義・演習 | 中枢神経障害(脳血管障害)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 36 | 11/2 | 講義・演習 | 中枢神経障害(脳血管障害)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 37 | 11/9 | 講義・演習 | 中枢神経障害(パーキンソン病)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 38 | 11/9 | 講義・演習 | 中枢神経障害(パーキンソン病)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 39 | 11/9 | 講義・演習 | 中枢神経障害(パーキンソン病)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 40 | 11/9 | 講義・演習 | 中枢神経障害(脳血管障害)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 41 | 11/10 | 講義・演習 | 中枢神経障害(脳血管障害)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 42 | 11/10 | 講義・演習 | 中枢神経障害(頭部外傷、脳腫瘍)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 43 | 11/10 | 講義・演習 | 中枢神経障害(脊髄小脳変性症他 進行性疾患)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 44 | 11/10 | 講義・演習 | 神経筋疾患(筋ジストロフィー)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 45 | 11/13 | 講義・演習 | 神経筋疾患(ALS、MS、Guillain-Barre症候群)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 46 | 11/13 | 講義・演習 | 神経筋疾患(末梢神経障害他)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 47 | 11/13 | 講義・演習 | 運動発達障害に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 48 | 11/13 | 講義・演習 | 呼吸障害(呼吸不全、COPD等)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |

| | | | | |
|--|-------|-------|--|---------|
| 49 | 11/16 | 講義・演習 | 呼吸障害(グラフの読み取り等)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 50 | 11/16 | 講義・演習 | 循環障害(虚血性心疾患)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 51 | 11/16 | 講義・演習 | 循環障害(心不全、不整脈等)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 52 | 11/16 | 講義・演習 | 呼吸循環(運動負荷量の決定等)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 53 | 11/17 | 講義・演習 | 代謝障害(糖尿病)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 54 | 11/17 | 講義・演習 | 代謝障害(糖尿病)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 55 | 11/17 | 講義・演習 | 地域理学療法(福祉用具)を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 56 | 11/17 | 講義・演習 | 地域理学療法(住宅改修)を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 57 | 11/19 | 講義・演習 | スポーツ障害(ジャンパー膝、野球肩等)に対する理学療法を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 58 | 11/19 | 講義・演習 | トピックス(統計学、コーチング、シーティング、反復促進法等)を理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| | 11/20 | 本試験 | | |
| 59 | 11/20 | 講義 | 総まとめ(共通領域全範囲)を行うことができる。 | 講義内容の復習 |
| 60 | 11/20 | 講義 | 総まとめ(専門領域全範囲)を行うことができる。 | 講義内容の復習 |
| 準備学習 時間外学習 | | | 各回講義参加前に予習する必要あり | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |
| 「PT臨床問題 テク・ナビ・ガイド」(メジカルビュー社)、その他資料随時配布 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|----------|-------------|-----------|------|-----------------|
| 科目名 (英) | 地域理学療法学実習 (Practice of Community PT) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 4年 | 担当教員 | ①茂呂 行哲 ②高橋未倫 |
| | | 授業 形態 | 講義 演習 | 総時間 (単位) | 45 (1) | 開講区分 | 通年 |
| 学科・コース | 理学療法科・I部 | | | | | | |
| 教員の略歴 | ①2012年4月～2015年3月 介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月 整形外科病院(外来)勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。 ②理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学), Golf physio trainer(2017取得)。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | ・地域理学療法の知識を用いて、理学療法士として病院外で地域住民の健康を支える役割を理解する。 ・地域高齢者に対する検査・測定、およびフィードバックを実践し、地域理学療法に対する理解を深める。 | | | | | | |
| 到達目標 | ①地域理学療法における理学療法士の役割を理解することができる ②介護保険制度について説明することができる ③病院外での理学療法士の働き方について説明することができる ④地域高齢者に対する評価及び適切なフィードバックを実施することができる | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ・授業内評価(50%) ・レポート課題(50%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|--------------------------------------|-------|------|---|-------------------------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1 | 5/13 | 講義 | 地域理学療法の意義と目的について理解することができる。 | 講義内容の復習 |
| 2 | 5/13 | 講義 | 介護保険法について学び説明することができる | 講義内容の復習 |
| 3 | 5/13 | 講義 | 介護保険法について学び説明することができる | 講義内容の復習 |
| 4 | 5/13 | 講義 | 理学療法と介護保険(通所分野)の関連について理解することができる | 講義内容の復習 |
| 5 | 5/20 | 講義 | 理学療法と介護保険(通所分野)の関連について理解することができる | 講義内容の復習 |
| 6 | 5/20 | 講義 | 理学療法と介護保険(訪問分野)の関連について理解することができる | 講義内容の復習 |
| 7 | 5/20 | 講義 | 理学療法と介護保険(訪問分野)の関連について理解することができる | 講義内容の復習 |
| 8 | 5/20 | 講義 | 理学療法と介護保険(介護予防分野)の関連について理解することができる | 講義内容の復習 |
| 9 | 5/27 | 講義 | 理学療法と介護保険(介護予防分野)の関連について理解することができる | 講義内容の復習 |
| 10 | 5/27 | 講義 | 廃用症候群(サルコペニア・フレイル)について学び説明することができる | 講義内容の復習 |
| 11 | 5/27 | 講義 | 高齢者の認知機能について理解を深めることができる | 講義内容の復習 |
| 12 | 5/27 | 講義 | 高齢者の転倒について理解を深めることができる | 講義内容の復習 |
| 13 | 10/28 | 講義 | 虚弱高齢者に対する評価方法やその意義について理解することができる | 講義内容の復習 |
| 14 | 10/28 | 演習 | 地域高齢者に対する検査・測定の準備を行い実践することができる | 演習内容の復習・練習 |
| 15 | 10/28 | 演習 | 地域高齢者に対する検査・測定の準備を行い実践することができる | 演習内容の復習・練習 |
| 16 | 10/28 | 実習 | 地域高齢者に対して検査・測定を実施することができる① | |
| 17 | 11/4 | 実習 | 地域高齢者に対して検査・測定を実施することができる② | |
| 18 | 11/4 | 演習 | 測定結果をまとめ、地域高齢者に対するフィードバックの準備、資料作成、実技練習を行うことができる | 検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習 |
| 19 | 11/4 | 演習 | 測定結果をまとめ、地域高齢者に対するフィードバックの準備、資料作成、実技練習を行うことができる | 検査・測定結果を基にした資料作成 フィードバックのための実技練習 |
| 20 | 11/4 | 実習 | 地域高齢者への測定結果のフィードバックを実施することができる | |
| 21 | 11/11 | 実習 | 地域高齢者への測定結果のフィードバックを実施することができる | |
| 22 | 11/11 | 講義 | 地域高齢者への検査・測定およびフィードバック後の反省から、臨床での地域理学療法に対する理解を広げることができる | |
| 23 | 11/18 | 講義 | 地域高齢者への検査・測定およびフィードバック後の反省から、臨床での地域理学療法に対する理解を広げることができる | |
| 復習:講義のまとめ、演習の復習 課題:フィードバック資料(レポート)作成 | | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|--------------|-------------|------------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 臨床実習 I (Clinical Practice I) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 4年 | 担当教員 | ①茂呂 行哲 ②高橋 未倫 |
| 学科・コース | 理学療法科 ・ I部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習 | 総時間 (単位) | 315 (7) | 開講区分 | 通年 |
| 教員の略歴 | ①2012年4月～2015年3月 介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月 整形外科病院(外来)勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。 ②理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学), Golf physio trainer(2017取得)。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 今まで学んだ知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般について経験し実践できる。 ① 第3学年までに学習した知識と技術を臨床の場で実践する。 ② 症例に即した基本的な理学療法を経験し実践する。 ③ 理学療法を含めた各専門職の役割、機能、分担、運営、管理について学ぶ。 ④ 理学療法過程のうち、「臨床実習 I」では情報収集から治療の立案までを経験する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 臨床評価実習を踏まえ、実習生として必要な基本的な問題解決能力を身につける。 ① 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を指導助言のもとに経験し、解釈できる。 ② 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を実践する際に、安全性に配慮できる。 ③ 症例から得た結果の解釈及び結論を導いた経過、根拠を端的に示すことができる。 ④ 上記の1・2の項目を、指導助言を求めるとも含め「自発的に」できることをさらなる目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|--------------|--------------------------|---|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1～4 | 5/30 | 講義 | 実習オリエンテーション 「臨床実習 I」の概要・目的を理解できる。 | |
| 5～ 142 | 6/1～ 7/21 | 実習 | 学内 臨床実習 I 期間 6/1～7/31 | |
| 143～ 146 | 7/22 | 講義 | 実習オリエンテーション 「臨床実習 I」についてのフィードバック をすることができる。 | |
| 147～ 150 | 7/23 | 演習 | 実習前OSCE 「臨床実習 I」で習得した技能を実践 することができる。 | 事前練習 |
| 151～ 154 | 7/24 | 演習 | 実習報告会 「臨床実習 I」で学んだ事を基にレポ ート・レジュメを作成し、学内で報告す ることができる。 | |
| 準備学習 時間外学習 | | 学外 臨床実習に向けた自己学習、実技練習を行う。 | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|--------------|-------------|------------|------|------------------|
| 科目名 (英) | 臨床実習Ⅱ (Clinical Practice Ⅱ) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 4年 | 担当教員 | ①茂呂 行哲 ②高橋 未倫 |
| 学科・コース | 理学療法科 ・ I 部 | 授業 形態 | 講義・演習・実 習 | 総時間 (単位) | 315 (7) | 開講区分 | 通年 |
| 教員の略歴 | ①2012年4月～2015年3月 介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月 整形外科病院(外来)勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。 ②理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学), Golf physio trainer(2017取得)。 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 今まで学んだ知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般について経験し実践できる。 ① 第3学年までに学習した知識と技術を臨床の場で実践する。 ② 症例に即した基本的な理学療法を経験し実践する。 ③ 理学療法を含めた各専門職の役割、機能、分担、運営、管理について学ぶ。 ④ 理学療法過程のうち、「臨床実習Ⅱ」では情報収集から治療実施までを経験する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 臨床評価実習を踏まえ、実習生として必要な基本的な問題解決能力を身につける。 ① 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を指導助言のもとに経験し、解釈できる。 ② 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を実践する際に、安全性に配慮できる。 ③ 症例から得た結果の解釈及び結論を導いた経過、根拠を端的に示すことができる。 ④ 上記の1・2の項目を、指導助言を求めるとも含め「自発的に」できることをさらなる目標とする。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | 【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での症例発表、症例報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60% | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | |
|------------------|------------|------|--|------------------|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 時間外学習(学習課題) |
| 1～4 | 8/15 | 講義 | 実習オリエンテーション 「臨床実習Ⅰ」の概要・目的を理解できる。 | |
| 5～142 | 8/17～10/13 | 実習 | 学内 臨床実習Ⅱ 期間 8/17～10/13 | |
| 143～146 | 10/10 | 講義 | 実習オリエンテーション 「臨床実習Ⅱ」についてのフィードバック をすることができる。 | |
| 147～150 | 10/12 | 演習 | 実習前OSCE 「臨床実習Ⅱ」で習得した技能を実践 することができる。 | 事前練習 |
| 151～154 | 10/13 | 演習 | 実習報告会 「臨床実習Ⅱ」で学んだ事を基にレポ ート・レジュメを作成し、学内で報告す ることができる。 | |
| 準備学習 時間外学習 | | | 学外 臨床実習に向けた自己学習、実技練習を行う。 | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 □ | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|--|----------|-------|-------------|-----------|---------------|------|
| 科目名 (英) | 徒手理学療法学 (Manual PT) | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 4年 | 担当教員 | 丸屋 健 |
| 学科・コース | 理学療法科 I 部 | 授業 形態 | 講義・演習 | 総時間 (単位) | 30 (1) | 開講区分 曜日・時限 | 通年 |
| 教員の略歴 | 理学療法士、2012年4月～2017年3月 回復期病院 リハビリテーション部 勤務 | | | | | | |
| 授業の学習内容 | 徒手理学療法学における評価・治療法を理念に基づき実践できる | | | | | | |
| 到達目標 | ①徒手理学療法を実施するために必要な解剖学的知識を理解することができる。 ②徒手理学療法を実施するために必要な評価技術及び触診技術を学ぶことができる。 ③各疾患に対する徒手理学療法について説明・実施ができる。 | | | | | | |
| 評価方法と基準 | ・授業内評価(50%) ・レポート課題(50%) | | | | | | |

| 授業計画・内容 | | | | | | | |
|---|-------|------|--|---------------------------|-----------------|--|--|
| 回数 | 日程 | 授業形態 | 学習内容 | 準備学習 | 時間外学習(学習課題) | | |
| 1 | 5/15 | 講義 | オリエンテーション 徒手理学療法法の目的・意義・方法について理解できる | | | | |
| 2 | 5/15 | 講義 | 運動系疾患に必要な解剖学的知識について理解できる | | | | |
| 3 | 5/22 | 講義 | 神経系疾患に必要な解剖学的知識について理解できる | | | | |
| 4 | 5/22 | 講義 | 内部疾患に必要な解剖学的知識について理解できる | | | | |
| 5 | 5/22 | 演習 | 評価・治療介入に必要な触診技術について理解し、健常者同士で実施することができる(上肢・下肢) | | 演習内容の復習・練習 | | |
| 6 | 5/22 | 演習 | 評価・治療介入に必要な触診技術について理解し、健常者同士で実施することができる(上肢・下肢) | | 演習内容の復習・練習 | | |
| 7 | 5/29 | 演習 | 評価・治療介入に必要な触診技術について理解し、健常者同士で実施することができる(頭部・体幹) | | 演習内容の復習・練習 | | |
| 8 | 5/29 | 演習 | 評価・治療介入に必要な触診技術について理解し、健常者同士で実施することができる(頭部・体幹) | | 演習内容の復習・練習 | | |
| 9 | 5/29 | 演習 | 運動系疾患に対する徒手理学療法について説明・実施ができる | | 演習内容についてのレポート作成 | | |
| 10 | 5/29 | 演習 | 運動系疾患に対する徒手理学療法について説明・実施ができる | | 演習内容についてのレポート作成 | | |
| 11 | 10/30 | 演習 | 神経系疾患に対する徒手理学療法について説明・実施ができる | | 演習内容についてのレポート作成 | | |
| 12 | 10/30 | 演習 | 神経系疾患に対する徒手理学療法について説明・実施ができる | | 演習内容についてのレポート作成 | | |
| 13 | 10/30 | 演習 | 内部疾患に対する徒手理学療法について説明・実施ができる | | 演習内容についてのレポート作成 | | |
| 14 | 10/30 | 演習 | 内部疾患に対する徒手理学療法について説明・実施ができる | | 演習内容についてのレポート作成 | | |
| 15 | 11/6 | 講義 | 徒手理学療法で学んだ内容について総括し、臨床に繋がる理解を深めることができる | | | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | 復習・講義のまとめ、演習の復習 課題:レポート作成 | | | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> | | | | | | | |
| 随時、資料配布 | | | | | | | |